令和５年度障害者スポーツ振興事業

「地域におけるパラスポーツの振興事業」

報　　告　　書

公益財団法人日本パラスポーツ協会

はじめに

わが国のスポーツ施策は、平成23年のスポーツ基本法制定を契機に障がい者のスポーツ所管部局の移管、スポーツ庁の設置、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催など、大きな変革を遂げております。

各地方自治体においても、令和 4 年 3 月に策定された第 3 期スポーツ基本計画のもと、新たなスポーツ推進計画の策定や計画内容の改訂がなされ、地域で開催される多くのスポーツ事業では、障がい者がスポーツに参加する環境や体制の整備が進められ、その取り組みが期待されるところであります。また、最近では地方自治体においてスポーツを担当する部局を統合し、障がいの有無に関わらず、スポーツを一体的に推進していく自治体も増えてきております。

そのような中、日本パラスポーツ協会（以下、当協会）では、当協会登録の4つの協議会（パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会、パラスポーツ競技団体、パラスポーツセンター）を事業の実施対象とし、「地域におけるパラスポーツの振興事業」を実施いたしました。

本事業の目的については、「障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現する」ため、本事業をきっかけに事業実施団体が地域の自治体やスポーツ団体、関係者等と連携・協働し、障がい者のスポーツ実施環境の拡充、指導体制の整備とともに、障がい者がスポーツに参加する機会を増やし、各地域が一体となったパラスポーツ振興の体制整備に寄与することとしております。

今年度、本事業を受託いただきました計26の団体におかれましては、それぞれの団体が掲げる課題と向き合い、様々な課題解消に向けた取り組みとして、「活動の場づくり」、「人材の育成」、「体制づくり」、「選手発掘・育成」に関する多くの事業を実施されました。

今後、さらに多くの障がい者がスポーツの楽しさを体験するとともに、多くの人や組織との連携が生まれ、地域のパラスポーツの振興を担う団体の更なる基盤整備も含め、今後のパラスポーツの振興体制の拡がりが期待されるところです。

本報告書が、障がい者が身近な地域で日常的にスポーツを楽しめる環境整備のための取り組み事例として、幅広く全国各地域において、パラスポーツの振興に役立つことを望んでおります。

最後に本事業にご協力いただきました各団体の皆さまに感謝するとともに、今後とも、関係の皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願いいたします。

令和 6 年 3 月

公益財団法人日本パラスポーツ協会

目　次

はじめに

Ⅰ　振興事業の概要 …… 1
1. 助成の目的
2. 委託先対象
3. 対象事業
4. 活動の範囲
5. 委託費と対象経費
6. 地域振興事業検討委員会の設置
7. 事業視察・ヒアリングの実施
8. 事業報告会の開催
9. 事業相談会の開催

Ⅱ　実施事業の概要 …… 6

Ⅲ　まとめと今後の課題 …… 9
1. 各団体の実施事業の概要
2. 事業内容の特徴
3. 組織連携の取り組み
4. パラスポーツ指導者の活動
5. 地域振興事業の成果
6. 今後の課題
7. おわりに

Ⅳ　事業実施団体の報告 …… 31
1. 一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会
2. 一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会
3. 公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会
4. 和歌山県障害者スポーツ協会
5. 大分県障がい者スポーツ協会
6. 鹿児島県パラスポーツ協会
7. 特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会
8. 宮城県障害者スポーツ指導者協議会
9. ひょうごパラスポーツ指導者協議会
10. 新潟県障害者交流センター
11. NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会
12. 一般社団法人日本障害者カヌー協会
13. 特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟
14. 一般社団法人日本パラアイスホッケー協会
15. 一般社団法人日本デフ陸上競技協会
16. 公益財団法人日本セーリング連盟
17. 一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟
18. 一般社団法人日本パラフェンシング協会
19. 特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会
20. 一般社団法人日本パラ水泳連盟
21. 一般社団法人日本ろう者サッカー協会
22. 一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会
23. 公益財団法人日本障害者スキー連盟
24. 公益財団法人全日本柔道連盟
25. 一般社団法人日本ボッチャ協会
26. 日本卓球バレー連盟

Ⅰ　振興事業の概要

1. 助成の目的

　障がい者が身近な地域においてスポーツに参加できる環境づくりを目指し、公認パラスポーツ指導者の活用を促し、障がい者向けのスポーツ教室や障がい特性を踏まえたスポーツイベント等の開催を通じて、参加した障がい者が、自主的・積極的・継続的にスポーツに取り組むことができるクラブやネットワーク等の組織・体制づくりの構築を目的とする。また、都道府県・指定都市のパラスポーツ協会、同パラスポーツ指導者協議会、JPSA 登録パラスポーツセンター、同パラスポーツ競技団体が各地域におけるパラスポーツの統括組織として、体制および組織強化に寄与できることを目的とする。

2. 委託先対象

　令和 5 年度公益財団法人日本パラスポーツ協会登録団体①都道府県・指定都市パラスポーツ協会②同パラスポーツ指導者協議会③JPSA 登録パラスポーツセンター④登録パラスポーツ競技団体を対象に、助成事業の実施体制が整っていることを条件とした。今年度は、申請のあった26団体を対象に助成した。

3. 対象事業

　本事業の目的に沿った内容で、以下の事業区分を対象とした。なお、事業実施にあたっては、委託先対象団体が主体的に企画・運営し、関係団体等と協力・連携した体制で実施するものとした。

【事業区分】

①パラスポーツ協会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・未普及地域における活動拠点の創出事業 ・他団体等と連携したスポーツ拠点の設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 （指導者対象）	・パラスポーツの指導人材の資質向上事業 ⇒パラスポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、 総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.新たな取り組み支援事業 （事業区分1～3 に該当しない事業）	

②パラスポーツ指導者協議会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・公認パラスポーツ指導者の支部拠点設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 （指導者対象）	・パラスポーツの指導を担う人材の資質向上事業 ・公認パラスポーツ指導者の活動機会の活性化事業 ・若手人材の活動活性化事業（大学生等との連携）
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.新たな取り組み支援事業 （事業区分1～3 に該当しない事業）	

③パラスポーツ競技団体

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・ブロック、県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・特別支援学校等と連携したスポーツ活動事業
2.選手発掘・育成事業 （障がい者対象）※新たな教室・大会等の開催含む	・パラスポーツに取り組む障がい者の発掘事業 ・パラスポーツに取り組む障がい者の育成事業（練習会など） ・ブロック、県市における大会、記録会開催事業
3.競技指導者・支援者育成事業 （指導者対象）	・ブロック、県市における競技別（専門性の高い）指導者の育成 ・審判員及び普及に関わる指導者の育成
4.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ブロック、県市におけるの競技団体設立に向けた事業 ・ブロック、県市における既存の競技団体の活動支援事業
5.新たな取り組み支援事業 （事業区分1～4 に該当しない事業）	

④パラスポーツセンター

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・パラスポーツセンター以外でのスポーツ事業の開催 ・サテライト（地域拠点）機能の設置事業 ・施設や学校等への出前事業（スポーツ教室）
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 （指導者対象）	・センター指導員による地域の指導者・支援者研修事業 ⇒パラスポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、 総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.スポーツを通じた関連団体等との連携促進事業 （連携促進）	・県市の公共スポーツ施設の利用促進に向けた事業 ・県市の特別支援学校や資格取得認定校等との連携事業
5.新たな取り組み支援事業 （事業区分1～4 に該当しない事業）	

4. 活動の範囲

①②④の団体は、原則として、委託先団体の都道府県・指定都市を実施場所とした（ただし、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県・指定都市内で実施が困難な場合はこの限りではない）。

③の団体は、ブロック単位もしくは都道府県・指定都市（複数可）を実施場所とした。

5. 委託費と対象経費

委託費は、各団体に 50 万円～200 万円とした。また、委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、諸謝金、旅費交通費、消耗品費、会議費、賃借料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料とし、支出については、すべて委託先団体の規程によるものとした。さらに、委託費（総事業費）の 35%を上限として事業目的に必要なスポーツ用具の購入を可能とした（事務用品等の備品の購入は不可）。

6. 地域振興事業検討委員会の設置

委託先団体の選定は、「地域振興事業検討委員会」を設置し、申請事業について本事業の目的に沿った内容であるかどうか審査し決定した。また、検討委員会および当協会技術委員会により、今後の日本におけるパラスポーツ推進の参考にするための総括をおこなった。

地域振興事業 検討委員会委員

No.	氏　名	役　職
1	猪飼 聡	京都市障害者スポーツセンター 次長
2	太田 澄人	長野県障がい者福祉センター サンアップル スポーツ課 専門幹兼係長
3	増子 恵美	福島県障がい者スポーツ協会 書記
4	丸野 奈央	鹿児島県障害者自立交流センター 企画係長
5	片岡 優世	U プロジェクト代表
6	角正 真之	大阪市障害者福祉・スポーツ協会障がい者スポーツ振興部スポーツ振興室 係長
7	兒玉 友	日本福祉大学 スポーツ科学部 准教授
8	中澤 吉裕	日本パラスポーツ協会公認パラスポーツコーチ

日本パラスポーツ協会 技術委員会 推進部会

No.	氏　名	役　職
1	太田 澄人	長野県障がい者福祉センター サンアップル スポーツ課係長
2	増子 恵美	福島県障がい者スポーツ協会 書記
3	丸野 奈央	鹿児島県障害者自立交流センター 企画係長
6	片岡 優世	U プロジェクト代表
7	角正 真之	大阪市障害者福祉・スポーツ協会障がい者スポーツ振興部スポーツ振興室 係長

事務局（公益財団法人日本パラスポーツ協会）

No.	氏　名	役　職
1	三上 真二	スポーツ推進部 部長
2	滝澤 幸孝	スポーツ推進部 次長
3	小島 大樹	スポーツ推進部 係長
4	佐藤 雄太	スポーツ推進部 主査

◆会議の開催

第１回会議（地域振興事業 検討委員会）

日 時：令和５年４月25日(火)10時00分～16時00分

実施形態：対面およびオンライン会議

内 容：1.令和５年度 申請団体の実施内容について

・申請団体の事業実施体制の適性について

・申請内容の確認について

2.令和５年度 委託先の審査・選定について（選定委員会）

第２回会議（第1回 技術委員会推進部会）

日 時：令和５年８月４日(金)10時00分～13時00分

実施形態：対面およびオンライン会議

内 容：1.各受託団体の事業の進捗について

2.事業視察・ヒアリングの実施について

3.「地域におけるパラスポーツの振興事業」リーフレット制作について

4.地域振興事業中間報告の内容について

第３回会議（第2回　技術委員会推進部会）

日　時：令和５年 11 月 14 日（火）14 時 00 分～17 時 00 分

実施形態：対面およびオンライン会議

内　容：1.各受託団体の事業の進捗について

2.事業視察・ヒアリングの報告について

3.委託団体の中間報告について

4.「地域におけるパラスポーツの振興事業」リーフレット制作について

第４回会議（第3回　技術委員会推進部会）

日　時：令和６年２月 26 日（月）15 時 00 分～18 時 00 分

実施形態：対面会議

内　容：1.令和５年度地域振興事業報告会について

2.令和５年度地域振興事業報告書の作成について

3.「地域におけるパラスポーツの振興事業」リーフレット制作について

4.事業視察・ヒアリングの報告について

5.令和５年度地域振興事業相談会の報告について

6.委託団体の決算報告について

7.令和６年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」について

7. 事業視察・ヒアリングの実施

目　　的　各委託団体の実施事業を現地で視察し、事業の現況（参加者層・支援者層や事業運営状況の共有等）を把握すること。また、事業実施上の成果・課題・展望について団体へヒアリングし、今後の事業継続へ向けたサポートを行うとともに、収集した情報を分析することで次年度以降の本事業の充実化を図る。

視 察 者　日本パラスポーツ協会技術委員会推進部会および JPSA 事務局

対象団体　令和5年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」 委託団体

＜視察・ヒアリング実績＞

対象団体	日程	場所
新潟県障害者交流センター	9/10（日）	新潟聖籠スポーツセンター アルビレッジ（新潟県）
全日本柔道連盟	11/5（日）	YOHAS アリーナ（千葉県）
日本ボッチャ協会	11/11（土）	舞洲障がい者スポーツセンター（大阪市）
岩手県障がい者スポーツ協会	11/23（木・祝）	宮古市民総合体育館（岩手県）
日本ソーシャルフットボール協会	12/16（土）	広島市心身障害者福祉センター（広島市）

8. 事業報告会の開催

目　　的　令和 5 年度に本事業を実施した団体が一同し、地域におけるパラスポーツの振興に関する取り組みの現状や事業のねらいや実施の背景、課題等を報告・検討することで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助とすること

会　　場　ロイヤルパークホテル　2 階【東雲】

日　　程　令和６年２月 27 日（火）　12 時 00 分～17 時 30 分

＜報告会スケジュール＞

時間	内容
11:20～11:50	受付
12:00～12:10	開会(技術委員長)・オリエンテーション
12:10～13:20	団体からの事業報告 (1)協会 鹿児島県パラスポーツ協会　丸野　奈央　氏 (2)協会 沖縄県障がい者スポーツ協会　下地　隆之　氏 (3)スポーツセンター 新潟県障害者交流センター　阿部　舜矢　氏
13:20～13:40	～休憩(20分)～
13:40～14:30	(4)指導者協議会 宮城県指導者協議会　畳指　祐樹　氏 (5)競技団体 日本卓球バレー連盟　斎門　豊　氏
14:30～14:50	～休憩(20分)～
14:50～16:50	グループワーク(ワールドカフェ方式) 地域振興の4つの柱について、参加団体間で現状、成果、課題等を共有する 4つの柱:①活動の場づくり②人材の育成③体制づくり④選手発掘・育成
16:50～17:10	まとめ(推進部会長)・閉会
17:40～19:00	情報交換会(希望者のみ)

9. 事業相談会の開催

目　　的　令和 6 年度以降に本事業の受託を検討している当協会登録団体を対象に、地域におけるパラスポーツ振興の現状・課題を共有する機会を設ける。また、専門委員および受託希望団体間における情報交換や事業企画の相談を行うことで、それぞれの地域の実態に即した新たな事業展開のヒントや地域が抱える課題解決のための一助とすること。

実施形態　対面もしくはオンラインによるハイブリッド形式

内　　容　標記事業の事業申請および実施計画(取り組み内容)に関する相談会。

日　　程　令和 6 年 2 月 6 日(火)13 時 00 分～18 時 00 分

参加団体　9団体

＜相談会参加団体内訳＞

■団体種別

①パラスポーツ協会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2 団体

②パラスポーツ競技団体・・・・・・・・・・・・・・・・・・7 団体

■申請実績別

①本事業申請実績あり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6 団体

②本事業申請実績なし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3 団体

Ⅱ　実施事業の概要

26 団体からの報告を基に、今年度の地域振興事業の全体像を把握するために、実施事業の概要をまとめた。また、それぞれの「地域のスポーツ環境の特色」「地域の実情・課題点」、「事業の目的・ねらい」、実施された「各事業における事業報告」、「事業全体の評価」についてまとめた。

「各事業における事業報告」については、事業内容、開催日時、会場、参加者、人員体制、連携団体（事業における役割）、事業における公認パラスポーツ指導者の役割・活用について、スポーツ用具の整備・活用についての 9 項目から実施概要を整理した。

「事業全体の評価」については、事業の目的・ねらいの達成・未達の原因、事業実施前からの変化や具体的な成果（アウトカム）、費用に関する所見、今後の課題や事業展開などについて、各団体において自己評価を行った。

それぞれの団体の活動の詳細については、Ⅳ. 実施事業団体の報告を参照いただきたい。

【実施内容区分　一覧】

＜都道府県・市パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会＞

No.	団　体　名	1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業	2.スポーツ指導者等の育成・連携事業	3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業	4.新たな取り組み支援事業
1	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会	●	●		●
2	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会	●			
3	公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会	●			
4	和歌山県障害者スポーツ協会	●			
5	大分県障がい者スポーツ協会			●	
6	鹿児島県パラスポーツ協会	●			
7	特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会	●			
8	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	●	●		●
9	ひょうごパラスポーツ指導者協議会	●	●		●
		8	3	1	3

＜JPSA登録パラスポーツセンター＞

No.	団　体　名	1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業	2.スポーツ指導者等の育成・連携事業	3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業	4.スポーツを通じた関連団体等との連携促進事業	5.新たな取り組み支援事業
10	新潟県障害者交流センター	●		●	●	
		1	0	1	1	0

＜JPSA登録パラスポーツ競技団体＞

No.	団　体　名	1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業	2.選手発掘・育成事業	3.競技指導者・支援者育成事業	4.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業	5.新たな取り組み支援事業
11	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会	●				
12	一般社団法人日本障害者カヌー協会			●		
13	特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟			●		
14	一般社団法人日本パラアイスホッケー協会	●				
15	一般社団法人日本デフ陸上競技協会	●				
16	公益財団法人日本セーリング連盟	●	●			
17	一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟	●				●
18	一般社団法人日本パラフェンシング協会	●	●	●		
19	特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会				●	
20	一般社団法人日本パラ水泳連盟		●			
21	一般社団法人日本ろう者サッカー協会		●			
22	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		●			
23	公益財団法人日本障害者スキー連盟		●	●		
24	公益財団法人全日本柔道連盟	●				
25	一般社団法人日本ボッチャ協会		●		●	
26	日本卓球バレー連盟	●				
		8	7	4	2	1

令和5年度　地域におけるパラスポーツの振興事業
受託団体一覧

※事業申請時

No.	応募団体名	受託回数	委託費（万円）	事業名/事業内容
1	一般社団法人 岩手県障がい者スポーツ協会	7回目	150	**当事者団体を中心とした多様な団体が共に創るパラスポーツ交流事業** 共に創るパラスポーツ交流事業 共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業 共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業
2	一般社団法人 宮城県障害者スポーツ協会	5回目	150	**宮城県障害者スポーツ振興事業** 障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」 障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」 支援学校陸上記録会開催事業
3	公益財団法人 兵庫県障害者スポーツ協会	9回目	200	**パラスポーツ推進プロジェクト2023HYOGO** タンデムサイクリングプロジェクト 水辺のアクティビティ ブラインドラグビー！しっとう
4	和歌山県障害者スポーツ協会	7回目	200	**みんな、おいで！！パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト** みんな、おいで！！パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト
5	大分県障がい者スポーツ協会	6回目	170	**パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業** パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業
6	鹿児島県パラスポーツ協会	6回目	150	**鹿児島県パラスポーツ普及プロジェクト** 障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会
7	特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会	7回目	100	**沖縄県における障がい者スポーツの振興事業** Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA 正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム チャレンジ！マリンスポーツプログラム
8	宮城県障害者スポーツ指導者協議会	2回目	100	**ボッチャを活用したパラスポーツ振興事業** 普及・体験教室開催事業 研修会開催事業 ボッチャ交流会開催事業
9	ひょうごパラスポーツ指導者協議会	初	150	**地域と連携したユニバーサルスポーツの周知・啓発・理解事業** パラスポーツ体験会（卓球バレー、ボッチャなど） パラスポーツ体験会における指導者育成 パラスポーツ絵画教室開催
10	新潟県障害者交流センター	初	100	**プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業** 特別支援学校等巡回事業 パラサッカーチーム競技力向上事業 障害児・者フットサル教室 パラサッカーフェスタwithアルビレディース
11	NPO法人 日本ソーシャルバスケットボール協会	2回目	75	**精神障がい者バスケットボール推進事業** **ソーシャルバスケットボールキャラバン2023-2024** ソーシャルバスケットボールキャラバン2023-2024仙台ラウンド ソーシャルバスケットボールキャラバン2023-2024佐賀ラウンド ソーシャルバスケットボールキャラバン2023-2024岡山ラウンド ソーシャルバスケットボールキャラバン2023-2024三重ラウンド
12	一般社団法人 日本障害者カヌー協会	2回目	180	**地域におけるパラカヌー普及振興事業** パラカヌーサポーター講習会 パラカヌー選手練習会 パラカヌー体験会兼サポーター講習会フォローアップ研修会
13	特定非営利活動法人 日本パラ・パワーリフティング連盟	2回目	100	**岡山オープン　パラ・パワーリフティング大会** 日本パラパワーリフティング連盟公認審判員講習会 岡山オープン　パラ・パワーリフティング大会

No.	応募団体名	受託回数	委託費（万円）	事業名/事業内容
14	一般社団法人 日本パラアイスホッケー協会	2回目	200	**パラアイスホッケー活動拠点の拡大・支援事業** パラアイスホッケー活動拠点拡大事業 パラアイスホッケー活動拠点支援事業
15	一般社団法人 日本デフ陸上競技協会	初	140	**障害児向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会 及び、次世代アスリート育成の為の合宿開催** 2023年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント 2023年度ユース育成夏季合宿
16	公益財団法人 日本セーリング連盟	初	200	**障害者セーリング普及推進事業** パラセーリング普及・支援事業 パラセーラ―のスキルアップ事業
17	一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟	初	200	**JWBF 中長期計画推進プロジェクト　～未来プロジェクト～** 未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト 車いすバスケを核とした地域活性化プロジェクト
18	一般社団法人 日本パラフェンシング協会	2回目	200	**地域におけるパラフェンシング振興事業** パラフェンシング教室 パラフェンシング体験会 パラフェンシングサポーター講習会
19	特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会	2回目	150	**ソーシャルフットボール日本代表全国キャラバン** ソーシャルフットボール　中国キャラバン ソーシャルフットボール　東海キャラバン
20	一般社団法人 日本パラ水泳連盟	2回目	200	**日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会** 日本パラ水泳通信総合記録会
21	一般社団法人 日本ろう者サッカー協会	初	200	**デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業** デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業
22	日本車椅子ソフトボール協会	初	190	**地域における車椅子ソフトボール振興事業** 車椅子ソフトボール体験会
23	特定非営利活動法人 日本障害者スキー連盟	2回目	200	**地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業** パラスキー・スノーボード体験教室事業 視覚障がい者スキー体験事業 地域スキークラブ活動支援事業
24	公益財団法人 全日本柔道連盟	2回目	50	**知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会** 知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会（広島・愛知・千葉・埼玉）
25	一般社団法人 日本ボッチャ協会	2回目	170	**ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業 ～Bチャレンジ～** Bチャレンジ関東ブロック（東日本対象） Bチャレンジ近畿ブロック（西日本対象） 加盟団体（設立準備）会議
26	日本卓球バレー連盟	初	100	**卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業** 「卓球バレー体験教室」開催事業

Ⅲ まとめと今後の課題

今年度、26団体により実施された事業について「1. 事業概要」、「2. 事業内容の特徴」、「3. 組織連携の取組み」、「4. パラスポーツ指導員の活動」、「5. 地域振興事業の成果」、「6. 今後の課題」の項目別に整理した。

1 各団体の実施事業の概要

各団体が実施した事業について、①主な背景（課題）、②企画概要、③実施内容で整理した。都道府県パラスポーツ協会は、県のスポーツ推進計画をベースに地域の現状や課題を捉えたうえで、適切な企画・実施がなされた。都道府県パラスポーツ指導者協議会、競技団体、スポーツセンターも、各組織におけるパラスポーツ振興の現状や課題を分析したうえで、その背景にそった事業の展開がなされた。

(1)パラスポーツ協会、パラスポーツ指導者協議会

＜事業区分＞

①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業（活動の場づくり）

②スポーツ指導者等の育成・連携事業（指導者対象）

③競技団体・クラブ・サークル設立支援事業（体制づくり）

④新たな取り組み支援事業（事業区分1～3 に該当しない事業）

◆一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

背景	・パラスポーツ振興の主体となる団体育成や地域拠点整備が明確な課題だと捉えており、課題解決へ向かいながら事業を進めているものの、最終的に主体となる団体が定まらない。 ・各関係機関とゴールを共有しつつ、役割分担をしながら計画的に取り組むことが必要である。
企画	・障がい者団体自らが事業を企画し、協力団体を募りながら各種スポーツ教室を実施。団体の育成も目的に実施し、支援する側、される側の壁を作らずに「共に創る」意識啓発を進める。 ・卓球バレーやボッチャの指導者養成講習会、体験会・大会を実施。障がい当事者には参加する側だけでなく支援する側、指導する側にも関与してもらい、満足度・達成感の向上を図る。 ・パラスポーツ振興の方向性を探るシンポジウム開催。講演やパネルディスカッションの他、各団体の活動事例紹介、体験教室の開催など当事者団体のニーズを反映した形で企画・運営して多くの当事者とともに今後の取組みの方向性を考える機会とする。
内容	事業区分①：共に創るパラスポーツ交流事業 事業区分②：共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業 事業区分④：共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業

◆一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会

背景	・県の委託事業が終期を迎え、今後は自主事業として継続できる体制構築が求められている。 ・各種専門機関、各種競技団体等の市町村組織および地域の指導者組織との連携による、地域に根ざした事業展開ができる体制づくりが急務と考えている。
企画	・県内各地域でスポーツ体験教室等を行い、障がい者がスポーツに親しみやすい環境を構築する。 ・地域でスポーツ指導に携わる方々や，民間スポーツ施設のスタッフ等を巻き込み、事業を通じて、障がいへの理解を深め，障がい者への対応方法を知ってもら。将来的に障がい者が地域で活動する為の受け入れ体制を構築する。
内容	事業区分①：障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」 事業区分①：障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」 事業区分①：支援学校陸上記録会開催事業

◆(公財)兵庫県障害者スポーツ協会

背景	・パラスポーツの推進地域に格差がある。 ・前年度3地域で実施した、タンデム自転車の活動を継続して実施し、充実化させる必要がある。 ・新スポーツ(ブラインドラグビー)の周知、活動が不十分である。 ・障がい者の活動場所拡充へ向けた一方策として、アクアスポーツ(海、河、池)の取組みを考えているが、県内の活動実態やその関連機関や団体との連携に関する情報が不足し、整理されていない。
企画	・パラスポーツ指導者の活動推進(地域、主導的な行動意識と実践力) ・「タンデムサイクリング」の普及を目指した地域連携、新たな有機的な関係構築 ・視覚障がいとスポーツの可能性の再考と組織強化 ・障がい者を対象とした水辺活動実践の調査と報告
内容	事業区分①:タンデムサイクリングプロジェクト 事業区分①:水辺のアクティビティ 事業区分③:ブラインドラグビー!しっとう

◆和歌山県障害者スポーツ協会

背景	・身近な地域で安定的にパラスポーツを行える環境が整っていない。 ・パラスポーツ競技者が減少し長くパラスポーツに関わってもらえる若年層へのアプローチに県として重点をおいている。 ・2015 年に開催した全国障害者スポーツ大会のレガシーが希薄化し、感染症によるスポーツ活動の自粛から、イベントへの参加者が減少している。
企画	・障がいの有無に関わらず参加できる、イベント型の教室を開催した後、教室の開催へ繋げることで参加者、選手、指導者の定着を図る。同時に、地域の競技団体やスポーツ推進員と連携し、パラスポーツを支える人材の確保を行う。 ・定期的な水泳教室を開催する(6 月から 1 月まで月 1 回ペース)。数年後の自立を目指し和歌山県水泳連盟、理学療法士協会、作業療法士会との新たな連携を構築する。 ・ボッチャの教室を開催し、競技普及や選手発掘、指導者の養成を行う。重度障がいのある選手に安全に競技に取り組んでもらえるよう理学療法士協会と新たに連携し、サポート体制の構築を図る。
内容	事業区分①:みんな、おいで!!パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト

◆大分県障がい者スポーツ協会

背景	・都市部以外では「スポーツをしたいと思っても断念せざるを得ない」状況があり、気軽にスポーツを楽しめる環境が整っていない。 ・各団体の協力体制や情報共有が不足しているため、適切な情報共有や実際の取組に繋げるための協力体制の構築が求められている。
企画	・パラスポーツタレント発掘事業を行い、障がい者がスポーツを始めるきっかけづくりや身近な地域でスポーツを続けられる環境づくりを行う。 ・市町村担当課やパラスポーツ競技団体、指導員等が主体的に役割をもって関わる基盤づくりを行い、地域のニーズを地域で解決できるネットワークの形成をめざす。
内容	事業区分③:パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業

◆鹿児島県パラスポーツ協会

背景	・スポーツの場が鹿児島市に集中するなど普及振興に地域格差がある。特に種子屋久地方、奄美地方などスポーツの機会が極めて少ない島や地域が多数存在する。 ・地域に定着した障がい者スポーツの活動推進には、指導者の育成と継続的な活動を支援するための拠点作りが求められる。
企画	・離党を含む未普及地域で、地域の拠点作りを目標としたスポーツ教室を実施する。同時に指導者講習会を行い、サポートする指導員の活用やスポーツ推進委員・行政との連携をさらに強化する。 ・過去の事業で連携したスポーツ推進委員に初級パラスポーツ指導員の養成講習会受講を促し、継続した活動となるよう支援する。 ・過去の事業をモデルとし、新たな市町の特別支援学級へアプローチし、スポーツ教室を実施する。
内容	事業区分①:障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会

◆特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会

背景	・県では、一般競技団体と障がい者スポーツ競技団体との共同での活動が実施されるようになっており、総合型地域スポーツクラブ所属選手が全国障害者スポーツ大会で活躍する、また全国障害者スポーツ大会出場者経験者から国際大会へ出場するなど、地域で選手を育て競技力を高める取り組みが見られてきている。 ・今後もこのような連携活動を実施できる競技団体数を増やすことで、県内の障がい者スポーツの盛り上がりが進むと考えている。
企画	・学校と地域スポーツ団体の連携した生涯スポーツの推進 ・新たなスポーツ活動をきっかけとした共生社会の推進 ・沖縄の持つスポーツ資源を活用した障がい者スポーツ関連人材の育成
内容	事業区分①:Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA 事業区分①:正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム 事業区分①:チャレンジ！マリンスポーツプログラム

◆宮城県障害者スポーツ指導者協議会

背景	・昨今の新型コロナウイルス感染症の影響で、外出自粛や新しい生活様式の導入から自宅にこもることが増え、社会参加の機会や体を動かす機会、仲間づくりなど、あらゆる機会が激減している。 ・県民のアンケート調査(令和3年度)では障がい者スポーツを行っている、関わっている人の割合が2．6%と非常に低く、さらに、第2期宮城県スポーツ推進計画では、障害のある児童・生徒が学校体育以外でスポーツに親しむ機会が少ないことが課題としてあげられている。
企画	・パラスポーツ参加人口の増加 ・障害児・者のスポーツ体験機会の拡充 ・教育機関との関係性の構築 ・パラスポーツ指導員の活動活性化
内容	事業区分④:普及・験教室開催事業 事業区分②:研修会開催事業 事業区分①:ボッチャ交流会開催事業

◆ひょうごパラスポーツ指導者協議会

背景	・地域や種目によって差があるものの、地域でのパラスポーツの自主的活動がほとんどみられない。 ・道具、用具が少なく、協議会へ届く依頼に対し臨機応変に対応できないことがある。 ・地域住民が活動したい日時に即時対応できる体制が必要。
企画	・県内3地域でボッチャや卓球バレーなどの体験会を行い、世代交流や障害の有無に関係なく活動を行うことで、継続した地域の活動拠点を創出する。また、3地域をモデルとし、他の6地域にも拡充できるように、他地域から補助員としての参加を促す。 ・既に地域に根ざした活動を行っているスポーツ推進委員やサロンで活動している方々を対象にパラスポーツの指導者育成の講習会を行う。 ・行政機関や地域福祉団体などとも連携し、継続して実施できる場所を拡充拡大する。
内容	事業区分①：パラスポーツ体験会（卓球バレー、ボッチャなど） 事業区分②：パラスポーツ体験会における指導者育成

（2）パラスポーツセンター

＜事業区分＞

①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業（活動の場づくり）

②スポーツ指導者等の育成・連携事業（指導者対象）

③競技団体・クラブ・サークル設立支援事業（体制づくり）

④スポーツを通じた関連団体等との連携促進事業（連携促進）

⑤新たな取り組み支援事業（事業区分1～4 に該当しない事業）

◆（福）新潟県身体障害者団体連合会（新潟県障害者交流センター指定管理者）

背景	・本県に J1 クラブチームがあることから県民全体のサッカーに対する関心が高く、また当センターでも各種障がい者のサッカーチームが定期的に活動するなど、サッカーへ対するニーズが高い。 ・更に多くのスポーツ団体・福祉団体との連携の輪を拡大することが重要と考えている。
企画	・障害児や特別支援学校生徒等の若年層へのサッカーの普及推進 ・既存パラサッカーチームへの活動支援及び競技力向上の推進 ・プロサッカーチームとの連携推進や選手のセカンドキャリアに向けたパラスポーツへの理解促進 ・他種目のスポーツ関係団体やプロスポーツチームへのパラスポーツの波及促進
内容	事業区分①：特別支援学校等巡回事業 事業区分③：パラサッカーチーム競技力向上事業 事業区分③：障害児・者フットサル教室 事業区分④：パラサッカーフェスタ with アルビレディース

（2）パラスポーツ競技団体

＜事業区分＞

①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業（活動の場づくり）

②選手発掘・育成事業（障がい者対象）※新たな教室・大会等の開催含む

③競技指導者・支援者育成事業（指導者対象）

④競技団体・クラブ・サークル設立支援事業（体制づくり）

⑤新たな取り組み支援事業（事業区分1～4 に該当しない事業）

◆NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

背景	・競技の認知度・普及が十分ではなく、精神障がい者へバスケットボールの機会を提供できていない。 ・十分な広報と実施機会の提供、先入観の打破が大きな課題と言える。 ・事業を実施する際の、現地支援者が不足している。
企画	・協会関係者が各地域へ出向き、精神障がい者を対象としたバスケットボール交流会を開催する。 ・地域のスポーツ関係団体や医療関係団体と連携して開催することで、現地で継続したバスケットボール活動が行えるようなサポート体制を構築する。
内容	事業区分①:ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ 2023-2024　仙台ラウンド 事業区分①:ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ 2023-2024　佐賀ラウンド 事業区分①:ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ 2023-2024　岡山ラウンド 事業区分①:ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ 2023-2024　三重ラウンド

◆一般社団法人日本障害者カヌー協会

背景	・全国で体験・練習ができる環境が整わず、発掘した選手の練習環境が作れていない状況がある。 ・障害があっても楽しめるスポーツであるという認識が薄く、体験機会も少ない。 ・スポーツのユニバーサル化という視点では、最も手付かずで地域の方々も難色を示す競技である。 ・危険というイメージが先走り、自然教育という観点すら障害者から消えかけている。
企画	・地域で体験会から選手の練習機会まで、完結できる環境を作る ・遊びから競技に至るまで、地域の『人』『環境』『物』の環境を作り、地域におけるカヌースポーツのユニバーサル化を促進させる。
内容	事業区分③:パラカヌーサポーター講習会 事業区分②:パラカヌー選手練習会 事業区分①:パラカヌー体験会兼サポーター講習会フォローアップ研修会

◆特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

背景	・国内にパラ・パワーリフティングの地方協会がほとんどなく、選手育成や競技普及振興は大半を NF が担っている。 ・岡山県でも協会は無く、クラブが選手育成と競技普及振興を行っている状況である。ただし、県パワーリフティング協会はパラ・パワーリフティングと合同での競技実施や地域振興へ対し、前向きな姿勢である（ただし、競技実施の場所は乏しい）。
企画	・岡山県に連盟を設立し、「岡山オープンパラ・パワーリフティング大会」を開催する。 ・育成レベルの選手も出場できるパラ・パワーリフティングの大会を増やす。 ・健常者と同じルール、体重カテゴリーで競う設定とし、健常選手とパラ選手の相互理解を深める。 ・当連盟公認審判講習会を同時に実施し、岡山県連盟設立へ向けた協力者を増やす。
内容	事業区分③:岡山オープン　パラ・パワーリフティング大会

◆一般社団法人日本パラアイスホッケー協会

背景	・パラアイスホッケーの地域拠点は 7 ヶ所のみで、競技普及のため認知度を向上させる必要がある。 ・全国的なアイスリンク不足（場所や施設の貸出枠確保）から、思うような普及活動ができていない。 ・活動しやすい時間帯のアイスリンクの使用が困難で、若年層の競技人口や支援者の増加に影響を及ぼしている。
企画	・地域拠点における若年層の競技者や支援者を増加させ拠点の活動を活性化させる。 ・拠点のない地域で体験会を開催し、普及・認知度向上に努め、新規競技者や競技への協力者および協力団体を発掘し、新たな拠点を立ち上げる。 ・パラアイスホッケー競技の露出機会を増やす。
内容	事業区分①：パラアイスホッケー活動拠点拡大事業 事業区分①：パラアイスホッケー活動拠点支援事業

◆一般社団法人日本デフ陸上競技協会

背景	・特別支援学校では、高水準な指導が受けにくく、部活動も盛んではない。 ・障がいが理由で、地域のスポーツチームの入会を断られるケースがある。 ・2025 年デフリンピックに向け機運を醸成させる必要がある。 ・地方におけるデフ陸上の支部制度がなく、地域密着でデフ選手の育成や発掘等が行き届いていない。さらに、若い世代の陸上離れも多い。
企画	・都市部だけでなく、地方都市を中心に「デフリンピアン」や「オリンピアン」など一流選手と交流の機会が少ない地域で、障がい児のスポーツ技術の向上を目指す。 ・次世代アスリートを育成し、デフリンピックをはじめとした、国際大会で好成績を維持できるように努める。
内容	事業区分①：2023 年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント 事業区分①：九州地区でのデフ陸上イベント開催

◆公益財団法人日本セーリング連盟

背景	・障がい者セーリングの認知度が全国的に低い。 ・関東以北、四国、東海、九州地方で障がいセーリングを定期的に行っている地域が非常に少ない。 ・障がい者セーリング体験会を開催するうえで、運営体制や用具の不足から体験会ができない地域もあり、競技の普及に支障が生じている。 ・更に高い技術習得を求める障がい者もいる。
企画	・全国各地域での障がい者セーリングの認知度アップを図る。 ・健常者と障がい者が同条件で楽しめるスポーツの一つである障がい者セーリング（インクルーシブセーリング）の普及振興を図る。 ・地域の健常者スポーツ団体や障がい者スポーツ支援団体と協力し、多様な障がい者がスポーツ活動に参加できる場を提供し、新たな選手発掘や指導者養成の環境をつくる。
内容	事業区分①：パラセーリング普及・支援事業 事業区分②：パラセーラーのスキルアップ事業

◆一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

背景	・連盟登録チーム数が減少している。 ・地域においては競技人口減少の歯止めがかからない状態が続いている。 ・各ブロックの現状把握のためのヒアリングを開催し、多くの課題を収集した。
企画	・各地域のキッズ・ジュニア世代が車いすバスケやパラスポーツに親しむ環境をつくる。 ・教室で集まった世代の交流大会を開催しスポーツから学ぶ楽しさや協調性を育む機会を提供する。 ・多世代、多思考、する・みる・ささえるなど、様々な人々が地域に集まり、車いすバスケを通じて、新しい3つの理念を表現する事業展開を行う。
内容	事業区分①：未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト 事業区分⑤：車いすバスケを核とした地域活性化プロジェクト

◆一般社団法人日本パラフェンシング協会

背景	・競技中に車いすを固定する「フレーム」が常設できる施設が少なく、気軽に実施できないことや、日常的な練習がしにくく、競技人口が増えない。
企画	・定期的に教室が開催されている広島・旭川で、更なる参加者増や発展へつながるように、月1～2 回程度の練習会を開催する。同時に、指導者の育成、地域のパラスポーツ協会・指導員等と連携を図る。 ・障がい者が日常的にフェンシングを楽しめる環境の構築を目指し、4 府県での体験会を開催する。 ・パラフェンシング競技のサポーター養成講習会を実施し、練習・試合で不可欠なサポーター（補助員）を養成する。 ・地域での活動をクラブ・支部を創設につなげ、将来的に「団体登録・県協会」制度を構築し、各県での活動を持続することを目指す。
内容	事業区分②：パラフェンシング教室 事業区分①：パラフェンシング体験会 事業区分③：パラフェンシングサポーター講習会

◆特定非営利活動法人 日本ソーシャルフットボール協会

背景	・統括団体として、地域への支援やコミュニケーション（連携）が不足していると捉えており、それらの理由から競技人口や支援者を増やすことが十分にできていない。 ・中国ブロックでは、現在、協会登録チームのない県がある。東海ブロックでは、チーム数は比較的多いものの、交流や連携が少ない。 ・現地スタッフが少ない人数で努力し、普及・啓発活動を行っているが、地域全体への普及には手が回らない。
企画	・日本代表スタッフ・代表候補選手によるフットサル教室兼指導者講習会を開催し選手の増加を図る。 ・医療福祉・サッカー・障がい者スポーツ指導員・行政・企業・一般市民など関係者向けの講演会を同時に実施し、ソーシャルフットボールという分野と当事者の回復に寄与するという認知を高める。 ・JSFA のスタッフが現地に赴き、登録チームの運営ノウハウや他との連携、普及の方法の提供を行い、新規の登録チームを増やす。
内容	事業区分④：ソーシャルフットボール　中国キャラバン 事業区分④：ソーシャルフットボール　東海キャラバン

◆一般社団法人日本パラ水泳連盟

背景	・コロナ禍の影響で連盟会員数の減少傾向がつづいている。 ・退会者へのアンケートや地域連盟のヒアリングの結果、①施設の利用制限で練習できない②地域大会の中止③感染リスクを避けるため活動を中止などがあげられた。 ・会員数の減少は、組織の衰退や強化選手の発掘などに大きく影響する。
企画	・地域連盟5ブロック（東北、関東、近畿、中四国・九州）で開催する記録会の支援を行う。 ・世界パラ水泳連盟基準のマルチポイントシステムによる通信総合大会を開催。
内容	事業区分②：日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会

◆一般社団法人日本ろう者サッカー協会

背景	・2025 年東京デフリンピック開催に向け、次世代育成が急務となっている。 ・若年層のデフフットボールの定期的な活動の場は首都圏などの都市部に限られており、地方在住の聴覚障害児者の活動の場が少ない。また、地方都市での定期的な教室開催を望む声も多いが、現在は対応が難しい状況にある。
企画	・NF が都市部以外の地域の聴覚特別支援学校等へ赴き、サッカー教室を行う（学校の校庭や体育館が会場）。 ・聴覚特別支援学校等の PTA 活動や総合的な学習の時間を利用して実施する。 ・現日本代表選手や現地サッカー関係者も巻き込むことで多様な交流や地域に潜在するデフアスリートの発掘へつなげる。
内容	事業区分②：デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業

◆日本車椅子ソフトボール協会

背景	・地方では、競技人口が少なく、車いすやグラウンドなど環境が十分に整っていないため、車椅子ソフトボールに触れる機会がない。
企画	・青森、大阪、福岡、広島で 4 回の体験会を実施する。 ・実施地域における競技普及・育成に協力してくれる団体・個人との関係構築を行う。
内容	事業区分②：車椅子ソフトボール体験会

◆特定非営利活動法人日本障害者スキー連盟

背景	・スキーは、実施する地域・季節が限定的で、「スキー場」に行かないとできないことや、競技用具や指導者が必要なスポーツであるため、「障がい者が気軽にできるスポーツ」とは言えない。 ・競技団体と地域のスキー場・スキー連盟・スキー指導者やパラスポーツ指導員等との協力関係ができているとは言い難く、障がい者が「スキーを体験する」「日常的に練習する」という場所を提供できずにいる。
企画	・北海道・東北、甲信越、西日本で 4 回以上の体験教室を実施。実施地域で今後日常的にスキー体験・練習ができるような関係構築および要請も行う。 ・視覚障がい者のクロスカントリースキー体験会および特別支援（盲）学校との連携事業を行う。 ・地域で活動する障がい者スキークラブを対象に体験会・教室を実施する。
内容	事業区分②：パラスキー・スノーボード体験教室事業 事業区分②：視覚障がい者スキー体験事業 事業区分③：地域スキークラブ活動支援事業

◆公益財団法人全日本柔道連盟

背景	・「知的障がい者柔道」の認知が十分に広まっていない地域がある。 ・「柔道は危険だ」という認識から、知的障がい者の柔道へ対し、抵抗を感じている保護者もいる。 ・今後、普及した際の地域での受け皿（指導者や練習場所など）が不足している。
企画	・4県で知的障がい者柔道の体験会を実施する。 ・知的障がい者や保護者、特別支援学校や施設を中心に ID 柔道を紹介する。 ・地元選手や指導者にも参加してもらい、体験会後の活動の場につなげる
内容	事業区分①：知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会（広島） 事業区分①：知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会（愛知） 事業区分①：知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会（千葉） 事業区分①：知的障がい者柔道紹介事業・体験会・練習会（埼玉）

◆一般社団法人日本ボッチャ協会

背景	・競技人口が増えているにもかかわらず、都道府県ボッチャ協会の加盟団体組織化ができていない。 ・指導者や大会を企画立案・運営できる競技役員等、競技を支える人材が不足いる。 ・大会参加者が増加傾向にあるため、地域でボッチャが実施できる環境づくりを整える必要がある。
企画	・研修会開催による人材育成 ・模擬試合開催試合機会の提供（全日本選手権予選敗退者対象） ・地域加盟団体の設置による地域基盤強化 ・ブロック会議の実施による加盟団体組織化
内容	事業区分②：B チャレンジ関東ブロック（東日本対象） 事業区分②：B チャレンジ近畿ブロック（西日本対象） 事業区分④：加盟団体（設立準備）会議

◆日本卓球バレー連盟

背景	・競技が全国各地で紹介される機会は増え、知名度も高まりつつあるが、競技に詳しい指導者の関わりが少なく、その場限りの体験に留まり継続的な実施や競技としての発展に繋がっていない。 ・連盟の資金不足から地域のパラスポーツ現場における受容の高まりに応えきれていない。
企画	・連盟に所属する都道府県協会のない 6 つの都道府県(東、中、西の3ブロックから 2 ヶ所ずつ)に本連盟公認指導者を講師として派遣し「体験教室」を開催する。 ・競技特性や魅力を伝え、卓球バレーを通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着化を図る。
内容	事業区分①:「卓球バレー体験教室」開催事業

2 事業内容の特徴

地域の課題や特性に応じた様々な取り組みがみられた。本事業の「事業スキーム」の大きな4つの柱に基づき、今年度実施された事業の特徴を県協会・県指導協・スポーツセンターおよび競技団体に分けて整理する。

1) 障がい者のスポーツ活動の場づくり

【県協会・県指導協・スポーツセンター】

今年度も、多様なアプローチで、地域での活動の定着をめざすスポーツ教室、体験会、大会開催などの取り組みがみられた。継続受託団体では、これまでに培った連携や、これまでに育成した指導員を活用するなど、受託経験が活かされた。

実施内容としては、スポーツ活動を定着させるためのツールとして、誰もが参加しやすいボッチャなどのユニバーサルスポーツが多く取り組まれ、障がい種別、年齢層が多様な対象で活動がなされていた。障がいのない者も参加しスポーツを通した障がいの理解、共生への取り組みもなされた。

また、その地域の特性を活かした内容・場所の企画がされ、モデル地域の指定、県域を分ける取り組みや未普及地域の強化などが継続して取り組まれた。

組織連携では、地域の資源を活かし、プロスポーツ団体やプロ選手との連携もみられた。

【競技団体】

多くの競技団体の課題である競技人口の拡大や認知度向上を根底とし、体験会やスポーツ教室などの取り組みが多くみられた。

各競技団体の全国的な普及状況にもよるが、事業実施場所は、選手や支援者が居住する地域を地域活動の糸口としていると同時に、未普及地域あるいはブロック単位での拠点づくりなどが企画された。

実施内容は、強化選手を地域に派遣し、デモンストレーションなどを通して認知度向上を狙うなど、工夫された取り組みがみられた。

また、組織連携では、事業開催地のパラスポーツ協会や指導者協議会との連携がこれまでの3倍ほどみられるようになった。

2) 人材の育成

【県協会・県指導協・スポーツセンター】

パラスポーツ指導員に限らず、スポーツ推進委員、医療関係者など、開催地域での活動定着を見越し、地域で活動する人材を育成する取り組みがみられた。同時に、育成された関係者の実践の場も用意するなど工夫して取り組まれた。それぞれ所属団体や立場が異なる人材間においても意図的な交流を図り、相互のレベルアップを目指す取り組みもあった。

【競技団体】

競技団体でも、将来の活動主体・連携を意識し、スポーツ推進委員や福祉事業所スタッフなど、幅広い人材を対象とした取り組みがみられた。

内容としては、大会と審判講習の同時開催、座学と実践の融合など、限られた活動の中で、工夫した取り組みがなされた。

また、クラブチームを地域の活動主体として位置づけ、チームそのものを地域振興の人材として活用することや、現役選手についても、事業スタッフの一員として、講師補助や運営面にも関わった取り組みもあり、関係者一体となった取り組みが展開された。

3）体制づくり

【県協会・県指導協・スポーツセンター】

事業の継続開催を目標に、意図的な連携団体の選択が行われ、その連携・協働団体ごとの専門性を活かした役割を分担するなど、体制づくりに向けた取り組みがなされた。

地域で既に活動しているクラブの現状把握や支援も本事業で行われた。また、地元の民間水泳クラブと連携することで、事業実施後の活動の受け皿をつくり、事後も継続した活動の場として参加者とクラブをつなげる取り組みもみられた。

【競技団体】

主に、ブロック支部や地域協会の創設・発展に寄与する事業企画が練られた。既にブロックがある場合は、その地域ブロックの代表者で構成する実行委員会を組織する取り組みもみられた。

また、既に地域にクラブがある場合は、そのクラブチームに事業運営の主体を移すことで、地域での継続やジュニアチームを新たに発足する企画もみられた。

4）選手掘り起こし・育成

【競技団体】

支援学校との連携を含め、キッズ・ジュニアなど若年層をターゲットにした取り組みがみられた。

また、大会開催の前日に、現役選手が支援学校を訪問する取り組みなど、イベント開催と同時に開催地での競技の普及を図った取り組みもみられた。

3 組織連携の取り組み

さまざまな分野の団体と連携することで、事業効果を高める取り組みが多くみられた。その傾向と特徴を整理する。

【連携団体 一覧：協会／指導者協議会／スポーツセンター】

区分		No.	連携先			岩手県 7回目 15	宮城県 5回目 7	兵庫県 9回目 14	和歌山県 7回目 6	大分県 6回目 10	鹿児島県 6回目 5	沖縄県 7回目 5	宮城指導協 2回目 7	兵庫指導協 初 13	新潟SC 初 10
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	4	9			●		●			●	●	
		2	県・市教育委員会（特別支援教育課を含む）	5				●		●	●		●	●	
		3	県・市全国障害者スポーツ大会課	0											
2	教育関係	4	特別支援学校長会	2	14					●	●				
		5	小・中学校・高校	3				●			●			●	
		6	特別支援学校（学級含む）	3			●				●				●
		7	大学・短期大学・専門学校	5		●	●	●				●			●
		8	特別支援学校体育連盟	1											●
3	スポーツ関係	9	県・市スポーツ（体育）協会	4	23	●						●	●	●	
		10	県・市レクリエーション協会	0											
		11	スポーツ推進委員協議会	3							●		●	●	
		12	一般競技スポーツ団体	5		●	●		●					●	●
		13	一般スポーツクラブ・サークル	4			●	●	●					●	
		14	スポーツ関連団体（スポーツ施設管理団体等含）	2		●		●							
		15	総合型地域スポーツクラブ	3						●		●		●	
		16	プロスポーツチーム・団体	1											●
		17	実業団スポーツチーム	0											
		18	スポーツ施設	0											
		19	民間スポーツクラブ	1			●								
4	医療関係	20	県理学療法士会	3	6	●			●	●					
		21	県作業療法士会	2		●				●					
		22	リハビリテーションセンター	0											
		23	病院・クリニック	1						●					
		24	県・市病院協会	0											
5	福祉関係	25	県・市・町社会福祉協議会	2	7			●						●	
		26	身体障害者福祉協会	0											
		27	知的障害者福祉協会	0											
		28	視覚障害者福祉協会	0											
		29	障害者団体連合会	2		●		●							
		30	身体障害者連盟	1		●									
		31	手をつなぐ育成会	0											
		32	精神保健福祉協会	1		●									
		33	社会福祉士会	0											
		34	福祉サービス事業所	1											●
		35	障がい児・者親の会	0											
		36	手話クラブ	0											
		37	ボランティア団体	0											
6	パラスポーツ関係	38	パラスポーツ競技団体	7	25	●	●	●	●	●				●	●
		39	県・市障がい者スポーツ協会	1											●
		40	県・市障がい者スポーツ指導者協議会	6		●	●	●	●	●					●
		41	パラスポーツ関連団体	3		●		●						●	
		42	障がい者スポーツセンター 身体障害者福祉センター	0											
		43	パラスポーツのクラブ・サークル	8		●		●	●	●		●	●	●	●
7	その他	44	eスポーツ団体	1	8	●									
		45	民間企業	3				●					●	●	
		46	青年会議所	1		●									
		47	メディア関係（TV・ラジオ・新聞）	1									●		
		48	県・市・町警察	1				●							
		49	社会教育施設	0											
		50	心理士協会	0											
		51	宿泊施設（ホテル等）	0											
		52	公園・運動場	1								●			

【連携団体　一覧:競技団体①】

区分		No.	連携先			ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹ 2回目	ｶﾇｰ 2回目	ﾊﾟﾗ・ﾊﾟﾜｰ 2回目	ｱｲｽﾎｯｹｰ 2回目	ﾃﾞﾌ陸上 初	ｾｰﾘﾝｸﾞ 初	車いすﾊﾞｽｹ 初	ﾌｪﾝｼﾝｸﾞ 2回目
						9	8	6	11	6	11	2	3
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	5	7	●	●	●	●		●		
		2	県・市教育委員会（特別支援教育課を含む）	2			●				●		
		3	県・市全国障害者スポーツ大会課	0									
2	教育関係	4	特別支援学校長会	0	3								
		5	小・中学校・高校	0									
		6	特別支援学校（学級含む）	1							●		
		7	大学・短期大学・専門学校	2				●	●				
		8	特別支援学校体育連盟	0									
3	スポーツ関係	9	県・市スポーツ（体育）協会	0	15								
		10	県・市レクリエーション協会	0									
		11	スポーツ推進委員協議会	0									
		12	一般競技スポーツ団体	6		●	●	●	●	●	●		
		13	一般スポーツクラブ・サークル	3			●		●		●		
		14	スポーツ関連団体（スポーツ施設管理団体等含）	5			●	●	●	●	●		
		15	総合型地域スポーツクラブ	0									
		16	プロスポーツチーム・団体	0									
		17	実業団スポーツチーム	1						●			
		18	スポーツ施設	0									
		19	民間スポーツクラブ	0									
4	医療関係	20	県理学療法士会	0	3								
		21	県作業療法士会	1		●							
		22	リハビリテーションセンター	1					●				
		23	病院・クリニック	1					●				
		24	県・市病院協会	0									
5	福祉関係	25	県・市・町社会福祉協議会	2	7				●		●		
		26	身体障害者福祉協会	0									
		27	知的障害者福祉協会	0									
		28	視覚障害者福祉協会	0									
		29	障害者団体連合会	0									
		30	身体障害者連盟	0									
		31	手をつなぐ育成会	0									
		32	精神保健福祉協会	1		●							
		33	社会福祉士会	0									
		34	福祉サービス事業所	3						●	●		●
		35	障がい児・者親の会	1		●							
		36	手話クラブ	0									
		37	ボランティア団体	0									
6	パラスポーツ関係	38	パラスポーツ競技団体	1	18	●							
		39	県・市障がい者スポーツ協会	6		●	●	●		●	●		●
		40	県・市障がい者スポーツ指導者協議会	2			●		●				
		41	パラスポーツ関連団体	2						●		●	
		42	障がい者スポーツセンター 身体障害者福祉センター	1					●				
		43	パラスポーツのクラブ・サークル	6		●		●	●		●	●	●
7	その他	44	eスポーツ団体	0	3								
		45	民間企業	1			●						
		46	青年会議所	0									
		47	メディア関係（TV・ラジオ・新聞）	0									
		48	県・市・町警察	0									
		49	社会教育施設	1							●		
		50	心理士協会	1		●							
		51	宿泊施設（ホテル等）	0									
		52	公園・運動場	0									

【連携団体　一覧:競技団体②】

区分		No.	連携先			ｿｰｼｬﾙﾌｯﾄ	ﾊﾟﾗ水泳	ろうｻｯｶｰ	車椅子ﾘﾌﾄ	ｽｷｰ	全柔連	ﾎﾞｯﾁｬ	卓球ﾊﾞﾚｰ
						2回目	2回目	初	初	2回目	2回目	2回目	初
						8	1	8	6	9	6	3	12
1	行政関係	1	県・市担当主管課（町・村含む）	4	4			●	●	●			●
		2	県・市教育委員会（特別支援教育課を含む）	0									
		3	県・市全国障害者スポーツ大会課	0									
2	教育関係	4	特別支援学校長会	0	7								
		5	小・中学校・高校	2				●					●
		6	特別支援学校（学級含む）	2				●		●			
		7	大学・短期大学・専門学校	3					●		●	●	
		8	特別支援学校体育連盟	0									
3	スポーツ関係	9	県・市スポーツ（体育）協会	1	8	●							
		10	県・市レクリエーション協会	0									
		11	スポーツ推進委員協議会	1									●
		12	一般競技スポーツ団体	3				●		●	●		
		13	一般スポーツクラブ・サークル	1				●					
		14	スポーツ関連団体（スポーツ施設管理団体等含）	1									●
		15	総合型地域スポーツクラブ	0									
		16	プロスポーツチーム・団体	0									
		17	実業団スポーツチーム	0									
		18	スポーツ施設	1				●					
		19	民間スポーツクラブ	0									
4	医療関係	20	県理学療法士会	2	6				●	●			
		21	県作業療法士会	3		●			●	●			
		22	リハビリテーションセンター	0									
		23	病院・クリニック	0									
		24	県・市病院協会	1		●							
5	福祉関係	25	県・市・町社会福祉協議会	0	9								
		26	身体障害者福祉協会	1									●
		27	知的障害者福祉協会	0									
		28	視覚障害者福祉協会	1									●
		29	障害者団体連合会	1							●		
		30	身体障害者連盟	0									
		31	手をつなぐ育成会	0									
		32	精神保健福祉協会	2		●							●
		33	社会福祉士会	0									
		34	福祉サービス事業所	3		●			●		●		
		35	障がい児・者親の会	1		●							
		36	手話クラブ	0									
		37	ボランティア団体	0									
6	パラスポーツ関係	38	パラスポーツ競技団体	5	14		●			●	●	●	●
		39	県・市障がい者スポーツ協会	4		●		●		●			●
		40	県・市障がい者スポーツ指導者協議会	1									●
		41	パラスポーツ関連団体	1									●
		42	障がい者スポーツセンター 身体障害者福祉センター	2						●			●
		43	パラスポーツのクラブ・サークル	1					●				
7	その他	44	eスポーツ団体	0	5								
		45	民間企業	2							●	●	
		46	青年会議所	0									
		47	メディア関係（TV・ラジオ・新聞）	1				●					
		48	県・市・町警察	0									
		49	社会教育施設	0									
		50	心理士協会	1		●							
		51	宿泊施設（ホテル等）	1						●			
		52	公園・運動場	0									

4 パラスポーツ指導者の活動

地域において継続的に障がい者が気軽にスポーツに取り組むためには、パラスポーツに携わる人材、リーダーの存在が不可欠である。本事業においても、地域のパラスポーツ指導者の活躍が多くみられた。その傾向と特徴を整理する。

1）指導員の活動傾向

過去の取り組み同様、スポーツ教室や体験会等の事業展開において、パラスポーツ指導員が講師やその補助など、中心的な役割を担った取り組みが多くみられた。また、指導者協議会からの受託が2団体あったが、企画書の作成から実施、振り返りまでを指導員自らが担当するなど、その役割は多岐にわたる。特に、組織連携における窓口（パイプ役）も指導員が務めている受託団体もあり、活動内容の幅が広がっていることが伺えた。

2）活動内容の特徴

パラスポーツ指導員の中でも、競技別審判員など、資格を保有し、高い専門性を発揮しての活動がみられた。一方、資格の有無が活動参加に影響しているわけではなく、専門性に応じて役割を変えることで、資格を持っていない指導員も活躍の場が用意されていた。

また、新たな指導員の活用をめざし、経験が浅い指導員も、サブ講師とメイン講師を繰り返し担当することや、同じ内容の教室でのメイン講師は日ごとに交代するなど、新旧の指導員の伝承を促す取り組みもみられた。

さらには、スポーツ推進委員等の地域の指導者が、本事業に関わることで、その活動後に、パラスポーツ指導者資格の取得に至るケースが今年度もみられた。その資格取得後には、同じ事業を担当する場合でも、より専門性が必要な役割に配置変更されたことも報告されている。地域のパラスポーツ指導員が増える過程や資格取得が事業の役割に与える影響が本事業でみられるのは意義深い。

3）活躍する場の拡大に向けて

パラスポーツ指導員の活動は、主に県協会や指導者協議会を中心にみられたが、競技団体においても地域の指導者協議会と連携をはじめる取り組みもみられるようになった。本事業の報告会で受託団体が一堂に会した際も、競技団体と県協会、さらには指導者協議会との連携の道筋が浮かび上がってきており、今後、県協会や指導者協議会の自主事業のみならず、各競技団体に、各地のパラスポーツ指導員が参画することが期待される。

本事業をとおし、多様な人材が活動に参加、指導者資格を取得することで、本事業での経験と障がい者・指導者とのつながりが生かされ、関わる者それぞれが日常で携わる指導現場や、職場、地域の身近な場において、障がい者の社会参加の場を生み出し、広げていくような活動が期待される。

5 地域振興事業の成果

関係団体と強みを生かした連携を行いながら、各団体で工夫をこらし、さまざまな成果がみられた。事業区分ごとに整理したうえで、本事業の成果を考察する。

(1)主な成果

①障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業

事業の狙い(協会／指導者協議会)　パラスポーツの場の定着と拡大

事業の狙い(競技団体)　現在の活動の回数を増やす。新しいスポーツの場を開拓する。

＜パラスポーツ協会／指導者協議会＞

〇キーマンとの連携により、新規開拓に成功。その開催情報を知った近隣市町村からの問合せもあり、次年度開催に向けての展開も生まれた。過去に購入したスポーツ用具は、事業実施の市町村に貸出すなどして、地域での取り組みも進んでいる。(鹿児島県協会)

〇過去に実施した地域から、自治体主体の事業移行の問合せや相談が増えている。既に自主財源を確保した自治体もあり、本事業の活用がなくても事業が継続できる地域が増えつつある。(鹿児島県)

〇事業を実施した自治体から、共同主催の申し出があり、指導者協議会ではできない業務を補ってもらえた。(宮城指導協)

〇総合型地域スポーツクラブ、まちづくり協議会、老人会等と新たに連携することができ、今後の活動定着に期待を持つことができた(ひょうご指導協)

〇今回連携・協働した団体から、リピート開催の要請があるなど、地域とつながった実感を持つことができた(ひょうご指導協)

〇過去の活動では、年一回の実施など単発的な企画が多かったが、実施回数を複数回にすることで参加者間の情報交換などネットワークが拡がり、専門スキルを持つ講師からの学びを多く得ることができた(沖縄県)

＜パラスポーツセンター＞

〇サッカーをテーマにしながらも、内容にトレーニング方法や講話を組み込んだことで、さまざまなスポーツで応用できる体験会となった(新潟県 SC)

〇プロサッカー選手を講師に迎えたが、事業を通して障がいのある生徒と交流し、障がいの理解が深まったとの声が届いた。また、パラスポーツ指導員の紹介を行うことができた(新潟県 SC)

＜競技団体＞

〇これまで活動実績のなかった地域で実施でき、実施地域以外の県・市からの参加も見られた。全国大会にも新規参加チームが出るなど、見える形での効果があった(ソーシャルバスケ)

〇開催地の一般競技団体やパラスポーツ協会と連携したことに加え、開催地自治体の教育関係部署に広報協力を得たことで、開催場所の確保や地域の方への周知を担ってもらうことができた(パラカヌー)

〇地域(地元チーム)のニーズの高さを把握でき、地域のクラブチームが主体となった活動を進めることで、中央組織と各ブロックとの連携強化を進めるための第一歩となった。(車いすバスケ)

〇昨年度連携したパラスポーツ指導者協議会と定期的に連絡をとるようになり、本年はより円滑な進行ができた。(パラ水泳)

〇地域での継続した活動に主眼をおき、一般中央競技団体と同じシステム、方法で大会を実施することができた。(パラパワー)

②スポーツ指導者等の育成 ・連携事業（指導者対象）

事業の狙い　障がい者やパラスポーツ指導員が継続的に地域スポーツに親しめる環境づくり

＜パラスポーツ協会／指導者協議会＞

〇地域ごとの指導者を育成することで、地域に根差した活動となり、旅費の削減にもつながった（鹿児島県）

〇同じ日に複数の競技を実施するスポーツ教室を開き、経験の浅い指導員の参加を促したことで、指導のスキルアップにつながった（岩手県）

〇作業療法士や理学療法士も参加する事業に、パラスポーツ指導員も参画することで互いのスキルアップにつながった（岩手県）

〇スタッフとして参加した指導員が、生き生きと活動し、笑顔で取り組む姿をみて、指導員養成講習会の受講に至った参加者もあった（ひょうご指導協）

＜パラスポーツセンター＞

〇本事業を通して、参加チームのメンバーやその保護者、関係者などに、パラスポーツ指導員のことを周知できた。（新潟県 SC）

③ 競技団体・クラブ・サークル設立支援事業（体制づくり）

事業の狙い　新たなクラブ・サークルの設立・支援、県市における競技団体の設立など

＜パラスポーツ協会／指導者協議会＞

〇講師を担える県ボッチャ協会のスタッフが増え、県内広域に広がったことで、県競技団体の層の厚さにつながった。さらに、各地区に支部を結成し、地区ごとに指導者を派遣する仕組みを整えた。（鹿児島県）

〇当協会のみならず、地域のパラスポーツクラブやサポート団体が一体となって、各自治体に要望し、イベントを企画するケースも見られている（鹿児島県）

〇宮城県スイミング協会と連携し、事業を実施したことで、スイミングスクールへの入会に繋がるなど、地域のクラブへ参入する機会ができた（宮城県）

＜パラスポーツセンター＞

〇県内各パラサッカーチームにプロ選手が巡回指導を行うことで、チーム状況を把握し、競技力向上を図ることができた。指導にあたったプロ選手が、SNS で本活動を発信してくれることで、パラスポーツの認知度アップにもつなげることができた（新潟県 SC）

＜競技団体＞

〇一般競技団体や大学を巻き込み、準備・運営を行うことができたことは、今後の実施体制の発展に大きく寄与できる成果となった（ソーシャルフット）

〇大会運営、選手育成、自治体連携等、各地で実施しているモデルケースを都道府県協会間で共有することにより、より地域にあった取り組みを提供することができた（ボッチャ協会）

〇チームの無い近隣県の関係者を会場に招き、見学やチーム結成の意見交換を同時に行えたことで、新たな地域展開への種まきができた（ソーシャルフット）

〇加盟団体（設立準備）会議では、地域協会と中央競技団体との積極的な意見交換や情報交換による地域協会間の連携をもつことで、地域において加盟団体組織化を促進する手ごたえを感じた。（ボッチャ協会）

④スポーツを通じた関連団体との連携促進事業（連携促進）【パラスポーツセンターのみ】

事業の狙い　県市の公共スポーツ施設の利用、県市の特別支援学校や資格取得認定校等との連携を促進するなど

＜パラスポーツセンター＞

〇イベント型事業を通して、県内パラサッカーチームが一堂に会し、コロナ禍で希薄になっていた連携を深めることができた。また、各パラサッカーチームとプロサッカーチームとの関係も構築できた（新潟県 SC）

〇指導にあたったプロ選手が、障がいの理解を深め、セカンドキャリアとして、プロの経験を活かしたパラスポーツの指導を行うことで、パラスポーツ団体の競技力発展に大きくつながることが示唆された（新潟県 SC）

⑤ 選手発掘・育成事業（障がい者対象）【競技団体のみ】

事業の狙い　新たにスポーツへ取り組む障がい者の掘り起こし。現在、取り組んでいる障がい者への支援

＜競技団体＞

〇選手の競技技術のスキルアップと指導者のスキルアップを、座学と海上練習の講習を通して同時開催でき、事業効果を高めることができた（セーリング）

〇地元クラブが中心となり、活動ができている地域をモデルにし、他地域で「地域クラブ設置」を進める足掛かりとなった。また、障がいの有無に関係なくいすに座って競うことを今回の活動で見せることができ、発掘・育成活動をオリ・パラ部門一緒に行える可能性を示唆できた（フェンシング）

〇2年連続で事業を継続したことにより、周囲の理解が進み、連携が強化されたことで、次のステップ（全スポ予選大会との連動など）を考えられるようになってきた（パラ水泳）

〇昨年まで肢体不自由者のみを対象にしていた本事業を知的障がい者にも拡大したことで、会員数の減少傾向が止まり、微増へと転じた（パラ水泳）

〇多くの地域道場では、知的に障がい者に対して、同じ柔道を志す人たちを受け入れたいと考えていることがわかり、受け入れ側の指導法の充実を図り、地域で選手を育成・発掘するという道筋ができた（全柔連）

〇一般競技団体経由で、事業を周知したことで選手発掘や競技拠点の増加へつながった（パラカヌー）

〇ロールモデルとなるような選手との出会いを通じて、障がいのある児童が積極的にスポーツに関わる姿が見られた（デフ陸上）

⑥ 競技指導者・支援者育成事業【競技団体のみ】

事業の狙い　ブロック県市における競技別指導者、審判員および普及に関わる指導者の育成

＜競技団体＞

〇主体となって大会を運営できる組織、人材を育成することを目的として、選手強化・発掘などの事業と、審判講習や指導者講習などの各講習会を同時開催することで事業効果を高めた（ボッチャ協会）

〇開催地自治体関係者が講習会を受講してくださり、地域としての理解促進につながった（パラカヌー）

〇一般競技団体や理学療法士などに新たに競技を知ってもらうことができ、支援者の確保につながった。（パラアイスホッケー）

〇次年度以降に大会運営スタッフとしても関わってもらえるように、地元の関係者に審判以外の業務にも積極的に関わってもらうことができた（パラパワー）

（4）考察（成果のまとめ・傾向）

上記の成果を受けて、次のとおり考察する。

① 事業主体の地域移行による活動の定着化

連携団体との役割・業務分担による協働や、事業開催地自治体による次年度開催に向けた予算化などが、これまで以上に促進された。地域でのパラスポーツ活動の定着に向けて、中・長期ビジョンで一歩ずつ地域団体やその人材とつながっていくことが重要であるとの認識が各受託団体に浸透し、それが地域にも拡がっている成果ともいえるだろう。

また、各団体による事業実施後、その事業の連携団体から次年度の継続希望が届いたなどの声が複数寄せられたこともその裏付けとなる。さらには、事業実施地域の近隣自治体からの視察があるなど、事業を実施していない地域からの問合せが増えているという報告もあった。少しずつではあるが、このように、各受託団体が中心になりながらも、地域の自治体、スポーツ推進委員、クラブ・サークル等に働きかけ、実施主体を地域に移行しながら活動が拡がっていくことを期待したい。

② 最大限の効果を生む事業企画の工夫

近年の傾向として、複数の目的を持つ事業や対象者が異なる事業でも、同一会場内・同一期間で、セットで実施するケースが増えてきた。これは、効率を上げるのみならず、事業の効果をあげるメリットが複数の団体から報告されている。

競技団体では、選手、審判員、支援者、トレーナー、クラス分けなど、複数のカテゴリーの人材育成が必要になるが、その育成の場をセットで設けることで、それぞれのカテゴリーを横断した交流が促進され、情報交換が生まれることにより、事業の質もあがっている。

指導者育成だけをとっても、単なる座学だけではなく、選手への指導実践を兼ねるケースがもはや当たり前のように取り組まれている。

限られた人材・経費の中で、会場の確保自体も容易ではない現状でも、このように工夫して取り組むことで、活動が増えていることは大きな成果といえるだろう。今後も、別の団体間での住み分け共同実施なども検討の余地があるだろう。

③ 地域ごとの活動を意識した担い手の育成

従来、活動を行う指導員の固定化が課題としてあげられ、一人の指導員が遠方まで出向くことも少なくなかったが、近年では、活動する場所に居住する人材の活用を意識し、地域ごとの活動が生まれるきっかけにもなっている。とりわけ、既に地域で活動しているスポーツ推進委員などが障がい者の受入れを積極的に行うことも増えており、パラスポーツ指導員資格の取得にもつながっている。

競技団体では、ブロック支部あるいは県単位での団体設立も企てられているが、地域単位での普及が地域の障がい者のスポーツ環境の拡大につながることは言うまでもない。今後は、本事業の受託団体である県協会、指導者協議会、パラスポーツセンター、競技団体が横断的に連携し、地域の人材の相互活用を促していくなどの相乗効果も期待したい。

6 今後の課題

本事業の実施を通じて抽出された、(1)主な課題について、県協会・県指導協・スポーツセンターおよび競技団体に分類して整理し、(2)考察としてその傾向をまとめる。

(1)主な課題

①活動の場の拡充

【県協会・指導者協議会・スポーツセンター】

〇新しい開催地の開拓によって、事業実施地域を増やしている一方で、何度アプローチしても事業実施に至らない地域(自治体)もある

〇単発型の事業に偏り、発展性に欠ける側面があった

〇障がい当事者への普及・体験よりも、それを取り巻く支援者や教員に対する指導が多くなってしまった

〇継続して事業を開催するためには、開催費用や会場確保などの課題をクリアしていかなければならない

〇まだ活動展開が出来てない地域での事業実施に向け、地域活動に協力いただける競技団体やパラスポーツ指導員とのネットワーク構築を図る必要がある

【競技団体】

〇継続的に実施できる場所、人材が無いのが現状である

〇競技団体として、多様な障がいの受け入れや、普及・継続のために地域のパラスポーツ支援団体、聴覚・視覚障がいの中央団体との連携が課題である

〇計画段階では5地区での開催を計画していたが、一部の地域が開催日時・場所の関係で参加者が少なく中止となってしまった

〇備品がそろわずに、事業を開催するのが困難な地域がある

〇会場利用の確定が2か月前に抽選で決定することから、良い時間帯を想定した事業計画が立てにくい

②人材の育成

【県協会・指導者協議会・スポーツセンター】

〇事業の開催時期が全スポの選手強化事業と重なり、一部の指導員に負担がかかった。また、事務的な業務ができる人員が限られてしまい、一部スタッフにかかる負担が大きかった

〇競技審判員有資格者の活動地域が一地域に集中しているため、遠方地域での活動には移動の負担が懸念されるため、資格の有無に関係なく各圏域の指導員の招集が必要であった

〇今後の事業実施に備えて、既存の連携団体だけではなく、学生ボランティアの確保などの連携先構築が必要かと思われた

【競技団体】

〇障がいと競技の両方を理解しているパラスポーツ指導員の育成が必要

〇研修会では、1 日だけの講習では時間が足りない。今後日数・回数を増やすことを検討する

〇指導者がいない地域が多く、継続のための指導者・サポーターの育成・配置が課題

〇ボランティアとしての地域の運営スタッフが少なく苦労した会場があった。地域で活動する組織・団体との共同など、地域と中央競技団体がさらに連携して、協力スタッフに呼び掛けていくなど工夫が必要

〇子どもの参加が少なかったため、周知方法を検討する必要がある

〇地域のパラスポーツ指導員・指導者協議会等とのつながりが構築できず、効果的な活用ができなかった。また、地域によって温度差があると感じている

③ その他

【県協会・指導者協議会・スポーツセンター】

〇連携団体が増えたことで、事前打合せなどで費やす時間も増えているが、協会の人件費は削減傾向にあり、事業実施体制としては困難な側面もある

〇自転車操業のような体制となってしまい、4～5 人のチームを作って事業推進をしていければよかった

【競技団体】

〇競技自体の認知度が低く、安全性への認識も関係組織間で温度差があった

〇当事者・医療関係者への周知に課題があり、単純な告知だけでは事業の意図が伝わっていなかった

〇体験会の参加者に子どもが多く、子ども用の用具が不足していることが課題だとわかった

（2）考察（課題のまとめ、傾向）

上記の課題を受けて、次のとおり考察する。

① 活動の場の拡充

各受託団体とも、成果が得られた一方で、団体によっては、計画通りに進まなかった原因が課題として挙げられた。

どの団体にも共通するのは、「地域で活動が続くこと」が最終目標ということであり、その目標に向けて、受託年数や普及状況に応じた課題があげられていることだろう。例えば、前項で成果として挙げた組織連携や実施主体の地域移行は、複数年計画で得られている成果であると同時に、事業を始めたばかりの団体にとっては、その目標に至るまでの大きな壁にもなりえる。

地域振興のステップでは、①知る・探る・場をつくる、②地域でつながる、③定着する、という3ステップで表現することが多いが、どの局面に立っているかの現状把握がまずは求められる。

その現在地ごとの前例が本事業には蓄積されてきており、過去の受託団体の企画内容や取り組みの切り口が参考になるだろう。

＊本年度 JPSA で作成した「地域振興リーフレット」もぜひ参考にされたい。

② 人材の育成

人材に関してもさまざまな課題があがっているが、各団体とも一部の人材への負担が集中するなど、活動している指導員等の絶対数の少なさが事業推進に影響していることがみてとれる。

その解決策として、各団体では、スポーツ分野、福祉分野、医療分野など、実に多様な人材と連携する取り組みも増えてきた。まだまだ途上段階だと思われるが、そのような働きかけを通して、各団体の関係者・支援者を増やすこと、そして、その活動率やその継続率があがるしかけを考えていくことが重要であろう。

③ その他

受託団体の組織体制や競技用具の保有、周知・広報面、競技自体の認知度向上など、さまざまな課題があげられた。

中でも、複数の競技団体から、障がいのあるなし関係なく普及がなされるよう、同一競技の一般競技団体との連携を強く望んでいることもわかった。その連携が強固になれば、競技の魅力発信や選手の掘り起こし、さらには指導

者の拡充にも寄与することが期待される。

課題解決のヒントや切り口はさまざまであり、時には、受託団体間の連携や情報交換、あるいは事業の協働も、事業推進の糸口になる可能性もある。既存の枠にとらわれない連携・企画を期待したい。

おわりに

当協会では、2021年3月に2030年に向けて「活力ある共生社会の実現」というビジョンの達成を引き続きめざす観点から、新たに「JPSA2030年ビジョン」を公表し、パラスポーツ振興の課題を解決することを基本的な考え方として、2030年に向けて、「ミッション」に掲げた「目標」、「主要施策」、「アクションプラン」としてまとめた施策を推進している。

都道府県、市町村では、国の「第3期スポーツ推進計画」に沿ったスポーツ推進計画が策定され、障がい者を含めたすべての人が日常的にスポーツに参加できる環境づくり、スポーツをとおした共生社会実現へ向けた取り組みが進められている。これにより、各市町村単位においてもパラスポーツへの関心と障がいの理解が広がってきており、この機運を生かしたパラスポーツの振興とともに、すべての人がより身近な地域で日常的、主体的に参画できる地域のスポーツ振興として進んでいくことが求められている。

また、パラスポーツ振興とともに、障がいのある方とのスポーツを通した活動環境・指導現場から、「指導力の向上」、「コミュニケーション・表現力の広がり」、「工夫の方法」、「課題の解決方法」など多くのこと学ぶことができ、そのような活動の場を求める方も増えてきている。パラスポーツを通して、障がいの有無に関わらず互いが学ぶことのできる環境の存在は、パラスポーツの価値の一つといえる。

2011 年に本事業が開始され、2022 年から委託対象団体が拡大、これまでたくさんの好事例が蓄積されてきた。当協会では、その事例の一部をまとめた「地域におけるパラスポーツ振興リーフレット」を2023年に作成した。地域のパラスポーツ振興を図るうえでの全国で行われている様々なアプローチ方法、事例の一部を抜粋し、地域振興の「モデル」として参考にしていただき、地域間、関係組織・団体間での連携がより深まることを期待している。

また、地域のパラスポーツ振興は、まず地域の実情を把握し、必要な活動・つくりたい活動のイメージをもった計画的なアプローチが求められる。3年後、5年後の地域活動のイメージをもって取り組み、一歩一歩着実な課題解決、パラスポーツの振興が求められる。

当協会では、報告書やリーフレット、関係団体との連携を通じて、本事業で取り組まれた内容をモデルとして発信し、各団体には地域におけるパラスポーツの振興を推進するうえでの参考としていただけるようにしたい。また、地域のパラスポーツの振興を通して「スポーツ」・「福祉」・「教育」・「医療」といった社会における多くの分野が、それぞれの強みを生かした連携、好循環を生み出していき、課題の解決に向けた取り組みを積み重ねていけるよう、各団体と連携しながら障がいのある人のスポーツ環境整備に向けて取り組んでまいりたい。

Ⅳ　事業実施団体の報告

【当事者団体を中心とした多様な団体が共に創るパラスポーツ交流事業】

◆共に創るパラスポーツ交流事業

◆共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業

◆共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業

一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	三浦　拓朗		
◆企画・実施担当者	三浦　拓朗	◆経理担当者	菊地　弥一

全体事業名称	当事者団体を中心とした多様な団体が共に創るパラスポーツ交流事業
委託費	150万円
地域の実情・課題点	これまでの取組みにより、地域におけるボッチャや卓球バレーなどのインクルーシブスポーツの認知度は年々高くなっている。一方では主体となる団体育成や地域拠点整備が持続的な取組みのための明確な課題となってきている。また、行政にしろ、青年会議所等の社会貢献団体や当協会にしろ、助成事業においては主体となる団体育成という同じゴールを目指しており、最終的に主体となる団体が定まらないというジレンマに陥っている。例えば、行政は当協会が主体となることを希望し、当協会は行政が主体となることを希望し、事業半ばでは連携が深まるが最後のゴールのところで方向性が共有されない状態である。支援する側の限界というものもあるのかもしれない。今後はゴールを共有しながら役割分担をしながら計画的な取り組みが必要となる。 　また、ボッチャや卓球バレーの県内普及は、障がい当事者のスポーツ選択の幅を広げ、スポーツ参加が困難と言われる重度及び高齢障がい者等の主体的な活動につながるケースがある。加えて当協会において実施している地域での体験教室や交流大会の運営に関わるスポーツ推進委員や総合型地域スポーツクラブ等において団体内で独自に普及活動に取組む事例も見られた。これは、インクルーシブスポーツが障がい当事者だけでなく運営協力団体の活動no活性化につながり、共に活動するメリットとして共有され始めていると考えられる。
総合的な事業の目的	上記の課題解決の1つの手立てとして障害当事者団体の活性化にあると考える。これまでは支援する側として中・長期の目標達成だけに目を向け、当事者団体の主体性を軽んじてきたように思う。つまり、、事業の目的達成に主眼を奪われ、会員の減少、高齢化、移動負担など相手の本当の困りごとに目を向けられていない傾向にあった。そこで、まず相互の困りごと、できること、できないことをすり合わせてゴールを共有することから始め、1つの事業を協働で開催することを中期目標としたいと考える。長期目標としては当事者団体が事業を主催して当協会を含めた様々な団体が協力して活動を持続できるように支援する関係を構築したい。
総合的な事業のねらい	支援する側と支援される側に分かれることなく、1つのゴールを共有したい。まずは当事者や当事者団体(障がい者団体、事業所、チーム、クラブ等)の状況により、企画・運営の役割分担を行う。これまで実績のない取組みのため、事前に双方のできること、できないことをすり合わせしておくことが必要となる。このような作業の過程において、新たな気づきも生まれることを期待する。用意されたレールを進む経験は多いが、自分の色を塗りながら参加する事業は、当事者の達成感は大きく、今後の生活に与えるインパクトはより大きいものになると期待している。

事業名	
事業①	共に創るパラスポーツ交流事業
事業②	共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業
事業③	共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">共に創るパラスポーツ交流事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>＊共に創るeスポーツオンライン交流事業
今回もオンラインによる麻雀大会を実施した。障がい当事者に運営依頼をしたが、今回は実現しなかった。参加するだけではなく自らが運営側になることに対して関心のある方もいたので、この先の一歩を踏み出せるよう引き続き働きかけたい。</td><td colspan="2">＊野外レクリエーション教室
屋外でのスポーツは本県の特色の1つでもある。今回は、ハンドバイク・登山・マリンスポーツの3つを予定していたが、ハンドバイクは条件が合わずにグラウンドゴルフに変更した。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>①令和5年7月30日(日)9:30～15:30
②令和5年11月12日(日)9:30～15:30</td><td colspan="2">①登山教室
令和5年8月5日(土)9:30～14:00
②マリンスポーツ体験教室
令和5年8月19日(土)10:00～15:00
③グラウンドゴルフ交流大会
令和5年10月4日(水)10:00～14:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>①②ふれあいランド岩手(盛岡市)</td><td colspan="2">①八幡平レストハウス(八幡平市)
②リアスハーバー宮古(宮古市)
③釜石鵜住居復興スタジアム(釜石市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①24名(身体3名、知的2名、精神10名、なし9名)
②21名(身体3名、知的2名、精神12名、なし4名)</td><td colspan="2">①21名(身体4名、精神1名、なし16名)
②38名(身体13名、知的2名、なし23名)
③56名(身体31名、知的6名、なし19名)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>①②各7名
パラスポーツ指導員2名
eスポーツ協会2名
オペレーター1名
障がい者スポーツ協会2名</td><td colspan="2">①18名(岩手県山岳・スポーツクライミング協会7名、パラスポーツ指導員4名、サポートボランティア5名、障スポ協2名)
②21名(いわてマリンフィールド4名、宮古市シーカヤック協会11名、パラスポーツ指導員4名、障スポ協2名)
③23名(釜石市グラウンドゴルフ協会16名、ボランティア4名、パラスポーツ指導員1名、障スポ協2名)</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>(一社)岩手県理学療法士会
(一社)岩手県作業療法士会
岩手eスポーツ協会
(一社)岩手県難病・疾病団体連絡協議会
(NPO)岩手県精神保健福祉連合会
(一社)日本筋ジストロフィー協会岩手県支部
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会</td><td colspan="2">(一社)岩手県山岳・スポーツクライミング協会
(NPO)いわてマリンフィールド
宮古市シーカヤック協会
釜石市グラウンドゴルフ協会
(一社)岩手県作業療法士会
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>団体内でのイベント周知及び参加者の掘り起こしが主となる。eスポーツ事業の意義や価値を理解促進していただくことが重要である。</td><td colspan="2">事業全体の運営指導及びリスクマネジメントを依頼している。</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td colspan="2">運営補助や障がい特性に応じた移乗のサポートを主としながら支援するだけではなく、共にイベントに参加して一緒に楽しむことを実感いただいている。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数
9

本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数
13</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>＊インクルーシブスポーツ活用事業
インクルーシブスポーツの代表である卓球バレーを活用して指導者養成や体験及び大会参加の機会を創出することにより、障がいのある人、ない人が共にスポーツを楽しむ機会の拡充につなげる。</td><td colspan="2">＊パラスポーツ体験教室
北上青年会議所の持つ運営スキルに加え、社会貢献意識の高さを活かしパラスポーツ事業における新たな連携の形を生み出す。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>①令和5年7月23日(日)10:00～15:00
②令和5年8月6日(日)13:00～16:30
③令和5年9月10日(日)10:00～15:00
④令和5年11月23日(木祝)10:00～15:00</td><td colspan="2">令和5年9月2日(土)～3日(日)</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>①大川目市民センター(久慈市)
②岩手大学学生センター(盛岡市)
③本吉保健福祉センター(気仙沼市)
④宮古市民総合体育館(宮古市)</td><td colspan="2">北上総合公園体育館(北上市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①27名(身体5名、なし21名)
②24名(身体4名、知的2名、精神4名、なし12名)
③62名(身体45名、知的2名、精神4名、なし11名)
④45名(身体33名、知的1名、精神5名、なし6名)</td><td colspan="2">①ボッチャ体験ブース　250名
②卓球バレー体験ブース　280名
③車いすバスケットボール体験ブース 230名
④フライングディスク体験ブース　250名
※参加者の中には障がい者も多く見受けられたが、障がい種別等はカウントしていない。</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>①5名(久慈地域卓球バレー協会2名、パラスポーツ指導員2名、障スポ協1名)
②4名(パラスポーツ指導員2名、障スポ協2名)
③8名(宮城卓球バレー協会2名、パラスポーツ指導員4名、障スポ協2名)
④15名(パラスポーツ指導員7名、作業療法士会4名、福祉事業所2名、障スポ協2名)</td><td colspan="2">①7名(パラスポーツ指導員6名、作業療法士1名)
②17名(パラスポーツ指導員2名、身体5名、知的1名、精神6名、なし3名)
③8名(パラスポーツ指導員1名、身体7名)
④4名(公認フライングディスク二種審判4名)
※全体総括10名(岩手県障がい者スポーツ協会3名、北上青年会議所7名)
※学生ボランティア12名(富士大学)</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>久慈地域卓球バレー協会
久慈市・宮古市・山田町身体障害者団体
岩手大学学生センター
一関市障がい者スポーツ協会
気仙沼市障害者スポーツ協会
宮城卓球バレー協会
(一社)岩手県作業療法士会
宮古圏域障がい者福祉推進ネット
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会</td><td colspan="2">北上青年会議所
岩手県卓球バレー協会
(一社)岩手県理学療法士会
(一社)岩手県作業療法士会
ラッセル岩手(車いすバスケットボールチーム)
アスレクト(卓球バレーチーム)
岩手県障がい者フライングディスク協会
富士大学
岩手県障がい者スポーツ指導者協議会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>各団体とも周知協力から当日の運営サポートまで協力いただいた。今回は大学との連携事業としての講習会も開催した。</td><td colspan="2">全体総括を北上青年会議所と当協会で実施。青年会議所はイベント周知や会場設営等に関すること。パラスポーツ体験に関することは当協会が行うよう分業制で進めた。協力団体は、体験指導やサポートを行った。</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td>本県の障がい者スポーツ指導員は卓球バレーの公認指導者の取得者が多く、卓球バレー事業においては体験会から大会形式の運営まで幅広い活躍の場がある。また卓球バレーからパラスポーツに携わるようになり、その後、パラスポーツ指導員の取得につながるなど、指導者養成にもつながっている。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>20</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>24</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業			
事業内容	事業名:令和5年度障がい者スポーツ特別研修会 テーマ:「支える」から「共に創る」へ～「またやりたい！」を「いつやる？」に変えるプロセス ～ 開催趣旨:体験イベントをはじめとする「楽しい」「またやりたい」などのきっかけを日常的かつ主体的な活動につなげるためのプロセスについて多方面から実績のあるゲストを招き考える機会とする。			
開催日時	令和5年12月24日(日)10:00～15:00			
会　場	ふれあいランド岩手			
参 加 者	講師:ユニバーサルフィッシング協会　林 隆之 氏 講師:川崎水泳協会 理事長　細川 慶隆 氏 講師:茨城県卓球バレー協会事務局長　向　仁子 氏 講師:一般社団法人コ・イノベーション研究所 代表理事　橋本 大佑 氏 参加者47名(来場者35名、オンライン参加12名)			
人員体制	5名(パラスポーツ指導員2名、障がい者スポーツ協会2名、オペレーター1名)			
連携団体名 (箇条書き)	(公財)岩手県体育協会 (一社)岩手県水泳連盟 茨城県卓球バレー協会 (一社)岩手県作業療法士会 岩手県障がい者スポーツ指導者協議会			
実際の事業での 連携団体の役割	ハイブリッド開催となり、県内外への周知協力を依頼した。 当日の運営は当協会と指導者協議会研修部が行った。			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	例年、指導者協議会の研修部のメイン事業としている。参加者47名のうち、パラスポーツ指導員が20名参加していた。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2	
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	2	
スポーツ用具の 整備・活用について	特になし			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人岩手県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	当事者団体を中心とした多様な団体が共に創るパラスポーツ交流事業		
委託費	150万円	決算額	150万円
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	これまでの取組みの中から主体が支援する側にあることにより、当事者の活動が受け身してしまっているのではないか。達成感を半減させているのではないか。と感じている。そこで当事者にも運営に関わる機会を選択肢としていただき、より大きな達成感を感じていただき、主体的な活動を継続することにより、充実したライフワークにつなげることを目的としている。しかし、運営に対する考え方は様々で高いハードルであったように思う。今後はそのハードルを選択できるような工夫を必要となる。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	今回の成果として当事者の主体性はやや低かったが、支援する側が一緒に参加する機会を増やしたことで事業全体に変化をもたらしたと感じている。例えば、学生がボランティアだけではなく、選手として参加して当事者と共に楽しむ時間を共有できたことは、今後の運営のヒントになる。		
費用に関する所見	経費の支出時に現金での取引もあり、対象外経費とした。本事業以外にも多数の事業と同時進行する際には綿密な支出計画を作成しなければ対象外経費の割合を大きくなり、委託事業により法人の経費を圧迫する結果となっている。今後は改善に努めたい。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	先にも述べたが当事者の主体的な活動をテーマにする上でハードルを上げすぎないようにしたい。正直なところ、受託申請をする際には少しでも「見た目」の良い事業にしようとしてしまうところがある。身の丈にあった事業内容を精査して目的を達成を繰り返す中で事業を展開したい。		
参加者や 関係団体からの声	おかげさまで当協会の事業にはリピーターも多く、新規団体の受け入れにおいてもスムーズにできている。その結果、様々な地域からの体験希望が多くなり、本事業が宣伝効果となっているようだ。うれしい半面、事業負担も増しているため、パラスポーツ指導員の活躍の場とできるよう様々なニーズへの対応するよう体制整備を行いたい。		
その他所見	北上青年会議所を含め、これまでつながることのなかった企業・団体と連携を進めている。これは法人設立以来、本事業に取り組んできた成果であると感じている。県委託事業だけではフォローできない部分を本事業を活用しながら取り組んでいきたいと考えている。		

岩手県障がい者スポーツ協会におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

（１）共に創るパラスポーツ交流事業

①登山体験教室

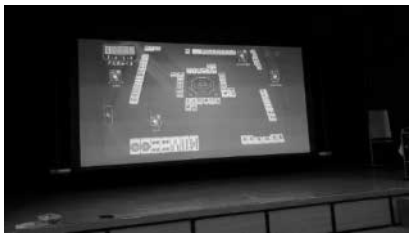
令和５年８月５日（土）９:30～14:00／八幡平レストハウス（八幡平市）

②マリンスポーツ体験教室

令和５年８月19日（土）10:00～15:00／リアスハーバー宮古（宮古市）

③グラウンドゴルフ教室
令和５年 10 月４日（水）10:00～14:00／釜石鵜住居復興スタジアム（釜石市）

④e スポーツ交流大会
令和５年７月 30 日（日）９:30～15:30／ふれあいランド岩手（盛岡市）



⑤e スポーツ交流大会
令和５年 11 月 12 日（日）９:30～15:30／ふれあいランド岩手（盛岡市）

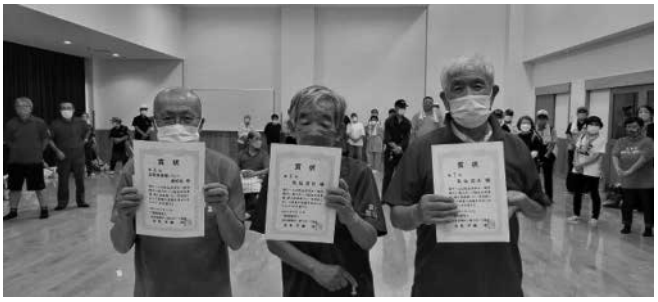
（２）共に創るパラスポーツを通した共生社会づくり推進事業

①第１回卓球バレー指導者養成講習会
令和５年７月 23 日（日）10:00～15:00／大川目市民センター（久慈市）

②第２回卓球バレー指導者養成講習会
令和５年８月６日（日）13:00～16:30／岩手大学学生センター

③パラスポーツ体験教室
令和５年９月２日（土）～３日（日）10:00～15:00／北上総合運動公園体育館

④一関市＆気仙沼市障がい者スポーツ協会交流事業
令和５年９月 10 日（日）10:00～15:00／本吉保健福祉センター（気仙沼市）



⑤さんてつカップ（卓球バレー宮古交流大会 2023）
令和５年 11 月 23 日（木祝）10:00～15:00／宮古市民総合体育館（宮古市）

（３）共に創るパラスポーツシンポジウム開催事業

令和５年度障がい者スポーツ特別研修会 10:00～15:30／ふれあいランド岩手（盛岡市）

【宮城県障害者スポーツ振興事業】

◆障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」

◆障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」

◆支援学校陸上記録会開催事業

一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
◆企画･実施担当者	佐藤敬広	◆経理担当者	坂口信一

全体事業名称	宮城県障害者スポーツ振興事業
委託費	1,500,000
地域の実情･課題点	2022年度で宮城県委託事業「障害者スポーツ振興業務」のうち，スポーツ教室開催事業，地域普及促進事業の2事業が終期を迎え，事業廃止となった。障害当事者がスポーツへ触れるきっかけを作ることを目的として実施していたこれらの事業を2023年度からは自主事業として継続していかざるを得ない状況となった。宮城県では，今後半永久的に事業助成を実施することはなく，数年後には自主運営していける状況を構築することが求められるようになった。 そこで，各活動について，市町村教育委員会，理学療法士会，作業療法士会等の各種専門機関，各種競技団体等の市町村組織，およびスポーツ推進員など地域の指導者組織との連携による，地域に根ざした事業展開ができるような体制づくりが急務と考えている。
総合的な事業の目的	宮城県内において，これからスポーツを始めようとしている方々の活動に対する支援を，各専門機関や，地域の指導者組織，公共施設や民間のスポーツ施設等との連携を図ることで，障がい者が一生涯のスポーツとして地域で取り組める環境づくりの構築を目指すとともに，地域の方々への障がいに対する理解を促すことで障がいを持つ方々がスポーツや健康に取り組むきっかけづくりを行う。
総合的な事業のねらい	宮城県内における障がい者スポーツの普及を目的に，県内各地域で障がい者スポーツ体験教室等を行うことで，地域で暮らす障がい者がよりスポーツに親しみやすい環境を構築することを狙いとしている。 教員，地域のスポーツ推進員，総合型スポーツクラブ等の地域でスポーツ指導に携わる方々や，民間のスポーツ施設のスタッフ等への体験教室等でのレクチャーを通じて，障がい者スポーツの取り組み事例等を紹介することにより，障がいへの理解を深め，障がい者への対応の方法を知ることで，地域の関係者主導により継続して開催できるよう展開するなど，障がい者が地域で活動する為の受け入れ体制の構築をねらいとする。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」
事業②	障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」
事業③	支援学校陸上記録会開催事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>発達障害児を対象としたプール体験教室を実施した。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>第1回:2023年10月01日(日)8:00-14:00
第2回:2023年11月12日(日)8:00-14:00
第3回:2023年12月17日(日)9:00-14:00
第4回:2024年01月21日(日)9:00-14:00</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>仙台スイミングスクール南小泉校</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>第1回:41名
第2回:45名
第3回:26名
第4回:32名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>協会職員:2名
東北障がい者水泳連盟:1名
宮城県スイミングスクール協議会:2名
仙台ｽｲﾐﾝｸﾞｽｸｰﾙ:2名
ﾋﾟｭｱｽﾎﾟｰﾂ:6名
東北福祉大学学生:5名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>＊東北障がい者水泳連盟
＊宮城県スイミングスクール協議会
＊(株)仙台スイミングスクール
＊(株)ピュアスポーツ
＊宮城県障害者スポーツ指導者協議会
＊東北福祉大学</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>連携団体による検討会を実施し，事業の提案，実施内容の検討を行い実施。
事業開始前には，協力者へのレクチャーを実施し，教室参加者に対する理解や障害への配慮を深めていただけた。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">宮城県内在住のパラスポーツ指導者全員へ周知募集を図り，各回3～4名の参加をいただいた。普段から水泳に携わる方々が多く，常時笑顔で対応していた。今回開催地が仙台市内となったこともあり，遠方からの参加者が少なかった。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>8</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>発掘プロジェクト
知的障がい児・者，その兄弟児等を対象とした運動教室の実施</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>第1回：2023年07月22日(土)13:00-15:00
第2回：2023年09月02日(土)13:00-15:00
第3回：2023年10月21日(土)13:00-15:00
第4回：2023年11月05日(日)10:00-12:00
第5回：2023年12月03日(日)10:00-12:00</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>第1回：仙台みらい高等学園
第2回：築館陸上競技場
第3回：仙台みらい高等学園
第4回：宮城県障害者総合体育センター
第5回：仙台みらい高等学園</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>第1回：4名
第2回：中止
第3回：2名
第4回：6名
第5回：11名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>協会職員：2名
協会事業推進委員：2名(障がい者スポーツ指導者2名)
N.Athletics：4名(うち障がい者スポーツ指導者1名)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>＊(株)N. Athletics
＊仙台白百合女子大学</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>連携団体による検討会を実施。実施形態，事業内容の検討を行った。
各回での用具の準備，当日のスクール運営などを担っていただいた。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">障がい者スポーツ指導者資格を持つ放課後デイサービスにて指導を行う方々に講師を務めていただいた。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>16</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会			
事 業 名	支援学校陸上記録会開催事業			
事業内容	宮城県内の知的障がい者の支援学校に在籍する生徒を対象とした陸上記録会の実施。			
開催日時	2023年9月10日(日)9:00－14:00			
会　場	岩沼市陸上競技場			
参 加 者	県内支援学校生徒　71名			
人員体制	協会職員　　3名 支援学校教員　21名(うち障がい者スポーツ指導者1名) みやぎTFC　　8名 N.atshletic　4名(うち障がい者スポーツ指導者2名)			
連携団体名 (箇条書き)	＊(株)N.Athletics ＊みやぎTFC ＊宮城県立支援学校岩沼高等学園			
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体との検討会の実施。 実施種目, 内容の検討を行った。 プログラム編成, 役員編成, 用具の準備, 競技会運営などを担っていただいた。			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	障がい者スポーツ指導者資格を持つ教員や, 放課後デイサービスにて指導を行う方々に競技役員を務めていただいた。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	6
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	6
スポーツ用具の 整備・活用について				

事業全体の評価

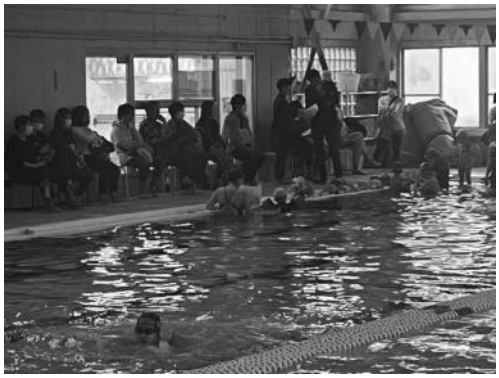
実施(申請)協会名	一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	宮城県障害者スポーツ振興事業		
委託費	1,500,000	決算額	1,462,064
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	より身近で，気軽に親しみやすい環境を構築することを狙いとして実施した。スポーツインストラクターへのレクチャーと実体験を通じて，障害に対する理解を深めるとともに，その対応の方法を知ることで，地域の関係者が主導し，継続して実施出来るよう展開し，地域で活動する為の受け入れ体制の構築をねらいとした。事業全体を通して，社会資源としての施設等を積極的に利用する機運が生じつつあり，今後も継続して実施することでより多くの支援者を募り，また，当事者が参加しやすい環境を作るきっかけとしていかねばならいなと感じている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	各事業を通じて，それぞれ連携する団体と，県内における現状や今後の課題等の共有が実施できたことは大きかった。また，指導体制も，仙台市内の指導者にとどまらず，県内各地から集まり，各スクール等で実践しようとする動きもみられている。より多くの社会資源を積極的に利用しようとするならば，現場の指導者への意識づけから実践への流れもさることながら，経営者の意識づけの必要性を感じている。 参加した保護者等からの評価は大きかったので，この成功体験が多くの方の目に留まるような周知の方法を検討するなどの意見も見られた。		
費用に関する所見	参加者申し込みがなく中止とした事業もあったが，おおむね予算内で完了できる状況である。特にプール事業については多くの協力者が現れたこともあり，より費用を費やした。委託事業の削減により消失した，地域での活動に対する本事業予算は，大変助かっている。 今回は，きっかけづくりのための教室であり，参加費も安価で実施しているが，今後，地域で自走することを目標とし，自主財源を使用しての実施を目指すのであれば，参加費の負担が増加することも考えていかなければならないように感じる。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	障がい者ｽﾎﾟｰﾂの普及啓発については，他機関との連携，専門性の組み合わせが重要である。障がい者当事者を含めて，関わり合う人たちが自身の役割感を満たされる効果があることが分かった。その意味では，本企画の発展性は大きいようと考えている。県内の各圏域での事業の実施により，各地域で障がい者ｽﾎﾟｰﾂ指導者やスポーツ推進員，学校や民間のｽﾎﾟｰﾂ施設，障がい当事者が連携しての事業展開を目指したいと考えている。		
参加者や関係団体からの声	前年に引き続き，様々な分野の方々との意見交換ができ，大きな収穫となった部分もある。 また，各事業の参加した保護者，運営を担当した講師，補助員の満足度は高いものがあり，活動しているクラブやサークルへ入会するなど，運動の定着化は図られているように感じる。		
その他所見			

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1）　【 障がい者スポーツ「プール体験プロジェクト」開催事業 】

事業の様子



②資料

発達障害児のためのプール体験教室

（第２回　2023 年 11 月 11 日）

本教室は、一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会が、公益財団法人日本パラスポーツ協会の助成を受けて実施します。

また、一般社団法人宮城県スイミングクラブ協議会、一般社団法人 MOTTO、特定非営利活動法人自閉症ピアリンクセンターここねっとの協力を得て実施します。

受付

- お子さまの着替え、プールサイドまでの移動、トイレのサポートのご協力をお願いいたします。
- 保護者の方は可能な範囲でプールサイドにてご見学ください。
- 入水を希望される保護者の方は、ぜひお子さまと一緒にプールにお入りください。
- お子さまの飲み物をご用意ください。

教室

９：00～10：00　教室①（3 歳～ 7 歳のお子さま）

11：30～12：30　教室②（8 歳～16 歳のお子さま）

終了

- 教室終了後、お着替えをしていただき解散となります。
- スイミングスクールに関心のある方は、スタッフまでお気軽にご質問ください。

＜本日のアンケートのご協力をお願いします。＞

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdf_nX1jnlRs_zYHy8zhaSmDdQubXLZT2UeJgzcIjRlMnfCBA/viewform

協力スクールの紹介

JSS 南光台スイミングスクール

℡022-252-5300

〒981-8002　宮城県仙台市泉区南光台南 3-20-10

※仙台市営地下鉄「旭ケ丘駅」より市営バス「鶴ケ谷方面」に乗車し「鶴ケ谷四丁目北」下車／徒歩 1 分

https://www.jss-group.co.jp/nankoudai/

JSS 仙台スイミングスクール

℡022-288-9059

〒984-0012　宮城県仙台市若林区六丁の目中町 3-1

※仙台地下鉄東西線「六丁の目」駅下車北口から出て北へ徒歩２分

https://www.jss-group.co.jp/sendai/

セントラル南小泉

℡022-788-4777

〒984-0823　宮城県仙台市若林区遠見塚 3-2-1

※仙台市営地下鉄 薬師堂駅 徒歩 18 分

※仙台市営バス霞の目・荒井駅行 遠見塚３丁目下車 徒歩１分

https://www.central.co.jp/club/minamikoizumi/

仙台スイミングスクール南小泉

℡022-285-5414

宮城県仙台市若林区沖野１丁目 34-40

https://www.sendai-swimming.com/

本教室ではプールに慣れていただくことを目的としています。
泳げるようになりたいお子さまは、スイミングスクールの利用をおすすめします。
送迎バスなどもありますので、関心のある方はお気軽にお問い合わせください。

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（2）　【 障がい者スポーツ「発掘プロジェクト」開催事業 】

事業の様子

②資料

ATHLETICS.JAM

求む。陸上競技の選手たち。

～競技を始めよう、競技を続けよう。～

－－－－－障害者スポーツ【陸上競技】発掘プロジェクト 2023－－－－－

対象参加 ： 知的障害のある競技者陸上（これから始めたい人も参加可能）　参加費 ： 500円（徴収）当日

- ● 9月 2(土)10:00～11:30@栗原市築館総合運動公園陸上競技場
- ●10月21(土)10:00～11:30@岩沼市陸上競技場
- ●11月 5(日)14:00～15:30@宮城県障害者総合体育センター(幸町グラウンド)
- ●12月 3(日)10:30～12:00@支援学校 仙台みらい高等学園

※参加特典として、好成績を出した方を N.athletics 陸上競技チームの練習に無料でご招待します。

申込み ： 連絡先主催へ fax またはメール（氏名・年齢・性別・連絡先を明記）でお申し込み下さい。（定員30名）
主 催 ： 障害者宮城県スポーツ（協会仙台市宮城野区4 幸町6－2）
022-257-1005（fax:022-257-1062） mail：kensupo1988@poplar.ocn.ne.jp
協 力 ： 株式会社 N.athletics　講 師 ： N.athletics 代表 中島隆志（中級パラスポーツ指導員）

みやぎから次世代のアスリートをめざそう！

一人ひとりの個性に合わせて体力や運動スキルの現状をつかみ、必要なトレーニングについてのアドバイスを行います。子どもたちの自発的な運動への関心や意欲の向上を促しバランスのとれた身体づくりをサポートします。

【 陸上競技】発掘プロジェクト　　プログラムの一例

◎発掘プロジェクトスタート（始まりの挨拶）

◎W-up（ウオームアップ）

①ダイナミックストレッチ（５種程度）	10min.
②jog・体操	5min.
③ドリル（5種程度）	10min.

◎３０m測定（トレーニング前）

※FFC（Fast Foot Contact）で測定。1人1本。　10min

◎トレーニング

④ボールを使った軸の形成	10min
⑤各種動きづくり	30min

1）手を伸ばしたままのRUN
2）足を伸ばしてのRUN
3）クイックラン
4）ギャロップ（左右2本ずつ）
5）バウンディング

◎３０m測定（トレーニング後）

※FFC（Fast Foot Contact）で測定。1人1本。
10min

◎体操・終わりの挨拶

写真はイメージです

＊天候、参加者の反応やレベルを考慮し、メニューを変更する場合があります。

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（3）　【 支援学校陸上記録会開催事業 】

事業の様子

②資料

第４回宮城県特別支援学校（知的）陸上競技対抗大会

心のバトン、君に届ける!!

～実施種目～
男子１００ｍ　女子１００ｍ
男子１５００ｍ　女子８００ｍ
男子立幅跳　　女子立幅跳
男子ソフトボール投げ
女子ソフトボール投げ
男子４００ｍリレー
女子４００ｍリレー　交流リレー

日時：令和５年９月１０日（日）
※雨天決行。荒天時は２４日（日）
会場：岩沼市陸上競技場

宮城県特別支援学校陸上競技対抗大会（知的の部）

１．目　　的　　スポーツを通じ、社会で生きていく上で必要な力を養う一つの機会とし、日々の練習の成果を競い合い、自立した社会生活につなげていく。

２．主　　催　宮城県障害者スポーツ協会

３．主　　管　岩沼高等学園陸上競技部

４．協　　力　当該大会に参加する宮城県内の各特別支援学校

５．場　　所　岩沼市陸上競技場（岩沼市里の杜一丁目1-42）

６．期　　日　令和５年９月１０日（日）小雨決行　※荒天時は９月２４日（日）
７：３０　選手受付開始　／　開会式９：００　／　競技９：３０

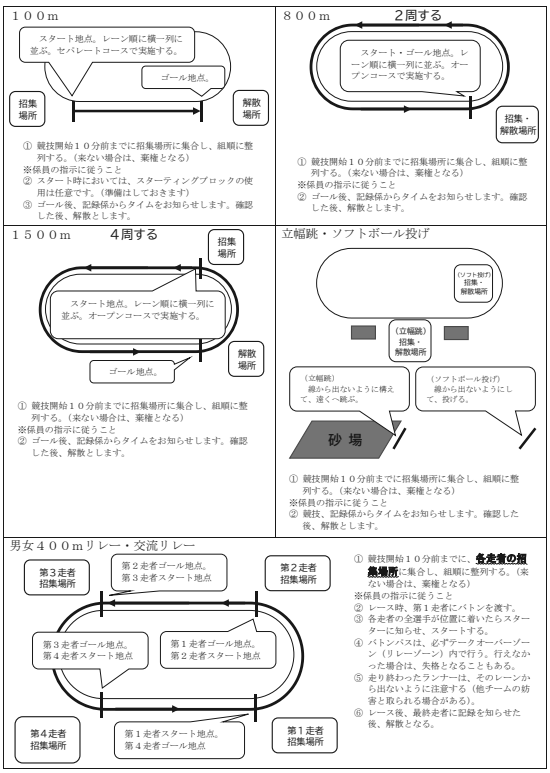
７．実施種目　（知的の部）
男女１００ｍ、女子８００ｍ、男子１５００ｍ、
男女４００ｍリレー、男女立幅跳、男女ソフトボール投げ、
男女４×１００ｍリレー、交流リレー

８．参加対象　宮城県内の特別支援学校（知的障がい者対象）

９．参加資格　支援学校高等部、高等学園在籍生徒
※大会出場に際して、健康上特に問題のない生徒

10．出場制限　（１）各学校、男女含めて最大２０人までの参加とする。
（２）フィールド種目に関しては、各学校最大１０人まで（男女併せて）のエントリーとする。また、ソフトボール投げについては、競技場の芝生の養生の関係で中止になることもある。
（３）出場種目は１人２種目以内とする。競争種目（リレーを除く）から１種目、フィールド種目から１種目を選択する。
（４）申込書には、可能な限り自己記録を記入すること。
（５）男女４００ｍリレーについては、男女それぞれでチームを編成する。申し込み希望の際は、申込用紙の所定の欄に「○」をつけること。リレー種目のみの出場も認める。リレーのオーダー用紙は、当日の朝までに、受付に提出する。
（６）交流リレーについては、以下の要領で行う。
・当日の個人種目終了後、参加希望者を募り、その場でリレーチームを編成する。
・男女４×１００ｍリレーに出場した選手は出場できない。
（参加の場合、そのチームはオープン参加となる）
・男女混合、あるいは複数の学校間の選手でのチーム構成も可能とする。
・チーム編成後、１時間程度練習の時間をとる。
・先生方でチームのバトンパスの練習等、ご協力をお願いします。

別紙１　各競技図



【パラスポーツ推進プロジェクト 2023HYOGO】

◆タンデムサイクリングプロジェクト

◆水辺のユニバーサルアクティビティ

◆ブラインドラグビー！しっとう

公益財団法人兵庫県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	(公財)兵庫県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	増田和茂		
◆企画・実施担当者	増田和茂	◆経理担当者	吉澤由香里

全体事業名称	パラスポーツ推進プロジェクト2023HYOGO
委託費	200万円
地域の実情・課題点	(1)兵庫県下における障害者スポーツの実情 ①タンデム自転車の活動実践が不足(昨年度3地域)推進地域の格差(都市部、瀬戸内側が主体、北部、利用の活動実績は僅少)②推進地域の格差(都市部、瀬戸内側が主体、北部、利用の活動実績は僅少)屋外アクアスポーツ(海、河、池)の環境不足③新スポーツ(ブラインドラグビー)の周知、活動が不十分④屋外アクアスポーツ(海、河、池)の環境不足 (2)上記の課題 ①障害者タンデムサイクリング協会の事業拡張できない(スタッフ、経費、用具運搬) ②パラスポーツ指導員の活動環境が狭小(競技・地域、スキル、体験)屋外アクア環境での活動実態やその関連機関や団体の連携がなく、整理集約した情報がない。③ブラインドスポーツのサッカー、ゴールボールは周知・体験事業は数多く実施されている。ブラインドラグビーは未だ新スポーツで知名度低く、体験する機会は僅少。
総合的な事業の目的	地域におけるパラスポーツの内容や環境は、室内スポーツやメジャーなレクリエーションスポーツが主流である。この背景からアウトドアスポーツの普及への挑戦と地域との連係構築化を推進すること。さらにパラスポーツ指導者が活動環境を拡大し、地元関係機関との有機的な関係づくりへの行動を意図し、マネジメント力を向上させる。それらが地域におけるパラスポーツ推進の実践となる。
総合的な事業のねらい	①「タンデムサイクリング」の普及を目指した地域連携、新たな有機的な関係構築 ②海・川・池で実践する団体調査とパラスポーツ指導者の活動推進(地域、主導的な行動意識と実践力) ③視覚障害とスポーツの可能性を再考と組織強化

事業名	
事業①	タンデムサイクリングプロジェクト
事業②	水辺のユニバーサルアクティビティ
事業③	ブラインドラグビー！しっとう
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">（公財）兵庫県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">タンデムサイクリングプロジェクト</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>「タンデムサイクリング」の普及事業
本事業の実施手順
①実施場所選定：地域におけるパラスポーツ指導者からの提案（日時・会場・現場確認）
②企画と調整：実施市町の行政、社会福祉協議会、障害者団体との有機的連携（行政職、社会福祉協議会、障害者団体、地元自治会、警察、パラスポーツ指導員、県障害者スポーツ協会職員）</td><td colspan="2">③タンデムサイクリング事業準備：〇周知広報（チラシ作成と配布〇タンデム自転車の配送（見積と発注）〇レクリエーション保険加入〇兵庫県警交通安全課と調整〇パイロットスタッフの要請
④タンデムサイクリング事業当日：〇自転車の構造と安全乗車説明（警察官からの講義）〇自転車の整備とサドル高、ハンドル調整〇試乗体験（障害者・パイロット）〇公道試走（交差点などの安全真配置、パトロール）</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>①2023年9月16日（土） 930-13:00
②2023年9月24日（日） 9:30-13:00
③2023年10月8日（日） 9:30-13:00
④2023年11月5日（日） 9:30-13:00</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>①2023年9月16日（土） 赤穂市
（講義：福祉センター、実走：千種川河川敷サイクリングロード片道1200m）
②2023年9月24日（日） 丹波市
（講義：さくら公園、実走：近隣公道片道1500m）</td><td colspan="2">③2023年10月8日（日） 姫路市家島町坊勢島
（講義：坊勢島スポーツセンター、実走：島内公道一周5000m）
④2023年11月5日（日） 南あわじ市
（講義・試走：三原健康広場、実走：三原健康広場周辺公道往復1500m～4000m）</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①2023年9月16日（土）23人
（障害者14人一般9人）
②2023年9月24日（日）20人
（障害者15人一般5人）</td><td colspan="2">③2023年10月8日（日） 31人
（障害者14人一般17人）
④2023年11月5日（日） 20人
（障害者13人一般7人）</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>①2023年9月16日（土）30人（パラスポーツ指導員8人社会福祉協議会5人警察官4人障害者タンデムサイクリング協会7人県障害者スポーツ協会6人）
②2023年9月24日（日） 30人（パラスポーツ指導員8人警察官2人障害者タンデムサイクリング協会6人地元ボランティア11名県障害者スポーツ協会3人）</td><td colspan="2">③2023年10月8日（日） 24人（パラスポーツ指導員7人障害者タンデムサイクリング協会8人警察官1人地元ボランティア2人県障害者スポーツ協会6人）
④2023年11月5日（日） 30人（パラスポーツ指導員8人障害者タンデムサイクリング協会7人地元ボランティア9名県障害者スポーツ協会6人）</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>①市町関係所管課（赤穂市、丹波市、姫路市家島坊勢町、南あわじ市）
②社会福祉協議会赤穂市、丹波市、姫路市家島坊勢町、南あわじ市）
③障害者団体（赤穂市、丹波市、南あわじ市）
④警察（兵庫県警、赤穂市、丹波市、家島坊勢島）</td><td colspan="2">⑤NPO法人兵庫県障害者タンデムサイクリング協会
⑥ひょうごパラスポーツ指導者協議会
⑦スポーツ団体（坊勢スポーツセンター）
⑧パナレーサー株式会社</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>①市町関係所管課（広報、会場利用への連携）
②社会福祉協議会（広報、ボランティアの確保）
③障害者団体（広報、参加者への参加促進）
④警察（交通安全手引き書、安全教育講話、公道使用における交通整理）</td><td colspan="2">⑤NPO法人兵庫県障害者タンデムサイクリング協会
（レンタル自転車・ヘルメットの手配、自転車の点検整備、パイロットの派遣）
⑥ひょうごパラスポーツ指導者協議会（運営スタッフ派遣）
⑦スポーツ団体（用具の移動支援、安全走路員）
⑧パナレーサー株式会社（エアポンプ提供）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">①実施場所選定：地域におけるパラスポーツ指導者からの提案（日時・会場・現場確認）
②企画と調整：実施市町の行政、社会福祉協議会、障害者団体との有機的連携（行政職、社会福祉協議会、障害者団体、地元自治会、警察）
③実施日：自転車の組立、トラック、船からの積降し、パイロット、道路交通安全走路員）</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>31</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>31</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">①タンデム自転車3台：各会場での使用と期限付きで地域（姫路市、丹波市、南あわじ市）活用。関連イベントでの試乗会、展示や視覚障害者生涯学習事業でタンデムサイクリング講習会、特別支援学校の体育授業で活用。
②ヘルメット6個：タンデム自転車使用時の必携用具として自転車と併用
③次年度地域におけるパラスポーツ事業への連携計画</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">（公財）兵庫県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">水辺のユニバーサルアクティビティ</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>(1)実態調査
兵庫県下における海、川、池の環境で障害者が参加する事業実施されている官民の団体や施設
＊口コミ、web情報による
(2)上記団体への基本情報調査
＊メールおよび現地視察
(3)調査員（公認パラスポーツ指導員による現地事業に視察・実践公道・インタビューなど）</td><td colspan="2">(4)フォーラム
調査対象8ヶ所代表がパネラーとして登壇、各事業活動をプレゼンテーション、サップメーカーとのジョイントも生まれる。
各団体間の連携と今後の取組好循環が生まれる。
(5)冊子作成
本事業のまとめとして冊子編集と印刷・配布</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>（調査活動）
①2023年7月27日 13:00-15:30
②2023年8月6日 10:00-12:00
③2023年8月7日 9:00-12:00
④2023年8月20日 13:00-15:00
⑤2023年9月17日 13:00-16:00
⑥2023年9月23日 9:00-15:00</td><td colspan="2">（調査活動）
2023年9月17日 13:00-16:00
⑥2023年9月23日 9:00-15:00
⑦2023年10月1日 9:00-15:00
⑧2023年10月2日 10:00-12:00
⑨2023年10月10日 16:00-19:30
（フォーラム）
⑩2023年12月3日 12:00-15:30</td></tr>
<tr><td>会 場</td><td>（調査活動）
①2023年7月27日 赤穂市赤穂海浜公園
②2023年8月6日 神戸市須磨海水浴場
③2023年8月7日 南あわじ市阿万海水浴場
④2023年8月20日 明石市大蔵海岸
⑤2023年9月17日 伊丹市瑞ケ池公園
⑥2023年9月23日 明石市大蔵海岸</td><td colspan="2">（調査活動）
⑦2023年10月1日 豊岡市円山川公苑
⑧2023年10月2日 豊岡市竹野スノーケリングセンター
⑨2023年10月10日 たつの市いねいぶる

（フォーラム）
⑩2023年12月3日 神戸市福祉交流センター</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①2023年7月27日10名（障害者0） 海辺の生物観察
②2023年8月6日 15名（障害者5名）車いすユーザーが砂浜へ、ヒッポを使用して海へ入水
③2023年8月7日 5名（障害者0）ビーチシート設置他
④2023年8月20日 15名（障害者7名）車いすユーザーがヒッポ利用して海へ入水
⑤2023年9月17日 10名（障害者1名）中型ヨットの試乗、視覚障害者へのガイド体験</td><td colspan="2">⑥2023年9月23日 300名（障害者30名）
ビーチサッカー、ビーチバレー、ボッチャ他体験
⑦2023年10月1日 70名（障害者30名）
カヤック体験とサポート実践研修
⑧2023年10月2日 10名海辺の生物観察他
⑨2023年10月10日 4名（障害者0）インタビュー
（フォーラム）
⑩2023年12月3日 35名（障害者8名）</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>（調査活動）
①2023年7月27日 調査員 1名 主催者 5名
②2023年8月6日 調査員 4名 主催者 15名
③2023年8月7日 調査員 3名 主催者 10名
④2023年8月20日 調査員 5名 主催者 10名
⑤2023年9月17日 調査員 5名 主催者 10名
⑥2023年9月23日 調査員 6名 主催者 80名</td><td colspan="2">（調査活動）
⑦2023年10月1日 調査員 4名 主催者 25名
⑧2023年10月2日 調査員 2名 主催者 3名
⑨2023年10月10日 調査員 2名 主催者 1名
（フォーラム）
2023年12月3日 パネラー 8名 主催者 4名
コーディネーター 1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>①NPO法人赤穂里うみカヤックス
②NPO法人須磨ユニバーサルビーチプロジェクト
③一般社団法人INCREW
④B＆G伊丹海洋センター
⑤明石市スポーツ室
⑥県立円山川公苑</td><td colspan="2">⑦NPO法人いねいぶる
⑧FLODOM
⑨竹野スノーケルセンター
⑩NPO法人コミュニティースペースエモラボ
⑩ひょうごパラスポーツ指導者協議会
⑪障害者スポーツネットひょうご</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>(1)水辺のユニバーサルアクティビティ団体
・実施事業の紹介情報 ・参加者へのインタビュー承諾
・調査員の体験環境の提供 ・手引き書作成協力
・フォーラムのパネラー参加 ・手引き書情報周知
・関係団体間の有機的な連携構築</td><td colspan="2">(2)パラスポーツ指導者協議会
・調査対象へのインタビューと活動情報の拡散
・(1)団体との関係性と今後の活動へ連動
(3)障害者スポーツネットひょうご
・冊子データのSNS公開 ・</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td colspan="2">(1)役割
・活動環境の開拓（地域への関心、興味、リサーチすることの意義）
・アウトドアスポーツの会場準備 ・カヌーへの移乗サポート
・ヒッポ（砂浜移動用具）を使用した砂浜や海への入水支援
(2)活用
・活動団体へ連携し、活動環境（海・河川・池）に連動体系
・一般地域スポーツ領域への参画
・情報収集と配信者としての人員配置</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数

本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>20

29</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">スポーツ用具は整備していません。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	（公財）兵庫県障害者スポーツ協会			
事 業 名	ブラインドラグビーしっとう！			
事業内容	①ブラインドラグビーの周知 ・事業の発信（チラシ作成と配信、SNS拡散） ・ブラインドラグビーの概要周知（日本ブラインドラグビー協会との協働編集、印刷発注、現場で活用） ・関連組織との連携（兵庫県フットボール連盟への協力願いと官界団体への連携依頼） ②用具の整備（ブラインドラグビーボール、ヘッドギア、弱視用ゴーグル、ゲームビブス購入	③事業実施 ・周知（各種イベントでの用具展示） ・プチ体験の実施（イベント会場での体験実施） ・体験型事業（小中高校、大学などへの訪問）		
開催日時	①ブラインドラグビーの周知 ・6月28日（水）10:00-12:00 ・7月6日（木）13:00-15:00 ・12月16日（木）12:00-16:00 ②プチ体験型 ・4月2日（日）10:30-15:00 ・6月10日（土）11:00-15:00 ・8月26日（土）10:00-15:00 ・9月3日（日）11:00-15:00	③体験型事業 ・11月3日（祝金）10:00-16:00 ・11月11日（土）10:30-15:00 ・11月16日（木）8:30-10:30 ・11月21日（火）16:00-17:00 ・11月23日（祝木）16:00-18:00 ・12月14日（木）13:00-14:30 ・12月20日（火）13:00-14:30		
会　場	①ブラインドラグビーの周知 ・6月28日（水）明石市立人丸小学校 ・7月6日（木）国立明石工専 ・12月16日（木）稲美町立天満小学校 ②プチ体験型 ・4月2日（日）神戸市メリケンパーク ・6月10日（土）川西市アステ川西 ・8月26日（土）芦屋市市民会館 ・9月3日（日）イオンモール伊丹	③体験型事業 ・11月3日（祝金）神戸市しあわせの村 ・11月11日（土）宍粟市スポニックパーク一宮 ・11月16日（木）三木市立三樹小学校 ・11月21日（火）三木市立別所小学校 ・11月23日（祝木）関西大学（西宮市） ・12月14日（木）神戸市立灘さくら特別支援学校 ・12月20日（火）神戸市立青陽灘特別支援学校		
参 加 者	①ブラインドラグビーの周知 ・6月28日（水） 88名（一般児童80人 教職員8名） ・7月6日（木）48名（一般学生45人 教員3名） ・12月16日（木）58名（児童45名一般13名） ②プチ体験型 ・4月2日（日）320名（障害45名一般275名） ・6月10日（土）210名（障害30名一般180名） ・8月26日（土）195名（障害者20名一般175名） ・9月3日（日）350名（障害者45名 一般305名）	③体験型事業 ・11月3日（祝金）280名（障害者42名 一般238名） ・11月11日（土）77名（障害者36名 一般41名） ・11月16日（木）61名（一般児童58名 教員3名） ・11月21日（火）7名（一般児童4名 教員3名） ・11月23日（祝木） 42名（一般42名） ・12月14日（木）45名（障害者39名 教員6名） ・12月20日（火）125名（障害者79名 教員46名）		
人員体制	①ブラインドラグビーの周知 ・6月28日（水） 教職員8名 スポーツ協会2名 ・7月6日（木） 教員3名 スポーツ協2名 パラスポ指導5名 ・12月16日（木）一般13名スポーツ協1名パラスポ指導 5名 ②プチ体験型 ・4月2日（日） スポーツ協 5名 パラスポ指導 8名 ・6月10日（土） スポーツ協 5名 パラスポ指導 5名 ・8月26日（土） スポーツ協2名パラスポ指導5名ブララグ協2名 ・9月3日（日）スポーツ協 1名 パラスポ指導 3名	③体験型事業 ・11月3日（祝金）スポーツ協1名パラスポ指導5名ブララグ協5名 ・11月11日（土）スポーツ協1名ブララグ協3名パラスポ指2名） ・11月16日（木）スポーツ協1名ブララグ協1名 教員3名） ・11月21日（火）スポーツ協1名 教員3名 ブララグ協1名 ・11月23日（祝木） スポーツ協2名ブララグ協10名大学5名 ・12月14日（木）32名（障害者23名 教員9名） ・12月20日（火）125名（障害者79名 教員		
連携団体名 （箇条書き）	①ブラインドラグビーの周知 ・明石市教育委員会／ひょうごパラスポーツ指導者協議会 ・あかしパラネット／国立明石工専 ②プチ体験型 ・兵庫県パラストリートダンス連盟 ・ひょうごパラスポーツ指導者協議会 ・兵庫県人権啓発協議会 ・日本ブラインドラグビー協会	③体験型事業 ・神戸市社会福祉協議会／関西大学ラグビー部 ・神戸市教育委員会／ひょうごパラスポーツ指導者協議会 ・三木市教育委員会／森のパラスポ実行委員会 ・日本ブラインドラグビー協会		
実際の事業での 連携団体の役割	①各市教育委員会：実施校の調整 ②パラスポーツ指導者協議会：運営スタッフ ③人権啓発協会：周知環境の提供（ひょうごヒューマンフェスティバル事業） ④あかしパラスポネット：運営スタッフ	⑤社会福祉協議会：パラスポーツ啓発イベント協働（延3000人参加パラスポーツ王国HYOGO＆KOBE） ⑥森のパラスポ実行委員会：体験ブース協働 ⑦日本ブラインドラグビー協会：体験事業講師／冊子編集		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	①ブラインドラグビーの周知 イベント来訪者への競技説明、視覚障害に関する知識提供 ②プチ体験型 多種の事業会場で用具の解説や競技概要の説明、ボールパス対面 ③体験型 視覚障害体験（アイマスク着用）のガイド、弱視用ゴーグルの使用補助、実施上の安全体制づくり、視覚障害者スポーツの情報提供		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	35
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	40
スポーツ用具の 整備・活用について	（用具）ブラインドラグビーボール10個、弱視用ゴーグル10個、ヘッドギヤ10個 ビブス（12枚入りリバーシブル）2セット、ボール空気入れ1 （活用）多種のパラスポーツイベント、パラスポー体験出前事業（兵庫県障害者スポーツ協会自主事業）などで展示・紹介、実技体験での必須用具としてフルに活用した。本委託事業終了後でも「出前パラスポーツ授業」の依頼相談に応じて用具活用に務めている。			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	(公財)兵庫県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	パラスポーツ推進プロジェクト2023HYOGO		
委託費	200万円	決算額	200万円
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	地域におけるパラスポーツへの環境づくりは、これまでの拠点施設に傾注せず新しい地域での取組みを指針に「タンデムサイクリング」「海・川・池などの水辺の活動」に注目し、挑戦と地域との連係構築化を推進すること。さらにパラスポーツ指導者が活動環境を拡大し、地元関係機関との有機的な関係づくりへの行動を意図し、マネジメント力を向上させること。 また、視覚障害者とスポーツの可能性を再考し「ブラインドラグビー」の周知と体験を目的に取組み事業の目的とねらいは達成した。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	①タンデムサイクリング:4市で実施、企画する段階でパラスポーツ指導員が役所、福祉協議会、障害者団体、自治会、企業などとの連携化に行動した。地域におけるパラスポーツの創出 ②水辺のユニバーサルアクティビティ:8団体が取り組む事業をリサーチし、それら事業に実地体験に新しいパラスポーツへの意識高揚。団体間の有機的な連携への展開 ③ブラインドラグビー:競技の周知拡散・体験者の増加と日本ブラインドラグビー協会との関係構築、同協会普及部員(西日本)の任命		
費用に関する所見	①タンデムサイクリング:折りたたみ自転車は保管、運搬に適し安価。運送経費・レンタル料金が高額になることで継続への課題が明示された。 ②水辺のユニバーサルアクティビティ:計画にそった執行ができた。冊子編集印刷予算は、予算を超えたが全体の費用執行は効果的であった。 ③ブラインドラグビー:予算の64%執行となった。その理由は計画では、キッズ・中学・高校・大学・社会人・女子ラグビー各クラブとの連携を見込んだが思うように展開できず実施回数と講師スタッフが種数であったことが一因である。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	①タンデムサイクリング:自転車の運送費節約には、個人トラック所有者の協力要請、安全な走路環境調査、パイロット養成、タンデム自転車保有公的施設の情報収集など基礎調査が必須と考える。 ②水辺のユニバーサルアクティビティ:調査対象団体の有機的な連携体制、関連情報の共有化に向けた体制づくりを推進していく。 ③ブラインドラグビー:視覚障害者対象へ直接的な事業が進まなかった。ロービジョンへの働きかけは眼科医院などへの関係が重要と考える		
参加者や 関係団体からの声	①タンデム自転車:知的障害者の自転車習熟、生活活動への影響が大という声、生活圏に自転車配備を希望。一般公道を走れる爽快感、パイロット登録して活動したい。 ②水辺のユニバーサルアクティビティ:関係団体から高評価の理由は、これまでに連携がほぼなかったことが本事業で「つながった」という声 ③ブラインドラグビー:知らなかった見たことがない、視覚障害者がラグビーなんてできるの?改めてパラスポーツの創意工夫に驚きと。		
その他所見	各都道府県障害者スポーツ協会は、事業計画と予算化された事業に取り組むことが前提である。その背景で委託申請して新しい事業へ取り組むことで新たな関係団体との連携が生まれ、民意的な発想や障害当事者、また、パラスポーツ指導者の声を反映できることが最大の考課と考える。「地域におけるパラスポーツ振興事業」の受託は今後も申請していきたい。今年度「ひょうごパラスポーツ指導者協議会」も申請事業実施したことに当協会との関係強化につながると確信する。		

兵庫県におけるパラスポーツ振興事業写真

(1)ブラインドラグビー！しっとう

（2）水辺のユニバーサルアクティビティ

(3)タンデムサイクリングプロジェクト

【みんな、おいで！！パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト】

◆障害者スポーツ活動拠点づくり　紀の国よみがえりプロジェクト

和歌山県障害者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
◆計画書作成者	川尻康正・松下有香子		
◆企画・実施担当者	松下有香子	◆経理担当者	松下有香子

全体事業名称	みんな、おいで!! パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト
委託費	200万円
地域の実情・課題点	和歌山県は、東西約94km、南北約106km、面積の約8割を山地が占め、道路や鉄道は海岸線に沿って整備されているが、海岸線の総延長距離は約650kmに及ぶ。県南部には高速道路の未整備区間があり、人口が密集する県都和歌山市が県の最北端に位置するため、パラスポーツの推進(人材、施設など)に地域偏在がどうしても生じてしまうため、移動等に困難がある障害のある人が、身近な地域で障害者スポーツに気軽に取り組めるよう当事業などを活用して各地域のパラスポーツの拠点創出に腐心しているところ。しかし、地方部にある本県では人口減少や高齢化によるパラスポーツ競技者の減少に加え、感染症拡大によるスポーツ活動自粛により、支援学校生徒など若年層などのスポーツ離れに拍車をかけ、県障害者スポーツ大会を始めとするパラスポーツのイベントへの参加者が減少していることから、その潮流を変化させるために、改めて障害のある人にとっての「スポーツの意義」の再認識やパラスポーツを「知ってもらう」ことから始める必要がある。
総合的な事業の目的	まず、年度の前半で「紀の国スマイルパラスポMeet(イベント(広報)型教室」の開催により、障害のある人、ない人やかつてパラスポーツに関係した人などに、パラスポーツへの興味・関心を持ってもらい、パラスポーツを「知ってもらう」、パラスポーツに関わる人口の増加を目指す。その後、その人材を活用し、各地域において、継続的なスポーツ活動ができる場所の創出、「スポーツの意義」をさらに認識してもらうことを目的に、競技ごとに「スポーツ教室」を開催する。また教室開催の過程で、市町村やスポーツ推進員、企業チーム関係者などと連携を図り、安定的な活動場所の確保など、パラスポーツの活動拠点の創出に繋げ、障害のある人がスポーツをライフワークの中に取り入れることを目的とする。
総合的な事業のねらい	パラスポーツの楽しさ、必要性を障害の有無に関係なく広く知ってもうらうために、パラスポーツ自体や協会の認知度を向上させ、当協会の事業の一つである教室への参加にいざない、運動実施率の向上、教室や大会への継続的な参加、スポーツの生活化をねらう。また、パラスポーツ活動をサポートする人材を県内の各地域において確保し、パラスポーツの活動拠点の拡大と安定的な活動を実施し、更なるパラスポーツの認知度向上や活動拠点の創出の好循環を実現したい。

事業名	
事業①	障害者スポーツ活動拠点づくり 紀の国よみがえりプロジェクト
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">和歌山県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">みんな、おいで!!　パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト　広報型教室</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">和歌山県3ブロック(紀北・紀中・紀南)全域において、「広報型教室」紀の国スマイルパラスポMeetとして複数競技を実施。計5回開催した。
ルールや競技方法のほか、ランプなどスポーツ用具の紹介、体験などを含め、投球練習などの基礎練習からゲーム形式で教室を行った。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">紀の国スマイルパラスポMeet
①令和5年7月　8日(土)　　13:30～15:30
②令和5年8月　6日(土)　　10:00～16:00
③令和5年8月11日(金祝)　10:00～16:00
④令和5年9月　2日(土)　　10:00～16:00
⑤令和5年9月18日(月祝)　10:00～16:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①那智勝浦町体育文化会館　(東牟婁郡那智勝浦町)
②和歌山市民体育館　(和歌山市)
③県立橋本体育館　(橋本市)
④湯浅スポーツセンター　(有田郡湯浅町)
⑤和歌山ビッグホエール　(和歌山市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①26名
・ボッチャ:17名／(肢体1、内部2、知的13、健常1)
・スポンジテニス:9名／(肢体2、知的7)

②39名
・スポンジテニス:4名／(肢体1、聴覚1、知的2)
・卓球バレー:13名／(肢体8、聴覚2、知的1、精神2)
・卓球:6名／(肢体4、聴覚1、知的1)
・ふうせんバレー:16名／(肢体9、聴覚2、知的3、精神2)

③52名
・スポンジテニス:5名／(視覚1、聴覚1、知的3)
・卓球:8名／(肢体6、聴覚1、知的1)
・ボッチャ:18名／(肢体4、聴覚1、知的13)
・バスケットボール:14名／(知的14)
・車いすバスケットボール:7名／(肢体6、健常1)</td><td colspan="2">④49名
・スポンジテニス:1名／(肢体1)
・バスケットボール:13名／(知的13)
・ボッチャ:11名／(肢体8、聴覚1、知的2)
・卓球バレー:24名／(肢体5、視覚1、知的18)

⑤88名
・車いすバスケットボール:9名／(肢体9)
・バスケットボール:24名／(聴覚1、知的23)
・ボッチャ:23名／(肢体13、視覚1、聴覚2、内部1、知的4、精神2)
・卓球:22名／(肢体10、聴覚2、知的9、精神1)
・スポンジテニス:10名／(肢体1、聴覚1、内部1、知的6、精神1)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">障害者スポーツ協会職員　各5名
障害者スポーツ指導員　①3名、②16名、③8名、④9名、⑤20人
競技団体　①1名、②3名、③3名、④1名、⑤10名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>和歌山県障害者スポーツ指導者協議会
和歌山県卓球協会
和歌山県テニス協会
和歌山県卓球バレー協会
県障害者スポーツ協会車いすバスケットボール部会
奈良県車いすバスケットボールチーム</td><td colspan="2">県知的障害者バスケットボールチーム
県理学療法士協会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">各競技団体や県障害者スポーツ指導者協議会には、競技指導、運営の協力をいただいている。主軸となる指導者には、参加申込者数にあわせたアシスタントの確保や指導方法などの事前準備も含め、担当いただいている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">参加者の障害特性にあわせた指導やサポートを行いながら、まず競技の楽しさを共有するという役割を担っていただいている。競技を一緒に行ったり、話しかけたりしながら、個々の体調やき分をくみ取りながら、安全にスポーツできる雰囲気づくりを考え、行動して頂いている。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>35人</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>64人</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">バスケットボールやボッチャ、テニスなどのコートづくりに必要な、ラインテープ、バスケットボールを9球購入し、活用した。
バスケットボールは、チームの練習場所である県子ども・女性・障害者相談センター体育館や南紀はまゆう支援学校体育館に保管し、今後もチーム練習や体験会などで継続的に活用する予定。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">和歌山県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">みんな、おいで!! パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト スポーツ教室</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">「広報型教室」紀の国スマイルパラスポMeetを実施した開催地域を中心とし、障害者スポーツ教室を実施。
ルール説明、試合形式を行った。また、今後競技性を持った活動へと広げていくことを目的とし、卓球競技ではステップアップ教室を開催した。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>【アーチェリー教室】
①令和5年 6月25日(日) 13:30～15:30
②令和5年 8月 5日(土) 10:00～12:00
③令和5年 9月16日(土) 13:30～15:30
④令和5年10月 9日(月祝) 10:00～12:00
【バスケットボール教室】
①令和5年 9月23日(土祝) 14:00～16:00
②令和5年11月19日(日) 14:00～16:00
③令和5年12月 3日(日) 10:00～12:00
【ソフトボール教室】
①令和5年9月24日(日) 10:00～12:00
【ボッチャ教室】
①令和5年11月18日(土) 10:00～12:00
②令和5年12月 9日(土) 14:00～16:00
③令和5年12月17日(日) 14:00～16:00
④令和6年 1月20日(土) 13:00～15:00
⑤令和6年 1月21日(日) 10:00～12:00</td><td colspan="2">【卓球教室】
①令和5年11月19日(日) 14:00～16:00
②令和5年12月 9日(土) 14:00～16:00
③令和5年12月17日(日) 14:00～16:00
④令和6年 1月21日(日) 10:00～12:00
⑤令和6年 2月 3日(土) 10:00～12:00
【フライングディスク教室】
①令和5年11月23日(木祝) 14:00～16:00
【テニス教室】
①令和5年12月 9日(土) 10:00～12:00
【陸上教室】
①令和6年1月21日(日) 14:00～16:00</td></tr>
<tr><td>会 場</td><td>【アーチェリー教室】
①～④県子ども・女性・障害者相談センター(和歌山市)
【バスケットボール教室】
①紀伊コスモス支援学校(和歌山市)
②田辺スポーツパーク(田辺市)
③県子ども・女性・障害者相談センター(和歌山市)
【ソフトボール教室】
①紀伊コスモス支援学校(和歌山市)
【ボッチャ教室】
①県子ども・女性・障害者相談センター(和歌山市)
②県立橋本体育館(橋本市)
③田辺スポーツパーク(田辺市)
④上富田町立岩田公民館(西牟婁郡)
⑤新宮市立佐野体育館(新宮市)</td><td colspan="2">【卓球教室】
①③田辺スポーツパーク(田辺市)
②県立橋本体育館(橋本市)
④新宮市立丹鶴体育館(新宮市)
⑤県子ども・女性・障害者相談センター(和歌山市)
【フライングディスク教室】
①紀三井寺陸上競技場(和歌山市)
【テニス教室】
①県立橋本体育館(橋本市)
【陸上教室】
①新宮市立くろしおスタジアム屋内練習場(新宮市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>【アーチェリー教室】
①5名(肢体5)・②5名(肢体5)・③2名(肢体2)
④2名(肢体2)
【バスケットボール教室】
①19名(知的19)・②5名(知的5)
③20名(聴覚1、知的19)
【ソフトボール教室】
①19名(知的19名)
【ボッチャ教室】
①5名(肢体5)・②17名(肢体8、視覚1、知的8)
③7名(肢体7)・④12名(肢体12)
⑤15名(肢体4、知的11)</td><td colspan="2">【卓球教室】
①10名(肢体5、聴覚1、知的1、精神3)
②5名(肢体3、知的2)
③8名(肢体3、聴覚1、知的3、精神1)
④9名(肢体1、聴覚1、知的7)
⑤8名(聴覚4、肢体4)
【フライングディスク教室】
①22名(肢体11、視覚1、知的10)
【テニス教室】
①4名(肢体1、知的3)
【陸上教室】
①9名(知的9)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">障害者スポーツ協会職員 各2～4名
競技団体 アーチェリー、卓球、テニス教室 各1名 フライングディスク教室 5名
障害者スポーツ指導員 ボッチャ教室 ①7名、②15名、③7名、④8名、⑤9名 フライングディスク教室9名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>和歌山県障害者スポーツ指導者協議会
和歌山県アーチェリー協会
和歌山県卓球協会
和歌山県テニス協会
和歌山県障害者フライングディスク協会</td><td colspan="2">紀陽銀行女子バスケットボール部 ハートビーツ
日鉄物流ブレイザーズ
知的障害者バスケットボールチーム
知的障害者ソフトボールチーム
障害者陸上クラブホエール</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">各競技団体や県障害者スポーツ指導者協議会には、競技指導、運営の協力を頂いている。主軸となる指導者には、参加申込者数にあわせたアシスタントの確保や指導方法などの事前準備も含め担当いただいている。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">参加者の障害特性にあわせた指導やサポートを行いながら、競技の楽しさを共有するという役割を担っていただいている。競技を一緒に行ったり、話しかけたりしながら、個々の体調やき分をくみ取りながら、安全にスポーツできる雰囲気づくりを考え、行動して頂いている。また、各地域でスポーツ活動が継続できるよう、それぞれが考案している。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>29人</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>66人</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">バスケットボールやボッチャ、テニスなどのコートづくりに必要な、ラインテープ、バスケットボールを9球購入し、活用した。
バスケットボールは、チームの練習場所である県子ども・女性・障害者相談センター体育館や南紀はまゆう支援学校体育館に保管し、今後もチーム練習や体験会などで継続的に活用する予定。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">和歌山県障害者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">みんな、おいで!!　パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト　水泳教室</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">県子ども・女性・障害者相談センターのプールを活動拠点として活動するサークルの創出をねらいとし、今年度は核となる選手と指導者の確保を行う。一緒に泳ぐことで、選手同士の繋がりを深め、仲間と競技に取り組む環境基盤を構築する。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①令和6年　1月24日(水)19:30～20:30
②令和6年　1月31日(水)19:30～20:30</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①②秋葉山公園県民水泳場(和歌山市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①7名(肢体2、知的5)
②7名(肢体2、知的5)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">①障害者スポーツ協会職員　4名・競技団体　2名
②障害者スポーツ協会職員　4名・競技団体　2名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">和歌山県水泳連盟</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">競技団体の障害者委員会の主軸となる人材に競技指導の協力を頂いた。今後サークル活動を開始するにあたり、新たな指導者の人材育成も依頼している。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">和歌山県水泳連盟の指導者2名は、同時に障害者スポーツ指導員でもあるため、障害特性にあわせた競技指導を行っていただいた。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">該当なし</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	和歌山県障害者スポーツ協会		
全体事業名称	みんな、おいで！！パラスポしよ。紀の国よみがえりプロジェクト		
委託費	200万円	決算額	2,097,008円
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	身近な地域で、気軽かつ継続的にパラスポーツができる拠点を作るためには、活動拠点の担い手(受け皿)となる団体が不可欠であり、「広報型教室」か、競技ごとの「個別教室」かに関わらず、独自の施設と選手及び指導者となりうる人材が存在する支援学校には、特に力を入れてアプローチを実施し、頻回の訪問、教育委員会への協力依頼や支援体連での依頼など、事業に関する広報等を実施した。しかし、支援学校生徒の参加率は想定以上に低くかったため、支援学級所在の学校への直接アプローチにも注力したものの、パラスポーツの若い担い手を確保できている手応えは少ないが、身体障害者連盟や理学療法士協会等との継続的なネットワークは上手く機能させることができた。「広報型教室」では、大手新聞社と地元テレビ局、「広報型教室」に続く「個別教室」では地元ラジオ局の報道により認知度向上に繋がっており、更に教室の指導者として企業チームの招へいでき、連携強化とともに更なる認知度向上と今後の人材確保の可能性に繋がった。また「個別教室(水泳以外)」の開催により、協会の競技部会や団体競技の既存チームの活性が高まり、教室参加者の新規入部を契機に部員獲得活動や練習参加人数の増加など、更に活性を高めている。「個別教室(水泳競技)」は、指導者確保や日程調整等が難航したため、実施回数が限られてしまったため、既に競技に取り組んでいる選手の①スキルアップと②仲間づくりにより、指導者確保の課題はあるが、ターゲットである「サークル作り」を強く意識して実施できた		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	「広報型教室」の開催により、同一会場で同日に複数競技を実施することで、複数のパラスポーツを楽しむ人を増やすことができ、認知度向上や競技普及に繋がったと考えている。インクルーシブな競技である卓球バレーやふうせんバレーを実施したことにより、当該競技の指導者の今後の活動再開の萌芽とボッチャなど他競技への参加者の幅を広げることができたと考えている。また、「広報型教室」での同一競技の複数回の開催や「広報型教室」に続く「個別教室」の継続的な開催により、アーチェリーやバスケットボールなどは教室参加者の協会部会や既存チームへの入部があり、指導者も含め活動意欲が活性化した。また、卓球やボッチャは各地域で開催することができ、スポーツ指導員だけでなく、地域の既存クラブの指導者や施設職員など、今後、パラスポーツの活動拠点の核となリ得る人材との関係性構築に繋がる可能性が感じられることから、今後も「広報型教室」又は「個別教室」の開催を継続し、関係性の強化と当該人材の活用による活動拠点の創出ができるようにしたい。		
費用に関する所見	事業数が多く、交通の利便性が悪いため移動距離も長くなり旅費等に費用を要することから、事務局職員分は自主財源等を活用して実施したが、イベント(広報)型教室は地方部にある本県では継続的な実施が必要と考える。しかし、物価高による会場使用料の値上げや口座振込対応による手数料執行額や手続きの増加による負担感が増大しており、更なる自主財源の執行も懸念され、競技別教室への振り替えによる対応などの事業展開もやむを得無いと考える。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	障害のある人が身近な地域で、気軽にそして継続してスポーツを行える拠点を作るには、施設面・人材面で一定レベルの環境が整っている支援学校を活用できるか否かが、物的・人的資源の限られる地方部において、大きな課題の一つと考える。これまで支援学校には、継続的にアプローチを実施してきているが、働き方改革等の潮流もあり、教職員のパラスポーツへの関心は低調に感じられ、当事業の広報チラシも生徒の手元に届いているのか不安になるような場面もあった。今後は、各学校で生徒のパラスポーツ活動に理解のある教職員(キーパーソン)を複数名発掘し、関係強化を図り、支援学校でのパラスポーツの認知度向上、スポーツの意義の再確認からパラスポーツ活動への理解へと繋げられればと考えている。また、支援学校以外にも活動拠点を作る必要があるため、幅広な人材確保が必須であることから、認知度向上のためにの広報型教室の開催や多様なメニューの教室や体験会を実施するための財源の確保が非常に重要である。		
参加者や関係団体からの声	参加者からは、「広い会場で思いっきりできてうれしい。」、「紀中地域でもっと開催してほしい。」、「次回の卓球バレーの教室はいつ？」、「企業チームの選手に教えてもらって感動！」などの声が多く聞かれた。また、指導者やパラスポーツ指導員からは、「感染症の影響で、久々の活動で不安だったが、教室が複数あり感覚が戻ってきてよかった。」、「広報型教室は、他の競技に参加している人の様子も見ることができ、楽しい。」などの声が聞かれた。		
その他所見	本事業により、地方部にある本県の各地域での教室開催が可能となっており、パラスポーツの振興だけでなく、地域の活性化に大きく寄与していることを実感している。		

和歌山県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 【広報型教室 紀の国スマイルパラスポ Meet】

紀の国スマイルパラスポ Meet in 那智勝浦町

紀の国スマイルパラスポ Meet in 橋本市

紀の国スマイルパラスポ Meet　in 和歌山市

紀の国スマイルパラスポ Meet　in 有田郡

紀の国スマイルパラスポ Meet　in 和歌山市

② 資料

紀の国スマイル パラスポ Meet in 橋本
参加者募集！
申込しめきり 8/4（金）
定員 各競技 20名程度
参加資格：中学生以上で、和歌山県内の障害者手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある方
ボッチャ
スポンジテニス
車いすバスケ（身）
卓球
バスケットボール（知）
令和5年8月11日（金祝日）県立橋本体育館 メインアリーナ
☆卓球・ボッチャ・スポンジテニス 10:00～12:00（受付 9:30～）
☆車いすバスケ・バスケットボール 14:00～16:00（受付 13:30～）
車いすバスケは 身体障害者手帳、バスケットボールは 療育手帳 をお持ちの方が参加できます
●持ち物 運動に適した服装、体育館シューズ、タオル、飲料など（競技用具の貸出あり）
●手話通訳者および要約筆記者は主催者側で用意します
●スポーツ傷害保険に一括加入します
●教室中の写真は、当協会ホームページや広報誌などに掲載することがありますので御了承ください
●マスクの着用（競技中は除く）、こまめな消毒や手洗いをお願いします（競技中は除く）
●体調の優れない方（身近な人や家族も含む）の参加はご遠慮ください
申込み・お問い合わせ先 和歌山県障害者スポーツ協会
申込みは、申込書に必要事項を記入し郵送・FAX・メールのいずれかで提出してください
FAXで申込みされる方は、着信確認を必ずお願いします
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
メール wssk@nike.eonet.ne.jp
必要な書類はホームページからダウンロードできます

紀の国 スマイル パラスポーツ Meet in 有田郡
参加資格：中学生以上で、和歌山県内の障害者手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある方
ボッチャ
スポンジテニス
みんなおいで！パラスポしよう！
参加者大募集
卓球バレー
バスケットボール（知）
申込しめきり 8/25（金）
令和5年9月2日（土）湯浅スポーツセンター アリーナ
☆スポンジテニス・バスケットボール（知） 10:00～12:00（受付 9:30～）
☆ボッチャ・卓球バレー 14:00～16:00（受付 13:30～）
※バスケットボールは 療育手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害 をお持ちの方が参加できます
●持ち物 運動に適した服装、体育館シューズ、汗ふきタオル、飲料など（競技用具の貸出あり）
●手話通訳者および要約筆記者は主催者側で用意します
●スポーツ傷害保険に一括加入します
●教室中の写真は、当協会ホームページや広報誌などに掲載することがありますので御了承ください
●マスクの着用、こまめな消毒や手洗いをお願いします
●体調の優れない方（身近な人や家族も含む）のご参加をご遠慮ください
申込み・お問い合わせ先 和歌山県障害者スポーツ協会
申込みは、申込書に必要事項を記入し郵送・FAX・メールのいずれかで提出してください
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
メール wssk@nike.eonet.ne.jp

紀の国スマイル パラスポ Meet in 和歌山市
参加者募集！
申込しめきり 8/1（火）
定員 各競技 20名程度
参加資格：中学生以上で、和歌山県内の障害者手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある方
卓球バレー
スポンジテニス
ふうせんバレー
卓球
令和5年8月6日（日）和歌山市民体育館（和歌山市土入318－1）
☆卓球バレー・スポンジテニス 10:00～12:00（受付 9:30～）
☆卓球・ふうせんバレー 14:00～16:00（受付 13:30～）
●持ち物 運動に適した服装、体育館シューズ、タオル、飲料など（競技用具の貸出あり）
●手話通訳者および要約筆記者は主催者側で用意します
●スポーツ傷害保険に一括加入します
●教室中の写真は、当協会ホームページや広報誌などに掲載することがありますので御了承ください
●マスクの着用（競技中は除く）、こまめな消毒や手洗いをお願いします
●体調の優れない方（身近な人や家族も含む）の参加はご遠慮ください
申込み・お問い合わせ先 和歌山県障害者スポーツ協会
申込みは、申込書に必要事項を記入し郵送・FAX・メールのいずれかで提出してください
FAXで申込みされる方は、着信確認を必ずお願いします
住 所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電 話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
メール wssk@nike.eonet.ne.jp
必要な書類はホームページからダウンロードできます

申込しめきり 9/11（月）
紀の国 スマイル パラスポーツ Meet in 和歌山市（part2）
参加資格：中学生以上で、和歌山県内の障害者手帳所持者あるいは、その取得の対象に準ずる障害のある方
バスケットボール（知）
令和5年9月18日（月祝）
卓球
スポンジテニス
和歌山ビッグホエール（和歌山市手平2丁目1－1）
車いすバスケットボール（身）
ボッチャ
※車いすバスケットボールは 身体障害者手帳、 バスケットボールは 療育手帳 をお持ちの方が参加できます
☆車いすバスケットボール（身）・バスケットボール（知） 10:00～12:00（受付 9:30～）
☆ボッチャ・卓球・スポンジテニス 14:00～16:00（受付 13:30～）
●持ち物 運動に適した服装、体育館シューズ、汗ふきタオル、飲料など（競技用具の貸出あり）
●手話通訳者および要約筆記者は主催者側で用意します
●スポーツ傷害保険に一括加入します
●教室中の写真は、当協会ホームページや広報誌などに掲載することがありますので御了承ください
●マスクの着用、こまめな消毒や手洗いをお願いします
●体調の優れない方（身近な人や家族も含む）のご参加をご遠慮ください
申込み・お問い合わせ先 和歌山県障害者スポーツ協会
申込みは、申込書に必要事項を記入し郵送・FAX・メールのいずれかで提出してください
FAXで申込みされる方は、着信確認を必ずお願いします
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
メール wssk@nike.eonet.ne.jp
必要な書類はホームページからダウンロードできます

（2） 【障害者スポーツ教室】

事業写真

アーチェリー教室

ボッチャ教室

陸上教室

テニス教室

卓球教室

ソフトボール教室

フライングディスク教室

バスケットボール教室　　指導協力：紀陽ハートビーツ

卓球教室　指導協力：日鉄ブレイザーズ

②資料

アーチェリー教室
まずは、体験してみて!!
参加者募集
参加資格：身体障害者手帳を所持している 中学生以上の方
① 6月25日(日) 13:30～15:30
② 8月 5日(土) 10:00～12:00
和歌山県障害者スポーツ協会
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314
FAX 073-446-0036
MAIL wssk@nike.eonet.ne.jp
申込書は 障害者スポーツ協会のホームページ https://wssk.jp から ダウンロードできます

令和5年度
バスケットボール教室
参加者募集
私たち、紀陽銀行ハートビーツと一緒にバスケしよう♪
Heart Beats
定員20名程度
スタッフ：和歌山県FIDバスケットボールチーム
(知的障害者バスケットボールチーム)
令和5年 9月23日（土祝） 14：00～16：00
（受付13：30～）県立紀伊コスモス支援学校 体育館
和歌山市弘西555
令和5年12月3日（日） 10：00～12：00
（受付 9：30～）県子ども・女性・障害者相談センター 体育館
和歌山市毛見1437-218
●持ち物 運動に適した服装、体育館シューズ、汗ふきタオル、飲料など（競技用具の貸出あり）
●スポーツ傷害保険に一括加入します
●施設中の写真は、当協会ホームページなどに掲載することがありますので予めご了承ください
●マスクの着用（教室中は外してもよい）、こまめな消毒や手洗いをお願いします
●体調の優れない方（身近な人や家族も含む）のご参加をご遠慮ください
申込み・お問い合わせ先 和歌山県障害者スポーツ協会
申込みは、申込書に必要事項を記入し郵送、FAX、メールのいずれかで提出してください
FAXで申込みされる方は、着信確認を必ずお願いします
電話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
メール wssk@nike.eonet.ne.jp

アーチェリー教室
スポーツの秋がきた!
参加者募集
参加資格：身体障害者手帳を所持している 中学生以上の方
9月16日（土）
13:30～15:30
10月 9日（月祝）
10:00～12:00
和歌山県障害者スポーツ協会
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314
FAX 073-446-0036
MAIL wssk@nike.eonet.ne.jp
申込書は 障害者スポーツ協会のホームページ https://wssk.jp から ダウンロードできます

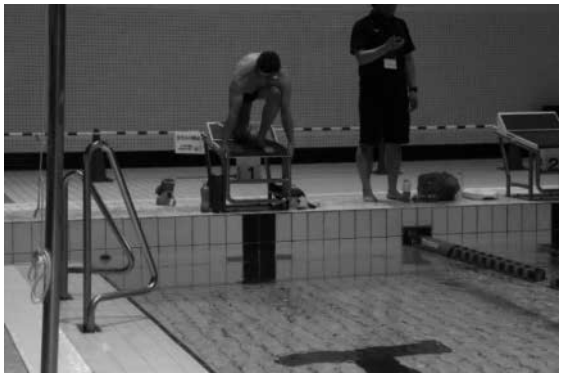
令和5年度
ソフトボール教室
日時
令和5年9月24日（日）
10：00～12：00
場所
県立紀伊コスモス支援学校
グラウンド
申込締切
9/15（金）
20名程度募集
申込・問合せ先 和歌山県障害者スポーツ協会
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314 FAX 073-446-0036
メール wssk@nike.eonet.ne.jp

ボッチャ教室
あなたの住んでる街で
1月20日(土) 13:00～15:00
受付12:30～
場所：上富田町立 岩田公民館
1/16
和歌山県障害者スポーツ協会
住所 〒641-0014 和歌山市毛見1437-218
電話 073-445-7314
FAX 073-446-0036
MAIL wssk@nike.eonet.ne.jp
申込書は 障害者スポーツ協会のホームページ https://wssk.jp から ダウンロードすることもできます

Step up!!
卓球教室
参加資格：聴覚障害者の方
手話通訳 有
SMALL UP!!
講師
日鉄物流ブレーザーズ
杉井 孝至 監督
勝村 友也 選手
定松 祐輔 選手
一ノ瀬 拓巳 選手
高見 真己 選手
（予定）
日時・場所
2月3日（土）
10:00～12:00
受付 9:00～
子ども・女性・障害者相談センター
体育館
お問い合わせ・申込先 和歌山県障害者スポーツ協会
和歌山市毛見1437-218
ファックス：073-446-0036
電 話：073-445-7314
メール：wssk@nike.eonet.ne.jp

（3）　【障害者スポーツ教室(水泳)】

事業写真



②資料

【パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業】

◆パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業

◆タレント発掘に向けた関係団体ネットワーク構築事業

大分県障がい者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	大分県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	阿部　友輝		
◆企画・実施担当者	阿部　友輝	◆経理担当者	佐藤　由紀

全体事業名称	パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業
委託費	1,700千円
地域の実情・課題点	・これまで当協会では、障がい者に関する体験会等様々な取組を通じて普及に努めてきたが、未だ障がい児者が気軽に参加できる環境となっておらず、大分県身体障害者福祉センター等障がい者スポーツの拠点施設を有する都市部を除き、「スポーツをしたいと思っても断念する」といった状況が少なくない。 ・その要因は、各団体の協力体制及び情報共有の不足であり、適切な情報を共有し協力し合える体制を構築することで、実際の取組に繋げるための協力(スタッフの派遣や用具の貸出し等支援)を有機的に行うことが可能。 ついては、今回の事業実施を通じて、県内の障がい児者におけるニーズを掘り起こすとともに、実施地域の行政、スポーツクラブ、パラスポーツ指導員等が有機的な連携を行う土台づくりを推進する。
総合的な事業の目的	中期目標:「障がい児者が身近な地域でスポーツに挑戦できる環境づくり」 ・本事業の開催を通じて、障がい者スポーツという軸をベースに、行政や総合型地域スポーツクラブ、パラスポーツ指導員、職能団体などが有機的に連携するモデルの構築(モデル地域での実施) ・当該連携モデルを県内市町村に広めるための市町村及び関係団体で構成する会議体の設置開催 長期目標:「障がい者スポーツを軸とする官民協働の共生社会の実現」 ・県内どこにいてもスポーツに挑戦し、続けられる環境がある大分県づくり ・障がい者のみではなく障がいの有無関係なく、スポーツを通じた共生社会の実現
総合的な事業のねらい	「スポーツに挑戦したい」と考える障がい当事者が始めるきっかけづくり、そして「もっと続けたい」と思った方が身近な地域で続けられる環境づくりを進めることを目的として、タレント発掘事業を実施する。 また、当該事業に市町村担当課やパラスポーツ競技団体、指導員等が主体的に役割をもって関わる基盤づくりを行うことで、発掘事業を通じて、地域のニーズを地域で解決に取り組むネットワークの形成を進める。

事業名	
事業①	パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業
事業②	タレント発掘に向けた関係団体ネットワーク構築事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	大分県障がい者スポーツ協会			
事 業 名	パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業			
事業内容	・県内3か所(別府市、竹田市、津久見市)のモデル地域を設定し、タレント発掘事業を開催(「挑戦したい」ニーズへの対応) ・行政・競技団体(パラスポーツ及び一般競技団体)・パラスポーツ指導員等が連携する土台づくり(「続けられる」環境整備に向けたプラットフォームの形成)			
開催日時	チーム大分未来のスター発掘プロジェクト ①令和5年12月3日(日)10時～15時 ②令和5年12月10日(日)10時～15時 ③令和6年1月27日(土)10時30分～16時			
会　場	①別府市身体障害者福祉団体協議会体育館(別府市) ②竹田市体育センター(竹田市) ③津久見市民体育館(津久見市)			
参 加 者	①11名 内訳:身体4名、知的3名、精神4名 最年少8歳、最高齢60歳 ②12名 内訳:身体3名、知的4名、精神5名 最年少15歳、最高齢54歳 ③35名 内訳:身体17名、知的7名、精神11名 最年少6歳、最高齢70歳			
人員体制	①25名 (内訳)県内パラスポーツ団体7名、PT協会5名、地元行政1名、ボランティア6名、障がい者スポーツ協会職員6名 (うちパラスポーツ指導員)8名 ②23名 (内訳)県内パラスポーツ団体8名、PT協会5名、地元行政2名、ボランティア2名、障がい者スポーツ協会職員6名 (うちパラスポーツ指導員数)9名 ③25名 (内訳)県内パラスポーツ団体6名、PT協会6名、地元行政職員2名、ボランティア2名、障がい者スポーツ協会職員9名 (うちパラスポーツ指導員数)12名			
連携団体名 (箇条書き)	(競技団体)県障害者卓球連盟、県ボッチャ協会、県障害者フライングディスク協会、県スポーツチャンバラ協会、県車いすバスケットボール連盟 (専門職団体)県理学療法士協会 (行政)別府市役所、、竹田市役所、津久見市役所 (ボランティア)障がい者スポーツサポーター			
実際の事業での 連携団体の役割	(競技団体)各体験ブースにおける指導や競技説明、協議継続への相談支援を担っていただいている。 (理学療法士協会)体力測定項目や方法の検討、実施に関し専門的な視点から企画や実施管理をしていただいている。 (行政)会場確保及び企画立案時から参加いただき、地域ニーズを反映した企画運営に協力いただいている。また参加者のフォローアップについて一次窓口としての機能を担う。			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	参加者への支援や興味誘導を当日担うとともに、実施後の支援を担う役割として参画。 課題としては、イベント時のボランティア的支援者は集まるものの、実際の活動に対する支援を行える指導員は少ないため、実際は競技団体指導者が担う形となる。 そのため、受け皿となり得る、競技団体や総合型地域スポーツクラブ等と連携し、パラスポーツ指導員の配置(受講促進)が今後の課題。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	14
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	29
スポーツ用具の 整備・活用について	特になし			

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="4">大分県障がい者スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="4">タレント発掘に向けた関係団体ネットワーク構築事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="2">・タレント発掘事業の推進に向けた市町村及び関係団体で構成する会議体の設置運営(モデル検証・横展開)
・また事業実施に向け、全体会議のみならず個別協議を実施。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="2">①令和5年8月24日(木)15時～16時30分
②令和5年8月～令和6年1月(8回)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="2">①大分県総合社会福祉会館大ホール(大分市)
②関係団体事務所及び①事業開催地市町村等(県内)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="2">①44名
市町村15名、競技団体14名、指導者協議会1名、総合型地域スポーツクラブ統括団体1名、特別支援学校校長会1名、専門職団体2名、医療機関2名、県行政3名、障がい者スポーツ協会6名
②20名
特別支援学校校長会1名、パラスポーツ指導者協議会1名、市町村6名、競技団体8名、障がい者スポーツ協会職員4名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="2">同上(参加者に同じ)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="2">(行政)県内市町村、県行政各部署(障害福祉、教育委員会)
(競技団体等)パラスポーツ指導者協議会、身体障害者陸上競技協会、知的障がい者陸上競技協会、障がい者水泳連盟、卓球バレー協会、障害者フライングディスク協会、フェンシング協会、車いすテニスチーム
(総合型地域スポーツクラブ)SCおおいたネットワーク、SAVAスポーツクラブ
(専門職団体等)理学療法士協会、作業療法士協会、明野中央病院
(特別支援学校)特別支援学校校長会</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="2">(行政)タレント発掘事業に係るニーズ把握や広報の実施を主として担っている。
(競技団体等)各自競技の県内状況を把握し、タレント発掘事業への関わり方等を検討。実施競技については、企画及び運営を担っている。
(総合型地域スポーツクラブ)障がい者スポーツに係る現状把握を行い、受入れ可能な体制の整備を進め、受け皿の役割を担っている。
(専門職団体)企画立案に対し専門的な見地から意見出しを行うとともに、通院等を行う障がい当事者の状況を踏まえた当事者へのアプローチ等も担う。
(特別支援学校)各学校でのスポーツ活動推進に係る連携体制の構築を進めるとともに、在校生への広報を担っている。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td colspan="2" rowspan="2">パラスポーツ指導者資格は団体としての立場だけでなく、各団体従事者が資格取得を進めることで、団体間の連携に横串を通すことができる唯一の団体である。
そのため、本事業や会議体をきっかけとして、各団体の資格取得を促し、団体間の連携強化を進めていきたい。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>13</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>17</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="4">特になし</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	大分県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業		
委託費	1,700千円	決算額	1,302千円
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	○本事業は、「スポーツに挑戦したい」と考える障がい当事者が始めるきっかけづくり、そして「もっと続けたい」と思った方が身近な地域で続けられる環境づくりを進めることを目的として開催した。また、当該事業を通じて、地域のニーズを地域で解決に取り組む市町村単位ネットワークの形成を進めることとした。 ○事業については、県内3か所で予定通り開催し、それぞれ一定数の参加者がスポーツを始めるきっかけのイベントとして成功している。 ○また実施過程を通じて、地元行政や競技団体、専門職団体等それぞれが主体的に推進する体制と経験は今後の他事業を含めた連携体制の基礎を構築できた。 ○しかしながら、全ての関係団体が参加できていない実情もあることから、引き続き事業の継続を通して県内団体の連携強化に努めたい。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	○事業実施を通じて関係団体との連携に主体性が生まれた。 ○また、イベント参加者はこれまでスポーツに取り組んだことがない方が大半を占めており、毎年5月に開催する県障がい者スポーツ大会への参加を含め競技人口の増加にも一定の成果を上げている。		
費用に関する所見	本事業の目的達成に向け有効に活用できた		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	○引き続き、県内各地で本事業を実施することを通じて、市町村単位の連携ネットワークの構築が必要である。 ○とりわけ、障がい当事者のスポーツニーズへの対応は一次窓口として市町村が取り組むことが、即応性が高く有効であると考えられることから、市町村や競技団体、専門職団体等の連携強化を進めていきたい。 ○また、本事業の実績を積み重ねることで、3年後を目安に行政(市町村を含む)における予算化を目指したい。		
参加者や関係団体からの声	【参加者】様々な競技が体験できて発見があった。またぜひ参加したい。別の競技も参加してみたい。 【行政】地元でこれだけの方が参加してよかった。ニーズを踏まえて今後も取り組んでいきたい。 【関係団体】参加者のフォローアップを進めていきたい。ひとりでも多くの方がスポーツを続けて欲しい。		
その他所見	本事業を通じて、改めて県内のニーズの偏在がわかり、引き続き各地で開催する必要性が判明した。 また、競技に関しても地域性があることから、今後のイベント実施に際し、どの地域でどのようなスポーツが好まれているかなども地元行政と連携のうえ企画立案を進めていきたい		

大分県県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

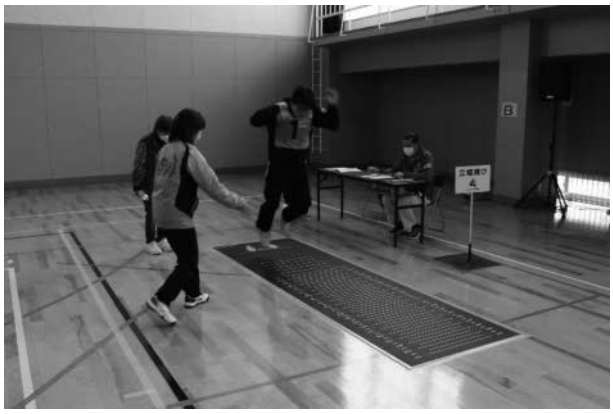
（1）　【事業名】

パラスポーツタレント発掘・活動継続支援事業

事業の様子

【別府会場】

【竹田会場】



【津久見会場】

大分県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（2）　【事業名】

タレント発掘に向けた関係団体ネットワーク構築事業

事業の様子

【鹿児島県パラスポーツ普及プロジェクト】

◆障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会

鹿児島県パラスポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	鹿児島県パラスポーツ協会		
◆計画書作成者	丸野　奈央		
◆企画・実施担当者	丸野　奈央	◆経理担当者	冨永　眞由美・木下　成美

全体事業名称	鹿児島県パラスポーツ普及プロジェクト
委託費	150万円
地域の実情・課題点	鹿児島県は桜島・錦江湾を中心に離島を含む南北600kmにわたり、地域毎の特性を有する。障がい者スポーツセンター(ハートピアかごしま)は鹿児島市の中心部に位置しており、スポーツの場が集中するなど普及振興に地域格差があるのが現状である。特に種子島・屋久島を含む種子屋久地方、奄美群島を有する奄美地方と有人離島数が26という全国有数の離島県であるため、スポーツの機会が極めて少ない島や地域が多数存在する。地域に定着した障がい者スポーツの活動を推進するため、それをサポートする指導者の育成と継続的な活動を支援するための拠点作りが必要となる。ここ数年の取り組みにより，上記の問題点等は少しずつ改善し鹿児島県内に拠点ができはじめ地域格差は徐々になくなってきている。
総合的な事業の目的	地域の拠点作りを目標としたスポーツ教室の実施と、それをサポートする障がい者スポーツ指導員の活用や地域のスポーツ推進委員・行政との連携をさらに強化する。また、これまでに養成しているスポーツ推進委員に初級障がい者スポーツ指導員の養成講習会受講を促し、継続した活動となるよう支援する。昨年度モデル市として実施した，特別支援学級へのアプローチも市町を新しい地域に変え，スポーツ教室を複数回実施し，スポーツの楽しさ，継続してできるプログラムを提供する。
総合的な事業のねらい	数年の実績・効果により，本県が抱える地域格差などの課題は年々減少し，県内各地でキーマンとなる人材の育成や行政との繋がり，障がいのある方のスポーツへの関心は深まり，自発的に活動やイベントを始める地域が増えている。まだまだ未開拓地もあることから，今年度も新たな取り組みも実施しながら県内を6ブロック(鹿児島、大隅、南薩、北薩、姶良伊佐、離島)に分けて、特別支援学級を対象としたスポーツ教室を複数回実施する。 ブロック内の新たな地域での開拓を進めるとともに、特に離島(未開拓地)でのスポーツ機会の創出(複数回)をめざす。離島での継続した実施が難しいため、離島内のスポーツ活動の担い手の育成も並行して行う。 地域のスポーツ活動の担い手として、市町村のスポーツ推進委員を対象に障がいの有無に関わらず取り組めるスポーツの講習会を6ブロックにて実施する。地域の担い手となる指導員の協力の元，市町を限定し特別支援学級への働きかけ(スポーツ教室等)も引き続き実施する。

事業名	
事業①	障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	鹿児島県パラスポーツ協会	
事 業 名	障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会	
事業内容	【障がい者スポーツ教室】 県内を6ブロックに分け(鹿児島・姶良伊佐・北薩・南薩・大隅・離島)障がいのある方へのスポーツ教室を実施する。また，特別支援学級等での教室も実施し，継続性のある活動となるよう複数回実施。地域での活動の担い手となる人材が，各ブロックの教室実施の際，関われるよう働きかけをする。	【障がい者スポーツ指導講習会】 本事業でのスポーツ教室が継続的な活動となるよう，開催地域の指導者支援者の協力を得て，スポーツ活動の担い手を育成する。事業後もその地域で定着した活動になるよう，地域・人・繋がりを作り継続して支援する。 昨年度事業実施していない地域への講習会を中心に行う。
開催日時	【鹿児島】 令和5年7月18日 南特別支援学校 15:00～17:00 令和5年8月24日 鹿児島市 9:00～12:00 令和5年9月15日 南特別支援学校 15:00～17:00 令和5年9月26日 南特別支援学校 15:00～17:00 令和5年12月12日 市来中 13:00～16:00 令和5年12月19日 南特別支援学校 15:00～17:00 令和5年12月20日 南特別支援学校 15:00～17:00 令和6年1月19日 南特別支援学校 15:00～17:00 【南薩地区】 令和5年7月11日 川辺小学校 9:00～12:00 令和5年11月8日 川辺小学校 9:00～12:00 令和5年11月24日 吹上高校 13:00～15:00 令和6年1月16日 川辺小 9:00～12:00 【大隅地区】 令和5年7月12日 錦江中学校 9:00～12:00 令和5年11月19日 肝付町 9:00～12:00 【姶良伊佐地区】 令和5年11月26日 湧水町 9:00～12:00 令和6年1月26日 蒲生中 13:00～16:00 【離島】 令和5年8月22日 徳之島 13:00～16:00 令和5年8月23日 徳之島 9:00～12:00 令和5年12月13日 徳之島 10:00～12:00, 13:00～15:00 令和6年1月30日 中種子特別支援学校 9:00～12:00 【北薩地区】 令和5年10月16日 東出水小学校 9:00～12:00 令和5年11月7日 東出水小学校 9:00～12:00 令和5年12月15日 西出水小 9:00～12:00	【大隅地区】 令和5年11月19日 肝付町 9:00～12:00 【離島】 令和5年8月22日 徳之島 17:00～20:00 【姶良伊佐地区】 令和5年11月8日 湧水町 18:00～21:00 令和5年11月26日 湧水町 9:00～12:00 【北薩地区】 令和5年9月30日 さつま町 10:00～12:00 令和5年10月5日 出水市 18:00～20:00 令和6年1月11日 出水市 18:00～20:00
会　場	【鹿児島】 令和5年7月18日 南特別支援学校 令和5年8月24日 ハートピア 令和5年9月15日 南特別支援学校 令和5年9月26日 南特別支援学校 令和5年12月12日 市来中 令和5年12月19日 南特別支援学校 令和5年12月20日 南特別支援学校 令和6年1月19日 南特別支援学校 【南薩地区】 令和5年7月11日 川辺小学校 令和5年11月8日 川辺小学校 令和5年11月24日 吹上高校 令和6年1月16日 川辺小学校 【大隅地区】 令和5年7月12日 錦江中学校 令和5年11月19日 肝付町体育センター 【姶良伊佐地区】 令和5年11月26日 吉松総合体育館 令和6年1月26日 蒲生中学校 【離島】 令和5年8月22日 徳之島町体育センター 令和5年8月23日 徳之島町体育センター 令和5年12月13日 伊仙町義名山体育館 令和6年1月30日 中種子特別支援学校 【北薩地区】 令和5年10月16日 東出水小学校 令和5年11月7日 東出水小学校 令和5年12月15日 西出水小	【大隅地区】 令和5年11月19日 肝付町体育センター 【離島】 令和5年8月22日 徳之島町体育センター 【姶良伊佐地区】 令和5年11月8日 湧水町栗野体育館 令和5年11月26日 吉松総合体育館 【北薩地区】 令和5年9月30日 さつま町盈進小 令和5年10月5日 出水市役所内ホール 令和6年1月11日 出水市役所内ホール
参 加 者	【鹿児島】南特別支援学校 延べ90名，鹿児島市18名，市来中40名 【南薩地区】川辺小223名，吹上高校35名 【大隅地区】錦江中学校25名，肝付町体育センター80名 【姶良伊佐】湧水町40名，蒲生中54名 【離島】徳之島139名，中種子特支66名 【北薩地区】東出水小延べ60名，西出水小80名 計950名(一般・教諭含む)	【大隅地区】肝付町20名 【離島】徳之島23名 【姶良伊佐】湧水町18名・吉松20名 【北薩】さつま町17名・出水延べ36名 計134名
人員体制	講師：2～3名 補助員：2～3名 障害者スポーツ協会職員・障がい者スポーツ指導員・スポーツ推進委員・総合型地域スポーツクラブ・行政・県ボッチャ協会・県卓球バレー協会	講師：2名 補助員：2～3名 鹿児島県ボッチャ協会・鹿児島県パラスポーツ指導者協議会・スポーツ推進委員・行政職員・国体課関係職員
連携団体名 （箇条書き）	鹿児島県教育委員会 鹿児島県特別支援学校長会・出水市教育委員会・湧水町教育委員会・出水市スポーツ推進委員協議会・湧水町スポーツ推進協議会・徳之島町教育委員会・天城町教育委員会・大島特別支援学校(徳之島分校)・県立徳之島高等学校・肝付町	
実際の事業での 連携団体の役割	事業実施のための準備・日程調整・参加者の募集等を行った。また，当日のスケジュールの確認・障がい程度の確認，参加者のニーズの把握等確認作業等をそれぞれの教室毎に行った。	昨年度までに実施していない未開拓地を主に市町村スポーツ推進課等に事業説明。協力体制が整った後で，施設予約や日程調整・講習会の案内送付等を行政関係者に行っていただいた。
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	地域に根付いた活動になるように，昨年度までに養成したスポーツ推進委員や障がい者スポーツ指導員資格のある方々に講師補助や補助員として活動していただいた。また，地域で活動するスポーツ推進委員の方々は，現段階では障がい者スポーツ指導員資格を所持していないため，今年度の初級講習会の案内をし，受講を促した。それによって，各地域のスポーツ推進委員が障がい者スポーツ指導員資格を取得し，障がい者スポーツの基礎知識を持つ人材が地域での活動に役立った。	本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数：30 本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数：58
スポーツ用具の 整備・活用について	障がい者スポーツ教室においては，昨年度購入したニュースポーツの用具やマットを活用した。ボッチャボールを使っての的あてやレクリエーションを行った。また，以前の事業費で購入していたボッチャセットを事業実施の市町村に貸し出すなどして，地域で取り組めるように用具整備を行った。	

事業全体の評価

実施(申請)協会名	鹿児島県パラスポーツ協会		
全体事業名称	障がい者スポーツ教室及び障害者スポーツ指導講習会		
委託費	1,500,000	決算額	
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	事業の目的は概ね達成できたと思う。特別支援学級に対する働きかけは未開拓地域で昨年度のモデル市を参考に2市町で実施。湧水町については指導講習会を今年度実施，支援学級については来年度となった。出水市については未開拓地にも関わらず，2小学校から3回の教室の依頼を受け，出水市内でも支援学級では多くの児童を受け入れる2校からの依頼だった。昨年の霧島市と異なり，ステップ無く指導講習会も支援学級対象の教室実施もかなりの壁があることを痛感した。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	多くの発達障害児や知的障がいのある生徒を有する普通小学校の特別支援学級では，その生徒達に合わせたスポーツ指導(体育の授業)がマンネリ化しているという問題点を以前から先生方から相談を受けており，特別支援学校に通っていない，障がいのある子どもたちへのスポーツ参加を課題にしていた。事業実施後は，障がいのあるなしに関わらず楽しめるプログラムの習得や今までスポーツ活動に参加できなかった子どもたちがスポーツを楽しみ，それを継続して実施できる環境を作ることで大きな成果が出たと思う。		
費用に関する所見	事前打ち合わせや各市町村行政・教育委員会との連携強化などに費やす時間も多く，事務局の人件費が以前よりも大幅に削減したことにより，実施が難しい部分もあった。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	当事業を実施して数年が経ち，以前実施した地域や市町で再度事業を実施してほしいとの継続依頼も多数来ている。少しずつ行政・学校主体の事業となるよう移行のサポートをしている。未だ未開拓地は開拓するのに手強く，頑なに拒否する地域もあるが担当者の変更やアプローチする角度を変え少しずつ拓いていっていいるように感じる。今まで培った繋がりや連携の強さをストレングスとし，地域での活動が活性化するように尽力したい。		
参加者や 関係団体からの声	昨年度実施した，各市町村から今年度も引き続き事業実施を希望するとの嬉しい声もたくさん届いた。また，特別支援学級なども口コミで他の学校からの要望も増えている。 支援学級の生徒だけではなく，クラス全体で行いたいという学校も複数あり，障がいのあるなしに関わらず楽しめるプログラムがとても良かったとの声をいただいた。また徳之島全域の支援学級児童を集めた教室は大変喜ばれ，同行した先生等にも学校でできるプログラム等を提供した。		
その他所見	例年，1月末までの実施となり報告等が遅くなり申し訳ありません。		

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

［鹿児島地区］鹿児島市

鹿児島南特別支援学校

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

市来中

［南薩地区］

南九州市立川辺小学校

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

［大隅地区］

錦江中学校

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

肝付町

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

[姶良伊佐地区]

湧水町

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

姶良市立蒲生中学校

［離島］ 徳之島

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

種子島

障がい者スポーツ教室及び障がい者スポーツ指導講習会
事業写真 【鹿児島県パラスポーツ協会】

[北薩地区]

東出水小・西出水小

【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業】

◆Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA

◆正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム

◆チャレンジ！マリンスポーツプログラム

特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会		
◆計画書作成者	下地 隆之		
◆企画・実施担当者	下地 隆之	◆経理担当者	徳田 亜美

全体事業名称	沖縄県における障がい者スポーツの振興事業
委託費	1,000,000円
地域の実情・課題点	現在、沖縄県における障がい者スポーツの振興は、沖縄県スポーツ協会加盟団体間での連携が生まれ、一般競技団体と障がい者スポーツ競技団体との共同での活動が実施されるようになってきました。一部の競技団体では、地域総合型スポーツクラブ所属選手の全国障害者スポーツ大会での活躍、また全国障害者スポーツ大会出場者経験者から国際大会へ日本代表選出と、地域で選手を育て競技力を高める取り組みが見られております。今後もこのような連携活動を実施できる競技団体数を増やすことで、県内における障がい者スポーツの盛り上がりが進むと考えております。
総合的な事業の目的	・一般競技団体との連携強化 ・障がい者スポーツ団体が主体的に参加するスポーツ環境の整備 ・障がい者スポーツ活動団体数の増加 ・各競技におけるとりまとめ団体の設立
総合的な事業のねらい	・学校と地域スポーツ団体の連携した生涯スポーツの推進 ・新たなスポーツ活動をきっかけとした共生社会の推進 ・沖縄の持つスポーツ資源を活用した障がい者スポーツ関連人材の育成

事業名	
事業①	Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA
事業②	正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム
事業③	チャレンジ！マリンスポーツプログラム
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	特定非営利活動法人　沖縄県障がい者スポーツ協会	
事 業 名	Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA	正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム
事業内容	運動部活動の地域移行が進む中、沖縄県内における障がい者スポーツをとりまく地域環境は、ハード・ソフト両面でまだまだ十分とは言えず、今後学校や地域等の連携をもとに積極的なスポーツ活動を行い、様々な人と触れ合える交流の場の整備を図る必要があると考え、本事業進める。	ボッチャは老若男女、障がいのあるなしに関わらず、全ての人が一緒に楽しめる競技として広く普及してきました。しかしながら、本来ターゲットとしたい重度身体障がい者の参加は少なく、それをサポートするスタッフ数も伸び悩む現状があります。そこで本事業では、専門スキルを有する指導者（パラスポーツコーチ・パラスポーツトレーナー・OT・PT）を活用することで、ボッチャ競技を正しく理解し日常的に活動を実施できる環境を整える。
開催日時	【ティーボール体験】 ①令和5年7月29日(土)10:00～11:30 ②令和5年9月9日(土)10:00～11:30 ③令和5年9月30日(土)15:00～16:30 【ティーボール大会】 ④令和5年11月3日(金・祝)10:00～17:00	①令和5年6月11日(日)9:00～12:00 ②令和5年6月25日(日)9:00～12:00 ③令和5年7月2日(日)9:00～12:00 ④令和5年7月16日(日)9:00～12:00 ⑤令和5年7月30日(日)9:00～12:00 ⑥令和5年8月20日(日)9:00～12:00 ⑦令和5年9月3日(日)9:00～12:00 ⑧令和5年9月17日(日)9:00～12:00 ⑨令和5年10月1日(日)9:00～12:00 ⑩令和5年10月15日(日)9:00～12:00 ⑪令和5年10月22日(日)9:00～12:00
会　場	【ティーボール体験】 ①沖縄市営体育館（7/29・沖縄市） ②沖縄県立宮古特別支援学校（9/9・宮古島市） ③沖縄セルラーパーク那覇（9/30・那覇市） 【ティーボール大会】 ④沖縄県立武道館（11/3・那覇市）	①②③④⑤⑥ ANASPORTSPARK浦添（剣道場） ⑦⑧⑨⑩⑪ 沖縄県体協スポーツ会館（会議室）
参 加 者	【ティーボール体験】 ①21名（知的19名・肢体2名） ②20名（知的19名・肢体1名） ③21名（知的13名・肢体1名・健常7名） 【ティーボール大会】 ④61名（知的37名・肢体8名・健常16名	20名（肢体6名・健常14名）
人員体制	【ティーボール体験】 ①事務局2名・競技団体3名・特支学校教諭1名 ②事務局1名・競技団体1名・特支学校教諭1名 ③事務局2名・競技団体2名・特支学校教諭1名・パラスポーツ指導員2名 【ティーボール大会】 ④事務局2名・競技団体3名・特支学校教諭1名・パラスポーツ指導員4名	事務局1名・パラスポーツ指導員2名・その他学生
連携団体名 （箇条書き）	那覇市体育協会 琉球スポーツサポート（地域総合型スポーツクラブ） 奥武山公園・奥武山総合運動場 沖縄大学	沖縄ボッチャクラブ
実際の事業での 連携団体の役割	体育協会及び公園管理事務所には、施設使用における各調整事項に協力を頂き、総合型スポーツクラブ・大学においては、パラスポーツ指導員の派遣・開催当日の運営を参加児童の安全管理。競技団体は講師と協力し、参加者への専門的な運動指導・サポートを協力いただきました。	活動プログラムの立案及びイベント運営
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	イベント当日の受付・参加者の安全管理等	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数：7 本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数：18
スポーツ用具の 整備・活用について	【Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA】 本事業実施前に、テー台・ボール・バットなど企業から寄贈いただき、本事業及び自己負担なく活動に繋げることができた。 【正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム】 本事業経費にて「ボッチャ簡易コート・ボール」各2セット購入。また、この活動に賛同いただいた企業より、ランプ1台の寄贈があり、全スポ直前の練習会・本大会にて使用。	

事業全体の評価

実施(申請)協会名	特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会		
全体事業名称	沖縄県における障がい者スポーツの振興事業		
委託費	1,000,000	決算額	824,172
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	①学校と地域スポーツ団体の連携した生涯スポーツの推進 ②新たなスポーツ活動をきっかけとした共生社会の推進 ③沖縄の持つスポーツ資源を活用した障がい者スポーツ関連人材の育成 上記3点の事業ねらいについての達成率は70%程度。今回活動を実施出来なかったマリンスポーツの体験プログラムでは、運営補助スタッフ・ビーチスタッフ間での事前研修を行い、ハード・ソフト両面から参加者がより安全に海遊びを楽しめる環境づくりができたらと思いましたが、今年度の活動では実現できず、次年度実施を再検討したいと思います。また、ティボール体験では、沖縄本島内中南部3件・離島1件と実施件数としてはまだまだ少ないので、今回実施した地域は継続しつつ新たに本島北部・他離島への活動展開を拡大していきたい。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	過去の活動では、年一回の実施など単発的な企画が多いことで、参加者の中でお祭りイベント感が強かったが、実施回数を複数回にすることで参加者間の情報交換などネットワークの拡がり、専門スキルを持つ講師からの学びを多く得ることができたようで、次年度の開催継続に向けた声が多かった。		
費用に関する所見			
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	まだ活動展開が出来てない離島・本島北部での事業実施に向け、地域活動に協力いただける競技団体やパラスポーツ指導員とのネットワーク構築を図る必要があると実感した。		
参加者や 関係団体からの声	【Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA】 元プロ野球が現役時代のユニホームを着用して参加いただけ、そんな選手と一緒に運動した参加者からは「楽しかった」「またやりたい」 の声が多かった。また、今回の運動プログラムを見てた親御さんからは「うちの子があんなに動けると思わなかった」「ちゃんと座って話がきけてる」など、今回のイベントへ参加したことを喜ぶ声もあった。 【正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム】 この事業では専門スキルを学ぶことが多く、「ボッチャって実は難しいんですね」など、気づきの多い活動になったことが多かったです。		
その他所見			

【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業の活動写真】

（1）Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA

準備運動の様子

準備運動の様子

ボール遊びの様子

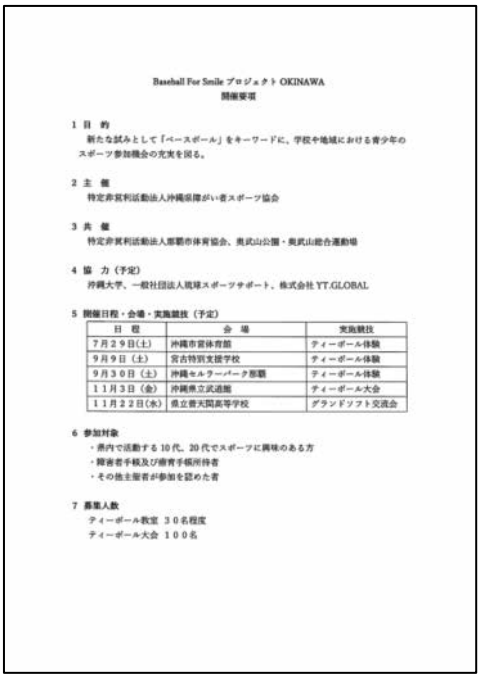
バッティング練習の様子

ティーボール大会の様子

各会場での集合写真

【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業の活動写真】

（１）Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA



Baseball For Smile プロジェクト OKINAWA
開催要項

1 目 的
新たな試みとして「ベースボール」をキーワードに、学校や地域における青少年のスポーツ参加機会の充実を図る。

2 主 催
特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

3 共 催
特定非営利活動法人那覇市体育協会、奥武山公園・奥武山総合運動場

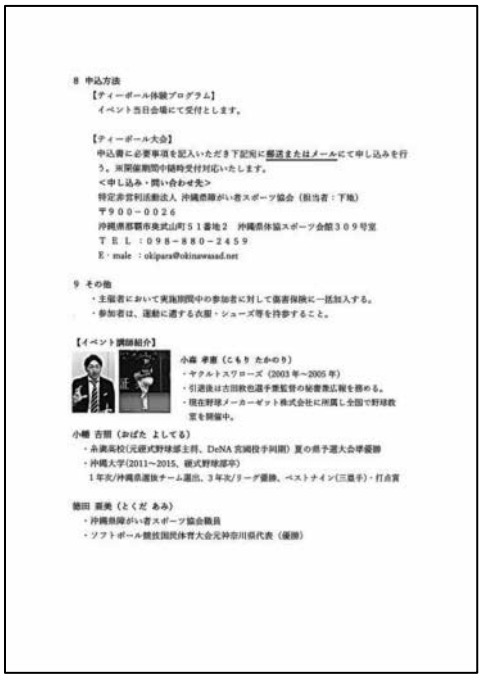
4 協 力（予定）
沖縄大学、一般社団法人琉球スポーツサポート、株式会社 YT.GLOBAL

5 開催日程・会場・実施競技（予定）

日 程	会 場	実施競技
7月29日(土)	沖縄市営体育館	ティーボール体験
9月9日（土）	宮古特別支援学校	ティーボール体験
9月30日（土）	沖縄セルラーパーク那覇	ティーボール体験
11月3日（金）	沖縄県立武道館	ティーボール大会
11月22日(水)	県立普天間高等学校	グランドソフト交流会

6 参加対象
・県内で活動する 10 代、20 代でスポーツに興味のある方
・障害者手帳及び療育手帳所持者
・その他主催者が参加を認めた者

7 募集人数
ティーボール教室 ３０名程度
ティーボール大会 １００名



8 申込方法
【ティーボール体験プログラム】
イベント当日会場にて受付とします。

【ティーボール大会】
申込書に必要事項を記入いただき下記宛に郵送またはメールにて申し込みを行う。※開催期間中随時受付対応いたします。
<申し込み・問い合わせ先>
特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会（担当者：下地）
〒９００－００２６
沖縄県那覇市奥武山町５１番地２　沖縄県体協スポーツ会館３０９号室
ＴＥＬ：０９８－８８０－２４５９
E-male：okipara@okinawaad.net

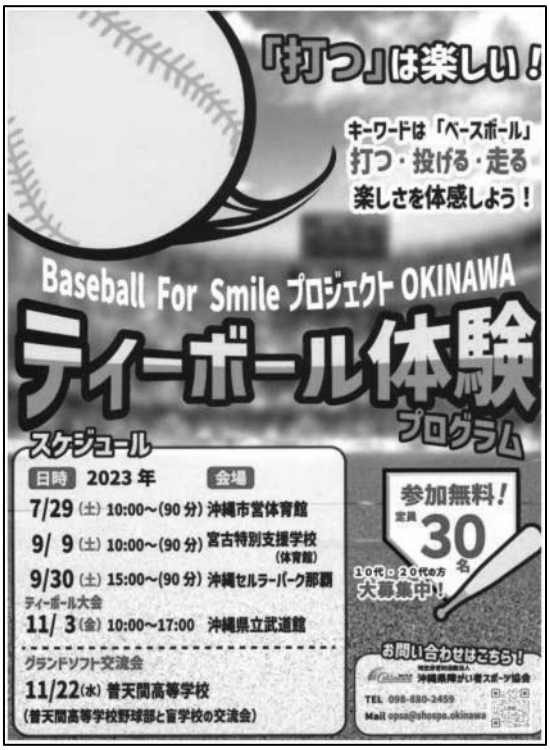
9 その他
・主催者において実施期間中の参加者に対して傷害保険に一括加入する。
・参加者は、運動に適する衣服・シューズ等を持参すること。

【イベント講師紹介】

小森 孝憲（こもり たかのり）
・ヤクルトスワローズ（2003 年～2005 年）
・引退後は古田敦也選手兼監督の秘書業広報を務める。
・現在野球メーカーゼット株式会社に所属し全国で野球教室を開催中。

小橋 古朋（おばた よしとも）
・糸満高校(元硬式野球部主将、DeNA 宮崎投手同期）夏の県予選大会準優勝
・沖縄大学(2011～2015、硬式野球部卒)
１年次/沖縄県選抜チーム選出、３年次/リーグ優勝、ベストナイン(三塁手)・打点賞

徳田 恵美（とくだ あみ）
・沖縄県障がい者スポーツ協会職員
・ソフトボール競技国民体育大会元神奈川県代表（優勝）



【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業の活動写真】

（2） 正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム

準備運動の様子

準備運動の様子

ボール遊びの様子

バッティング練習の様子

ティーボール大会の様子

【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業の活動写真】

（2） 正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム

【令和５年度地域におけるパラスポーツの振興事業】

正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム開催要項

1 目 的
専門スタッフによるボッチャの学びの場をつくることで、ボッチャ競技を正しく理解し日常的に活動を実施できる環境を整えることを目的に開催。

2 主 催
特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

3 共 催
沖縄ボッチャクラブ

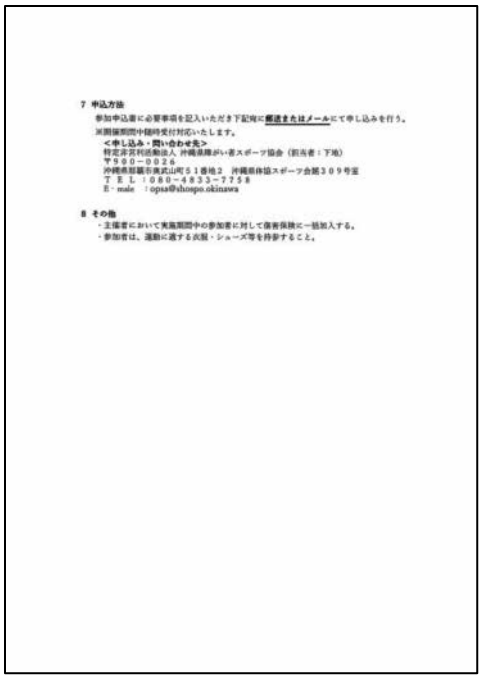
4 開催日程・会場・実施競技

日 程	実施内容	会場
6月11日	ボッチャ体験プログラム	ANA SPORTS PARK 浦添（剣道場）
6月25日	ボッチャ体験プログラム	
7月2日	ボッチャの競技規則を知る①	
7月16日	障害区分って何？①	
7月30日	ボッチャ体験プログラム	
8月6日	ボッチャの競技規則を知る②	
8月20日	障害区分って何？②	
9月3日	ボッチャ体験プログラム	
9月17日	ボッチャの競技規則を知る③	
10月1日	障害区分って何？③	
10月15日	ボッチャ体験プログラム	

※今回の学びプログラムでは全国障害者スポーツ大会の「競技規則」「障害区分」にて活動実施となります。

5 参加対象
・県内で活動する重度障がい者及び障がい者スポーツに興味のある方
・ボッチャ競技指導に興味のある指導者
・その他主催者が参加を認めた者

6 募集人数
各日程最大２０名



7 申込方法
参加申込書に必要事項を記入いただき下記宛に郵送またはメールにて申し込みを行う。
※開催期間中随時受付対応いたします。
＜申し込み・問い合わせ先＞
特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会（担当者：下地）
〒９００－００２６
沖縄県那覇市奥武山町５１番地２ 沖縄県体協スポーツ会館３０９号室
ＴＥＬ：０８０－４８３３－７７５８
E-mail：opsa@shospo.okinawa

8 その他
・主催者において実施期間中の参加者に対して傷害保険に一括加入する。
・参加者は、運動に適する衣服・シューズ等を持参すること。

【令和5年度地域におけるパラスポーツの振興事業】

正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム 申込書

【 選手・指導員 】 当てはまるものに○をつけてください。

フリガナ		性別	男・女
氏 名			
生年月日	昭和・平成 年 月 日 （ 歳）		
住 所	〒 —		
TEL		メールアドレス	
障がいの状況	（手帳の通り記載してください）		
ボッチャの経験	ある ・ ない		
所属団体（職場・学校）			
保護者名		※18歳未満の方は保護者同意の上、ご参加ください。	
備 考			

【申込み及び問い合わせ先】
沖縄県障がい者スポーツ協会 【担当：下地龍之】
〒900-0026 那覇市奥武山町51番地2（沖縄県体協スポーツ会館309号室）
TEL：098-880-2459 メール：opsa@shospo.okinawa

【沖縄県における障がい者スポーツの振興事業の活動写真】

（3）チャレンジ！マリンスポーツプログラム

【令和５年度地域におけるパラスポーツの振興事業】

正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム開催要項

1 目 的
専門スタッフによるボッチャの学びの場をつくることで、ボッチャ競技を正しく理解し日常的に活動を実施できる環境を整えることを目的に開催。

2 主 催
特定非営利活動法人沖縄県障がい者スポーツ協会

3 共 催
沖縄ボッチャクラブ

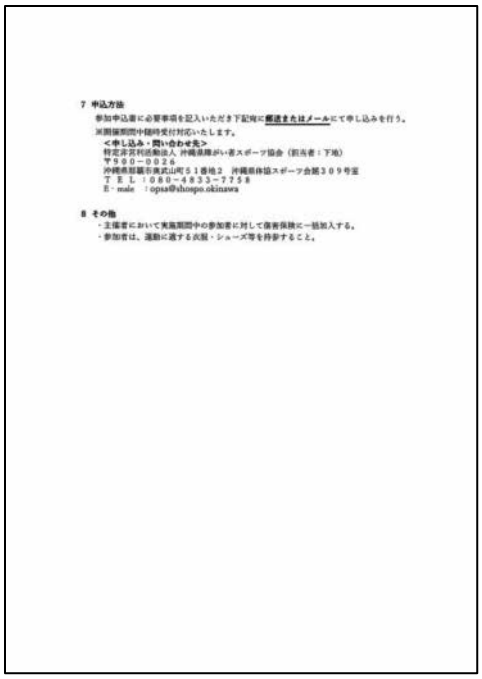
4 開催日程・会場・実施競技

日 程	実施内容	会場
6月11日	ボッチャ体験プログラム	ANA SPORTS PARK 浦添（前道場）
6月25日	ボッチャ体験プログラム	
7月2日	ボッチャの競技規則を知る①	
7月16日	障害区分って何？①	
7月30日	ボッチャ体験プログラム	
8月6日	ボッチャの競技規則を知る②	
8月20日	障害区分って何？②	
9月3日	ボッチャ体験プログラム	
9月17日	ボッチャの競技規則を知る③	
10月1日	障害区分って何？③	
10月15日	ボッチャ体験プログラム	

※今回の学びプログラムでは全国障害者スポーツ大会の「競技規則」「障害区分」にて活動実施となります。

5 参加対象
・県内で活動する重度障がい者及び障がい者スポーツに興味のある方
・ボッチャ競技指導に興味のある指導者
・その他主催者が参加を認めた者

6 募集人数
各日程最大２０名



7 申込方法
参加申込書に必要事項を記入いただき下記宛に郵送またはメールにて申し込みを行う。
※開催期間中随時受付対応いたします。
＜申し込み・問い合わせ先＞
特定非営利活動法人 沖縄県障がい者スポーツ協会（担当者：下地）
〒９００－００２６
沖縄県那覇市奥武山町５１番地２ 沖縄県体協スポーツ会館３０９号室
ＴＥＬ：０８０－４８３３－７７５８
E-mail：opsa@shospo.okinawa

8 その他
・主催者において実施期間中の参加者に対して傷害保険に一括加入する。
・参加者は、運動に適する衣服・シューズ等を持参すること。

【令和5年度地域におけるパラスポーツの振興事業】

正しく知ろう「ボッチャ」学びのプログラム 申込書

【選手・指導員】 当てはまるものに○をつけてください。

フリガナ		性別	男・女
氏 名			
生年月日	昭和・平成 年 月 日 （ 歳）		
住 所	〒 —		
TEL		メールアドレス	
障がいの状況	（手帳の通り記載してください）		
ボッチャの経験	ある ・ ない		
所属団体（職場・学校）			
保護者名		※18歳未満の方は保護者同意の上、ご参加ください。	
備 考			

【申込み及び問い合わせ先】
沖縄県障がい者スポーツ協会 【担当：下地陸之】
〒900-0026 那覇市奥武山町51番地2（沖縄県体協スポーツ会館309号室）
TEL：098-880-2459 メール：opsa@shospo.okinawa

【ボッチャを活用したパラスポーツ振興事業】

◆普及・体験教室開催事業

◆研修会開催事業

◆ボッチャ交流会開催事業

宮城県障害者スポーツ指導者協議会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
◆計画書作成者	畳指　祐樹		
◆企画・実施担当者	畳指　祐樹	◆経理担当者	畳指　祐樹

全体事業名称	ボッチャを活用したパラスポーツ振興事業
委託費	1,000,000円
地域の実情・課題点	・障害のある児童・生徒が学校体育以外でスポーツに親しむ機会が少ない。 ・土日祝日に開催されるスポーツ大会やパラスポーツイベントへを学校や施設において行事として積極的に参加するところが減ってきた。 ・スポーツ大会の種目によっては参加者の高齢化も目立ってきている。
総合的な事業の目的	ボッチャという競技の体験を通して、障害児・者に体を動かすことの楽しさを実感してもらい、スポーツ参加意欲を養い、社会とのつながりを形成するためのきっかけづくりを行う。
総合的な事業のねらい	教職員やスポーツ推進員にもパラスポーツの理解を図り、障害者が身近な場所でスポーツができる環境を構築するために、関係機関との関係性の構築とスポーツ推進員との更なる連携の強化を図っていく。

事業名	
事業①	普及・体験教室開催事業
事業②	研修会開催事業
事業③	ボッチャ交流会開催事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">宮城県障害者スポーツ指導者協議会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">普及・体験教室開催事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">スポーツをすることの楽しさ、スポーツを通した仲間づくりやスポーツをすることの意義・効果を伝え、障害者がスポーツに興味関心が持てるよう、努めていく。また支援者も一緒に行うことで、パラスポーツへの理解や関心を促す。障害者が身近でスポーツを継続的に取り組めるよう、パラスポーツ指導員と支援者が連携していく。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①2023年8月5日(土)～8月6日(日) 9:00～17:00
②2023年8月26日(土)～8月27日(日)10:00～16:00
③2023年10月7日(土)～10月8日(日)10:00～15:00
④2023年11月10日(金)10:00～11:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①夢メッセみやぎ
②イオンモール新利府南館
③トヨタハートフルプラザ
④生活介護事業所アトリエ北斗七星</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①延べ800名 ※二日間計 上記会場にて開催されたイベント内のスポーツ体験ブースにてボッチャを実施。
②延べ400名 ※二日間計 昨年度も実施した体験会を今年度も実施
③延べ10名 ※福祉車両試乗会におけるパラスポーツ体験でボッチャを実施
④10名(利用者5名、職員5名) 研修会を経て継続的に教室を実施してほしい旨の依頼があり、月1回のペースで実施</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">①パラスポーツ指導員延べ10名＋イベントスタッフ1名(呼び込み)
②パラスポーツ指導員延べ10名＋アクイラ宮城延べ8名(ボッチャクラブチーム)
③パラスポーツ指導員5名
④パラスポーツ指導員1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">①仙台放送
②イオンモール新利府南館
③トヨタハートフルプラザ

※④については指導員からの紹介でスタートしたため連携団体・機関はなし</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">①仙台放送:連絡調整
②イオンモール新利府南館:会場の提供
③トヨタハートフルプラザ:会場の提供</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">体験ブースにおけるルールや楽しみ方の指導</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>16</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>26</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">なし</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">宮城県障害者スポーツ指導者協議会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">研修会開催事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">教職員や福祉施設職員、スポーツ推進員を対象にルールの解説や審判法を実戦形式で行い、研修後も引き続き学校や施設で継続的に取り組めるような働きかけを行う。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①2023年5月31日(水)16:30～17:30
②2023年9月21日(木)10:30～11:30
③2023年10月13日(金)10:00～11:00
④2023年10月18日(水)10:30～11:30
⑤2023年12月11日(月)15:30～17:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①在宅障がい者多機能支援施設 ラボラーレ
②③生活介護事業所アトリエ北斗七星
④本小牛田コミュニティセンター
⑤小松島支援学校松陵校　体育館</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①施設職員10名程度
②③施設利用者4名、支援員5名
④美里町地域活動支援センター利用者3名、担当職員2名
⑤教職員10名(小学部教員)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">①講師1名　講師補助1名
②③講師1名
④講師1名
⑤講師1名　講師補助1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">①アクイラ宮城(ボッチャクラブチーム)
④宮城県障害福祉課
⑤宮城県教育庁特別支援課

※②③についてはパラスポーツ指導員からの紹介のため、連携団体はなし。</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">①施設との橋渡し
④県内各地の地域活動支援センターへの周知および教育庁への橋渡し
⑤県内の特別支援学校へ周知</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">各現場での指導</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>6名</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>6名</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">なし</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
事 業 名	ボッチャ交流会開催事業		
事業内容	昨年度の地域振興事業において、美里町(県北)、山元町(県南)のスポーツ推進員を対象に、ボッチャ研修会と称して、ルールの解説や審判法について研修を行った。研修会を経て、実践する場として、それぞれの地域においてボッチャ交流会を開催。		
開催日時	①美里町ボッチャ交流会 2023年9月18日(月・祝) 9:00～13:00(会場準備含む) ②山元町ボッチャ交流会 2023年12月3日(日) 8:00～13:00		
会　場	①美里町南郷体育館　宮城県遠田郡美里町木間塚字高田33 ②山元町町民体育館　宮城県亘理郡山元町高瀬合戦原100-1		
参 加 者	①16名(障がい当事者:2名、一般参加者:14名) ②88名(障がい当事者:15名、一般参加者73名、)		
人員体制	①指導協:10名、スポーツ推進員:9名(美里町5名、大崎市4名)、障害者スポーツ協会:2名、行政:2名(大崎市教育委員会生涯学習課) ②指導協:6名、山元町スポーツ推進員:12名、行政:7名(山元町教育委員会生涯学習課)、山元町民生委員:10名		
連携団体名 (箇条書き)	①美里町まちづくり推進課／美里町体育協会／大崎市教育委員会生涯学習課／大崎市スポーツ推進員協議会 ②山元町教育委員会生涯学習課		
実際の事業での 連携団体の役割	①美里町まちづくり推進課:スポーツ推進員の派遣および町内広報紙掲載の仲介 美里町体育協会:会場の手配、行政との橋渡し、競技運営補助(スポーツ推進員) 大崎市教育委員会生涯学習課:スポーツ推進員の派遣、大会運営視察 大崎市スポーツ推進員協議会:競技運営補助 ②山元町教育委員会生涯学習課:共同主催。スポーツ推進員の派遣をはじめ、会場の手配や競技運家補助、掲示物の印刷、参加賞の手配など多岐に渡り、協力を頂いた。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	ボッチャ審判員資格所有者:競技委員長や競技コートリーダー等 上記以外の指導員:大会運営。開閉会式の進行や大会記録写真の撮影など	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	16
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	18
スポーツ用具の 整備・活用について	卓上スコアボード		

事業全体の評価

実施(申請)協会名	宮城県障害者スポーツ指導者協議会		
全体事業名称	ボッチャを活用したパラスポーツ振興事業		
委託費	1,000,000円	決算額	1,012,000円
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	ボッチャという競技は誰でも出来るスポーツで場所を選ばないという利点があるゆえに、子供から高齢者まで幅広い年齢層の方が参加してくる。そのため、障がい者が入り込めない状況もある。情報を流しても拒否をする障害者団体もある。地域によっては障がいのある人も参加させようと案内し、障害者の申込みがあると「どうしたらいいか、わからない」「一般の人たちと障害者がやったら障がいのある人たちが負けるに決まってる」などの声が聞かれる。まだまだ障がいの理解、地域での受入れなどの底上げを図る必要はある。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	交流会開催事業において、県南地区の山元町ではスポーツ推進委員の所管課である教育委員会生涯学習課の職員が準備段階から会議等に出席し、会場の手配だけでなく、実務的な協力を得ることができた。当日は教育長の出席もあり、町にとっても盛大な事業となった。その結果、町では単価の安いボッチャボールセットを10セット購入、次年度は町が主催で交流会を実施するとのことで、現在、町が予算化している動きがある。		
費用に関する所見	昨年度、150万円の申請に対して、決算額が130万円、20万円の返金した。この点から今回は100万円で事業実施し、使い切ることはできたが、事業後半は切り詰めた実施になったため、100万円以上150万円未満の間での申請ができると良いと感じている。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	上記にも記載したが、障がい者のスポーツ参加というよりは、親なき後の生活に重きをおかれている。障がいのある人が地域で生活していくためには、地域の理解、協力が必要不可欠である。その第一歩のツールとしてスポーツを用いることは大切だと思う。しかし、その時その時を一緒に楽しむことで終わってしまうため、継続性を持たせるためには、地域の担い手育成や地域のスポーツクラブとの連携を図り、障がいの有無に関係なく、ともにスポーツというツールを通して活動できる場が必要と思われる。		
参加者や関係団体からの声	障害者施設に出前でボッチャをしに行ったときに、今までほとんど話さなかった女の子がボッチャを始めるようになってから、とても明るくなった。積極的な活動が見られるようになった(スポーツ推進委員・施設職員より)		
その他所見	事業全体を通して、今回は当事者への普及・体験というよりは、それを取り巻く支援者や教員に対する指導が多かったように感じた。事業以外の部分でもボッチャという競技を障がい理解のツールとして行う学校や重度の児童生徒がいる支援学校の先生も自分事として捉えている様子がうかがえた。 また行政でも研修の一環でボッチャを取り入れているところもあった。ボッチャという競技がどんな人がやっていて、誰のためのスポーツなのかということを指導員は忘れてはいけないと常に感じている。		

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

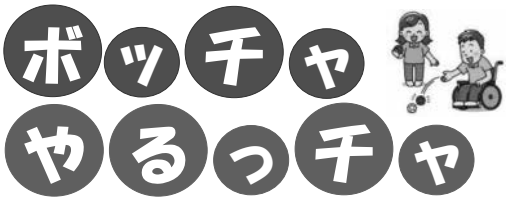
（1）　【普及・体験教室開催事業】

事業の様子

②資料

＜案内用チラシ＞

（公財）日本パラスポーツ協会委託 令和５年度「地域におけるパラスポーツ振興事業」



～ 出張ボッチャ体験・講習会 ～

★ボッチャを体験してみませんか？
東京パラリンピック以降、人気になったパラリンピック正式種目「ボッチャ」
近年では、障がいの有無にかかわらず、誰でも気軽にできるスポーツとして、地域交流のツールとしても活用されています。

★本事業では、支援学校の生徒さんや施設利用者さんをはじめ、教職員さんや施設支援員の方々を対象に現地へ出向き、体験会や講習会を実施いたします。

★ヨーロッパ発祥のボッチャ、授業や体験の他に、異文化体験として文化祭等での体験会やデモンストレーションなども対応可能です。

★募集期間　２０２３年８月１日～１２月２０日

★実施時間　１回あたり２時間程度

★会　　場　申込みのあった学校や施設　※教室程度の広さ（８ｍ×８ｍ）があれば実施可能です。

★主な内容　ルール説明やゲームの実践
※要望に応じて対応いたします。
車いすの方だけではなく立位の方の競技もあります

★申込方法　別紙申込書に必要事項をご記入の上、FAXもしくはメールにてお申込みください。

★費　　用　無料

★講　　師　審判資格を持つ、当協議会の指導員が対応します。

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（2） 【研修会開催事業】

事業の様子

②資料

＜申込書＞

出張ボッチャ体験・講習申込書

ご希望の方は必要事項をご記入いただき、下記までメールもしくはFAXにてお申し込みください。

所　属	
担当者名	
住　所	〒
連絡先	TEL：（　　）　　－ mail：

区分 （該当項目に○）	特別支援学校 （小　中　高）	障害種別 （　　）	対象 生徒　教職員
参加予定人数	名		
希望日時①	令和５年　月　日（　）　時　～　時		
希望日時②	令和５年　月　日（　）　時　～　時		
希望日時③	令和５年　月　日（　）　時　～　時		
会場 （該当項目に○）	体育館　会議室　その他（　　）		
備考			

【お問い合わせ先】
宮城県障害者スポーツ指導者協議会
mail：mpara.shidoukyo@gmail.com ／ FAX：０２２－２５７－１０６２

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（3）　【ボッチャ交流会開催事業】

事業の様子

②資料

宮城県ボッチャ交流会２０２３ 開催要綱

１　目　　的

パラリンピック正式種目であるボッチャを通じて、障がいの有無・年齢・性別問わず、広く県民がスポーツに親しむことで相互理解を深め、障がい者のスポーツに関する理解と促進を図る。またスポーツを通じて健康維持・増進を図り、地域において障がい者のスポーツへの参加意欲を高めることを目的とする。

２　主　　催

宮城県障害者スポーツ指導者協議会

特定非営利活動法人美里町体育協会・株式会社オリエンタルコンサルタンツ美里町スポーツ施設指定管理業務共同事業体

３　共　　催

一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会

４　後　　援

宮城県 ／ 美里町 ／ 美里町教育委員会 ／ 公益財団法人宮城県スポーツ協会

社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会

５　協　　力

特定非営利活動法人美里町体育協会　／　大崎市スポーツ推進員協議会

６　競技主管

宮城県障害者スポーツ指導者協議会ボッチャ部会

７　開催期日

２０２３年9月１８日（月・祝）

【 開催日程 】　　１０：００　参加者受付

１０：２０　開会通告

１０：３０　試合開始

１１：５０　表彰

１２：００　終了

８　会　　場

美里町南郷体育館　遠田郡美里町木間塚字高田 33

９　参加資格

申込時において仙台市を除く宮城県内に現住所を有する者，または，仙台市を除く宮城県内の施設や学校等へ入所および通所並びに通勤，通学する者。障がいの有無，年齢は問わない。

１０　競技規則

本大会実施要綱ならび競技要領によるものとする。

ボッチャ交流会２０２３in やまもと開催要綱

1　目　　的

「ボッチャ」は障害の有無や年齢、性別に関わらず誰でも楽しめることができる競技である。

山元町では、生涯スポーツの推進と普及の観点から、「ボッチャ」を町民交流のスポーツ事業として取り上げ、パラスポーツへの理解を深めるとともに、障害や年齢、性別を問わずに幅広く町民の親睦を深め、町民の体力向上と元気で健康な明るいまちづくりを目指すことを目的とする。

2　主　　催

宮城県障害者スポーツ指導者協議会

3　共　　催

一般社団法人宮城県障害者スポーツ協会　／　山元町教育委員会

4　後　　援

宮城県 ／ 山元町 ／　公益財団法人宮城県スポーツ協会／ 社会福祉法人宮城県障がい者福祉協会

5　協　　力

山元町スポーツ推進委員協議会

6　運営主管

宮城県障害者スポーツ指導者協議会ボッチャ部会

7　開催期日

令和５年１２月３日（日）

【 開催日程 】（予定）

８：００　集合　　・・　スタッフ
８：３０　参加者受付
８：４５　代表者会議
９：００　開会式(ボッチャルール説明含む)
　　準備運動
９：３０　競技開始
１１：３５　競技終了
１１：４０　閉会式(表彰式含む)
１１：５０　終了

8　会　　場

山元町町民体育館アリーナ（山元町高瀬字合戦原 100-1）

9　定員・参加対象

１チーム最大６名までとし、２５組程度とする。（１チーム３名＋交代選手３名まで）

町内に住所を有する者、または、町内の施設や学校等へ入所および通所並びに通勤、通学する者。

障がいの有無、年齢は問わない。

＜美里町広報紙掲載記事＞

◆宮城県ボッチャ交流会2023参加者募集

東京パラリンピック以降、障がいの有無、老若男女問わず誰でも楽しめるスポーツとして人気があるボッチャの交流会を開催します！

日時　９月18日(月・祝)
10:00～16:00(予定)

場所　南郷体育館

対象　町内在住の方

申込　９月８日(金)までにお申し込みください。
※詳細については、お問い合わせください。

問合先
宮城県障がい者スポーツ協会
☎022-257-1005

＜地元新聞掲載＞

河北新報　2023年(令和5年)12月15日(金曜日)

ボッチャで熱戦展開

町民ら90人親睦深める

山元

障害の有無や年齢、性別に関わらずスポーツで触れ合う「ボッチャ交流会2023in やまもと」が3日、山元町の町民体育館であり、7～94歳の町民ら90人が親睦を深めた。

町民体育館が8月にリニューアル開業したのを受けて県障害者スポーツ指導者協議会が初めて主催した。障害のある人が対象のパラ部門に4チームが、それ以外のオープン部門に15チームが出場。投げたボールがどれだけ的となる白いボールに近づけるかを競う熱戦が展開された。

家族4人でチームを組んで参加した山元町山下二小4年伊藤光さん(9)は「的からボールが遠くに離れないように気を付けながら頑張った。うまく投げられた」と話した。

幅広い世代の町民が親睦を深めたボッチャ交流会

大会（アビリンピック）、技能五輪全国大会で入賞した県代表6人が11日、県庁で池田敬之副知事に結果を報告した。

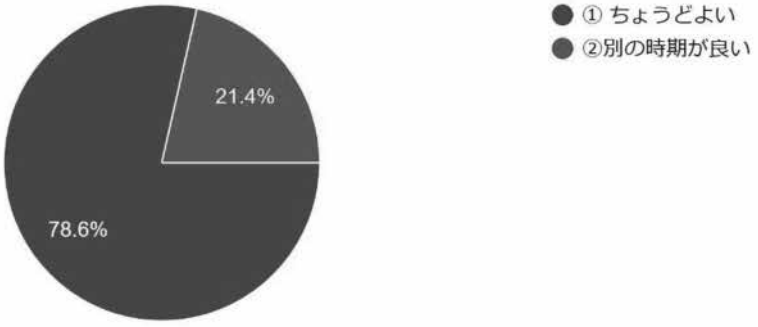
賞に輝いたセコム工業（白石市）の佐久間慶人さん（32）は「初めての経験で緊張したが、結果を残すことができて良かった」と話し

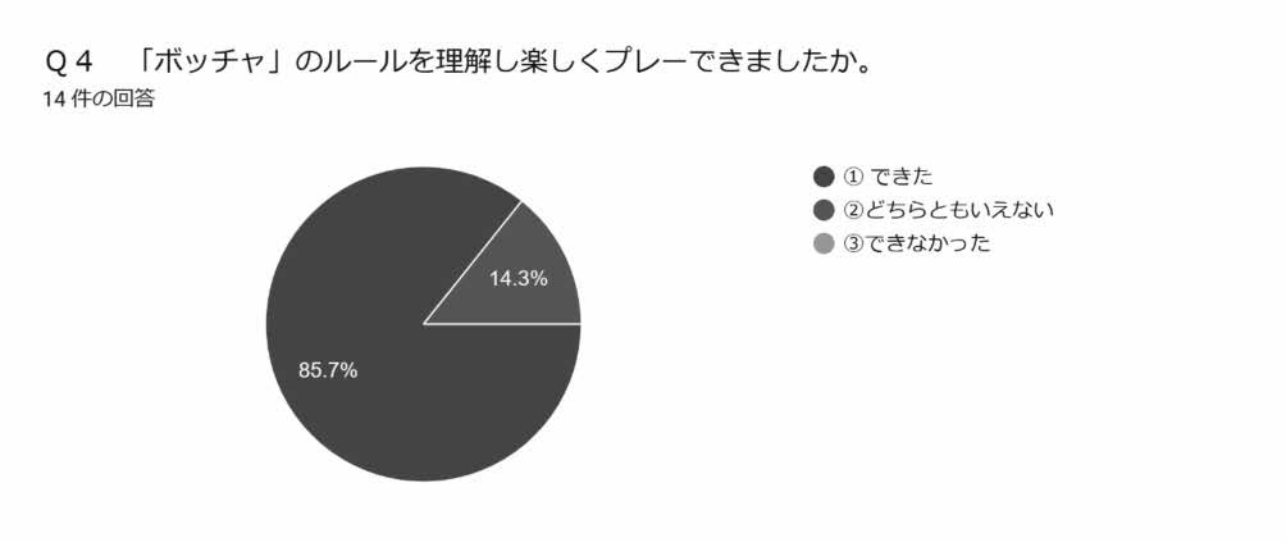
た」と振り返った。池田副知事は「力の成果だと思い活躍は県の将来の話題だ」と

＜山元町交流会アンケート結果（生涯学習課実施）※一部抜粋＞

Q５　また交流会に参加したいと思いますか。
14 件の回答

Q１　交流会の開催時期（１２月３日）はいかがでしたか。
14 件の回答





＜参加者からの感想　※一部抜粋＞

・コロナかの為、色々な場所に出席できず、突然ボッチャ大会に出席させていただき、楽しいゲームができ、会えなかった方に会えてとても楽しい半日を過ごさせていただきました。

・TV 等で見た程度でやり方、ルール等は分からなかったが今回の参加で分かった。出来るとのこと自信を持つことが出来た。

・初めて体験するスポーツで、ルール等をその場で教えていただきプレーすることができました。チームで盛り上がり楽しく参加できました。

・新しい競技なので継続して開催して欲しい。試合を観戦するだけでも技術や戦略を目で見ることが出来て楽しくなる。年齢を越えてまた体力を越えて競技できるのでおもしろい。

・障害のある方、健康な方、子供さん、年齢に拘らず出来る試合なのでとてもいいゲームだと思います。

・町教育委員会や障害者スポーツ指導者協議会、生涯学習課の皆様のご苦労で楽しく参加することが出来ましたこと感謝申し上げます。進行の中で 1 部ストップする事もありましたが、大会に係った方々、大変だったと思います。ご苦労様でした。私たちの地域でも今後ボッチャを経験して、継続して練習をしていきたいと思います。次回の大会も期待しています。

【地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業】

◆地域における指導者育成事業

ひょうごパラスポーツ指導者協議会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会		
◆計画書作成者	神戸地域:古岡芳弘、東播磨地域:村上ゆかり、淡路地域:清水真澄		
◆企画・実施担当者	清水真澄	◆経理担当者	吉田克則、鎌田則子

全体事業名称	地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業
委託費	1,500,000
地域の実情・課題点	各地域の人口や年齢層、障害者の活動の程度に違いはあるが、地域でのパラスポーツの自主的活動はほとんどみられない。ユニバーサルスポーツ(ボッチャや卓球バレーなど)を、世代間交流や障害の有無関係なく活動するツールとして用いることで、地域での継続した活動拠点作りを目的とする。また、パラスポーツ指導者協議会として活動するにあたり、道具、用具がないことで臨機応変に対応できないことも普及していない課題の1つといえる。それぞれの地域でいくつかの道具、用具を揃える事で、ユニバーサルスポーツを取り入れ活動しようとする団体ができ、地域の指導者養成も出来る。地域住民が活動したい日時に即時対応できることも大切と考える。
総合的な事業の目的	ユニバーサルスポーツができる環境が整ったことで、サークルやサロン、クラブの各団体がなどが増え、定期活動を開始し、コミュニティスポーツ、生涯スポーツとして地域に定着する。また、パラスポーツへの興味、指導者、障害者への理解者が増え、居場所づくりにも貢献できたことで、引きこもり、閉じこもりを防止し、健康で心豊かなまちづくりにつながっている。
総合的な事業のねらい	兵庫県内の3地域ををモデルケースとして、上記の事業をおこなう。実施状況などを他の6地域にも拡充するよう情報伝達をし、他地域から補助員としての参加を促すことで、自分たちの地域に還元してもらうように相互協力をする体制づくりが生まれる。また、その地域で行政機関や地域福祉団体などとも連携し、継続して実施できる場所を拡充拡大する。ユニバーサルスポーツを導入した地域活性や健康事業の参考にしていただく。

事業名	
事業①	地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業
事業②	地域における指導者育成事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会		
事業名	地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業 (東播磨)		
事業内容	東播磨地域委員会 ユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業❶～❹それぞれの地域で地域福祉団体、スポーツ推進委員、学校、クラブ、スポーツに取り組む団体などと協働し、スポーツの体験をつうじ、パラ・ユニバーサルスポーツの周知、障害への理解、世代関係なく取り組めることを伝え、さらなるユニバーサルスポーツの拡充を推進する。❷、❸パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験(❷卓球バレー、ボッチャ、フライングディスクアキュラシー、ブラインドサッカー、アンプティサッカー、ACEボール、モルック、ラダーゲッターと、パラスポーツ用具展示と体感、❸ボッチャ、卓球バレー、パラパネル展示)などを規模に応じて内容を変え実施。 ❶、❹ルール説明の際、資料配布し、継続的に取り入れていただく工夫。全事業、開催市内・町内全域に情報発信と、福祉施設職員、スポーツ推進委員にも協力、体験参加。小学校授業での体験会1回を実施。合計4回。		
開催日時	東播磨地域委員会 ユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業 ❶稲美町6月25日(日)10:00～12:00 ❷明石市11月11日(土)13:00～15:30 ❸加古川市八幡町11月19日(日)9:30～11:30 ❹明石市王子小11月30日(日)9:30～11:30		
会 場	❶6月25日天満小学校体育館 ❷11月11日明石市大蔵海岸多目的広場 ❸11月19日加古川市環境改善センター ❹11月30日明石市立王子小学校体育館		
参加者	❶稲美町天満(知的16名、肢体3名、健常約110名)❷明石市(知的約35名、肢体約10名、聴覚3名、視覚1名、健常約180名)❸加古川市八幡町(健常者約120名)❹明石市王子(知的2、肢体1、健常約65名)		
人員体制	❶パラスポーツ指導員17名、競技団体1名 ❷パラスポーツ指導員12名、競技団体12名、外部スタッフ10名 ❸パラスポーツ指導員10名 ❹パラスポーツ指導員7名		
連携団体名 (箇条書き)	稲美町教育委員会人権教育課、稲美町スポーツクラブ21、兵庫県卓球バレー協会、イーストパブリックモンキーズ、あかしパラスポネット、(一社)明石サッカー協会、あかしユニバーサルフットボール連盟、サポーティングクラブたまつ、明石市スポーツ推進委員会、インバイツ兵庫AFC、明石高専Co+work38班、明石市立明石商業高校ダンス部、兵庫県立明石高校ダンス部、ウォータースタンド株式会社、明石市モルック協会、八幡町小学校区世代間交流学習会、八幡町内連合会、八幡地区民生児童委員、社会教育福祉教育推進委員会、農村環境改善センター運営協議会		
実際の事業での 連携団体の役割	❶～❹開催協力団体には、広報、受付、時間管理、チラシ配布、アンケート回収、誘導、協力競技団体に指導協力を依頼。東播磨パラスポーツ指導員…チラシ配布、広報、当日までの打ち合わせ、準備、補助員要請、会場予約。当日の準備、運営、司会、パラスポーツ・ユニバーサルスポーツの概要、ルール説明。事前準備、会場指揮、競技審判と指導、広報、安全管理にも努めていただく。②講師による講座。パラスポーツ指導員スタッフで事前準備、打ち合わせ、会場予約、当日準備、受付、司会、進行、パラスポーツ概要説明、競技紹介、後片付け。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	卓球バレー、ボッチャは競技審判資格取得者が多数おり、スタッフとして参加者にルール説明やきめ細やかな指導をしていただいた。その他競技も経験者を割り当てることもできている。地域委員会の枠を越え県内全域に知識経験のある指導者を派遣できる体制づくりを期待する。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	18
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	45
スポーツ用具の 整備・活用について	卓球バレー、ボッチャの体験会や交流大会が増えており、購入した用具は大いに活用できている。各市町で要望される競技の用具が必要な時は、会員に連絡をし、引き取りに行くこととした。市町に様々な用具を保持しておきたいが、保管場所がないのも問題。要望されるパラスポーツ体験を断念する結果とならないよう、借用に走るよう努めている。しかしながら、兵庫県障害者スポーツ交流館までの距離があり、開催種目に偏りが生じている。近隣に拠点となる施設や用具保管場所ができればと思う。他府県の会員にはそのような悩みはないのか。どのように保管しているのか知りたい。		

各事業における事業報告シート

各事業における自己評価シートは、下部にあります。

実施協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会(神戸地域委員会)		
事業名	地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業(活動の場づくり)神戸地域委員会		
事業内容	パラスポーツ、ユニバーサルスポーツについて理解を深め、ユニバーサルスポーツ(ふうせんバレーボール、卓球バレー、ボッチャ)の競技体験を実施。ルール及び競技の特徴を説明、理解を深め体験を実施。基礎練習と当日参加チームすべてが交流できるイベント会を実施。		
開催日時	①令和5年9月16日(土)13時～16時半 ②令和5年9月18日(祝月)13時～16時半 ③令和5年10月25日(水)10時～15時 ④令和5年11月11日(土)9時～12時 ⑤令和5年11月23日(祝木)13時～16時半 ⑥令和5年12月3日(日)9時～12時 ⑦令和5年12月17日(日)9時～12時		
会　場	①神戸市立美野丘小学校講堂(神戸市灘区) ②神戸市立神戸祇園小学校体育館(神戸市兵庫区) ③神戸市立名谷地域福祉センター(神戸市垂水区) ④神戸市立西体育館(神戸市西区) ⑤神戸市立東舞子小学校体育館(神戸市垂水区) ⑥神戸市立藤原台小学校体育館(神戸市北区) ⑦神戸市立北須磨小学校体育館(神戸市須磨区)		
参加者	①32人(知的1名、健常31名) ②44人(知的2名、肢体1名、健常41名) ③46人(肢体1名、健常45名) ④60人(知的1名、肢体1名、健常58名) ⑤22人(聴覚3名、健常19名) ⑥43人(知的1名、肢体1名、健常41名) ⑦42人(聴覚2名、肢体1名、健常39名)		
人員体制	①10名 (講師1名、補助員5名、ボランティアスタッフ4名) ②7名(講師1名、補助員5名、ボランティアスタッフ1名) ③6名(講師1名、補助員5名) ④6名(講師1名、補助員5名) ⑤6名(講師1名、補助員5名) ⑥7名(講師1名、補助員5名、ボランティアスタッフ1名) ⑦6名(講師1名、補助員5名)		
連携団体名 (箇条書き)	①総合型地域スポーツクラブ「みのおかクラブ」 ②総合型地域スポーツクラブ「KOBE GION SC」 ③名谷ふれあいのまちづくり協議会 ④西区総合型地域スポーツクラブ連絡協議会 ⑤総合型地域スポーツクラブ「東舞子スポーツクラブ」 ⑥総合型地域スポーツクラブ「藤原台フルﾄﾞﾘｰクラブ」 ⑦総合型地域スポーツクラブ「北須磨スポーツクラブ」		
実際の事業での 連携団体の役割	①地元協力者に協力を呼びかけ、会場利用の可否を調整　②会場周辺居住者にチラシ配布と参加呼びかけ ③総合型地域スポーツクラブでの活動者及びその家族に参加呼びかけ ③体験会参加者の受付 ④参加者チーム分け等体験会運営のアドバイス		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	パラスポーツ及びユニバーサルスポーツの楽しさを理解、共有できる指導員として、経験を積むことができた。今後は、神戸市内各区小学校及び地域団体からの体験会開催要請や総合型地域スポーツクラブでのリピート開催要請、兵庫県内各地でのリーダー育成要請に応えたり、ユニバーサルスポーツサークル設立に向けて補助できる体制の一員として活用していく。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	10名
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	48名
スポーツ用具の 整備・活用について	①ボッチャ1セット、②卓球バレー2セット、③ふうせんバレー10セット、④ビブス4セットを購入、活用し、体験会のチーム分け及びユニバーサルスポーツ3競技を理解、楽しさを体得できるように活用。今後は、神戸市内各団体からの要請に、速やかに対応できるように神戸地域委員会内に備品として備え、神戸地域委員会パラスポーツ指導者と共にクイックレスポンスできる体制を整えると共に、新規パラスポーツ指導者の経験を積む訓練用にも活用する。		

実施協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会　淡路地域委員会			
事業名	地域の連携ににおけるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業			
事業内容	①競技車体験、ボッチャ、フライングディスク、卓球バレー、スローイングビンゴ、パラスポーツクイズラリー。各競技を回り体験してもらった。 ②ボッチャ、スローイングビンゴ、卓球バレー、視覚障害体験、パラスポーツクイズラリー。 ③車いすバスケットボール、ボッチャ、フライングディスク、卓球バレー、スローイングビンゴ、シッティングバレー、パラスポーツクイズラリー			
開催日時	パラスポーツ体験会 ①2023年8月30日(水) ②2023年10月14日(土) ③2023年12月25日(月)			
会　場	①賀集スポーツセンター ②福良市民交流センター ③アスパ五色体育館			
参加者	①61名(肢体名3、知的3名、精神1名、健常者54名) 年齢3才～62才(平均年齢14.6才) ②22名(肢体2名、知的0名、精神0名、健常者20名) 年齢3才～78才(平均年齢38.4才) ③73名(肢体8名、知的16名、発達18名、精神3名、健常者28名) 年齢7才～84才(平均年齢36.3才)			
人員体制	①13名 パラスポーツ指導員2名、競技団体4名、指導者養成講習会受講生6名、地域ボランティア2名 ②10名 パラスポーツ指導員1名、競技団体2名、指導者養成講習会受講生4名、地域ボランティア2名 ③12名 パラスポーツ指導員2名、指導者養成講習会受講生4名、地域ボランティア6名			
連携団体名 (箇条書き)	南あわじ市福祉課、南あわじ市教育委員会 南あわじ市社会福祉協議会 南あわじ市スポーツ協会 洲本市教育委員会、洲本市社会福祉協議会、淡路市社会福祉協議会 あわじユニバーサルスポーツの会 NPO法人コミュニティスペースエモラボ			
実際の事業での連携団体の役割	行政、社会福祉協議会には参加者の募集とメディアへの声掛けとスタッフの派遣。スポーツ協会や競技団体などは参加者の募集、当日の準備・運営。			
本事業における障がい者スポーツ指導者の役割・活用について	7月にパラスポーツ指導者養成講習会をパラスポーツ指導員でおこない、パラスポーツ体験会での人員不足の改善と、知識を持って障害児者への対応できる地域スタッフを増やすことを役割とする。パラスポーツ体験会では受講生が実地体験で、スムーズに活動できるようにサポートと運営をおこなう		本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数	2
			本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数	7
スポーツ用具の整備・活用について	今回購入したボッチャ用具やカラーコーンは大いに活用できた。ボッチャはパラスポーツの核となるスポーツなので、道具が地域にあることで、障害者健常者関係なくパラスポーツに触れる機会を沢山提供することができた。また、カラーコーンは車いす競技を知り体験することで、車いす操作の難しさや、車いすがあることで同じ視点でスポーツができる環境を提供するのに活用することや、ボッチャコートなどラインテープを必要とする競技のコストを抑えることにも役立てることができた。			

各事業における事業報告シート

実施協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会		
事業名	地域におけるパラスポーツ指導者育成事業（東播磨）		
事業内容	東播磨地域委員会　指導者育成事業①, ②, ③ ①③地域にパラスポーツ・ユニバーサルスポーツに参加できる仕組みづくりの為、地域における指導者の育成を目的として、研修・体験型の事業とする。障害者への配慮、理解が進み、身近な地域で安心安全にスポーツに取り組める共生(協働)社会　をめざす、パラスポーツ・ユニバーサルスポーツのリーダー育成。②パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ普及に伴い、さらなる周知・拡充のため、パラスポーツ指導者のスキルアップと、関心のある個人の講習会とする。障害者への配慮、理解が進み、指導員としての意識を高める機会とする。		
開催日時	東播磨地域委員会　指導者育成事業　①7月13日(木)播磨町18:30～21:00 ②7月22日(土)加古川市13:00～14:30　③7月25日(木)13:30～16:00		
会　場	東播磨地域委員会　指導者育成事業　①7月13日播磨町　播磨町中央公民館　②7月22日加古川市　加古川市人権文化センター　③7月25日稲美町　稲美町立天満小学校体育館		
参加者	①播磨町(知的0名、肢体2名、健常50名)　②加古川市　(知的0名、肢体1名、健常26名)③稲美町(知的0名、肢体1名、健常29名)		
人員体制	①兵庫県ボッチャ協会公認審判員　1名、パラスポーツ指導員3名　②福祉用具専門相談員1名、デフバレーボールトレーナー1名、パラスポーツ指導員3名　③パラスポーツ指導員6名		
連携団体名 (箇条書き)	播磨町市民協働部協働推進課、播磨町社会教育推進員、スポーツ推進委員会、福祉用具レンタルFIND、稲美町教育委員会人権教育課		
実際の事業での 連携団体の役割	①、③開催協力団体には、広報、受付、時間管理、チラシ配布、アンケート回収、誘導、協力競技団体に指導協力を依頼。東播磨パラスポーツ指導員…チラシ配布、広報、当日までの打ち合わせ、準備、補助員要請、会場予約。当日の準備、運営、司会、パラスポーツ・ユニバーサルスポーツの概要、ルール説明。事前準備、会場指揮、競技審判と指導、広報、安全管理にも努めていただく。②講師による講座。パラスポーツ指導員スタッフで事前準備、打ち合わせ、会場予約、当日準備、受付、司会、進行、パラスポーツ概要説明、競技紹介、後片付け。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	卓球バレー、ボッチャは競技審判資格取得者が多数おり、スタッフとして参加者にルール説明やきめ細やかな指導をしていただいた。その他競技も経験者を割り当てることもできている。地域委員会の枠を越え県内全域に知識経験のある指導者を派遣できる体制づくりを期待する。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	8
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	13
スポーツ用具の 整備・活用について	卓球バレー、ボッチャの体験会や交流大会が増えており、購入した用具は大いに活用できている。地域に用具保管管理場所がなく、市町分散させ会員宅保管としている。各市町で要望される競技の用具が必要な時は、保管会員に連絡をし、引き取りに行くこととした。市町に様々な用具を保持しておきたいが、不十分であり要望されるパラスポーツ体験を断念する結果とならないよう、借用に走るよう努めている。しかしながら、兵庫県障害者スポーツ交流館までの距離があり、開催種目に偏りが生じている。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会 淡路地域委員会		
事業名	地域の連携ににおけるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業		
事業内容	講義テーマ「障害とは？～パラスポーツを知って、地域のことも考えよう～ ①ひょうごパラスポーツ指導者協議会の説明 ②パラスポーツについて ③障害の種類 ④実技：ボッチャ、フライングディスク、卓球バレー、車いすバスケ ⑤地域の課題についてディスカッション		
開催日時	2023年7月30日(日)		
会　場	アスパ五色体育館		
参加者	受講申込　15名(障害1名、健常者14名) 受講者　　13名(障害0名、健常者13名)		
人員体制	講師2名、スタッフ1名		
連携団体名 (箇条書き)	南あわじ市福祉課、南あわじ市社会福祉協議会 南あわじ市スポーツ協会 洲本市教育委員会、洲本市社会福祉協議会 淡路市社会福祉協議会 NPO法人コミュニティスペースエモラボ		
実際の事業での 連携団体の役割	淡路市社会福祉協議会、洲本市社会福祉協議会、南あわじ市社会福祉協議会、洲本市教育委員会、南あわじ市福祉課、南あわじ市スポーツ協会		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	講習会を開催するにあたり、各連携機関に周知し、参加者を集める活動。講義では、パラスポーツ指導員として経験した内容をもとに、パラスポーツの考え方を伝え、淡路島で課題となっているパラスポーツの普及のための人員や、環境の課題などを伝え、一緒に活動してくれる人を増やす役目をする。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	アスパ五色体育館には寄付された車いすバスケ車が10台あるため、車いす競技についても実技指導をすることができた。しかし、一般の体育館では競技車がないため、体験できるパラスポーツ競技が限られている。貸出しは無料でしているが、運搬費や手間などが課題である。今回購入したボッチャ用具は、どこの場所でもどんな対象者でも気軽におこなうことができるため、常に地域に置いてあることはボッチャが地域に広がりやすい一因となっている。また、創作ボッチャをするあたっても参考になるため、活用方法はとても広がりがあったと考える。		

事業全体の評価

実施(申請)協会名	ひょうごパラスポーツ指導者協議会		
全体事業名称	地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業		
委託費	1,500,000	決算額	1,502,219
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	東播磨の多数の市町にパラスポーツの紹介、周知活動ができた。事業参加人数に対し、継続して取り組む団体、個人に発展することは少ない。交流会や小規模でも指導員派遣できるよう取り組む。一過性のものにならぬよう、同地域ででも浸透するまで事業の回数を重ねることが重要である。指導員の育成は事業のたびに進行や誘導、ルール説明、概要説明のスタッフが同じ人にならないよう、役割を考慮し配置するこで育成にもつながってきている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	東播磨の多数の市町にパラスポーツの紹介、周知活動ができた。パラスポーツ・ユニバーサルスポーツに無縁だった方に事業を実践することで周知できた。指導員も研修事業後、参加者に積極的に競技の説明、パラスポーツの概要を紹介するなど、コミュニケーションを図り、信頼関係を築き、次回事業に繋ぐ事案が多数となった。		
費用に関する所見	スポーツ用具は高価な物が多いうえ、事業回数がふえることで、消耗品として考えていただきたいものもあった(卓球バレーピン球、ふうせんバレーふうせんなど)。その他費用は有効活用できた。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	地域で継続して取り組む団体、個人が増えるよう、普及推進活動を活発化させたい。そのため、地域の教育機関、福祉施設の他、より地域に密着したまちづくり会や、高年クラブ、小規模団体、小規模イベントのブース参加なども視野に含む。市町のスポーツ推進委員や各種スポーツ競技団体との協働も検討することで、拡充を図りたい。		
参加者や関係団体からの声	障害の有無、世代関係なく取り組める、パラ・ユニバーサルスポーツの魅力を体験して理解できた。楽しかったので、またしてみたい。(参加者の大半の感想)継続して取り入れたい。(学校関係者)　同地域での体験事業の継続も大切。(指導員)　継続して取り組みたい方への指導や支援も大切。(指導員)		
その他所見	様々な団体に協力していただき、体験会では参加者に交じり体験していただいた事で、次への事業につながっていった。また、パラスポーツ指導員が生き生きと活動する姿、笑顔で取り組む姿を見て、初級パラスポーツ指導員養成講座を受講する者もあった。社会貢献の大切さも勉強できた。一方で障害者へのスポーツ紹介がなおざりにならないよう気を付けなければならないと感じた。		

兵庫県パラスポーツ指導者協議会　東播磨地域委員会

【事業内容①】地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業

1. パラスポーツを楽しもう～卓球バレーとボッチャ～　稲美町

事業の様子

受付

準備

準備

全体打ち合わせ

パラスポーツ概要説明、あいさつ

パラダンスチームによるオープニング

全体の様子

卓球バレーの様子３台

ボッチャ体験の様子　３コート

②資料

チラシ

パラスポーツ体験　福祉学習

令和５年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」

パラスポーツを楽しもう

～卓球バレーとボッチャ～

「地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業」

こんなことをするよ

“障がい”ってなんだろう？身体が動きにくくても、スポーツを楽しむことができるのですよ。パラスポーツ（卓球バレーとボッチャ）に挑戦だ！　みんなでいっしょに試合をしましょう。　障がいを個性としてダンスを楽しんでいるチームが、ゲスト出演してくれます。ともに楽しみましょう。

日時	令和5年 6月25日（日）　10：00～12：00（受付 9：30から）
会場	天満小学校体育館
持ち物	水筒、汗ふきタオル、体育館（室内）シューズ
主催	ひょうごパラスポーツ指導者協議会　東播磨地域委員会
協力	稲美町教育委員会人権教育課

5月31日(水)までにお申し込みください！

行ってみよう・やってみよう・見てみようとおもったら

申し込み　下の申し込み用紙の内容を電話、FAX、メールで受け付けています

ひょうごパラスポーツ指導者協議会　東播磨地域委員会

担当：むらかみ　TEL/FAX：078-911-0154　メール fmb450125dori@gmail.com

申し込み用紙　お名前（　　）

でんわ（　　）

手伝ってほしいことはありますか
（車いす移動や目が不自由など）➡（　　）

生徒さんは担任の先生に渡してね　しめきり 5月31日(水)

要項

（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツ振興事業」

パラスポーツを楽しもう　要項

～卓球バレーとボッチャ～

「地域との」連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業

目的　パラスポーツ普及に伴い、さらなる周知・拡充のため、障害者及び町民が地域で自主的・積極的・継続的にパラスポーツ・ユニバーサルスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。かつ、障害者への配慮、理解が進み、身近な地域で安心安全にスポーツに取り組める、共生（協働）社会への一助となることを目的とする。

1. 日　時　令和５年６月25日（日）　10時00分～12時00分
　　スタッフ８時45分集合
2. 会　場　稲美町立天満小学校体育館　加古郡稲美町国岡538
3. 主　催　ひょうごパラスポーツ指導者協議会　東播磨地域委員会
4. 協　力　稲美町人権教育課/兵庫県卓球バレー協会
5. 内　容　パラスポーツ、ユニバーサルスポーツ
　　卓球バレー交流大会とボッチャ体験
6. 参加者　稲美町内特別支援学級児童、小学校児童及び保護者、
　　行政関係者、スポーツ推進員など約90名/
　　イーストパブリックモンキーズ16名
　　スタッフ関係者約25名　（合計約130名）予定
7. 持ち物　筆記用具、飲み物、体育館シューズ
8. 服　装　運動しやすい服装、マスクは個人の判断
9. 準　備　卓球バレー…卓球台５台、パイプ椅子60脚、得点版５台
　　ボッチャ…コート５面、学校シート３枚+東播磨シート２枚、
　　得点版５枚
　　・卓球バレー５セット
　　（東播磨地域委員会３セット+あかしパラスポネット２セット）
　　・ボッチャ５セット天満小学校５セット、
　　ランプ…村上さん+天満小学校
10. その他　※貴重品は各自で保管をお願いします。
　　盗難、紛失について主催側は一切の責任を負いません。
　　※参加者全員のレクリエーション保険に加入します。
　　※当日事業報告、関係機関SNSへの情報発信、記録用に写真撮影を行います。（写真掲載の承諾を得る。）

地域との連携によるユニバーサルスポーツの周知・理解・啓発事業

①事業写真

2. あかしパラスポフェスタ 2023～パラスポーツ・ユニバーサルスポーツ体験会～

事業の様子

12:45～13:00

兵庫県立明石高等学校ダンス部による　オープニングダンス

13:00～13:15

市長・市議会議員あいさつ

東播磨地域委員会　代表代理あいさつ

13:15～15:30 パラスポーツ体験会

アップゾーン

卓球バレー

ACE ボール

アップゾーン全体

A コート

ボッチャ

フライングディスク

Aコート全体①

B コート

ラダーゲッター

モルック

B コート全体

Cコート

ブラインドサッカー　アンプティサッカー　　C コート全体

プレイゾーンパラスポーツ用具展示（体感）ブース

展示（体感）ブース全体

レーサー用車いす（手前）
バスケ車（奥）

ジャベリックスロー投的台

タンデム自転車

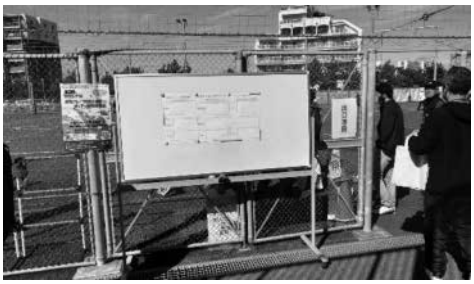
14:15～14:30　明石市立明石商業高校ダンス部による　みんなでダンス体験

手話通訳あり

その他

ボッチャ　即席ランプ

ウオーターサーバーSDGs



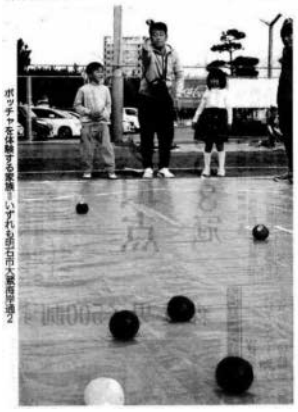
出口アンケート

2023.11.14　神戸新聞

ボッチャやブラインドサッカーなど8種目

パラスポーツに200人挑戦

パラスポーツやユニバーサルスポーツを体験する「あかしパラスポフェスタ2023」（神戸新聞社など後援）が11日、大蔵海岸多目的広場（明石市大蔵海岸通2）であった。障害者と健常者、合わせて約200人が参加し、ボッチャやブラインドサッカーなど8種目を楽しんだ。（谷川直生）



ボッチャを体験する家族＝いずれも11日、大蔵海岸通2

障害への理解深め　一緒に楽しむ

アンプティサッカーを体験するなど

明石発祥「ACEボール」も

スポーツを通じて障害への理解を深めてもらおうと、ひょうごパラスポーツ指導者協議会東播磨地域委員会が主催。同委員会と、障害者のスポーツ振興を目指す団体「あかしパラスポネット」のスタッフらが各競技の説明や指導をした。

下肢の切断障害者が両腕でつえを使いながら行う「アンプティサッカー」では、競技者がつえを軸にし、振り子のように勢いを付けたシュートを実演。挑戦した子どもたちもつえに身を任せ、ボールを蹴った。

転がしたボールに輪を投げて得点する、明石発祥の「ACEボール」の体験もあった。ボールに書かれた数字や止まる位置によって点数が変わるため、親子などのペアで作戦を練りながら高得点を狙った。

（火）神戸新

兵庫県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真　淡路地域委員会

【事業内容②】地域における指導者育成事業

① 事業写真

準備の様子

受付の様子

講義の様子

実技：フライングディスク

実技：ボッチャ

実技：レクボッチャ作成

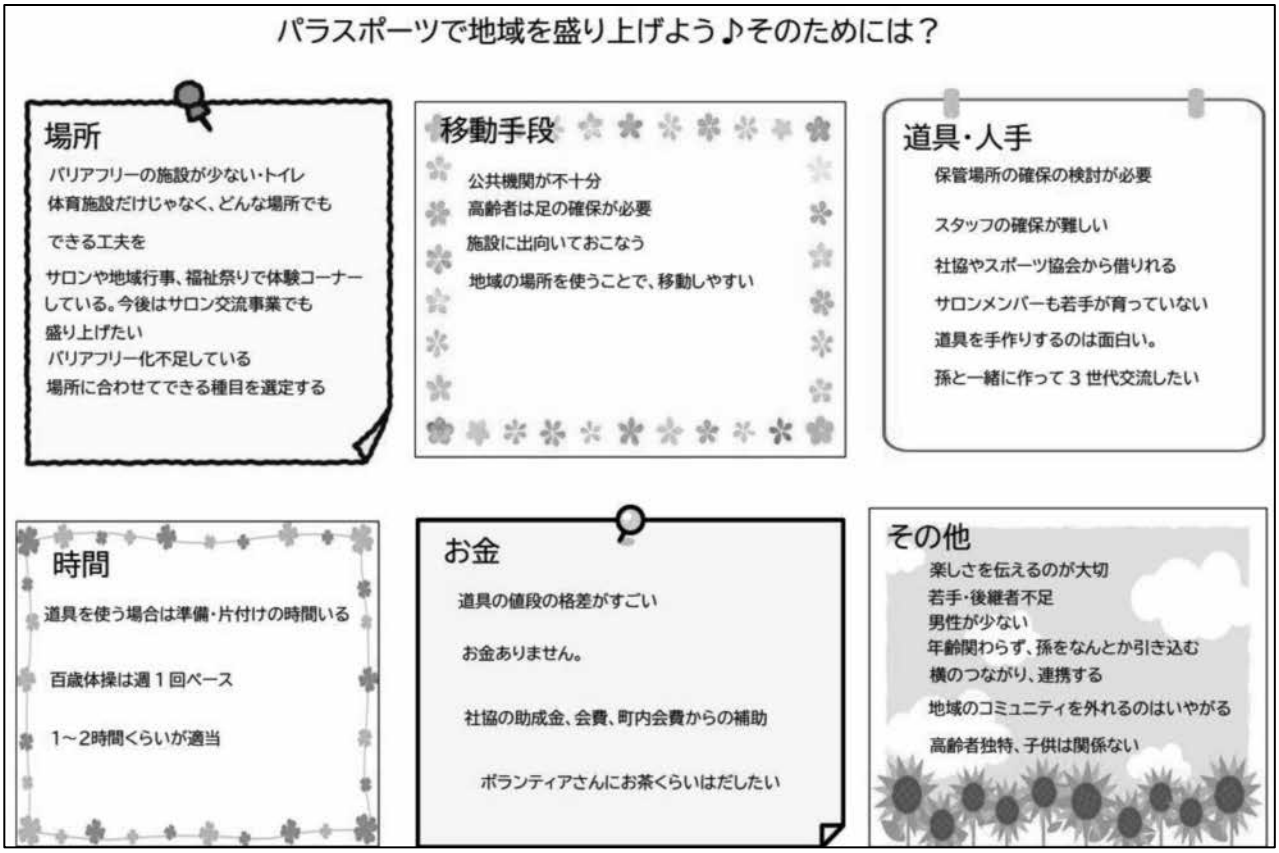
実技：競技者のタイヤ設置

実技：車いすバスケットボール

実技：卓球バレー

集合写真

② 資料



指導者養成講習会詳細

〇実施日　　2023 年 7 月 30 日(日)

〇実施場所　　アスパ五色体育館(洲本市鳥飼浦 2613)

〇参加者人数　13 人欠席 2 名(淡路市 0 人、洲本市 10 人、南あわじ市5人)
（障害 1 名、健常 14 名)

〇参加者年齢　33 才～90 才（平均年齢 65.8 才）

【プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業】

◆特別支援学校等巡回事業

◆パラサッカーチーム競技力向上事業

◆障害児・者フットサル教室

◆パラサッカーフェスタ with アルビレディース

新潟県障害者交流センター

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	新潟県障害者交流センター		
◆計画書作成者	丸田 徹		
◆企画・実施担当者	阿部 舜矢	◆経理担当者	佐藤 有紀

全体事業名称	プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業
委託費	100万円
地域の実情・課題点	本県のプロサッカーチーム アルビレックス新潟は、男子は日本代表選手の輩出、J1にて活躍、女子はカップ戦の決勝進出、有名選手の加入などもあり、サッカー人気が高まっている。 コロナウイルスが5類に移行したことにより、各種パラサッカーチームが当センターでトレーニングを再開している。また、当センターのフットサル教室も再開したが、以前ほどの参加者数には戻ってない。 職員の人材不足の問題がある。県内に当センター以外のパラスポーツ施設が存在せず、即戦力の確保が困難な状況にある。
総合的な事業の目的	パラスポーツの普及拡大を目指す中で、スポーツ団体の参画は欠かすことができない。 特にアピール力の高い地元プロサッカーチームがパラスポーツの普及に関わることは、多種目のスポーツ関係団体、パラスポーツチームに大きな刺激を与えることが期待される。その中で障がいに対する理解促進や障がいの有無を問わないスポーツの発展により、共生社会の実現に寄与できると考える。 また、プロサッカー選手のセカンドキャリア候補の一つとして、パラサッカーを通じた次世代のパラスポーツ指導者につなげたい。 今回は、県内のパラサッカーのみに焦点を当てたものであるが、活動を発端としてパラスポーツ指導員を目指す方の発掘も行っていく。
総合的な事業のねらい	・障害児や特別支援学校生徒等の若年層へのサッカーの普及活動 ・既存パラサッカーチームへの活動支援及び競技力の向上 ・プロサッカーチームの連携推進や選手のセカンドキャリアに向けたパラスポーツへの理解推進 ・他種目のスポーツ関係団体やプロスポーツチームへのパラスポーツの波及促進 ・パラスポーツ指導員の普及、次世代の人員の育成、確保

事業名	
事業①	スポーツセンター①:障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業(活動の場づくり) 特別支援学校等巡回
事業②	スポーツセンター③:競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり) パラサッカーチーム競技力向上事業
事業③	スポーツセンター③:競技団体・クラブ・サークル設立支援事業(体制づくり) 障害児・者フットサル教室
事業④	スポーツセンター④:スポーツを通じた関連団体等との連携促進事業 パラサッカーフェスタWithアルビレディース
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">特別支援学校等巡回</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">県内の特別支援学校の状況として、コロナウイルスの影響から、学生のスポーツに対する関心が低下しており、運動不足が顕著であると伺っていた。
今回、プロサッカー選手を指導者として、サッカーの体験会に留まらず、トレーニング方法を各学校で実施した。サッカーを通して、運動の楽しさを再確認してもらうことを目指した。
また、技術面だけではなく、メンタル面について講話の依頼があり実施した。
プロサッカー選手になるまでの経緯や現在の活動、日本代表となり感じたこと、大きな怪我をどのように乗り越えるかなど、生き方や苦難を乗り越えるヒントを与える内容で行った。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①令和5年10月18日(水)13:30～15:30
②令和5年11月1日(水)13:00～15:00
③令和5年11月14日(火)11:00～13:00
④令和5年11月27日(月)11:00～13:00
⑤令和5年12月4日(月)10:00～12:00
⑥令和5年12月11日(月)13:00～15:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①新潟県立江南特別支援学校(新潟市 江南区)
②新潟県立江南特別支援学校 川岸分校(新潟市 中央区)
③新潟県立新潟よつば学園 自立教育部門(知的障害)(新潟市 東区)
④新潟県立新潟よつば学園 ろう教育部門(聴覚障害)(新潟市 東区)
⑤⑥福祉事業型専攻科 KINGOカレッジ(新潟市 中央区)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">① 14名(知的11名 先生3名)
② 12名(知的10名 先生2名)
③ 33名(知的30名 先生3名)
④ 8名(聴覚6名 先生2名)
⑤⑥16名(知的15名 先生1名)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">プロサッカー選手 1名(技術指導)
新潟県障害者交流センター職員 1名(総合コーディネート)</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター
新潟県障害者スポーツ協会、新潟県障がい者指導者スポーツ協議会、特別支援学校体育連盟
新潟県サッカー協会、アルビレックス新潟レディース
新潟県立江南特別支援学校、新潟県立江南特別支援学校 川岸分校
新潟県立新潟よつば学園、福祉事業型専攻科 KINGOカレッジ</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">各学校には、会場の設営、確保を依頼する。
当センター職員が総合コーディネーターとして巡回日時、実施内容のを調整し、プロサッカーチームに依頼、打ち合わせを行った。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
パラスポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">プロサッカー選手の技術力の高さを体感し、サッカーの魅力を通じて運動への興味を示すことができた。
日常で取り入れているトレーニングを体験でき、様々なスポーツで応用できるものであった。
また、講演ではどのような努力を積んでプロサッカー選手になったのか、大きな怪我をどのように乗り越えるのか、今後の目標についてを話して頂き、好評であった。</td><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の実人数</td><td></td></tr>
<tr><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の延べ人数</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">サッカーボール(5号)を購入し、活用した。
今後は、当センターのサッカー教室や各種イベントにて活用を行う。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">障害児・者フットサル教室</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">当センター体育館において、立位でボールを蹴ることができる障がい児、者、その保護者を対象にフットサルの基礎練習、ミニゲームを行った。
運動不足の解消や、参加者、保護者同士のコミュニケーションを図り社会性の向上を図る。
併せて、プロサッカーチーム、プロサッカー選手に「障がい」についての理解促進、パラサッカーの関心を高める。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①6月17日(土) 13:00～15:00
②7月15日(土) 13:00～15:00
③8月19日(土) 13:00～15:00
④9月16日(土) 13:00～15:00
⑤10月21日(土) 13:00～15:00
⑥11月18日(土) 13:00～15:00
⑦12月16日(土) 13:00～15:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">新潟ふれ愛プラザ 体育館（新潟市江南区）</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①21名(肢体3名、知的11名、支援者7名)
②21名(肢体7名、知的6名、精神1名、支援者7名)
③24名(肢体7名、知的7名、精神3名、支援者7名)
④18名(肢体3名、知的6名、精神1名、支援者8名)
⑤18名(肢体4名、知的7名、支援者7名)
⑥18名(肢体3名、知的6名、支援者9名)
⑦26名(肢体5名、知的7名、精神1名、支援者13名)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">アルビレックス新潟レディース 講師 1名
パラボックス 2名
新潟県障害者交流センター 1名
パラスポーツ指導員 1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター
新潟県障害者スポーツ協会、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会、
アルビレックス新潟レディース、パラボックス(肢体パラサッカーチーム)</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">プロ選手を毎回1名派遣していただき、指導に当たっていただいた。
パラボックス、パラスポーツ指導員の方には、指導補助を行っていただいた。
また、ミニゲーム時の審判も行っていただいた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
パラスポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">参加者に対し、練習メニューのお手本、ポイント等を指導していただき、競技力の向上につながった。回数を重ねるごとに上達する様子が見えた。</td><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の実人数</td><td>1</td></tr>
<tr><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の延べ人数</td><td>5</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">サッカーボール(4号)を購入し、活用した。
今後は、当センターのサッカー教室や各種イベントにて活用を行う。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">パラサッカーチーム競技力向上事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">県内中核パラサッカーチーム(知的、視覚、肢体)にプロサッカー選手が指導を実施することで、参加者の競技力の向上を図る。
併せて、プロサッカーチームとパラサッカーチームの交流を通して今後の連携関係を構築した。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">①令和5年6月23日(金) 18:00～20:00 (新潟県ブラインドサッカー協会)
②令和5年6月30日(金) 19:00～21:00 (スペシャルオリンピックス日本 新潟)
③令和5年7月1日(土) 14:00～17:00 (ハットトリック)
④令和5年7月2日(日) 10:00～12:00 (パラボックス)
⑤令和5年7月21日(金) 18:00～20:00 (新潟県ブラインドサッカー協会)
⑥令和5年10月14日(土) 9:00～13:00 (ハットトリック)
⑦令和5年11月25日(水) 9:00～13:00 (ハットトリック)
⑧令和5年12月1日(金) 18:00～21:00 (新潟県ブラインドサッカー協会)
⑨令和5年12月9日(土) 9:00～13:00 (ハットトリック)
⑩令和5年12月13日(水) 19:00～20:30 (スペシャルオリンピックス日本 新潟)
⑪令和5年12月15日(金) 18:00～20:30 (新潟県ブラインドサッカー協会)</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">①②⑤⑧⑩⑪新潟ふれ愛プラザ 体育館(新潟市江南区)
③⑥⑨田舟の里運動公園(新潟市江南区)
④江南特別支援学校 グラウンド(新潟市江南区)
⑦新潟東特別支援学校 体育館(新潟市東区)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">①8名(視覚3名、指導者2名、支援者3名)
②24名(知的12名、指導者1名、支援者11名)
③25名(知的11名、指導者3名、支援者11名)
④17名(知的2名、肢体8名、精神3名、支援者4名)
⑤9名(視覚3名、指導者2名、支援者4名)
⑥23名(知的10名、指導者3名、支援者10名)
⑦25名(知的11名、指導者3名、支援者11名)
⑧8名(視覚4名、指導者2名、支援者2名)
⑨25名(知的11名、指導者3名、支援者11名)
⑩24名(知的12名、指導者1名、支援者11名)
⑪10名(視覚4名、指導者2名、支援者4名)</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">プロサッカー選手 1名
新潟県障害者交流センター職員 1名(総合コーディネート)
パラスポーツ指導員 2名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">新潟県障害者交流センター
新潟県障害者スポーツ協会、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会、新潟県サッカー協会
スペシャルオリンピックス日本 新潟(知的)、新潟県ブラインドサッカー協会(視覚)
ハットトリック(知的)、パラボックス(肢体中心)、アルビレックス新潟レディース</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">プロサッカー選手を毎回1名派遣していただき、指導に当たっていただいた。
各パラスポーツチームには、会場の確保、設営を行っていただいた。当日、指導者の方には、指導補助を行っていただき円滑に進行する環境を作った。</td></tr>
<tr><td>本事業における
パラスポーツ指導者
の役割・活用について</td><td>県内の各パラサッカーチームにプロサッカー選手が巡回指導を行い、参加者の競技力の向上を図る。また、ミニゲームに参加し、同じサッカー愛好者として交流を図る。また、プロ選手にパラサッカーチームの状況を把握し、パラサッカーの魅力を発信してもらうきっかけとする。</td><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の実人数</td><td>2</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td>本事業における
パラスポーツ指導員
の延べ人数</td><td>16</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">サッカーボール(5号)を購入し、活用した。
今後は、当センターのサッカー教室や各種イベントにて活用を行う。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	新潟県障害者交流センター		
事 業 名	パラサッカーフェスタWithアルビレディース		
事業内容	プロサッカー選手との交流を通じて、パラサッカーの普及やサッカー愛好者や関係者同士の連携拡大を進める。 併せて、プロサッカーチーム、選手に対して、障がいへの理解促進やパラサッカーの関心を高める。		
開催日時	①令和5年9月10日(日) 13:00～16:00		
会　場	①新潟聖籠スポーツセンター アルビレッジ(北蒲原郡聖籠町)		
参 加 者	56名(肢体12名、知的18名、聴覚10名、指導者4名、支援者12名)		
人員体制	アルビレックスレディース　7名 手話通訳　2名 新潟県障害者交流センター　職員2名 パラスポーツ指導員　2名		
連携団体名 (箇条書き)	新潟県障害者交流センター 新潟県障害者スポーツ協会、新潟県障がい者スポーツ指導者協議会、新潟県サッカー協会 イビーベ新潟、新潟県聴覚障害者協会、スペシャルオリンピックス日本 新潟、ハットトリック パラボックス、新潟日報社、アルビレックス新潟レディース		
実際の事業での 連携団体の役割	各障がい者団体は、参加者の募集をしていただきイベントに参加していただいた。クラブには会場の確保、設営、イベントの運営をしていただいた。 新聞社は、イベントについて取り上げていただき、障がい者スポーツの普及を促進する。 当日のスケジュールや参加者の取りまとめや保険加入は当センターにて行った。		
本事業における パラスポーツ指導者 の役割・活用について	プロサッカー選手、監督が実際に練習で使っているピッチで指導を行った。 今回、指導を行ったのは、パラスポーツ指導員ではないが、選手の中にもパラスポーツについての知識がある方が数名いた。今回のパラサッカーチームとの交流を通して、セカンドキャリアの選択肢にパラ者スポーツ指導員が含まれることを願いたい。	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	5
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	5
スポーツ用具の 整備・活用について	サッカーボール(5号)を購入し、活用した。 今後は、当センターのサッカー教室や各種イベントにて活用を行う。		

事業全体の評価

実施(申請)協会名	新潟県障害者交流センター		
全体事業名称	プロサッカーチームと協働したパラサッカーの普及事業		
委託費	1,000,000	決算額	1,038,100
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	プロサッカーチームとの協働により、パラサッカーチームの競技力の向上を図れたと感じる。 特にドリブルやパスの意識に変化が見られ、プロサッカー選手から指導を受けたことによるものと感じる。 パラサッカーの普及に関しても一定の効果があった。メディアに取り上げられるなど影響力の高いプロサッカーチームとの協働あってこそのものと感じる。今後も協働していけるように関係を継続していきたい。 パラスポーツ指導員の育成について、現状では未達成であったと感じる。 今後、指導に当たったプロサッカー選手の中から、セカンドキャリアとしての選択肢の一つにしてもらえるよう、継続してイベントの開催を行いたい。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	様々な事業を通して、コロナ禍で希薄となったパラサッカーチームや特別支援学校、県サッカー協会、プロサッカーチームと連携、協力して継続した取り組みを推進可能なことを再確認できた。		
費用に関する所見	当初予定していたよりも費用を削減し、日程を追加することでき、有効活用することができた。 今回購入した備品は、今後も様々なパラサッカーの活動に役立てていきたいと感じる。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	今後も普及活動を継続、発展していくことが重要である。 そのために、継続して開催することが必要と感じるが、費用や会場の確保等クリアしなければいけない問題点も多い。 今回は、パラサッカーチームの活動支援に焦点を当てたものであった。構築した連携を生かして「パラサッカーに興味がある方」への参加の斡旋を行うことで活動の定着、更なる普及に繋げたい。また、多種目、多団体との連携にも取り組んでいきたい。		
参加者や 関係団体からの声	プロサッカー選手の技術力の高さを間近に体験することができ非常に満足との声が多かった。 考案メニューは、実際にプロサッカーチームの練習で行っているものであり、指導者の方からも参考になったとの声が聞かれた。 特に、パラサッカーフェスタはプロサッカー選手が実際に使用する芝のピッチで練習、交流を図ることができた。 女子サッカーに興味を持ち、実際に観戦に行ったとの報告も受け、相互に良い関係を構築できた。		
その他所見	上記にも記載したが、活動の継続、発展が重要である。		

新潟県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 【特別支援学校等巡回】

事業の様子

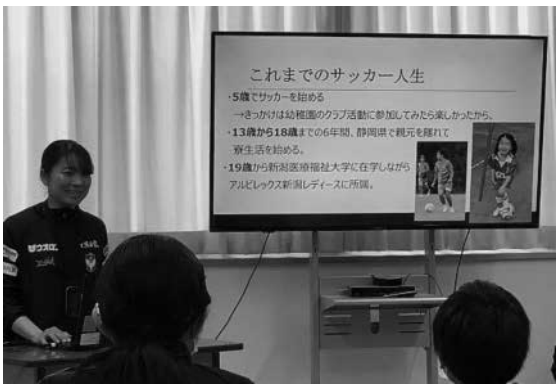
開催の挨拶の様様子

トレーニングメニューを説明する様子

トレーニングを実施する様子

パスの出し方について説明する様子

ミニゲームを行う様子



講話の様子

新潟県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（2） 【障害児･者フットサル教室】

事業の様子

参加者集合写真

会場設営の様子

選手考案メニューの説明

選手考案ウォーミングアップメニュー

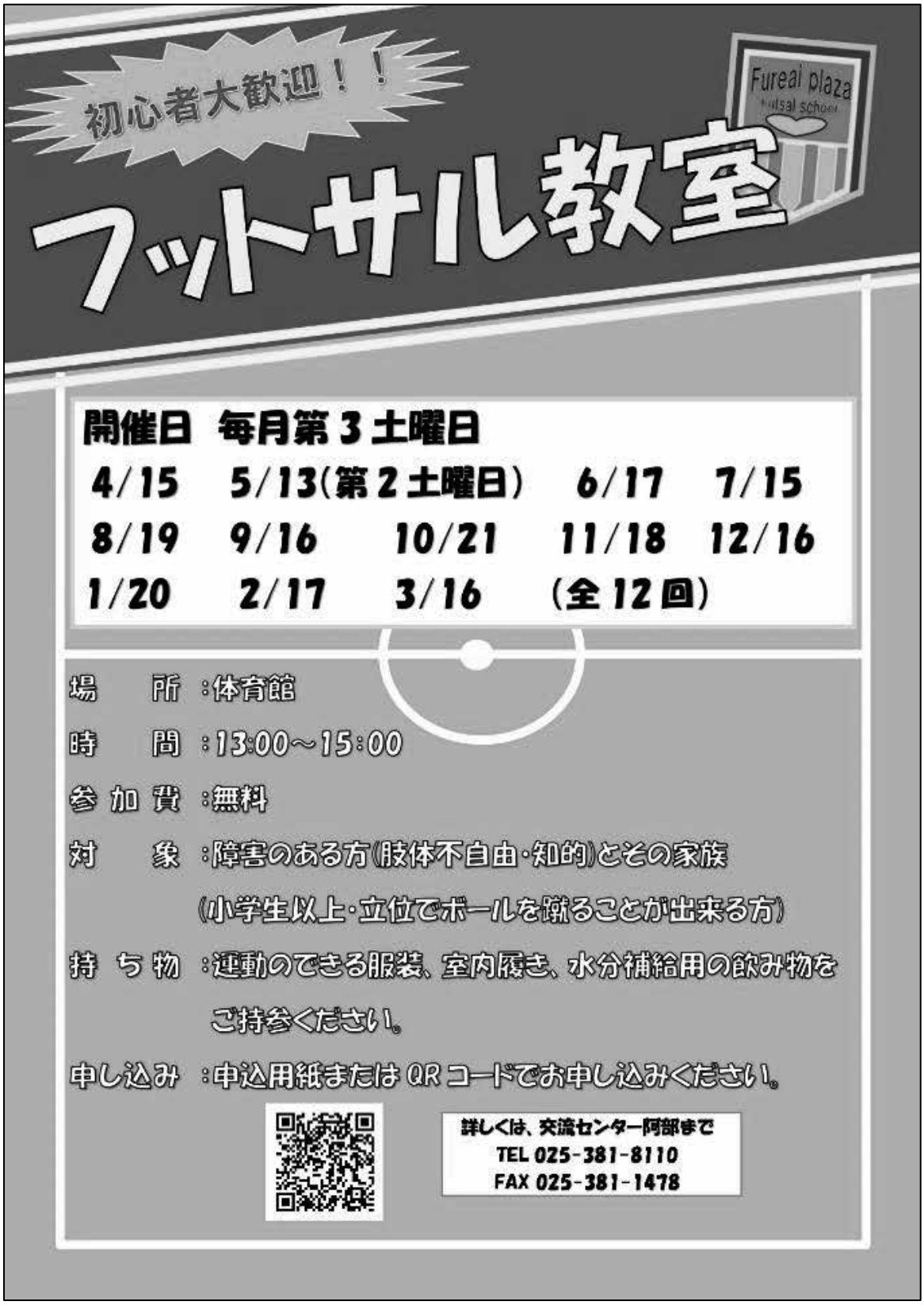
選手考案のサーキットメニュー

参加者へパスを出す様子

ミニゲームの様子①

ミニゲームの様子②

②資料


初心者大歓迎！！
フットサル教室
Fureai plaza
futsal school
開催日 毎月第３土曜日
4/15 5/13(第２土曜日) 6/17 7/15
8/19 9/16 10/21 11/18 12/16
1/20 2/17 3/16 (全12回)
場 所 :体育館
時 間 :13:00～15:00
参加費 :無料
対 象 :障害のある方(肢体不自由・知的)とその家族
(小学生以上・立位でボールを蹴ることが出来る方)
持ち物 :運動のできる服装、室内履き、水分補給用の飲み物を
ご持参ください。
申し込み :申込用紙またはQRコードでお申し込みください。
詳しくは、交流センター阿部まで
TEL 025-381-8110
FAX 025-381-1478

フットサル教室　申込用紙

利用証NO		※利用証をお持ちの方

（利用証をお持ちでない方は以下をご記入ください）

フリガナ		性別	男　　女
氏名		生年月日	年　月　日
住所			
連絡先	TEL	FAX	
障害名		□身体障害者手帳　　級 □療育手帳　A　B □精神障害者保健福祉手帳　　級 □その他（　　）	

（全員がご記入ください）　　※付き添いが必要な方はご自身でご用意ください

緊急連絡先 **※必須**	ふりがな 氏名	介助者	同伴　・　無
連絡先	TEL	FAX	
ご要望や不安な点をご記入ください			

※ご記入いただいた個人情報は目的外での使用はいたしません。
また、教室中に撮影した写真は広報等に使用する場合がございます。
あらかじめご了承ください。

【お問い合わせ】
新潟県障害者交流センター
950-0121　新潟市江南区亀田向陽1-9-1
TEL：025-381-8110　FAX：025-381-1478
担当：阿部

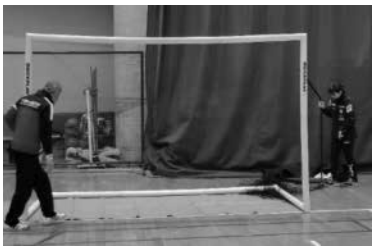
新潟県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（3） 【パラサッカーチーム競技力向上事業】

事業の様子

各パラサッカーチーム集合写真



会場設営の様子

練習前ミーティング様子

ボールタッチを説明する様子

参加者にパスを出す様子

シュート練習の様子

ウォームアップを行う様子

参加者にパスを出す様子

ミニゲームの様子①

ミニゲームの様子②

練習前のミーティングの様子

ポジションについて話す様子①

ポジションについて話す様子②

ミニゲームの様子

トラップ練習の様子

パス練習の様子

新潟県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（4）　【パラサッカーフェスタ With アルビレディース】

事業の様子

開会式の様子

選手考案ウォーミングアップメニュー①

選手考案ウォーミングアップメニュー②

選手考案ウォーミングアップメニュー③

選手考案ドリブルメニュー①

選手考案ドリブルメニュー②

シュート練習①

シュート練習②

ミニゲームチーム分けの様子

ミニゲームの様子①

ミニゲームの様子②

閉会式　質疑応答の様子

参加者集合写真

ファンサービスを行う様子

資料②

令和５年度「地域におけるパラスポーツの振興事業」委託事業

パラサッカーフェスタ

with アルビレックス新潟レディース

アルビレディースの選手たちと交流して
サッカーを楽しむイベントを開催！
多くのパラサッカーをされている
皆様のご参加をお待ちしております。

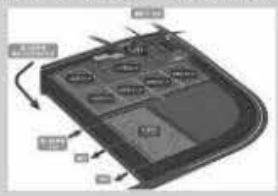
参加費無料

日時 **9/10** 日 **13:00~16:00**

12:30~ 受付
13:00~ 開講式
クリニック / 交流ゲーム / サイン会・記念撮影

会場 **新潟聖籠スポーツセンター**

アルビレッジサッカー場　Dピッチ
〒957-0101　新潟県北蒲原郡聖籠町東港 5-914-2



対象 **パラサッカー愛好チーム、愛好者**
支援者、保護者の方

定員50名

（講師：アルビレックス新潟レディースコーチングスタッフ・選手）

申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ、新潟県障害者交流センターまで
ご持参またはメールにてお送り下さい。

主　　催：新潟県障害者交流センター
共　　催：新潟県障害者スポーツ協会・新潟県障がい者スポーツ指導者協議会
　　各パラサッカーチーム
後　　援：新潟県サッカー協会
運営協力：アルビレックス新潟レディース

お問合せ：新潟県障害者交流センター　担当：丸田、阿部
〒950-0121　新潟市江南区亀田向陽 1-9-1 新潟ふれ愛プラザ内
TEL：０２５－３８１－８１１０
FAX：０２５－３８１－１４７８　E-mail：kouryuu@n-fureaiplaza.com

パラサッカーフェスタ
～with アルビレディース～　申込書

フリガナ		性別	男　　女
氏名		生年月日	年　月　日
住所			
連絡先	電話	メール	

（全員がご記入ください）

緊急連絡先 **※必須**	ふりがな 氏名	介助者	同伴　・　無
連絡先	電話	メール	
ご要望や不安な点をご記入ください			

パラサッカーフェスタ
～with アルビレディース～　申し込み用紙

団体名			
ふりがな			
代表者名		生年月日	年　月　日
住所	〒　－		
連絡先	電話番号	メールアドレス	

	団体参加者氏名	保険加入の為、生年月日を記入ください。	
1		生年月日	年　月　日
2		生年月日	年　月　日
3		生年月日	年　月　日
4		生年月日	年　月　日
5		生年月日	年　月　日
6		生年月日	年　月　日
7		生年月日	年　月　日
8		生年月日	年　月　日
9		生年月日	年　月　日
10		生年月日	年　月　日
11		生年月日	年　月　日

※参加者多数の場合には、複数枚に分けてご提出ください。

令和5年9月14日　新潟日報

蹴る楽しさを一緒に

パラサッカー　聖籠でイベント　アルビL選手と交流

アルビレックス新潟レディースの選手と一緒にボールを蹴り、汗を流す参加者たち＝聖籠町東港5

障害があっても楽しめるスポーツの普及拡大につなげようと、障害者とWEリーグ・アルビレックス新潟レディースの選手たちがサッカーで交流するイベントが、聖籠町東港5の新潟聖籠スポーツセンターで開かれた。県内のパラサッカーチームなどから約50人が参加し、一緒にボールを蹴って汗を流した。

県障害者交流センターが主催し、10日に行った。アルビレディースからは、橋川和晃監督や前日の公式戦に出場した選手を含む8人が参加した。

この日のメニューは、交流センターにも勤務するFW武田あすみ選手(23)が考案。コーチが掲げた色のパイロンを目がけてドリブルする練習など、聴覚障害者も分かりやすいよう配慮した。選手も交えたゲームでは、橋川監督も眼鏡を外して加わった。

聴覚障害のある参加者は返礼にと、「アイシテルニイガタ」を表す手話を伝授。選手たちは早速、やり方を覚えて喜んでいた。

参加した南隆行さん(39)は「憧れの選手たちとサッカーができた」と感激した様子。武田選手は「サッカーが好きな気持ちは、障害がある人もない人も同じ。交流の機会を増やしたいし、私も障害者サッカーの魅力を広めていきたい」と話していた。

【精神障がい者バスケットボール推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2023-2024】

◆ソーシャルバスケットボールキャラバン 2023-2024 仙台ラウンド

◆ソーシャルバスケットボールキャラバン 2023-2024 佐賀ラウンド

◆ソーシャルバスケットボールキャラバン 2023-2024 岡山ラウンド

◆ソーシャルバスケットボールキャラバン 2023-2024 三重ラウンド

NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
◆計画書作成者	鎗田英樹		
◆企画・実施担当者	鎗田英樹	◆経理担当者	鎗田英樹

全体事業名称	精神障がい者バスケットボール推進事業 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024
委託費	75万円
地域の実情・課題点	精神障がい者を対象とした第3の競技としてバスケットボールの実施・普及に努めてきたが、その認知度は十分ではない。また当事者や家族から「バスケットボールをやりたいが、どうしたらよいか」、「近くにチームはないか」との問い合わせが多々来るが、実施・普及も十分でなく、実施の機会を提供出来ていない。また関心のある支援者でも精神障害者の行うバスケットボールをイメージできず、敬遠してしまうものも多い。十分な広報と実施機会の提供、先入観の打破が大きな課題である。また、実施・普及を行うにあたり、現地支援者の不足も新たな課題となっている。
総合的な事業の目的	精神障がい者を対象とした競技性スポーツは全国の精神障害者総数に対し十分な競技数とは言えず、また精神障がいのある人が気軽に競技性スポーツを楽しめる環境は整っていない。当会が推進するバスケットボールについても、世界的に競技人口の多い種目であるにも関わらず、認知度の低さと実施機会の少なさからチームや大会が一部の地域に偏った状況にある。そのため、本事業を実施することで精神障害バスケットボールの周知を図るとともに、交流会を介して誰もが気軽にバスケットボールを楽しめるような環境を整えたいと考える。
総合的な事業のねらい	本事業では、精神障がい者がバスケットボールを行う機会を設けるとともに、支援者の掘り起こしを行うことで本活動が終了した後でも現地でバスケットボールが行えるようなサポート体制の構築を行っていきたい。具体的には、開催県に1名以上の地域推進委員の確保およびチームの設立を一つの目標とし、ニーズを持つ当事者が地域推進委員を通じてチームにつながれる体制を整えることである。

事業名	
事業①	ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ2023-2024　仙台ラウンド
事業②	ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ2023-2024　佐賀ラウンド
事業③	ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ2023-2024　岡山ラウンド
事業④	ｿｰｼｬﾙﾊﾞｽｹｯﾄﾎﾞｰﾙｷｬﾗﾊﾞﾝ2023-2024　三重ラウンド
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会			
事 業 名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024 仙台ラウンド			
事業内容	宮城県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催	支援者を対象とした事前オンラインセミナー		
開催日時	2023年9月30日(土) 13:00～16:00	2023年9月17日(日) 21:00～21:30		
会　場	宮城野体育館 障害者アリーナ 〒983-0039 宮城県仙台市宮城野区新田東4丁目1−1	Teamsによるオンライン研修		
参 加 者	当事者:8名 支援者:8名	事前登録者1名 参加者　1名		
人員体制	JSBA理事3名 当事者選手1名	講師 鎗田英樹 安藤俊輔		
連携団体名 (箇条書き)	協力: 福島Dreams、青森Wandaji 後援: 仙台市、仙台89ers 一般社団法人仙台市障害者スポーツ協会 一般社団法人宮城県バスケットボール協会 一般社団法人宮城県作業療法士協会 一般社団法人宮城県精神保健福祉士会 宮城県精神がい者家族会連合会			
実際の事業での 連携団体の役割	広報 体育館確保 運営協力 運営補助者派遣 グッズ提供			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	当日の運営補助		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	3
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	3
スポーツ用具の 整備・活用について	交流会時におけるビブスの活用			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会			
事 業 名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024 佐賀ラウンド			
事業内容	佐賀県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催	支援者を対象とした事前オンラインセミナー		
開催日時	2023年9月9日(土) 13:00～16:00	2023年8月27日(日) 21:00～21:30		
会　場	SAGAパラスポーツセンター 〒840-0851 佐賀県佐賀市天祐1丁目8-5	Teamsによるオンライン研修		
参 加 者	当事者:24名 支援者: 6名 来 賓: 1名	事前登録者0名 参加者 0名		
人員体制	JSBA理事3名 当事者選手3名(1名理事兼任)	講師 鎗田英樹 坂本夏代		
連携団体名 (箇条書き)	後援:一般社団法人佐賀県パラスポーツ協会 一般社団法人佐賀県バスケットボール協会 一般社団法人佐賀県作業療法士協会 佐賀県精神がい者家族会連合会 佐賀バルーナーズ			
実際の事業での 連携団体の役割	広報 体育館確保 運営協力 運営補助者派遣 グッズ提供			
本事業における 障がい者スポーツ 指導者の役割・活用 について	当日の運営補助		本事業における 障がい者スポーツ指導員の実人数	2
			本事業における 障がい者スポーツ指導員の延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	交流会時におけるビブスの活用			

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
事 業 名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024 岡山ラウンド		
事業内容	岡山県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催	支援者を対象とした 事前オンラインセミナー	
開催日時	2023年10月14日(土) 13:00～16:00	2023年10月1日(日) 21:00～21:30	
会　場	岡山市障害者体育センター 体育館 〒700-0843 岡山県岡山市北区二日市町56番地	Teamsによるオンライン研修	
参 加 者	当事者:9名 支援者:4名	事前登録者4名 参加者　　2名	
人員体制	JSBA理事3名 当事者選手2名	講師 鎗田英樹 松下美智子	
連携団体名 (箇条書き)	後援:一般社団法人岡山県障害者スポーツ協会 一般社団法人岡山県バスケットボール協会 岡山県精神保健福祉士協会 岡山県公認心理師・臨床心理士協会 一般社団法人岡山県作業療法士協会 特定非営利活動法人岡山県精神障がい者家族会連合会 トライフープ岡山		
実際の事業での 連携団体の役割	広報 体育館確保 運営協力 運営補助者派遣 グッズ提供		
本事業における 障がい者スポーツ 指導者の役割・活用について	当日の運営補助	本事業における 障がい者スポーツ 指導員	3
		本事業における 障がい者スポーツ 指導員	3
スポーツ用具の 整備・活用について	交流会時におけるビブスの活用		

各事業における事業報告シート

実施協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会			
事 業 名	ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024　三重ラウンド			
事業内容	三重県および近隣県在住の精神障がい者とその家族、支援者などを対象としたバスケットボール交流会の開催	支援者を対象とした事前オンラインセミナー		
開催日時	2023年10月7日(土) 11:00～13:00	2023年9月24日(日) 21:00～21:30		
会　場	四日市市楠体育館 〒510-0103 三重県四日市市楠町北五味塚 1215-1	Teamsによるオンライン研修		
参 加 者	当事者:8名 支援者:1名	事前登録者3名 参加者　　1名		
人員体制	JSBA理事2名	講師　鎗田英樹 坪井啓介		
連携団体名 （箇条書き）	協力:三重ソーシャルフットボール・　コミュニティー 後援: 一般社団法人三重県障がい者スポーツ協会 一般社団法人三重県作業療法士協会 特定非営利活動法人三重県精神保健福祉会 三重県精神保健福祉士協会 株式会社ヴィアティン三重BB			
実際の事業での 連携団体の役割	広報 体育館確保 運営協力 運営補助者派遣 グッズ提供			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	当日の運営補助		本事業における 障がい者スポーツ 指導員の実人数	2
			本事業における 障がい者スポーツ 指導員の延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について	交流会時におけるビブスの活用			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会		
全体事業名称	精神障がい者バスケットボール普及事業 ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024		
委託費	750,000	決算額	824,542
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	本事業では、精神障がい者を対象としたバスケットボールの交流会を開催することで精神障害バスケットボールの周知を図るとともに、交流会を介して誰もが気軽にバスケットボールを楽しめるような環境を整えることとした。結果、4ラウンドにて当事者69名が参加し、一定の成果を得た。しかし地域差が大きく、事業への反応は様々であった。特に主となる支援者につながることの出来ない地域では、実施普及が困難であった。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	これまで活動実績のなかった佐賀県、岡山県、三重県の他に大分県など他県からの参加が見られた。また新たに4名が地域推進委員として加わることとなり、全国大会にも新規参加チームが出るなど見える形での結果が出た。		
費用に関する所見	申請後、他理事の要請から急遽謝金を増額したため、結果自己負担金が増加した。かなり財政を圧迫する形となったため、今後は申請内容について理事会にて事前検討し、認識の違いが生じないよう配慮したい。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	仙台ラウンドは2期連続での開催としたが、軸になる支援者を確保できず、また十分な参加者も集めることが出来なかった。今後は大都市圏であることを期待値とせず、十分な支援体制が期待できる都道府県を選択したい。一方で岡山県のように十分な体制が整った県もみられる。前年度の事業にて四国は3県で取り組みが見られ、かつ十分な支援体制もあるため、次年度以降は単独県でのキャラバン開催ではなく、地区単位での交流会を開催することで実施普及に弾みをつけたいと考える。		
参加者や 関係団体からの声	【岡山県関係団体】 大変、よい試みだと思い。最近はバレーボールも一部でしか行われなくなってきた。バスケットボールでまた活発な活動をしてほしい。 岡山では会場を確保するのが難しい。病院と提携してはどうか 【三重県参加者】 初めて行ったが、楽しかった。また参加したい。		
その他所見	特になし		

宮城県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1）　【事業名】仙台ラウンド

設営の様子

フリースロー大会景品

パス回し練習

フリースロー大会

ミニゲームの様子

全体集合写真

②資料 開催要項

精神障碍のある人を対象としたバスケットボール競技推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2023-2024

（仙台ラウンド版）

1．目的　　本事業の目的は、宮城県において精神障碍者を対象としたバスケットボール交流会等を行うことで、精神障碍者スポーツの普及啓蒙を図ることです。また、交流会を通してニーズを持つ当事者やご家族、支援者等とネットワークを構築し、地域において日常的にバスケットボールが行えるよう、チーム設立の機会と出来るよう援助することです。

2．主催　　NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会
協力　　福島 Dreams、青森 Wandaji
後援　　仙台市、仙台 89ERS
一般社団法人 仙台市障害者スポーツ協会
一般社団法人 宮城県バスケットボール協会
一般社団法人 宮城県作業療法士会
一般社団法人 宮城県精神保健福祉士協会
宮城県精神障がい者家族連合会
その他　　本事業は、令和５年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」として、実施されます。

3．スケジュール

2023 年９月 30 日（土）
13：00　　受付開始
13：30　　交流会開始
16：00　　終了

4．開催場所　　宮城野体育館　障害者アリーナ
（〒983-0039　宮城県仙台市宮城野区新田東４丁目１番１号）
https://www.spf-sendai.jp/sisetsu/gym/genki-gym.html

5．参加資格　　精神障碍者および家族、支援者、友人、他趣旨にご賛同いただける方

6．参加費用　　無料

7．参加上の注意

・アクセサリーの着用は禁止とします。眼鏡についても同様で、スポーツゴーグルやコンタクトレンズなど各自にて対策をとってください。

・体育館での交流会となりますのでバスケットボールシューズ、もしくは室内用運動靴を使用して下さい。
・貴重品の管理は各自でお願いします。紛失等があっても主催者側では一切の責任を負いかねます。
・交流会中の傷害事故等については、その保障の範囲は主催者加入の保険の範囲とします。
・交流会参加に際して、病状の面などから主催者が参加困難と判断した際には、参加をご遠慮いただく場合があります。

8. 申込先　　下記メールにてお申し込みください
Mail　：　fksm_md_bc@yahoo.co.jp
福島 Dreams　代表　安藤俊輔（あんどうしゅんすけ）まで

9. 申込締切り　原則、各開催日の 1 週間前までとします。なお当日参加も受け付けますが保険加入が出来ない可能性がありますので、安全管理については自己責任であることを了解の上、ご参加ください。

10. 問合せ先　　福島 Dreams　代表　安藤俊輔（あんどうしゅんすけ）まで
Mail　：　fksm_md_bc@yahoo.co.jp

11. 連絡
・広報のため、交流会の様子について画像をメディアに公開する予定です。どうぞご了承下さい。
・開催の可否については、厚生労働省およびスポーツ庁の指針に従い判断致します。
・駐車場は有料ですが、障害者手帳の提示で無料となります。必要な方はご持参ください。

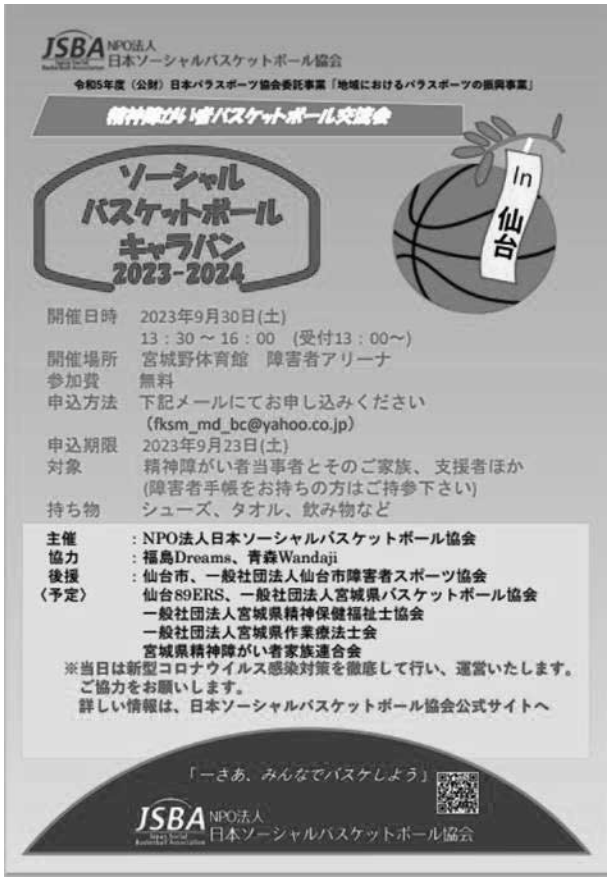
参加する上での注意事項

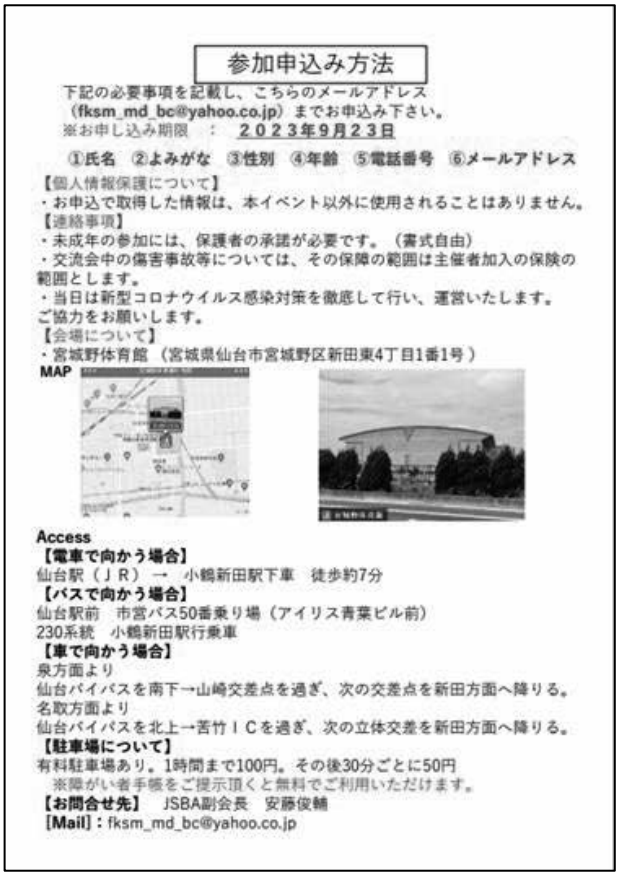
本イベントは令和５年３月９日更新版（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本障がい者スポーツ協会が定めた「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、開催致します。以下の点に御留意いただき、ご参加ください。

〇注意事項
・マスクの着用は、任意です。
・こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行ってください。
・イベント終了後 10 日以内に新型コロナウィルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告してください。

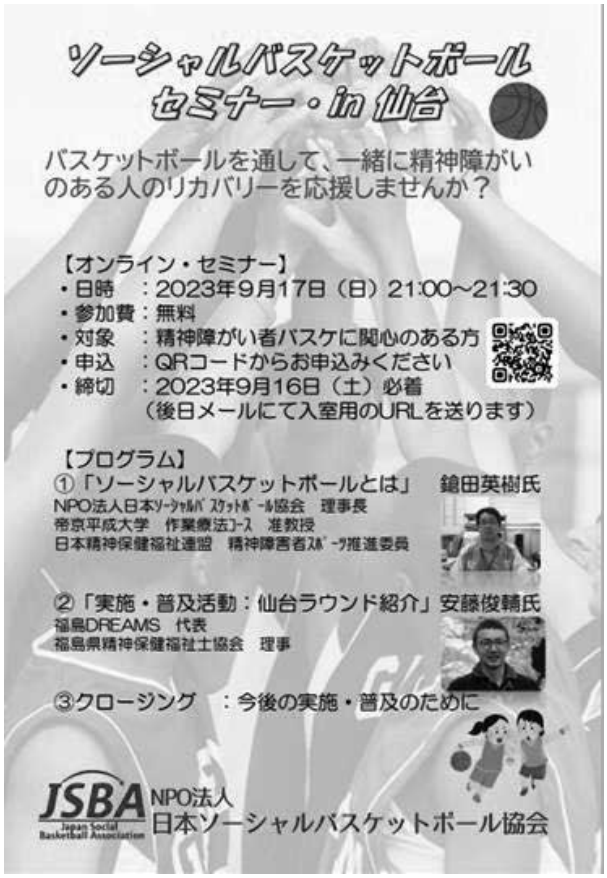
〇当日の事項
・発熱が軽度であっても咳・頭痛などの症状がある人は、参加を控えてください。
・受付で検温致しますので、ご協力の程お願いします。
・健康管理表の提出をお願い致します（公式 HP よりダウンロードできます）
・こまめに水分補給を行って、熱中症予防につとめてください。

リーフレット（ラウンド用）





リーフレット（オンラインセミナー用）



佐賀県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（2）　【事業名】佐賀ラウンド

設営の様子

岩田和親衆議院による挨拶

ドリブルシュート練習

フリースロー大会

ミニゲームの様子

全体集合写真

②資料 開催要項

精神障碍のある人を対象としたバスケットボール競技推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2023-2024

（佐賀ラウンド版）

1．目的　　本事業の目的は、佐賀県において精神障碍者を対象としたバスケットボール交流会等を行うことで、精神障碍者スポーツの普及啓蒙を図ることです。また、交流会を通してニーズを持つ当事者やご家族、支援者等とネットワークを構築し、地域において日常的にバスケットボールが行えるよう、チーム設立の機会と出来るよう援助することです。

2．主催　　NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

後援　　一般社団法人 佐賀県パラスポーツ協会
一般社団法人 佐賀県バスケットボール協会
一般社団法人 佐賀県作業療法士会
佐賀県精神保健福祉連合会
佐賀バルーナーズ

その他　　本事業は、令和５年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」として、実施されます。

3．スケジュール　　2023 年９月９日（土）

13：00　　受付開始
13：30　　交流会開始
16：00　　終了

4．開催場所　　SAGA パラスポーツセンター　体育館
（〒840-0851 佐賀市天祐 1 丁目 8-5）
https://sasyouspo.sakura.ne.jp/activities/

5．参加資格　　精神障碍者および家族、支援者、友人、他趣旨にご賛同いただける方

6．参加費用　　無料

7．参加上の注意

・アクセサリーの着用は禁止とします。眼鏡についても同様で、スポーツゴーグルやコンタクトレンズなど各自にて対策をとってください。
・体育館での交流会となるのでバスケットボールシューズもしくは室内用運動靴を使用して下さい。
・貴重品の管理は各自でお願いします。紛失等があっても主催者側では一切の責任を負いかねます。
・交流会中の傷害事故等については、その保障の範囲は主催者加入の保険の範囲とします。
・病状の面などから主催者が参加困難と判断した際には、参加をご遠慮いただく場合があります。

8. 申込先　　下記の QR コードより、お申し込みください

QR コードが読み取れない方は必要事項を記入の上、メールでお申込み下さい。
Mail ： h.yarita@thu.ac.jp　鎗田英樹（やりたひでき）まで
※メールでの申込みの際は下記事項をご記入の上、送信してください。
①氏名 ②よみがな ③性別 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス

9. 申込締切り　原則、各開催日の 1 週間前までとします。なお当日参加も受け付けますが保険加入が出来ない可能性がありますので、安全管理については自己責任であることを了解の上、ご参加ください。

10. 問合せ先　帝京平成大学　健康医療スポーツ学部　作業療法コース
鎗田　英樹（やりたひでき）　まで
Mail　：　h.yarita@thu.ac.jp

11. 連絡　　今後の広報のため、交流会の様子について画像をメディアに公開する予定です。どうぞご了承下さい。また開催の可否については、厚生労働省およびスポーツ庁の指針に従い判断致します。

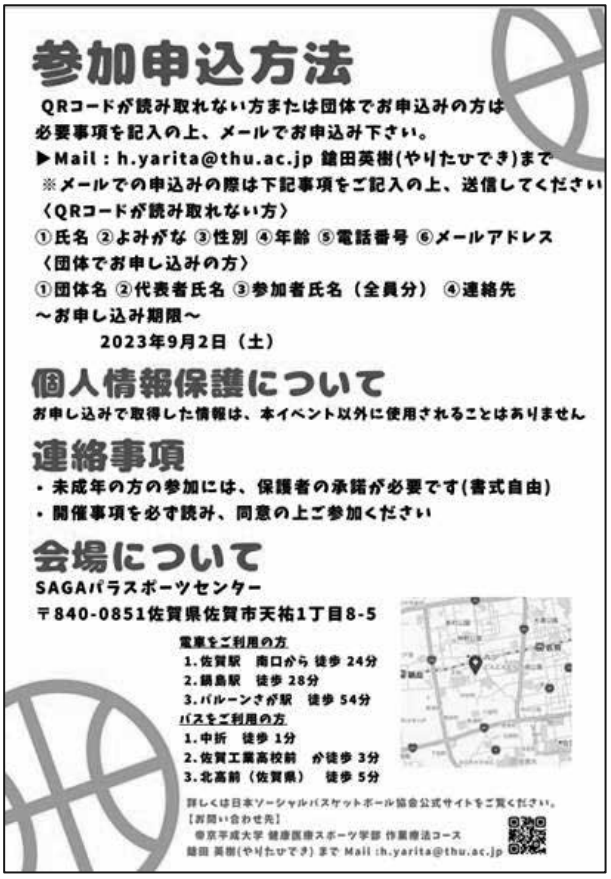
参加する上での注意事項

本イベントは令和５年３月９日更新版（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本障がい者スポーツ協会が定めた「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、開催致します。以下の点に御留意いただき、ご参加ください。

〇注意事項
・マスクの着用は、任意です。
・こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行ってください。
・イベント終了後 10 日以内に新型コロナウィルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告してください。

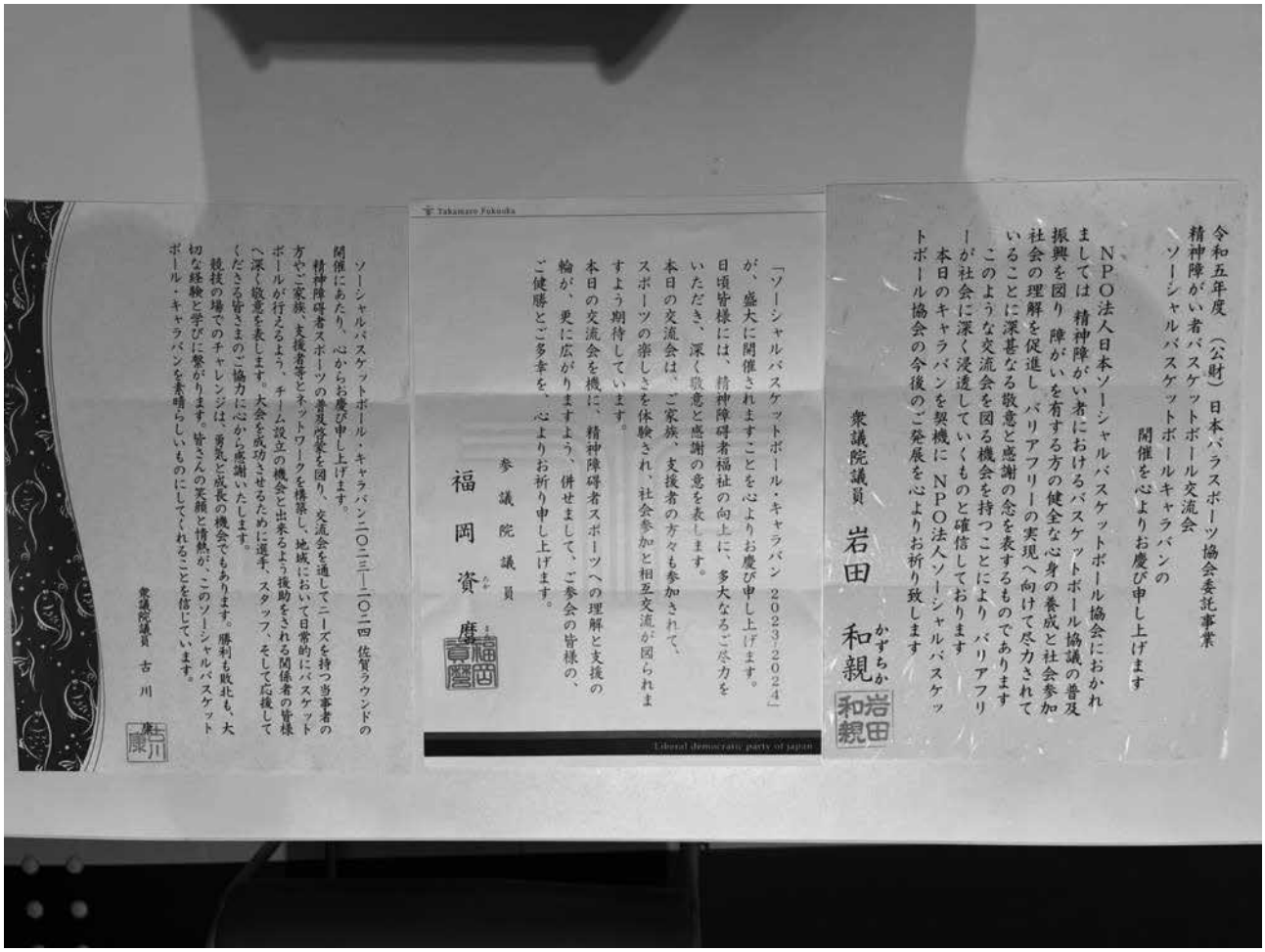
〇当日の事項
・発熱が軽度であっても咳・頭痛などの症状がある人は、参加を控えてください。
・受付で検温致しますので、ご協力の程お願いします。
・健康管理表の提出をお願い致します（公式 HP よりダウンロードできます）
・こまめに水分補給を行って、熱中症予防につとめてください。

リーフレット（ラウンド用）



リーフレット（オンラインセミナー用）

祝電



令和五年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業
精神障がい者バスケットボール交流会
ソーシャルバスケットボールキャラバンの
開催を心よりお慶び申し上げます

NPO法人日本ソーシャルバスケットボール協会におかれましては、精神障がい者におけるバスケットボール協議の普及振興を図り、障がいを有する方の健全な心身の養成と社会参加社会の理解を促進し、バリアフリーの実現へ向けて尽力されていることに深甚なる敬意と感謝の念を表するものであります。
このような交流会を図る機会を持つことにより、バリアフリーが社会に深く浸透していくものと確信しております。
本日のキャラバンを契機にNPO法人ソーシャルバスケットボール協会の今後のご発展を心よりお祈り致します

衆議院議員　岩田　和親（かずちか）

岩田和親

Takamaro Fukuoka

「ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024」が、盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。
日頃皆様には、精神障碍者福祉の向上に、多大なるご尽力をいただき、深く敬意と感謝の意を表します。
本日の交流会は、ご家族、支援者の方々も参加されて、スポーツの楽しさを体験され、社会参加と相互交流が図られますよう期待しています。
本日の交流会を機に、精神障碍者スポーツへの理解と支援の輪が、更に広がりますよう、併せまして、ご参会の皆様の、ご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。

参議院議員
福岡資麿（すけまろ）

福岡資麿

Liberal democratic party of japan

ソーシャルバスケットボール・キャラバン2023-2024 佐賀ラウンドの開催にあたり、心からお慶び申し上げます。
精神障碍者スポーツの普及啓発を図り、交流会を通してニーズを持つ当事者の方やご家族、支援者等とネットワークを構築し、地域において日常的にバスケットボールが行えるよう、チーム設立の機会と出来るよう援助をされる関係者の皆様へ深く敬意を表します。大会を成功させるために選手、スタッフ、そして応援してくださる皆さまのご協力に心から感謝いたします。
競技の場でのチャレンジは、勇気と成長の機会でもあります。勝利も敗北も、大切な経験と学びに繋がります。皆さんの笑顔と情熱が、このソーシャルバスケットボール・キャラバンを素晴らしいものにしてくれることを信じています。

衆議院議員　古川　康

古川康

岡山県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（3）　【事業名】岡山ラウンド

設営の様子

準備体操

パス練習

フリースロー大会

ミニゲームの様子

全体集合写真

②資料 開催要項

精神障碍のある人を対象としたバスケットボール競技推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2023-2024

（岡山ラウンド版）

1．目的　　本事業の目的は、岡山県において精神障碍者を対象としたバスケットボール交流会等を行うことで、精神障碍者スポーツの普及啓蒙を図ることです。また、交流会を通してニーズを持つ当事者やご家族、支援者等とネットワークを構築し、地域において日常的にバスケットボールが行えるよう、チーム設立の機会と出来るよう援助することです。

2．主催　　NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

後援　　一般社団法人 岡山県作業療法士会
一般社団法人 岡山県バスケットール協会
岡山県障害者スポーツ協会、岡山県県精神保健福祉士協会
岡山県公認心理師・臨床心理士協会
特定非営利活動法人　岡山県精神障害者家族会連合会
トライフープ岡山

その他　　本事業は、令和５年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」として、実施されます。

3．スケジュール　　2023 年 10 月 14 日（土）
13：00　　受付開始
13：30　　交流会開始
16：00　　終了

4．開催場所　　岡山市障害者体育センター　体育館
（〒700-0843 岡山市北区二日市町５６番地）
https://www.midori-gr.com/ostc/index.html

5．参加資格　　精神障碍者および家族、支援者、友人、他趣旨にご賛同いただける方

6．参加費用　　無料

7．参加上の注意

・アクセサリーの着用は禁止とします。眼鏡についても同様で、スポーツゴーグルやコンタクトレンズなど各自にて対策をとってください。
・体育館での交流会となるのでバスケットボールシューズもしくは室内用運動靴を使用して下さい。
・貴重品の管理は各自でお願いします。紛失等があっても主催者側では一切の責任を負いかねます。
・交流会中の傷害事故等については、その保障の範囲は主催者加入の保険の範囲とします。

・交流会参加に際して、病状の面などから主催者が参加困難と判断した際には、参加をご遠慮いただく場合があります。

8. 申込先　　下記の QR コードより、お申し込みください
https://forms.gle/iZCXyp5TZ7PQ2H5R6

QR コードが読み取れない方、または団体でのお申込みの方は、必要事項を記入の上メールでお申込み下さい。
Mail ： h.yarita@thu.ac.jp　鎗田英樹（やりたひでき）まで
※メールでの申込みの際は下記事項をご記入の上、送信してください。
【個人】①氏名 ②よみがな ③性別 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス
【団体】①団体名 ②代表者氏名 ③参加者氏名（全員分） ④連絡先

9. 申込締切り　原則、各開催日の 1 週間前までとします。なお当日参加も受け付けますが保険加入が出来ない可能性がありますので、安全管理については自己責任であることを了解の上、ご参加ください。

10. 問合せ先　帝京平成大学　健康医療スポーツ学部　作業療法コース
鎗田　英樹（やりたひでき）　まで
Mail　：　h.yarita@thu.ac.jp

11. 連絡　　今後の広報のため、交流会の様子について画像をメディアに公開する予定です。どうぞご了承下さい。また開催の可否については、厚生労働省およびスポーツ庁の指針に従い判断致します。

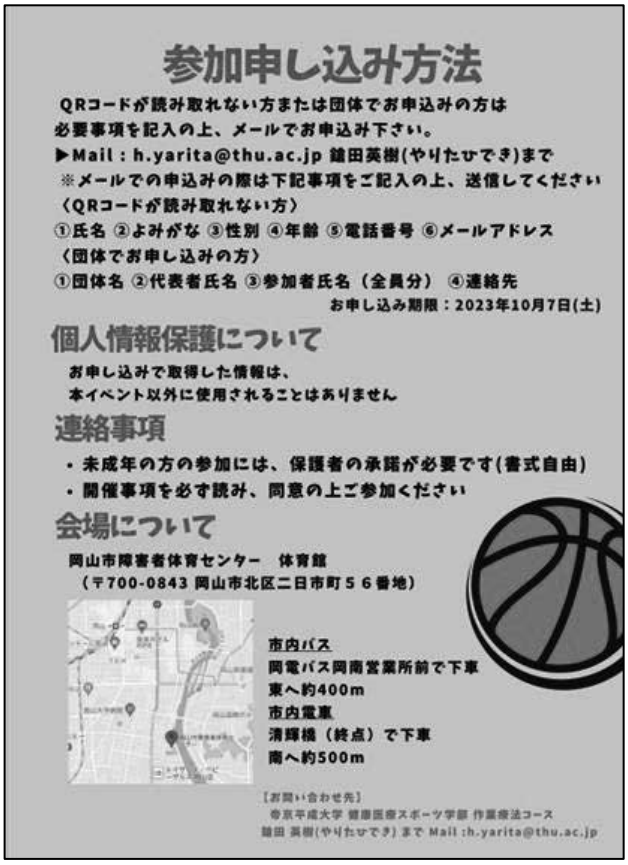
参加する上での注意事項

本イベントは令和５年３月９日更新版（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本障がい者スポーツ協会が定めた「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、開催致します。以下の点に御留意いただき、ご参加ください。

〇注意事項
・マスクの着用は、任意です。
・こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行ってください。
・イベント終了後 10 日以内に新型コロナウィルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告してください。

〇当日の事項
・発熱が軽度であっても咳・頭痛などの症状がある人は、参加を控えてください。
・受付で検温致しますので、ご協力の程お願いします。
・健康管理表の提出をお願い致します（公式 HP よりダウンロードできます）
※当日、会場でも配付致します。
・こまめに水分補給を行って、熱中症予防につとめてください。

リーフレット（ラウンド用）



リーフレット(オンラインセミナー用)

三重県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（4）　【事業名】三重ラウンド

設営の様子

パス練習の様子

ゴール下シュート練習の様子

フリースロー大会の様子

ミニゲームの様子

全体集合写真

②資料 開催要項

精神障碍のある人を対象としたバスケットボール競技推進事業

ソーシャルバスケットボール・キャラバン 2023-2024

（三重ラウンド版）

1．目的　　本事業の目的は、三重県において精神障碍者を対象としたバスケットボール交流会等を行うことで、精神障碍者スポーツの普及啓蒙を図ることです。また、交流会を通してニーズを持つ当事者やご家族、支援者等とネットワークを構築し、地域において日常的にバスケットボールが行えるよう、チーム設立の機会と出来るよう援助することです。

2．主催　　NPO 法人日本ソーシャルバスケットボール協会

後援　　株式会社ヴィアティン三重 BB
一般社団法人三重県作業療法士会
特定非営利活動法人三重県精神保健福祉会
三重県障がい者スポーツ協会
三重県精神保健福祉士協会

協力　　三重ソーシャルフットボール・コミュニティー

その他　　本事業は、令和５年度（公財）日本パラスポーツ協会委託事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」として、実施されます。

3．スケジュール　　2023 年 10 月７日（土）

10：30　　受付開始
11：00　　交流会開始
13：00　　終了

4．開催場所　　四日市市楠体育館｜四日市市スポーツ協会（y-sports.jp）
（〒510-0103　三重県四日市市楠町北五味塚 1215 番地 1）

5．参加資格　　精神障碍者および家族、支援者、友人、他趣旨にご賛同いただける方

6．参加費用　　無料

7．参加上の注意

・アクセサリーの着用は禁止とします。眼鏡についても同様で、スポーツゴーグルやコンタクトレンズなど各自にて対策をとってください。
・体育館で行うためバスケットボールシューズ、もしくは室内用運動靴を使用して下さい。
・貴重品の管理は各自でお願いします。紛失等があっても主催者側では一切の責任を負いかねます。
・交流会中の傷害事故等については、その保障の範囲は主催者加入の保険の範囲とします。
・病状の面などから主催者が参加困難と判断した際には、参加をご遠慮いただく場合があります。

8. 申込先　　下記の QR コードより、お申し込みください

QR コードが読み取れない方は必要事項を記入の上、メールでお申込み下さい。
Mail ： h.yarita@thu.ac.jp　鎗田英樹（やりたひでき）まで
※メールでの申込みの際は下記事項をご記入の上、送信してください。
①氏名 ②よみがな ③性別 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス

9. 申込締切り　原則、各開催日の 1 週間前までとします。なお当日参加も受け付けますが保険加入が出来ない可能性がありますので、安全管理については自己責任であることを了解の上、ご参加ください。

10. 問合せ先　帝京平成大学　健康医療スポーツ学部　作業療法コース
鎗田　英樹（やりたひでき）　まで
Mail　：　h.yarita@thu.ac.jp

11. 連絡　　今後の広報のため、交流会の様子について画像をメディアに公開する予定です。どうぞご了承下さい。また開催の可否については、厚生労働省およびスポーツ庁の指針に従い判断致します。

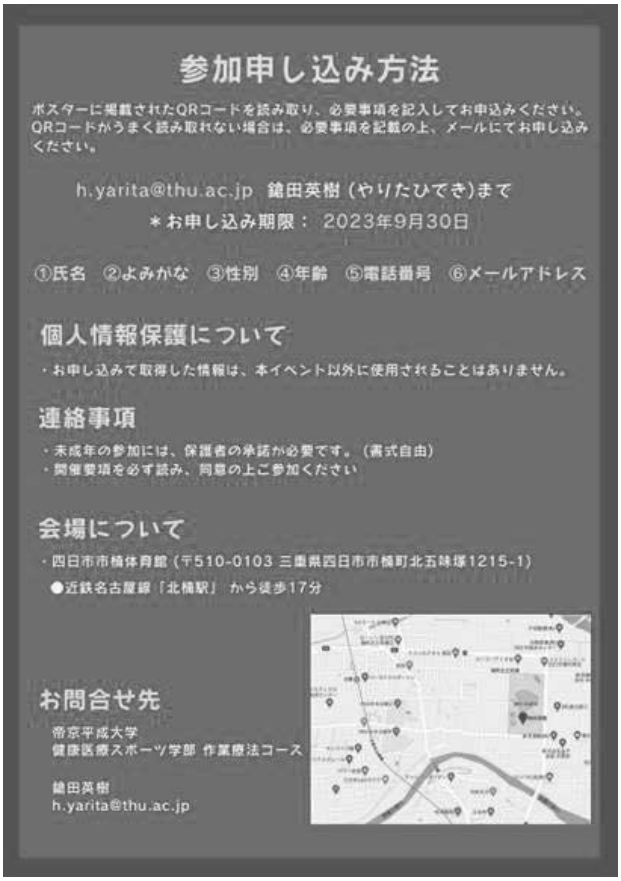
参加する上での注意事項

本イベントは令和５年３月９日更新版（公財）日本スポーツ協会及び（公財）日本パラスポーツ協会が定めた「スポーツイベントの再開に向けた感染拡大予防ガイドライン」を遵守し、開催致します。以下の点に御留意いただき、ご参加ください。

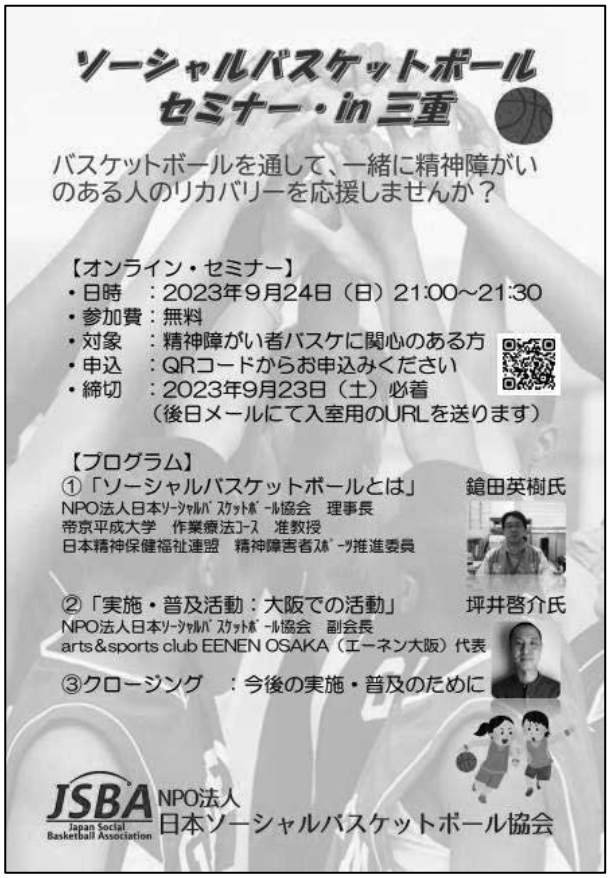
〇注意事項
・マスクの着用は、任意です。
・こまめな手洗い、アルコール等による消毒を行ってください。
・イベント終了後 10 日以内に新型コロナウィルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに報告してください。

〇当日の事項
・発熱が軽度であっても咳・頭痛などの症状がある人は、参加を控えてください。
・受付で検温致しますので、ご協力の程お願いします。
・健康管理表の提出をお願い致します（公式 HP よりダウンロードできます）
・こまめに水分補給を行って、熱中症予防につとめてください。

リーフレット（ラウンド用）



リーフレット（オンラインセミナー用）



【地域におけるパラカヌー普及振興事業】

◆パラカヌーサポーター講習会

◆選手練習会＆選手発掘体験会

◆パラカヌー体験会

一般社団法人日本障害者カヌー協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本障害者カヌー協会		
◆計画書作成者	上岡　央子		
◆企画・実施担当者	上岡　央子	◆経理担当者	上岡　央子

全体事業名称	地域におけるパラカヌー普及振興事業
委託費	1,800,000
地域の実情・課題点	・全国でパラカヌーの体験及び練習ができる環境が整っている地域とそうでない地域があるため、選手が発掘されても練習環境が作れていない状況。 ・障害者のカヌー体験を実施している地域が少なく、障害があっても楽しめるスポーツであるという認識が薄くなっており、他の多くのパラスポーツよりも体験機会が少ない。 ・地域におけるスポーツのユニバーサル化を掲げている中で、他のスポーツよりも地域や自治体主体で体験会の実施率が少ない。 ・危険というイメージが先走り、陸で実施する安全なパラスポーツの機会ばかりが増えている。
総合的な事業の目的	・地域で体験会から選手の練習機会まで、完結できる環境を作る ・遊びから競技に至るまで、地域の『人』『環境』『物』の環境を作り、地域におけるカヌースポーツのユニバーサル化を促進させる。
総合的な事業のねらい	・目的に応じた事業を地域へ浸透させることによって、地域主体となった活動へ発展させていく。 ・モデルケースを作り、各地域へ提案してどの地域でも統一した障害への理解が深まり、カヌーサポート体制が構築されること。

事業名	
事業①	パラカヌーサポーター講習会
事業②	選手練習会＆選手発掘体験会
事業③	パラカヌー体験会
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本障害者カヌー協会			
事 業 名	パラカヌーサポーター講習会			
事業内容	サポーター講習会の実施 ・障害の理解を深める ・協会の成り立ち ・パラカヌー競技の歴史 ・パラカヌー競技の説明 ・パラカヌーサポートについて			
開催日時	5月21日 京丹後市 7月8日 北海道滝川市 7月28日 石川県小松市 9月23日 東京都江戸川区カヌースラロームセンター 11月25日 大阪府高石市 12月2日 鹿児島県伊佐市			
会　場	京丹後市 久美浜カヌー競技場 滝川市 B&G海洋センター 石川県小松市 木場潟カヌー競技場 京都江戸川区 カヌースラロームセンター 大阪府高石市 浜寺漕艇センター 加護鹿健伊佐市 菱刈カヌー競技場			
参 加 者	京丹後市 久美浜カヌー競技場 20名 滝川市 B&G海洋センター 10名 石川県小松市 木場潟カヌー競技場 9名 京都江戸川区 カヌースラロームセンター 16名+再受講5名 大阪府高石市 浜寺漕艇センター 9名 加護鹿健伊佐市 菱刈カヌー競技場 23名			
人員体制	講師：上岡央子 サブ講師：石原望、朝日省一			
連携団体名 （箇条書き）	・京都府カヌー協会、京丹後市、ワールドマスターズ組織委員会 ・滝川市生涯スポーツ課、B&Gセンター ・小松市スポーツ振興課、石川県カヌー協会 ・株式会社協栄 ・大阪府障害者スポーツ協会、障害者スポーツ指導者協議会、大阪府ボート協会 ・伊佐市、伊佐市教育委員会、伊佐市カヌー協会、鹿児島県カヌー協会			
実際の事業での 連携団体の役割	広報、開催周知など 行政側の方の参加など			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	特に調査無		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について				

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本障害者カヌー協会			
事 業 名	選手練習会＆選手発掘体験会			
事業内容	大阪府高石市にある、ボート協会の拠点である漕艇場において、園主の定期的な練習会の開催と、それに合わせて選手発掘を含めた体験会の実施。 選手のサポートの発掘も含めて、まずは大阪府下で競カヌーの拠点を作ることを目的として、定期的な開催によるパラカヌーの認知度を向上させる。			
開催日時	7月9日　日曜日　10時～15時 9月3日　日曜日　10時～15時 9月24日　日曜日　10時～15時 10月15日　日曜日　10時～15時 11月26日　日曜日　10時～15時 12月17日　日曜日　10時～15時			
会　場	大阪府浜寺漕艇センター			
参 加 者	地元の障害当事者、その家族、知人など。			
人員体制	トレーナー副部長　田中孝弥 クラス分け委員長　川崎真嗣 を中心として、選手、カヌー指導の委託業者のコーチ、サポーターなど			
連携団体名 （箇条書き）	大阪府ボート協会、大阪府障害者指導者協議会、大阪府障害者スポーツ協会			
実際の事業での 連携団体の役割	広報周知			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	特になし		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	
スポーツ用具の 整備・活用について	艇ラックの設置			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本障害者カヌー協会			
事 業 名	パラカヌー体験会			
事業内容	パラカヌー体験会＆選手交流会			
開催日時	12月3日			
会　場	菱刈カヌー競技場			
参 加 者	地元の方、障害福祉団体、カヌーチーム、カヌー協会、パラカヌー選手（次世代育成と強化）、スタッフ、普及委員会			
人員体制	普及委員会による企画運営5名 強化スタッフ5名 選手による現場サポート8名			
連携団体名 （箇条書き）	伊佐市カヌー協会、鹿児島県カヌー協会、RiverSportsClub			
実際の事業での 連携団体の役割	カヌー体験会の水上レスキュー、艇のレンタル、体験会運営、			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	特に調査なし	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数		
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数		
スポーツ用具の 整備・活用について	特になし			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本障害者カヌー協会		
全体事業名称	地域におけるパラカヌー普及振興事業		
委託費	1800000	決算額	1798463
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	・講習会のアンケート調査によると、満足度80パーセント以上となっており、聞いたことがなかった、学びにつながったなどの声がある。 ・再受講を求める声も上がっており、継続した実施による効果と考える。 ・初回はこちら予算で実施したものが、自治体予算で実施できるようになったことは、次年度新しい場所へ導入できる予算が回せるため、10年プランの進行状況としては順調である。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	・自治体からの委託や継続した講習会実施の希望が増えた。 ・再受講開催や自治体主体で委託されることも増えた ・体験会の参加者の増加、サポーターが増加した。 ・地域によって、課題意識のばらつきがあることが分かった。 ・導入場所の選定が継続した実施や地域の成長を左右するため、視察や初回の打ち合わせが重要である。		
費用に関する所見	・年々、開催するにつれて受講生(体験者)が増えていることもあり、開催場所によっては特に大きな費用が掛かってこないことが分かった。 ・屋外スポーツなので、基本的には施設利用料などが高額となることはないが、備品がそろっていない地域もあるため購入して導入するか開催場所を変更するかの検討が必要。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	・3年間で定着してきた流れを、3か年計画として落とし込む。モデルケースをいくつか作り、自治体や健常団体と連携した取り組みが全国に広がるようシステム化する。 ・1年目　サポーター講習会 ・2年目　1年目に育成した人材を活用した体験会 ・3年目　自治体予算による体験会もしくは講習会の実施　講師派遣やオブザーバー参加を行う		
参加者や関係団体からの声	・受講生から、障害について改めて考えて理解が深まった。 ・必ずパラカヌーの環境を作ることができると感じた ・サポ―トに関して難しいと思ったが、カヌーを知らない自分でもできることがあるとわかった。 ・楽しく学びが多い機会だった ・次回はもっといろいろな方に声をかけて参加したい		
その他所見	・水の上で遊ぶ中で、障害を有無をお互いに忘れるような感覚になり、声を掛け合い笑いあって楽しむことができている。 ・ある意味、カヌーに乗って水の上で遊ぶことは共生社会を具現化されたものと感じている。 ・障害の正しい理解と、その考え方は一人一人固定観念があり異なっているが、障害を深堀して考えるとそれぞれの中に答えが見えてくる。		

地域におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真
（1）　【事業名】パラカヌーサポーター講習会

事業の様子

②資料
・講習資料あり
・協会の成り立ちと協会紹介

地域におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真
（2）　【事業名】選手練習会＆選手発掘体験会

事業の様子

②資料
なし

地域におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真
（2）【事業名】パラカヌー体験会＆選手交流会
　事業の様子
https://youtu.be/IiJtBOBuakU

【岡山オープンパラパワーリフティング大会】

◆岡山オープンパラパワーリフティング大会

特定非営利活動法人日本パラ・パワーリフティング連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
◆計画書作成者	岡本孝義		
◆企画・実施担当者	岡本孝義	◆経理担当者	吉田彫子

全体事業名称	岡山オープンパラパワーリフティング大会
委託費	100万円
地域の実情・課題点	現在、パラ・パワーリフティングの地方協会は国内になく、選手の育成や競技の普及振興は中央競技団体であるJPPFが行っている。岡山県には、岡山パラ・パワーリフティングクラブとして、数名の選手が岡山在住のコーチ(岡本)と共に、トレーニングに励んでいるが、競技普及振興については、地方組織を作っていないため個人単位で行っている状況である。また、岡山の健常者パワーリフティング協会もパラ・パワーリフティングと一緒に競技をやり地域振興を行いたいと考えているがその場がまだない。さらに、岡山で公認審判員資格を持っているのは先述のコーチ(岡本)1名のみであり、地方だけ大会運営はできない状況である。
総合的な事業の目的	・事業名に込めているのは「～岡山(で)オープン(障害の有無に関係なく誰にでも開かれたインクルーシブな)パラパワーリフティング大会」 ・日本パラ・パワーリフティング連盟公認審判講習会も同時に実施し、岡山県パラ・パワーリフティング連盟が設立できるためのメンバーを増やす狙い
総合的な事業のねらい	岡山県パラ・パワーリフティング連盟設立に向けた関係者・仲間づくりの機会として、「岡山オープン　パラ・パワーリフティング大会」を開催するとともに、パラ・パワーリフティング選手の出場できる大会を増やし、本大会を全日本選手権の標準記録を取得できる大会にすることで強化育成の一端を担うことを目指す。(現在の国内大会は全日本選手権とチャレンジカップ京都大会のみ、全日本選手権は高い標準記録が設定されているため育成レベルの選手にとっては試合に出られるのはチャレンジカップのみの年に1回となっている。)また、健常者もパラと同じルール、体重カテゴリーで競うようにすることで、パラの選手にとっては競い合う相手が増え大会の面白味を増やし、健常者にとっては、パラパワーリフティングの面白さや中々触れ合うことのなかったパラ選手を身近に感じてもらうことで相互理解を進めることを目指し、競技性と社会性のある活動とする

事業名	
事業①	岡山オープンパラパワーリフティング大会
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
事 業 名	岡山オープンパラパワーリフティング大会		
事業内容	岡山オープンパラパワーリフティング大会を開催し、健常者とパラ選手が入り混じって大会を行い相互理解を深めていく。また、審判講習会も開催し地方組織や大会を支える人材も確保する。		
開催日時	2023年9月9日審判講習会 2023年9月10日岡山オープンパラパワーリフティング大会		
会　場	杜の街テラスピクニック		
参 加 者	パラ21名、健常者23名		
人員体制	岡山パラパワーリフティングクラブ 岡山県パワーリフティング協会(健常者) 岡山商科大学ウェイトトレーニング部 岡山大学ウェイトトレーニング部		
連携団体名 (箇条書き)	・岡山パラパワーリフティングクラブ ・岡山県パワーリフティング協会 ・岡山商科大学ウェイトトレーニング部 ・岡山大学ウェイトトレーニング部 ・岡山市 ・おかやまスポーツプロモーション機構 ・岡山障がい者スポーツ協会		
実際の事業での 連携団体の役割	・岡山パラパワーリフティングクラブ→大会計画、運営 ・岡山県パワーリフティング協会→大会運営 ・岡山商科大学ウェイトトレーニング部→大会運営 ・岡山大学ウェイトトレーニング部→大会運営 ・岡山市→広報 ・おかやまスポーツプロモーション機構→広報 ・岡山障がい者スポーツ協会→広報		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	大会運営やスポッターローダーのチーフ等、大会運営時の主要メンバーを担う。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	5
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	5
スポーツ用具の 整備・活用について			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	日本パラ・パワーリフティング連盟		
全体事業名称	岡山オープンパラパワーリフティング大会		
委託費	1,000,000	決算額	1,072,602
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	本事業の目的の通り障がいの有無に関係なく誰にでも開かれたインクルーシブな大会になった。また、公認審判講習会の参加者は5名、そのうち岡山県内のメンバーは3名おり、来年度以降の岡山での大会運営のスタッフとして、今事業を通して審判以外の運営にも積極的に関わってもらうことができた。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	大会準備を進める中で、様々な機関と連携・協力をすることができた。この関わりの中で、大会運営に必要な要素を多く学ぶことができた。事前練習会や当日のウォームアップでパラのルールの厳しさをお伝えし、成功試技がとれるように一緒に試行錯誤することで、パラパワーリフティングのすごさや面白さを肌で体感していただくことができた。障害の有無に関係なく参加選手同士で多くの交流を持つことができており、同じスポーツを楽しむことができたていた。多くのメディアにも事前から取り上げていただくこともでき、パワーリフティング関係者ではない方も来場されていた。		
費用に関する所見	これからの地域での継続した活動に主眼をおき、中央競技団体であるJPPFの主催大会と同じリザルトシステム、審判の判定システムの用意、大会進行のためのスタッフの用意(試技進行アナウンサー等)をすることができたことで、来年度以降の大会開催に向けての経験、ノウハウを積むことができた。さらに、審判講習会、大会運営スタッフをしてもらったことで、これからも携わっていきたいという関係者が生まれてきていることも成果の一つ。またチラシやポスターの作成ができたことで、運営だけでなく、地域の方やメディアに向けての周知ができたことで、競技を「みる」人の普及にも効果があった。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	来年も同様の大会を開きインクルーシヴな競技であることを地域に根付かせたいと考えている。再来年にはパラパワーリフティングだけでなく、身体卓球やボッチャとも共催でユニバーサルパラスポーツフェスタを開けるようにしていきたい。		
参加者や関係団体からの声	健常者の協会や学生もパラパワーリフティングからは、文字や映像では見たことがあったが、共に大会運営をする中で、パラパワーリフティングのルールの厳しさや面白さ、健常者の競技の強化にもつながることを感じてもらうことができたとの声が多数。大会に参加された健常者の方は厳しいルールの中で行うことで自分のベンチプレスの精度が高くなる。バーベルをあんなにもコントロールできているパラの選手はスポーツ選手として尊敬できるとの声が多数。また、大会に参加した健常者の選手もパラパワーリフティングに興味をいただくことができ、パラパワーリフティングの練習会にも参加したいとの申し出もあった。		
その他所見	岡山駅から徒歩圏内で行いとても良かったと感じている。アクセスの悪いところであれば、行きにくく参加しない選手もいたり、運営側でバスなど手配したりしなければいけなくなる。地方では少ない人数での運営になるためそこに対して人材を当てにくい。来年度も駅から徒歩圏内の場所で行いたいと考えている。		

岡山県におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真　【事業名】岡山オープンパラパワーリフティング大会

事業の様子

会場採寸の様子

前日準備の様子

作成物：バックパネル

審判講習会の様子

試技の様子

大会運営の様子

選手入場前の様子

作成物：バナースタンド

大会終了後の集合写真

第3グループの表彰の様子

そのほか作成物写真

チラシ

ポスター

チラシ

チラシ＆ポスター

パネル

【パラアイスホッケークラブチームにおけるアスリート育成支援事業】

◆パラアイスホッケー活動拠点拡大事業

◆パラアイスホッケー活動拠点支援事業

一般社団法人日本パラアイスホッケー協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラアイスホッケー協会		
◆計画書作成者	小山　幸子		
◆企画・実施担当者	西野　浩平	◆経理担当者	小山　幸子

全体事業名称	パラアイスホッケークラブチームにおけるアスリート育成支援事業
委託費	2,000,000円
地域の実情・課題点	現在、パラアイスホッケーの地域拠点は7ヶ所のみであり、競技普及のためには体験会などを通じて認知度を向上させることが不可欠であるが、全国的なアイスリンク不足もあり、思うような普及活動ができていない。 また、アイスリンクの貸切は年間を通じてほぼ決まった団体が確保しているため、新たに良い時間帯(平日18時～21時・土日祝日8時～21時)の貸切枠を確保することは困難となっており、若年層の競技人口はもとより支援者の増加に影響を及ぼしている。
総合的な事業の目的	・拠点のない地域の自治体や教育委員会、スポーツ振興財団、障がい者スポーツ協会、アイスホッケークラブなどど連携して体験会を開催し、パラアイスホッケーが出来る環境を整え、新たな活動拠点とする。 ・拠点がある地域でも、若年層が参加できるような時間帯の体験会を継続的に開催できるよう自治体などと連携し、パラアイスホッケー競技の貸切枠を確保し、競技普及を促進する。
総合的な事業のねらい	・地域拠点における若年層の競技人口や支援者を増加させて拠点の活動を活性化させる。 ・拠点のない地域で体験会を開催して競技の普及および認知度向上に努め、新規競技者およびパラアイスホッケー競技への協力者および協力団体を発掘し、新たな拠点を立ち上げる。 ・パラアイスホッケー競技の露出機会を増やす。

事業名	
事業①	パラアイスホッケー活動拠点拡大事業
事業②	パラアイスホッケー活動拠点支援事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人日本パラアイスホッケー協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">パラアイスホッケー活動拠点拡大事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">パラアイスホッケーの認知度向上と競技人口増加を目的とした、競技体験会の開催
※釧路：くしろパラスポフェスタの会場・時間内に「シンセティックアイスタイル」上でスレッジホッケーシュート体験を実施。
※京都：氷上でスレッジホッケー体験と女子選手による講演を実施。女子選手募集を強くアピールした。
※倉敷：周辺にチームがない状況で氷上スレッジホッケー体験を実施。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">釧路:11月12日（日） 9時30分～12時30分
京都：1月13日（土）19時15分～21時30分
倉敷: 2月 4日（日）10時～12時</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>釧路:ウィンドヒルくしろスーパーアリーナ
京都：京都アクアアリーナ
倉敷:ヘルスピア倉敷</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>のべ参加人数
釧路:22人(うち障がい者5人)
京都：33人（うち障がい者9人）
倉敷:13人(うち障がい者5人)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">各クラブチームの選手・コーチ・トレーナー・マネージャー・支援スタッフ等が参加
・当日は参加人数にあわせ【準備・用具運搬・フィッティング・乗せ換え・氷上指導】などを分担。</td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>（京都）
・東海アイスアークス
・ロスパーダ関西
・京都アイスホッケー連盟
（岡山）
・北海道ベアーズ</td><td colspan="2">・京都市障害者スポーツセンター
・釧路市・釧路市社会福祉協議会
・岡山県パラスポーツ指導者協議会
・公益財団法人倉敷市ｽﾎﾟｰﾂ振興協会
・吉備高原医療リハビリテーションセンター
・医療法人ふじい整形外科</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>京都では、東海・関西の2クラブチームが主体となって実施。京都アイスホッケー連盟等連携団体がサポートを行った。</td><td colspan="2">京都市障害者スポーツセンター、釧路市・釧路市社会福祉協議会、岡山県パラスポーツ指導者協議会、公益財団法人倉敷市ｽﾎﾟｰﾂ振興協会には事前の周知を依頼した。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">(釧路)元代表コーチ(パラスポーツ指導員)が主導して地域での開催を誘致してくれた。準備等地元のフェスタ実行委員会との橋渡しをし、当日の運営員の確保を行った。
(京都・岡山)元・現代表コーチ・現トレーナー(パラスポーツ指導員・トレーナー)が乗せ換え等を周囲に指導し実施した。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>5</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">岡山にはチームがないため、ヘルメット等防具を購入し、参加者の安全確保を行った。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本パラアイスホッケー協会			
事 業 名	パラアイスホッケー活動拠点支援事業			
事業内容	クラブチームが練習会・体験会を開催し、地域のパラアイスホッケープレイヤーの競技機会を創出する。 実施日程：5月～1月　回数：全36回（9回×4地域）　場所：北海道・東京・長野・兵庫 実施会場：滋賀県立アイスアリーナ、やまびこスケートの森アイスアリーナ、アクアリンクちば、苫小牧市新ときわスケートリンク、等			
開催日時	【関西】7月15日・7月30日・8月26日・9月9日・9月23日・10月14日・10月29日・11月11日・11月25日・12月2日・12月3日・12月9日・1月20日・1月21日 【長野】7月15日・8月11日・9月23日・11月3日・11月23日・12月3日 【東京】8月11日・8月12日・8月26日・8月26日・9月1日・9月2日・10月28日・11月11日・11月25日・12月2日・12月9日・12月23日 【北海道】6月17日・7月1日・7月15日・10月28日・11月18日・12月2日・12月9日・1月20日			
会　場	【関西】 木下カンセーアイスアリーナ（滋賀県立アイスアリーナ）・ひょうご西宮アイスアリーナ 【長野】 やまびこスケートの森アイスアリーナ 【東京】 アクアリンクちば 【北海道】苫小牧市新ときわスケートリンク			
参 加 者	【関西】 14回のべ109人 【長野】　6回のべ68人 【東京】　9回のべ90人 【北海道】 8回のべ75人	※一部健常者の選手・体験希望者を含む		
人員体制	各チームのコーチ・スタッフ等を配置			
連携団体名 （箇条書き）	【関西】滋賀レイクスターズ・滋賀県アイスホッケー連盟・兵庫県アイスホッケー連盟・関西学院大アイスホッケー部・東海アイスアークス 【長野】信濃医療	【東京】日体大インラインスケートサークル・NoExcuse 【北海道】苫小牧市総合政策部まちづくり推進室スポーツ都市推進課		
実際の事業での 連携団体の役割	合同練習、練習支援、体験会の参加、会場使用料減免など			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	チームコーチでパラスポーツ指導者資格所持者が体験希望者等に指導しながら、他のコーチ・スタッフに指導方法等を伝達した。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	22
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラアイスホッケー協会		
全体事業名称	パラアイスホッケークラブチームにおけるアスリート育成支援事業		
委託費	2,000,000円	決算額	¥2,070,286
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	新たな拠点の構築・クラブチームの設立等は、1回の体験会開催では難しいが、今回の開催により、地域の健常競技団体や医療関係者などの連携もでき、まずは競技を知ってもらう事ができたので、大きな一歩は踏み出せた。今回新規に氷上での体験会ができた京都や岡山は、キャンセルが出たところに事業を入れていただけたのである程度良い時間帯が確保できたが、貸し切り時間は2カ月前に抽選で決まるところが多いため、良い時間帯を想定した事業計画が立てにくいのが課題となる。 すでに活動拠点のある地域では定期的な露出機会の提供により、少しずつ体験者や競技希望者が出てきている状況であり、競技露出機会拡大の狙いは達成できた。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	地域拠点を財政面で支援できたことから、事業実施前より通常の時間帯(例:午前6時開始➡午前10時開始)に練習会場が確保でき、若年層を含む多くの体験希望者を確保することができた。 クラブチームの無い地域で、健常者団体やPTの方などに競技を知ってもらう事ができ、支援者の確保につながった。		
費用に関する所見	助成金としては2事業でおよそ半分ずつの予算に対して、だいたい計画通りに消化できた。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	・少しずつ競技認知度があがり体験希望者が出てきたが、さらに周知を行い競技参加者を増やしたい。体験会などで使用するアイスリンクの貸し切り時間は2カ月前に抽選で決まるところが多いため、良い時間帯を想定した事業計画が立てにくいのが課題となる。 ・今回新規に体験会を実施した3地域で将来的にはチームができるよう、定期的に練習会を実施し、参加者や支援者を増やしたい。		
参加者や 関係団体からの声	・今後も続けて参加したい。 ・車いすバスケもやっているので両方できれば。 ・オリアイスホッケーも普及イベントを実施している。パラも一緒にできれば。 ・女子選手が増えるように協力したい。		
その他所見			

日本パラアイスホッケー協会におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 【事業名】

パラアイスホッケー活動拠点拡大事業

事業の様子

釧路体験会

京都体験会

倉敷体験会

②資料

開催要項、チラシ

日本パラアイスホッケー協会におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（2） 【事業名】

パラアイスホッケー活動拠点支援事業

事業の様子

長野サンダーバーズ1

長野サンダーバーズ2

北海道ベアーズ

ロスパーダ関西1

ロスパーダ関西2

ロスパーダ関西3

②資料

クラブチーム体験会・練習会報告書、チラシ

【障害者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会】

◆2023 年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント

◆九州地区でのデフ陸上イベント開催

一般社団法人日本デフ陸上競技協会

事業概要シート

◆実施（申請）協会名	一般社団法人日本デフ陸上競技協会		
◆計画書作成者	山岸亮良		
◆企画・実施担当者	佐藤將光	◆経理担当者	佐々木亜矢子

全体事業名称	障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会
委託費	1,400,000円
地域の実情・課題点	特別支援学校では、一流の指導を受けにくく、部活動が盛んではありません。また、障害を理由に、地域のスポーツチームの入会を断れるといった状況もあります。そこで、当協会に所属するデフリンピアンによる陸上教室を開催し、障害児のスポーツ技術の向上を目指します。また、デフリンピックの認知度は、国内で20パーセント未満と低いことから、講演会やスタートランプの体験会を開催することで、2025年の日本で初開催のデフリンピックに向け機運を醸成していく予定です。そのための講師やスタッフの派遣に関わる費用を捻出したいと考えております。 　また、現在、地方におけるデフ陸上の支部制度がなく、地域密着でデフ選手の育成や発掘等が行き届いていないのが現状で、若い世代の陸上離れが多く、高校まで部活で陸上をしてきて、好成績の選手が、様々な理由で、大学や社会人で辞めてしまう選手が多くいる。
総合的な事業の目的	健常のオリンピック選手や国内トップ選手らと連携し、障害児向けの陸上教室を行います。オリンピック選手らと共に陸上教室を開催することによって、新聞やテレビといった大手マスメディアへの掲載をねらい、認知度の向上を目指します。また、デフアスリートだけでなく、パラリンピアンとのコラボで、障害者スポーツに対する壁を取り除いていきます。 　若い世代の陸上離れを防ぎ、大学や社会人になっても競技を継続していける環境を各地域につくっていきたい。その為に、各地域に支部をおき、地方のろう学校や特別支援学校など、障害者支援団体と連携し、若い世代から当協会と関係を持ち、進路の相談や定期的な練習会などを各地で行うことで、競技を継続していける。その結果、デフ陸上の裾野が広がり、地域デフスポーツの盛り上がりにもつながると感じる。
総合的な事業のねらい	2025年に東京で開催されるデフリンピックを皮切りに、「聞こえの共生社会」の実現に寄与したいと考えております。障害があっても人としてのウェルビーングを追求し、自己実現が出来る社会作りに向け、障害児らがスポーツを通して、自分の可能性を信じる自己肯定感を育みます。そのため、都市部だけではなく、地方都市を中心に、デフリンピアンやオリンピアンなど一流の選手と交流の機会が少ない地域で、障害児のスポーツ技術の向上を目指します。 　また、次世代アスリートを育成し、デフリンピックをはじめとした、国際大会において、好成績を維持できるように努めていきたい。

事業名	
事業①	2023年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント
事業②	九州地区でのデフ陸上イベント開催
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人日本デフ陸上競技協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>2023年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント
アダプテット陸上競技大会
障害の有無に関係なくスポーツを楽しむことを目的とした陸上大会へ強化選手4名を派遣。デモンストレーションやリレーなどで盛り上がった。
前日には地域のろう学校の生徒や子ども達に対して、デフ陸上教室を開催し、走り方、跳び方教室や、スタートランプ体験会を実施した。</td><td colspan="2">九州地区でのデフ陸上イベント開催
スタートランプ体験会
走り方の説明、スタートランプの説明、体験会を実施。
強化選手2名による「デフリンピックと私」、元オリンピック選手による「夢の叶え方」をテーマに講演会を実施。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>デフリンピック陸上教室・交流会
令和5年8月19日(土)11:00～17:00

2023年北海道アダプテッド陸上競技会
令和5年8月20日(日)8:00～16:00</td><td colspan="2">令和5年10月28日(土)
事業打合せ

令和5年10月29日(日)
スタートランプ体験会
8:00～15:00</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>旭川市花咲陸上競技場(旭川市)</td><td colspan="2">西南学院大学　陸上グラウンド(福岡市)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>デフリンピック陸上教室・交流会
参加者:25名(内保護者10名)

2023年北海道アダプテッド陸上教室・交流会
選手　約100名
スタッフ　約80名</td><td colspan="2">一般・大人　14名(うち聴覚障害者1名)
子ども　8名(聴覚障害のある未就学児3名、聴覚障害のある小学生3名、聴者の小学生2名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>スタートランプオペレーター2名(マネジメント)
スタートランプオペレーター1名
手話通訳2名
選手4名(講師)</td><td colspan="2">西南学院大学陸上部　学生:4名
スタートランプオペレーター2名(マネジメント)
手話通訳2名
選手2名(講師)
コーチ1名(講師)</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>旭川パラスポーツ協議会
道北陸上競技協会
北海道障がい者スポーツ協会</td><td colspan="2">一般社団法人言葉のかけはし
ヤマダ電機陸上部
TOKYO MINT</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>旭川パラスポーツ協議会には大会の競技運営、広報・周知、地元住民への連携などについて協力を頂いている。また安全に大会を運営するために、地域のボランティアへの呼びかけや地域の和太鼓サークルの招致などで、集客を十分に行うことが出来た。</td><td colspan="2">地元密着の団体と連携することで、難聴児の保護者会への周知や、運営にかかわる協力を得ることが出来た。西南学院大学を会場にすることにより、陸上部の学生の運営協力を得ることが出来た。ヤマダ電機陸上部から東京五輪出場選手を講師として派遣することができ、より専門的な指導を行うことが出来た。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">当協会のトップ選手が指導を担当。また専門スタッフが体験会を運営と専門手話通訳者が各々役割を行った。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">特になし</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本デフ陸上競技協会		
全体事業名称	障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会		
委託費	1,400,000円	決算額	1,862,836円
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	トップ選手によるデフ陸上教室を開催し、参加者や関係者に楽しんでもらえた。地域のメディアにも取り上げられるなど、デフ陸上普及に貢献できたと感じる。参加者や協力団体などから、継続して開催してほしいとの声が多くあったので、今後も事業を継続できるよう、費用面や派遣選手、スタッフなど確保していきたい。両事業とも子どもの数が少なかったので、周知する方法を考えたい。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	障害があることで、地域のスポーツクラブなどの入会を断れるケースもあり、障害児が一流の指導者からスポーツを教えてもらう機会が損失しているが、今回こうして体験会を行うことができ、障害児がスポーツに対して積極的な姿が見られた。幼少期におけるロールモデルとなる選手との出会いにより、今後も継続したスポーツの機会が予想され、すそ野が広がることでトップ選手の育成へとつながるため、デフリンピックなどで活躍する次世代のトップ選手の活躍が期待できる結果となった。		
費用に関する所見	首都圏や地方から選手やスタッフが出向くことで、交通費や宿泊費がかかってしまうが、トップ選手や専門スタッフが各地に散らばっているので有効に活用ができた。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	秋の行楽シーズンや地域の小学校の運動会の翌日の開催となり、 「参加したいけれども参加できない」という声も多数よせられた。 地域の行事との兼ね合いや、早めに計画することによって、 早めに周知することで、予定を確保しやすくなることが予想されるため、 今後は、複合的な要因を検討しながら実施したいと考えている。		
参加者や 関係団体からの声	【参加者】・次男が、積極的に参加する姿を見て驚くと同時に感動！選手＆スタッフのみなさんの動きをよく見ていました(40代女性) ・スタートランプはスタートしやすかった！(小学生男子) ・デフリンピックで選手を応援したいと思う！(小学生男子) 【関係団体】子供たちが楽しそうに参加している姿が印象的でした。スタートランプに触れる機会があまりなく、また日本代表として活躍している選手との交流によって、障害のある大人のロールモデルを見つけられたように感じます。		
その他所見	旭川市でのイベントは毎年実施することになっているので、継続して参加をしていきたいと考えている。北海道の中高校は陸上部があまりない事が分かったので、夏場に陸上教室を開催する事は、陸上を知らない子ども達に知ってもらえる機会になると感じる。		

障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会の事業写真

①事業写真

（1）　【事業名:2023 年アダプテット陸上大会でのデフ陸上イベント】

事業の様子

8月 19 日（土）デフリンピック陸上教室・交流会

全体集合・打合せ

準備運動

デフ陸上教室

スタートランプ体験会

スタートランプ体験会

集合写真

8月 20 日（日）2023 年北海道アダプテッド陸上競技会・交流会

全体集合・打合せ

受付

交流大会参加

交流リレーの様子

交流会の様子

集合写真

②資料

8月19日

デフリンピック陸上教室・交流会　チラシ

8月20日

2023年北海道アダプテッド陸上競技会

2023年北海道アダプテッド陸上競技会　要項

2023年　北海道アダプテッド陸上競技会

開催要項

1. 目　的：　スポーツを通して、障がいのある人たちの社会参加と共生社会への実現を目的に、陸上競技の競技会を開催します。日ごろのトレーニングの成果を発表する場合としても行います。

2. 日　時：2023年　8月　20日（日）　9：30開会式　・　10：00競技開始

3. 会　場：　旭川市花咲陸上競技場

4. 主　催：　旭川パラスポーツ協議会
（旭川医科大学スポーツ医科学研究委員会、旭川障がい者スポーツ協会、旭川障がい者文化スポーツ振興支援会、道北地区障がい者スポーツ指導者協議会、カムイ大雪バリアフリーツアーセンター、スペシャルオリンピックス日本・北海道旭川プログラム）

5. 後援・協力：旭川市、旭川市教育委員会、道北陸上競技協会、北海道障がい者スポーツ協会、
（予定）　北海道障がい者スポーツ指導者協議会、スペシャルオリンピックス日本・北海道、
旭川ウィルビーイングコンソーシアム、旭川市立大学短期大学部、北海道教育大学旭川校
北海道コカ・コーラボトリング株式会社、旭川北鎮太鼓保存会、ASICSUNION
北海道・東北パラ陸上競技協会、日本デフ陸上競技協会、山田実記念財団、999AC 旭川
北海道理学療法士会健康スポーツ問題（障がい者スポーツ支援部、あいべつ町OBチーム

7. 実施種目
（1）トラック種目：50m、100m、200m、400m、800m、1500m、5000m
車いすスラローム
（2）フィールド種目：立ち幅跳び、走り幅跳び、ソフトボール投げ、ジャベリックスロー
（3）4×100mリレー、4×400mリレー、4×50m車いすリレー

8. 参加資格
（1）障がいの有無は問わず、小学生以上であり、コーチまたは支援者同伴で参加できる人
（2）陸上競技に興味があり、競技会の参加が可能である健康な方であること。

9. 競技ルールと運行
（1）本競技会に適用する競技規則は、全国障害者スポーツ大会競技規則、スペシャルオリンピック競技規則、及び、競技ごとに定める承認要領による。
（2）参加申告記録を基に、主に同じクラス分けした組でレースを行う。なお、クラス分けはスペシャルオリンピックスのデビジョニングルールをもとに行う。（記載に申告記録を far く申告した場合は不正出場とみなし、レース後に失格とする場合があります。必ず参加申し込み前にタイム計測を行ってから参加申し込みをお願いします。）
（3）スタート合図はすべてイングリッシュコマンドで行う。
（4）短距離競技において、競技に障がいがある選手向のスタートランプを導入する。
（5）50mにおいてスタートはスタンディングスタートのみとする。
（6）800mのスタートは、セパレートでのスタートとする。
（7）車いすレーサーを使用する場合は、一度ご相談ください。場所によっては、800m1500mでは別レースになることもあります。
（8）伴走者（ガイドランナー）の如何なる選手には、選手のとなりに伴走者（ガイドランナー）のレーンを用意する。なお選手よりも伴走者（ガイドランナー）が先にゴールしてはいけない。
（9）視覚障がいがある選手の競技、投擲種目において、方向や位置を示すコーラーを同意してよい。

（10）車いすスラロームは全国障がい者スポーツ大会種目に準ずる。個別名でのスタートとする。
電動車いすと手動車いすは別とする。
（11）リレーのオーダーは、12：00までに所定の用紙に記入し、提出すること
（13）リレーは、個人の100mの時間タイムを基準にディビジョニングを行います。
（14）リレーチームのメンバーは異なる団体可能です。障がい内容が2名まで入ってでも出場可能です。同じナンバービブを利用します。

10. 表彰について
・各種目のクラス分け（ディビジョン）した組毎に、全員を表彰します。
・表彰はメダルの形をした今大会のオリジナル缶バッチとリボンを進呈します。
・表彰は、各レース終了後、表彰エリアにて行います。（レース後、表彰を受け手に戻らないようお先をひくださいなお、表彰時に出場するレースが異なっている場合はレース名を優先します。その場合、表彰は不在でも行われます。）

11. エントリーについて
（1）個人種目は1人2種目、リレーは1種目までエントリー可能です。レーススケジュールを確認し、表彰時間や体力を考慮し、重ならないようにエントリーして下さい。
（2）エントリー費は、1人1000円です。下記振込先へ入金お願いします。
（3）チームなどでエントリーされる場合は、一括事務局にご連絡ください。

ゆうちょ銀行
記号　19710　番号　16679691
道北障害協同組合会（ドウホクショウガイキョウドウクミアイカイ）

他金融機関からの場合
店名　九七八　店番978　普通口座　口座番号　1667969

（4）リレーのみに、出場する場合も1000円を徴収します。
（5）新型コロナウイルスの感染拡大状況および変況のため、競技会中止する場合があります。その際は、参加費は返金できません。また、当日、欠場した場合も参加費は返金できません。
（5）申込用紙に記入の上、申込みください。**締切日は、7月　24日　(月)**とします。
申込用紙等のダウンロード先→旭川アダプテッドスポーツ情報「かんねこれね」HPに掲載

12. ボランティア（運営ボランティア）の募集について
申し込み用紙に記入し、事務局までご連絡ください（FAX、E-mail等　8月6日まで）
※運営ボランティアは、当日での競技会の運営を一緒に進めてくださる方です。

13. その他
・競技会の連絡や、当日の様子は、facebookページ「旭川パラスポーツ協議会」に掲載します。
・悪天候の場合、競技会中止する場合をfacebookページに掲載しますので、また、当日の朝は必ず確認をするようにお願いします。

14. 問い合わせ、申込先　（お問い合わせは、FAXまたはメールでお願い致します。）

旭川パラスポーツ協議会事務局
旭川市東旭川南1条3丁目2-5　カムイ大雪バリアフリーツアーセンター内
Fax0166-38-8211　E-mail　event-info@kamui-daisetsu.org

競技会スケジュール

※競技会スケジュールは、参加会議人員によって、変更する場合がある。

時　間		
8：00～9：00	受　付 ※選手役員集合8：30　受付打合せ9：00	
9：30	開会式	
	～トラック～	～フィールド～
10：00	1500m	ソフトボール投げ
10：10		
10：20	（表彰）	（表彰）
10：30	400m	
10：40	（表彰）	
10：50	800m	走り幅跳び
11：00		（表彰）
11：10	（表彰）	
11：20	200m	
11：30	（表彰）	立ち幅跳び
11：40	5000m	（表彰）
11：50	（表彰）	ジャベリックスロー
12：00		（表彰）
12：10	スラローム	
12：20	（表彰）	
12：30		
12：40	50m、100m	
12：50	（表彰）	
13：00		アトラクション
13：10		
13：20		
13：30		
13：40	4×50mリレー	
13：50	4×100mリレー	
14：00	4×400mリレー	
14：10	（表彰）	
14：20	総評会・閉会式	

障がい者向けのデフ陸上教室とデフリンピック普及のための体験会の事業写真

①事業写真

（2）　【事業名:九州地区でのデフ陸上イベント】
福岡県スタートランプ体験会

事業の様子

全体集合・打合せ

準備運動

デフ陸上教室

スタートランプ体験会

スタートランプ体験会

集合写真

講演会の様子

講演会の様子

②資料

▼チラシ・プレスリリース

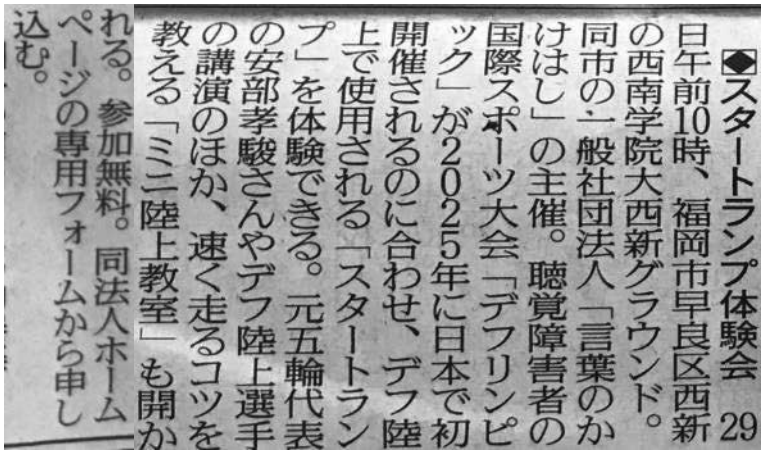
【チラシ:右】関係者には詳細 URL と合わせてデータ送付での他、あいあいセンター(福岡市の療育施設)や、福岡市内の補聴器店などで掲示

【プレスリリース:左】】福岡市政記者クラブ(16 媒体社)へ 10 月 3 日に持ち込み。その他、取材実績のある記者などに個別に連絡。告知記事を 2 社にご掲載いただいた他、当日の取材も 1 社獲得。

▼各種 SNS でも継続して告知展開

(Facebook、Twitter、Instagram、LINE)

▼読売新聞(2023 年 10 月 19 日掲載):告知記事



◆スタートランプ体験会　29日午前10時、福岡市早良区西新の西南学院大西新グラウンド。同市の一般社団法人「言葉のかけはし」の主催。聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」が2025年に日本で初開催されるのに合わせ、デフ陸上で使用される「スタートランプ」を体験できる。元五輪代表の安部孝駿さんやデフ陸上選手の講演のほか、速く走るコツを教える「ミニ陸上教室」も開かれる。参加無料。同法人ホームページの専用フォームから申し込む。

▼西日本新聞
(2023 年 10 月 19 日掲載):告知記事　左
(2023 年 11 月 23 日掲載):報告記事　右

過去のスタートランプ体験会の様子

耳の聞こえない人の「デフ陸上」知ろう

29日、福岡市の西南学院大

耳の聞こえない人が競技するデフ陸上などを知る「スタートランプ体験会」が29日午前10時～正午、福岡市早良区西新7丁目の西南学院大・西新グラウンドなどで開かれる。難聴への理解を深める活動をしている一般社団法人「言葉のかけはし」(同市)と、日本デフ陸上競技協会の主催。誰でも無料で参加できる。

東京オリンピックに400㍍障害で出場した安部孝駿氏と、デフ陸上の短距離の足立祥史選手、やり投げの川口穂菜美選手をゲストに招く。光でスタートを知らせるデフ陸上の機器「スタートランプ」の体験会や、速く走るこつを教える陸上教室がある。3選手の講演も大学の視聴覚室で開かれる。

小雨決行。手話通訳、音声文字変換アプリもある。参加には事前申し込みが必要で、希望者は申し込みサイト=QRコード=から。締め切りは27日。

問い合わせは「言葉のかけはし」のメール=y-iwao@kotoba-bridge.org　(野津原広中)

光で知らせる「スタートランプ」体験会

光で知らせる「スタートランプ」

難聴の人の「デフ陸上」

西南学院大で体験会

スタートランプを合図にした短距離走を体験する参加者＝10月29日、福岡市早良区

難聴の人が競技するデフ陸上を知ってもらう催しが10月29日、福岡市の西南学院大で開かれた。日本デフ陸上競技協会と、難聴者の自立を支える一般社団法人「言葉のかけはし」が主催。デフ陸上選手の講演や、短距離走などのスタートを光で知らせる「スタートランプ」の体験会があった。陸上をしている児童や、難聴の子がいる家族など約20人が参加した。

2025年の東京デフリンピック出場を目指す短距離の足立祥史選手(26)とやり投げの川口穂菜美選手(26)が講演。16年に正式採用されたスタートランプについて、足立選手は「補聴器なしで走れるようになった。以前は補聴器がないとスタートのピストルが聞こえなかった」と話した。スタートの反応時間は、ピストルは約0・5秒、ランプは0・15～0・2秒という。川口選手は、やり投げを始めたきっかけを「中学の体力測定のボール投げで『肩が強い』と先生に言われたこと」と紹介した。

スタートランプは、赤が「位置について」、黄が「用意」、緑が「ドン」を示す。体験会では、地面と前方のランプを頼りに参加者が走り出した。陸上をしている小学5年の八尋優樹さん(11)と小学6年の菅圭さん(12)は「スタートしやすかった」「デフリンピックで選手を応援したい」と笑顔を見せた。

東京オリンピックに400㍍障害で出場した安部孝駿さん(32)も、速く走るこつなどを教えた。　(野津原広中)

【障がい者セーリング普及推進事業】

◆パラセーリング普及・支援事業

◆パラセーラーのスキルアップ事業

公益財団法人日本セーリング連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人　日本セーリング連盟		
◆計画書作成者	高間信行		
◆企画・実施担当者	高間信行	◆経理担当者	外山昌一

全体事業名称	障がい者セーリング普及推進事業
委託費	200万円
地域の実情・課題点	・障がい者セーリングはパラリンピック大会から競技種目から外れたこともあり全国的に認知度が低いのが現状である。 ・現時点でも関東以北、四国、東海、九州地方でも障がいセーリングを定期的に行っている所が非常に少ない。 ・障がい者セーリング体験会を開催しているところでも手話通訳がいない、視覚障害者が一人で操船するための装備が不足している等のために体験を断っているところもあり普及に支障が生じている。 ・また、地域のスポーツとして推進するうえでもより上の技術を欲する障がい者の方も出てきている。 以上の事などを解決するために本事業の実施が必要と考え申請を行なう。
総合的な事業の目的	・障がい者セーリングの認知度を上げるためにユニバーサルヨット借上げ普及キャラバン隊を組み各地を周り地域の障害者スポーツ活動を行い障がい者セーリングの認知度を上げると共に選手の発掘ものぞめる。 ・肢体不自由以外にも視覚障害者、聴覚障害者がヨットに乗れる環境つくりを進める。 ・障がい者競技の技術のために競技指導者を育成する。 ・大会等を開催するうえでのクラシファイヤーの育成をする。 これらの活動を行い地域で安心してセーリングスポーツができる環境、人材を養成していく。
総合的な事業のねらい	全国各地域での障がい者セーリングの認知度のアップと健常者と障害者が同じ条件で楽しめるスポーツの一つである障がい者セーリング(インクルーシブセーリング)の普及振興および地域での健常者スポーツ団体、障がい者スポーツ支援団体と協力し多種類の障害の方がスポーツ活動に参加できる場を提供し新たに選手発掘、指導者養成の環境をつくる。

事業名	
事業①	パラセーリング普及・支援事業
事業②	パラセーラーのスキルアップ事業
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本セーリング連盟			
事 業 名	パラセーリング普及・支援事業			
事業内容	パラセーリングスポーツの体験希望の開催地にユニバサールヨットを持参しセーリング体験会を開催する。 ヨットの帆走原理の説明、ユニバーサルヨットの説明後インストラクターと障がい者、ヨット経験者とヨット初心者でユニバーサールヨットの体験乗船会を実施。			
開催日時	パラセーリング普及支援事業(インクルーシブ体験乗船会) ①令和5年8月5日(土)10時～15時 ②令和5年8月26日(土)、27日(日)10時～15時 ③令和5年8月28日(月)29日(火)10時～15時 ④令和5年9月17日(日)10時～15時 ⑤令和5年10月9日(日)10時～15時 ⑥令和5年11月12日(日)10時～15時			
会　場	①香川県高松市高松市ヨット競技場 ②長崎県佐世保市小佐々海洋スポーツ基地 ③福岡県福岡市福岡市ヨットハーバー ④静岡県浜松市静岡県立三ケ日青年の家 ⑤山形県尾花沢市徳良湖ヨット倶楽部 ⑥愛知県蒲郡市蒲郡市マンボウポンツーン			
参 加 者	①28人(精神10人、健常9人、ボランティア10人) ②35人(肢体2人、健常33人、ボランティア15人) ③18人(障害0人、健常10人、ボランティア8人) ④84人(精神1人、肢体1人、健常22人、60人) ⑤50人(肢体7人、健常19人、ボランティア24人) ⑥40人(肢体5人、健常15人、ボランティア20人)			
人員体制	①から⑥は各7人を確保 開催団体役員　2人 パらスポーツ指導員3人 競技団体　2人 インストラクタ、ボランティア それとは別に ①特別支援学校職員9人 ⑥障害者スポーツ協会職員3人			
連携団体名 (箇条書き)	①NPO法人手と手と手、セイラビリティ高松、 ②佐世保海洋スポーツ協会、佐世保市教育委員会、小佐々海洋スポーツ基地 ③福岡県立福岡特別支援学校、福岡市子ども総合相談センターえがお館	④三ヶ日青年の家、NPO法人六星ウィズ蜆塚3、浜松視覚特別支援学校、浜松聴覚特別支援学校 ⑤徳良湖ヨット倶楽部、尾花沢市社会福祉協議会、山形県パラスポーツ協会、山形県特別支援学校、 ⑥蒲郡スポーツ推進課		
実際の事業での 連携団体の役割	連携団体には、各開催地でのパラセーリング(インクルーシブセーリング体験)体験会の情報発信、参加者への連絡、事前準備としての事業の役員確保、会場・施設の確保、保険の加入、開催内容の作成、安全面の確保、各種届出、ボランティアの教育と当日の運営管理			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	パラセーリング競技の醍醐味、楽しさ、誰でもができるスポーツであることを理解してもらう役割をになってもらう。 課題としては、パラセーリング競技が有る事を開催地のパラスポーツ指導員等への周知方法、セーリングが水上でも安全で楽しめる事の情報発信が必要である。使用施設のバリア―フリーについてのアドバイス、安全に障がい者を船に乗せる事の技術等の教育をする必要がある。特に地方のヨット施設は障がい者に危険が伴うことが多いので介助方法の教育が必要である。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	10
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	25
スポーツ用具の 整備・活用について	スポーツ用具(体験会使用のヨット)はヨットのレンタル業者及び開催地での所有ヨットを借用 (ヨットの価格が100万円から150万円するので購入は見送り借用)			

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">公益財団法人日本セーリング連盟</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">パラセーラ―のスキルアップ事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>競技会へ参加できるレベルのパラセーラ―及びインストラクターを対象に、座学（帆走の理論）と海上練習を行いワンランクアップの帆走技術の習得ができるように指導</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>インクルーシブ中級スキルアップ講座
①令和5年11月11日（土）9時～17時</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>①神奈川県藤沢市江の島ヨットハーバー</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>①12名（肢体6人、健常6人）</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>①25人
競技団体3人、パラスポーツ指導員4人、運営団体スタッフ18人</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
（箇条書き）</td><td>日本セーリング連盟
日本ハンザクラス協会
セイラビリティ江の島
ピッコロクラブ</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>日本ハンザクラス協会より全国へのパラセーラ―への情報発信の協力を得た。日本セーリング連盟より講師を派遣し、専門的な指導を得られ、セイラビリティ江の島、ピッコロクラブの協力により会場での使用艇の借用及び運営協力を得た。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">障害の種類により艇の乗り移りについて安全にサポートできる指導をになってもらう。
課題としては、障害者スポーツ指導員はパラセーリング競技を理解している事が重要であり、使用施設のバリア―フリーについてのアドバイス、障がいによるセーリング技術等の教育をする必要がある。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">スポーツ用具（事業用のヨット）は開催地での所有ヨットしている団体より借用。

障がい者を桟橋からヨットに載せるために購入したスリングシートは人を釣り上げるクレーンが設置されている今回の事業開催地の江の島ヨットハーバーに保管し定期的な体験会で活用をしていく予定。</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	公益財団法人日本セーリング連盟		
全体事業名称	障がい者セーリング普及推進事業		
委託費	200万円	決算額	2,014,648円
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	・障がい者セーリングの認知度を上げる事については体験会を通し地域の方に障がい者がヨットに乗れること、競技が有る事を伝えることが出来たが選手の発掘は障がい者の参加が少なく難しかった。 ・多種の障がい者がヨットに乗れる環境が開催地には無いことが確認した。ヨットに乗れる環境つくりを進めることが重要。 ・障がい者競技のスキルアップのため競技指導者ができるコーチの育成が必要。 ・地域で安心してセーリングスポーツができる環境、人材が少ない。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	体験会を実施するために普及担当委員が現地担当者と連絡を密とり、その情報を委員会内での共有し議論を進めそれぞれの地域で開催の問題点について意見を出し合うようになった。 スキルアップ講座はパラセーラ―が内容を検討し現地での運営・手配等について積極的に参加し初めての講習会であるが今後の事業計画にも関与してくるようになった。		
費用に関する所見	開催地域での普及・認知活動を中心に事業を進めたので費用は有効に活用できた。艇の運送費と借料に費用がかかったが事業をするのには必要であった。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	この事業を推進するうえで判明した事は、障がい者スポーツとしてのパラセーリングが全国的に認知されていない事。それにともないパラセーリングを行う環境設備が無い事。今後の事業展開は、キャラバン隊を作り今年度同様に全国を回る事、またパラセーリングを進めていきたい団体には艇の貸与ができるシステムの構築、スポーツ用具購入予算が取れれば艇を購入し期間定め貸与し普及活動を進め環境整備を進めていく。そのためには行政との連携も検討していく。		
参加者や関係団体からの声	【参加者】生まれた初めて体験しましたが、とても面白かったです。湖のボートは何回も経験しましたが、海は波が強くて、風を受けて走るのはとても気持ちが良いです。障害があっても無くても楽しめるスポーツ、間違いなく人気が出ると思います。流行らせてください。 【開催団体】この体験会の様子を広く多く方々に見て知ってもらう。障がい者が安全に乗船するための設備改善をしていきたい。 【パラスポーツ指導員】ポストスキーの取り組み種目として、推進したい。		
その他所見	障がい者スポーツ指導員へのパラセーリングの認知アップが必要であり、パラスポーツ指導者協議会との連携が必要と感じた。開催地でのヨットへの乗船施設の整備を行政に依頼し連携を図る必要がある。		

障がい者セーリング推進事業の事業写真

①事業写真

(1)　【パラセーリング普及・支援事業】

事業の様子

★インクルーシブ体験乗船会

① 令和５年８月5日(土)10 時～15 時／香川県高松市高松市ヨット競技場

② 令和５年8月 26 日(土)、27 日(日)10 時～15 時／長崎県佐世保市小佐々海洋スポーツ基地

③ 令和５年８月28日(月)29 日(火)10 時～15 時／福岡県福岡市福岡市ヨットハーバー

④ 令和５年9月17日(日)10 時～15 時／静岡県浜松市静岡県立三ケ日青年の家

⑤ 令和５年10月9日(日)10時～15時／山形県尾花沢市徳良湖ヨット倶楽部

⑥ 令和５年11月12日(日)10時～15時／愛知県蒲郡市蒲郡市マンボウポンツーン

開催日

11/12（日）

体験者＆ボランティア募集！

インクルーシブ セーリング体験会

障害があってもなくても皆一緒に、誰でも安全に乗れる
小型ヨットで、セーリングを楽しみましょう！

開催場所：蒲郡バリアフリーポンツーン「マンボウ」
開催日時：令和５年１１月１２日（日）
　午前の部 １０：３０～１２：００
　午後の部 １３：００～１５：００
主催：公益財団法人 日本セーリング連盟 パラセーリング委員会

体験者・ボランティア お申込み ※参加無料

https://form.run/@yamamotosn-48hHfgZWwAhVVHf0Muoz

障がい者セーリング推進事業の事業写真

① 事業写真

（2） 【パラセーラーのスキルアップ事業】

事業の様子

★インクルーシブ中級スキルアップ講座

令和 5 年 11 月 11 日(土)9時～17時／神奈川県藤沢市江の島ヨットハーバー

②資料

インクルーシブ中級スキルアップ講座

主催 JSAF パラセーリング委員会

協力 NPO 法人セイラビリティ江の島

ハンザクラスは、障がいのある方はもちろん、子供から高齢の方まで、安全に楽しむことができるヨットです。本講座では、このハンザクラスヨットでのセーリング技術の向上を目的としています。

江の島ヨットハーバーは、練習海面がすぐ目の前というアクセスの良さ、障がい者にも優しいクラブハウスの設備など、様々なセーラーにとって魅力的な海です。本講座がスキルアップの一助になればと思います。

記

■ 目的　座学（帆走の理論）と海上練習によりハンザ艇でのワンランク上の帆走技術の習得をし、最新パラワールドを通して世界でのパラセーリングを知る

■ 日時　2023 年 11 月 11 日（土）9 時 00 分～17 時 00 分（受付開始８時４５分）

■ 会場　江の島ヨットハーバー

■ 人数　10 名程度 （応募者多数の場合は選考にて決定）

■ 使用艇　ハンザ 303 （主催側で準備した艇を使用）

■ 参加費　1000 円　（当日現地にて徴収）

■ 対象者

・ハンザクラスシングルハンドの経験 1 年以上、またはハンザクラスレースの経験者で、セーリングスキルの向上を目指す方

・シングルハンドの操船が困難な障がい者の方は、上記条件をダブルハンドに置き換える

■ 申込方法

・参加申込フォーム（下記リンク）に記入ください

参加申込フォーム

■ 募集締切　10 月 28日

■ スケジュール

8:45 ～ 受付

江の島ヨットハーバー セーリングセンター２階 A 会議室

9:00 ～ オリエンテーション／開会の挨拶

9:20 ～ 講座１ セーリング技術と原理

講師：小野澤 秀典氏

① 効率的な揚力を利用してスピードアップを図るためのフィッティングとセールトリム

② ウエザーヘルムとリーヘルムの理解によるボートコントロール

③ 乗艇位置によるボートの摩擦抵抗と造波抵抗を知る

④ 海上の波やうねりの中でのセーリング

10:00 ～ 出艇準備

着替えなどを行う

10:30 ～ 艇の前集合

講座１の続きと海上練習の説明終わり次第出

艇 海上練習

12:15 ～ 昼食

13:15 ～ 海上練習の説明の後、海上練習

15:00 ～ 休憩

15:30 ～ 海上練習の振り返りと Q&A

16:00 ～ 休憩

16:10 ～ 講座２ 国際大会で活躍するパラセーラーたち ～祝！丹羽巧選手、世界選手権銀メダル獲得～

講師：西朝子氏

16:50 ～ 閉会

17:00 解散

※スケジュール、講座内容は、予告なく変更される場合があります

【JWBF中長期計画推進プロジェクト～未来プロジェクト～】

◆未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト

◆車いすバスケを核とした地域活性化プロジェクト

一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟		
◆計画書作成者	片岡　優世／橘 香織		
◆企画・実施担当者	片岡　優世／橘 香織	◆経理担当者	向井／城山

全体事業名称	JWBF 中長期計画推進プロジェクト ～未来プロジェクト～
委託費	2,000,000円
地域の実情・課題点	当連盟【以下JWBF】には、今から20年前の2003年の全国登録チーム数は男女を合わせ103チーム存在していた。しかしながらその頃をピークに、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、2021年には30チームも減少し、現在では73チームに留まっている。東京オリパラも開催され、パラスポーツの機運が高まる一方で、特に地域においては競技人口減少の歯止めがかからない状態が続いている。 JWBFは2021年3月～4月にかけて、各ブロックの現状把握のためのヒアリングを開催した。そこでは多くの課題が抽出された(JWBF 中長期計画推進プロジェクト5ページ参照) そこで、JWBFとしましては、全国から車いすバスケのよりよい未来を創ろうと、未来プロジェクトチームが結成され、2年間の時間をかけて、現在、新しい3つの理念を掲げ中長期計画の策定に至っております。
総合的な事業の目的	【本事業の重点目標】 発掘・普及よりもさらに入口を広く低く設定し、全国のクラブチームやスポーツセンターへの協力を仰ぎながら全国各地に眠っている障害児・者との出会いを目指す。 ①各地域のキッズ・ジュニア世代が車いすバスケやパラスポーツに親しむ環境創出【定期的な教室開催】 ② ①で集まった世代の交流大会を開催し、スポーツから学ぶ楽しさや協調性を育む機会とする。 ③多世代、多思考、する・みる・ささえるなど、様々な人々が地域に集まり、車いすバスケを通じて、新しい3つの理念を表現する事業展開を行う。
総合的な事業のねらい	JWBF 中長期計画推進プロジェクトに基づき、若い世代からの発掘・育成を目指すことで、クラブチームの活性化や5年後・10年後を見据えて、車いすバスケットボールの明るい未来を創出する。

事業名	
事業①	未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト
事業②	車いすバスケを核とした地域活性化プロジェクト
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="2">一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="2">JWBF 中長期計画推進プロジェクト
～未来プロジェクト～</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>事業番号❶:
未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト
全国のクラブチーム及び任意団体等にも広く呼びかけ、説明会【リモート】を開催し、42名もの方が興味関心を示して下さった。その結果、当初1年目は8チームの創設を目標値としていたが、16チームものお申込み【実施は13チーム】を頂き、本プロジェクトのニーズの高さが伺えた。
活動内容は別添は別添活動報告書のとおり。</td><td>事業番号❷:
車いすバスケを核とした地域活性化プロジェクト

スポンサードさまの事業において、開催が叶ったため、本助成金の活用に至らなかった。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>※詳細については事業実施一覧表【別添】のとおり

❶千葉ホークス Jrチーム 7/15、8/12、9/24、10/21
❷八戸WBC 7/2、7/16、9/10、10/22、11/3、11/4
❸近畿連盟Jrチーム 7/16、9/17、10/14、11/4、12/9、1/8
❹ライオンズWSC 8/12～13、9/9、10/14、11/11、12/24、1/27
❺ファルコンズ 9/24、9/29、10/7～8、10/14、11/10、11/24
❻TEAM 10号 9/29、10/7～8、10/14、11/5、11/10、11/24
❼群馬マジック 7/9、9/10、10/15、10/22、11/11、11/26
❽NO EXCUSE アカデミー 7/9、7/17、8/6、8/20、9/3、9/24
❾高知シードラゴンズ 8/6、11/5、11/8、11/11、11/19、12/17
❿総合型クラブ nimo 7/7、7/11、7/18、7/25、11/2、11/13
⓫東京Jr･K･F 7/29、8/19、8/20、9/16、10/21、11/23
⓬新潟WBCジュニア 7/9、7/29、9/10、10/8、11/23、12/10
⓭ISE 9/9、9/30、10/14、10/28、12/16、1/7</td><td>※本事業での開催に至らなかったが、三菱電機･IHIさまのスポンサードにより、普及部事業において、類似したプロジェクトを開催しました。

■令和6年 3月30日(土)～31日(日)
■大阪市舞洲障がい者スポーツセンター

※受託期間に会場の確保が叶わなかったことも課題として残った。</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>※詳細については事業実施一覧表【別添】のとおり
❶千葉県障がい者スポーツ レクリエーションセンター 他
❷八戸市福祉体育館
❸大阪市舞洲障がい者スポーツセンター
❹草加市スポーツ健康都市記念体育館 他
❺堺市立健康福祉プラザ／舞洲SC 他
❻堺市立健康福祉プラザ／舞洲SC 他
❼ハーモニー高崎ケアセンター 他
❽東京都立花畑学園／有明スポーツセンター／武蔵野の森 他
❾Uプロジェクト 体育館／高知県立SC 他
❿気仙沼市立小泉小学校／松岩公民館 他
⓫十日町市総合体育館／東京都障害者総合SC 他
⓬新潟県障害者交流センター
⓭茨城県立医療大学 他</td><td></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>※詳細については事業実施一覧表【別添】のとおり
❶全4回／延べ24名 ❷全6回／延べ140名 ❸全6回／延べ39名
❹全6回／延べ101名 ❺全6回／延べ53名 ❻全6回／延べ41名
❼全6回／延べ165名 ❽全6回／延べ47名 ❾全6回／延べ50名
❿全6回／延べ212名 ⓫全6回／延べ343名 ⓬全6回／延べ75名
⓭全6回／延べ279名
<u>合計数／延べ 1，569名</u></td><td></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>※詳細については事業実施一覧表【別添】のとおり
※指導者及びマネージメントスタッフ
❶全4回／延べ17名 ❷全6回／延べ34名 ❸全6回／延べ30名
❹全6回／延べ28名 ❺全6回／延べ23名 ❻全6回／延べ19名
❼全6回／延べ44名 ❽全6回／延べ60名 ❾全6回／延べ15名
❿全6回／延べ18名 ⓫全6回／延べ56名 ⓬全6回／延べ19名
⓭全6回／延べ49名
<u>合計数／延べ 412名</u></td><td></td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>※詳細については事業実施一覧表【別添】のとおり
■HAS(北海道アダプティブスポーツ)■ラッセル岩手、審判部
■草加市スポーツ協会 ■近畿車いすバスケットボール連盟
■群馬県パラスポーツ協会 ■NPO法人 Jキャンプ
■(一社)Uプロジェクト ■四国車いすバスケットボール連盟
■関東車いすツインバスケ連盟 ■新潟WBC
■シッティングスポーツ協会 他</td><td></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>【ステップ1】
JWBF本部→本事業の目的とねらいの丁寧なアナウンスと、実施クラブとの共通認識
【ステップ2】
実施クラブ→会場の確保や、各地域内において、連携団体等のネットワーク構築並びにジュニア選手の発掘･育成。
【ステップ3】
JWBF本部と実施クラブにおいて、好事例や課題共有の報告会を開催し、各地域に合った連携団体の構築を目指す。</td><td></td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割･活用について</td><td colspan="2">実数まで把握できていないが、調査する事は可能である。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td colspan="2"></td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備･活用について</td><td colspan="3">本プロジェクトにおいて、実施団体13チームに活動用のボール2個を購入。
実施団体13チームが継続的に活動し、活用している。</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人 日本車いすバスケットボール連盟		
全体事業名称	JWBF 中長期計画推進プロジェクト ～未来プロジェクト～		
委託費	2,000,000	決算額	1,344,739
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	事業番号❶ 未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト ❶の事業については、1年目としては概ね達成できたと考えている。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	キッズ＆ジュニア世代の発掘及び育成にある一定の環境創出に成功した。 また、一方できっかけを生み出すことで、ニーズの高さを知れた事も大きな収穫である。		
費用に関する所見	費用対効果の明確性や妥当性は今後の検討課題である。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	今後さらに発展及び環境創出を目指すうえで、本事業を継続的に展開したいと考えている。その一方でクラブチーム等が助成事業無しで継続的に運営できる自立支援を同時に展開していきたいと考えている。		
参加者や 関係団体からの声	多くの子どもたちが、車いすバスケに出会うきっかけとなったり、継続的に楽しめる環境が生まれ始めたました。 本事業に賛同頂いたクラブチーム等は、少額な支援ながらも、大変喜んで下さっています。 指導者(スタッフ)の方の旅費が出るだけでも有難いという声も多く頂き、改めて現場の皆さまのスタッフがボランティアベースで、地域を支えて下さっていると課題共有をいたしました。		
その他所見	本助成事業のお力で、全国各地の子どもたちの活動場所(新たなコミュティ)が生まれ始めたことに、心より感謝申し上げます。		

東京都 他におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1）　未来を担う子どもたちのための環境創出プロジェクト

事業の様子

【地域におけるパラフェンシング振興事業】

◆パラフェンシング教室

◆パラフェンシング体験会

一般社団法人日本パラフェンシング協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラフェンシング協会		
◆計画書作成者	牛込公一		
◆企画・実施担当者	牛込公一(育成委員)	◆経理担当者	永井誠

全体事業名称	地域におけるパラフェンシング振興事業
委託費	2,000,000
地域の実情・課題点	パラフェンシング(車いすフェシング)は、「フレーム」と呼ばれる装置に車いすを固定した状態で、競技者の腕の長さに応じて対戦者間の距離を調節して、上半身のみで競技を行う。一般のフェンシングと同じ剣や防具を使用し、座ったままでの競技で「チェアワーク」等が不要なため、ある程度の年齢まで楽しめるスポーツであるが、「フレーム」が常設できる施設がない為に、気軽にいつでもスポーツを楽しんだり、日常的に練習がしにくく、競技人口が増えない事が課題である。本事業により、各地域で日常的な練習会・体験会を開催し、クラブ・都道府県協会の活動につなげ、継続的にフェンシングができるような環境整備を目指す。
総合的な事業の目的	各地域で定期的な練習会・体験会ができるよう、車いすフェンシング指導者の育成と、地域の障がい者スポーツ協会・指導員等との連携を図り、障がい者が日常的にフェンシングを楽しめる環境を構築することを目的とする。また各地域での活動をクラブ・支部を創設につなげ、将来的に「団体登録・県協会」制度を構築し、各県での活動を持続することを目指す。現在、中心となる選手・指導者が在住している都道府県で教室(練習会・体験会)を開催し、地域におけるパラフェンシングの普及・育成および認知度向上を目指す。 その後「クラブ・県協会・支部」等の設置に向け準備を行う。
総合的な事業のねらい	選手・指導者が現在いない地域でも体験会を開催し、「フェンシングを楽しむ」方から競技者入門までの人口を増やし、クラブ化や県協会の増加を目指す。 ・選手・指導者が在住している①北海道　②広島県で月2回程度の教室(練習会)を開催する。また2か所で新たに練習会を、その他の地域で体験会を開催し、今後の練習会を目指す。 ・練習会・体験会の開催に必要な、場所・指導者・用具・補助員を準備する。

事業名	
事業①	パラフェンシング教室
事業②	パラフェンシング体験会
事業③	パラフェンシングサポーター講習会(実施なし)
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人日本パラフェンシング協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">パラフェンシング教室</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>【広島パラフェンシング教室】
地域の希望者を対象に、パラフェンシング教室を行う。
会場設営、ウォーミングアップ、ボディワーク、個人レッスン、集団レッスン、ファイティング、クールダウン、片付け</td><td colspan="2">【旭川パラフェンシング教室】
地域の希望者を対象に、パラフェンシング教室を行う。
会場設営、ウォーミングアップ、ボディワーク、個人レッスン、集団レッスン、ファイティング、クールダウン、片付け</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>6月①3,5,12,19　②10,17,24
7月①1,3,8,10,17　②15,22
8月①12,14,21　②5,7,19,26
9月①9,11,18　②2,5,16,23,25
10月①2,7,16,21,23　②9,14,28
11月①4,6,18,20,25　②11,13,27
12月①2,4,16,18,23　②9,11,25
1月①6,13,15,22,29　②20,27
時間等詳細は別紙月別報告書に記載</td><td colspan="2">6月10,17,18,24
7月1,2,8,15,22,30
8月5,27
9月16,23
10月7,21,28
11月4,11,18,25
12月2,9,16
1月6,13,20,27
時間等詳細は別紙月別報告書に記載</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>【広島】
①広島市心身障がい者福祉センター(広島市東区光町2丁目1−5)
②ゆいポート(広島市中区大手町5丁目6−9)</td><td colspan="2">【旭川】
旭川市障害者福祉センターおぴった(旭川市宮前1条3丁目3番7号)</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>各回2～3名</td><td colspan="2">各回1～2名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>各回指導者2～3名</td><td colspan="2">各回指導者2～3名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>ひろしま三銃士</td><td colspan="2">旭川フェンシングクラブ</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>技術指導、競技者のサポートなど</td><td colspan="2">技術指導、競技者のサポートなど</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">車椅子フェンシング、トレーニングの実施と指導、競技者のサポート</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>1</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>29</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">現状では用具は問題なく整備されているが、今後、競技者が増えることを想定すると、障がいや競技種別(フルーレ、エペ、サーブル)によって用具を準備しなければならないが、十分な用具が揃っているとは言えない。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="4">一般社団法人日本パラフェンシング協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="4">パラフェンシング体験会</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>8月28日 石川パラフェンシング体験会

参加者に車いすフェンシングを体験してもらう。
・基礎的な練習と模擬試合体験など</td><td colspan="3">11月25日 石川パラフェンシング体験会

「パラスポーツを体験しよう」イベント内で、日本代表選手によるデモンストレーションと体験会を開催。希望する障がい者およびイベントに来場した健常者に車いすフェンシングを体験してもらう。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>8月28日 16:00～20:00</td><td colspan="3">11月25日 13:30～16:30</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>鞍月スポーツクラブ</td><td colspan="3">金沢総合体育館</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>16名
うち障がい者4名</td><td colspan="3">約50名
うち障がい者約10名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>現地パラスポーツ指導員1名
現地スタッフ 4名
派遣スタッフ 1名</td><td colspan="3">派遣スタッフ 1名
選手(コーチ) 2名
介助者 1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>石川県バリアフリーツアーセンター
石川県障がい者スポーツ協会(来場・見学)</td><td colspan="3">石川県バリアフリーツアーセンター</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>車いすフェンシング体験会の実施と指導、競技サポートスタッフへの指導</td><td colspan="3">イベント参加調整</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">車いすフェンシング体験会実施と指導・サポート
車いすを固定する用具の設置方法について指導 車いすの着脱法の指導
健常者フェンシングとのルールの違いや仕組みの違いを理解する</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>1</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>1</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">購入なし</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラフェンシング協会		
全体事業名称	地域におけるパラフェンシング振興事業		
委託費	2,000,000	決算額	1,833,532
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	各地域で定期的な練習会・体験会を実施し、日常的に車いすフェンシングができる環境を構築する事で「競技人口を増やす」との中長期的な目的に対しては、大きく達成できたとは言えない。 すでに教室事業が実施できている地域に加え、体験会を通じて教室事業を実施する地域への指導者の配置などが未達の原因と考えている。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	石川県で行う体験イベントとしては3回目で、参加者には過去の体験イベントに来た事がある方が何名か居た。 今回は試合形式の体験を行う事が出来たので、参加者は継続的に車いすフェンシングの出来る場所があれば始めたいとの意見だった。 参加者の関心が大幅に増加し、地域内でのパラフェンシングへの理解が向上。具体的な成果としては、新たなパラフェンシング愛好者が増加し、地域社会との連携が強化された。		
費用に関する所見	効果的かつ適切に使われ、経費も最小限に抑えることができた。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	競技として車椅子フェンシングが継続的に行える場所の創設および指導者・サポーターの配置が課題。 フェンシングと車椅子フェンシングが同時に行える環境が理想的であるので、地域で日常的に競技ができる環境の構築を推進する。		
参加者や 関係団体からの声	参加者から次回の体験会はいつ行うのか等の要望があった。 県外からの参加者は継続的に行える場所があれば競技を始めたいとの声もあった。		
その他所見	継続的に車椅子フェンシングを行える場所が無い為、 週1でも良いので活動の出来る場を作り出す事が必要。 障がいの有無に関係無く椅子に座って競うことを今回の活動で 見せる事が出来たので、オリパラの活動を一緒にする事を知ってもらうことが出来た。		

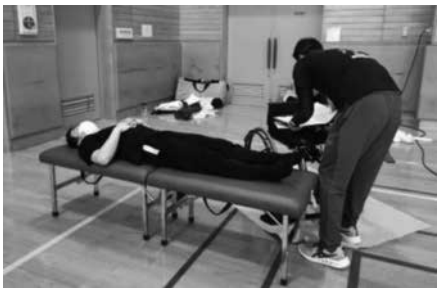
パラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 【パラフェンシング教室】

事業の様子（広島開催）

旭川開催



② 資料

開催要項

パラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（2） 【パラフェンシング体験会(石川)】

事業の様子

8月体験会

8月体験会

11月体験会

11月体験会

11月体験会

11月体験会

②資料

イベントチラシ

【ソーシャルフットボール全国キャラバン】

◆ソーシャルフットボール　中国キャラバン

特定非営利活動法人日本ソーシャルフットボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	特定非営利活動法人　日本ソーシャルフットボール協会(JSFA)		
◆計画書作成者	佐々　毅		
◆企画・実施担当者	佐々　毅	◆経理担当者	伊藤　佐絵子

全体事業名称	ソーシャルフットボール全国キャラバン
委託費	150万
地域の実情・課題点	ソーシャルフットボール(精神障がい者フットボール)は、多い時で全国160チーム、2000人が参加している。JSFAは統括団体であるものの、これまで地域への支援やコミュニケーションは不足しており、地域との連携を通じて競技人口や支援者を増やすことが十分にできていない課題がある。 JSFA中国ブロックにおいては、現在登録チームがない県がある。また、東海ブロックにおいては、チーム数は比較的多いが、それぞれの交流や連携は少ない。また、普及と啓発を担う現地のスタッフは少ない人数で献身的な努力を行っているが、地域全体への普及には手が回らないのが実情である。
総合的な事業の目的	JSFAのスタッフ及び日本代表候補選手や監督陣が現地に直接足を運び、交流することで更なる普及と啓発を行う。対象としては、①精神障がいを抱えている方たち、②精神障がい者を支援している方たち③サッカー・スポーツ関係者や自治体、企業関係者である。 ①②の対象者がフットサルを通じて得るスポーツの楽しさや、スポーツのリハビリ効果を医療福祉関係者に知ってもらい、精神障がい者スポーツの重要性を理解し、地域での普及発展を促進する。また、ブロック内の自治体やサッカー・スポーツ関係者、一般市民に対し働きかけ、精神障がい者のスポーツを通じ精神障がい者のイメージを変え、ブロック内での精神障がい者スポーツ推進の核となる人材を増やす。
総合的な事業のねらい	この2地域から、JSFA日本代表候補が出ていることから見て、決して潜在的需要の無い地域ではない。当事業を通して是非とも需要を喚起する。これを機会に現地の精神科医療や福祉施設の方々にソーシャルフットボールというがスポーツあり、それが当事者の回復に寄与するよいう認知を高める。その結果、他障がいに比べて低い精神障がいの者スポーツ参加率を引き上げることをねらいとする。 また、チーム運営や設立に精通したJSFAのスタッフが現地に赴き登録チーム関係者や登録チーム設立を希望する方々と交流することで、登録チームの運営ノウハウの提供と新規の登録チームを増やす。

事業名	
事業①	ソーシャルフットボール　中国キャラバン
事業②	ソーシャルフットボール　東海キャラバン(未実施)
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">特定非営利活動法人　日本ソーシャルフットボール協会(JSFA)</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">ソーシャルフットボール　中国キャラバン</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">ソーシャルフットボールは、日本では精神障がい者のフットボールとして行われている。精神障がい者は日本で400万人を超え(厚生労働省患者調査 2017)、その後も増加の一歩をたどっている。当協会は、「スポーツを通じて精神障がい者がつながり 自分らしく生きていくことを尊重し合う社会の実現」を目指して活動している。しかし、一般の精神障がい者理解は今だ進んでおらず、当事者や支援者の活動も多くは医療福祉の範囲に留まっている。このため、精神障がい当事者がスポーツをする機会を得ること、スポーツを通じて地域の幅広い連携を作り活動していくことを目的として、日本代表監督、JSFA強化指定選手が地域に赴いて指導や交流を行うこととした。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>令和5年12月16日</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>フットボールクリニック及び交流戦
広島市心身障害者福祉センター体育館</td><td colspan="2">講演会
サテライトキャンパスひろしま501・502</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>クリニック　18名
交流戦　　22名</td><td colspan="2">25名</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>JSFA(運営)　4名
JSFA(指導・選手)　8名
県立広島大学　2名
他医療機関　2名
広島県インクルーシブフットボール連盟　4名
広島県サッカー協会　4名</td><td colspan="2">JSFA　4名
県立広島大学　1名
他医療機関　1名</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">一般社団法人　広島県精神科病院協会　　一般社団法人　広島県精神保健福祉士協会
一般社団法人　広島県作業療法士会一般社団法人　広島県公認心理師協会
広島県臨床心理士会　　広島県精神障害者支援事業所連絡会
公益社団法人　広島県精神保健福祉家族会連合会
公益社団法人　広島県パラスポーツ協会
公益財団法人　広島市スポーツ協会</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">県立広島大学は運営スタッフの派遣、他の医療機関への人員派遣の依頼をしていただいた。
県サッカー協会からは審判派遣をしていただいた。
パラスポーツ協会に関しては、広島県インクルーシブフットボール連盟の方が障がい者スポーツ指導員でもあり、実際の運営に協力していただいた。医療福祉関係の団体、スポーツ協会には今回のイベントの周知に協力いただいた。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">1人は本事業の統括として、障がい者の特性を考慮しながらプログラムを作成し、運営の中心として活動した。1名は運営全般に関与し、もう1名は参加チームの責任者として参加者が楽しめるように支援した。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>3</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>3</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">精神障がい者スポーツにおいては、地域での活動は当事者・支援者とも自己資金がないところが大多数である。このことがスポーツ活動を躊躇させる大きな要因になっているのが実際である。この為絶対に必要なボールを数多く用意することで、イベントや練習で1人が1つボールを持てる環境を作り活用する。これが進み、興味が持続すれば自らスポーツ用具を購入する流れとなる。</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	特定非営利活動法人　日本ソーシャルフットボール協会(JSFA)		
全体事業名称	ソーシャルフットボール全国キャラバン		
委託費	150万	決算額	751,311
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	精神障がいを抱えている方たち、精神障がい者を支援している方たちに対する満足度は高かった。 COVID-19の流行により活動が制限されていたが、本事業により参加者・支援者ともスポーツへのモチベーションが高まった。支援者には普及活動の推進の必要性や意義を再確認する機会となった。一方、東海地区とは日程調整がつかず、本事業期間中での実施ができなかった。本事業は、協会内では普及及び広報担当の関係者と代表スタッフが関与し、かつ地域の関係者とのコミュニケーションを取らなければいけない事業だが、これを取りまとめる役割が報告者(佐々)一人であり、他の事業や事務業務も抱え対応が遅れたことが未達の原因である。3月末までの開催日時の検討もしたが、会場確保ができないこと、周知期間が少ないことから費用対効果が小さく断念するに至った。日本代表活動も増加しており、監督コーチを含めスタッフも本業があり調整が難しい面はあるが、強化育成も考えると事前の計画を早めに確定し、各地区一巡するまではこの事業を継続したい。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	地区と対話を重ね、一般における精神障がい者理解の促進や当事者自身のセルフイメージの変革、支援者の意識の変化を促すことによって、地区が主体的にニーズを把握し、本事業を組み立てるに至った。今後自走できる組織を作っていくという目標の共有ができた。 くわえて，今活動実績がない県へのアプローチや新たな障害領域(高次脳機能障害など)へ対しての意識が向き，自分達だけではないエリアとしての互助，共助の精神が醸成されつつあることは大きな成果かと思われる。		
費用に関する所見	これまで精神障がい者スポーツに係る関係者(他の障がい者スポーツも同様であろうが)は、無償ボランティア、ないし持ち出しが前提(ないし文化)となっており、自施設での印刷、会議や準備にかける時間などは自腹という考えが強い。このようなお金は申請困難な場合が多い。透明性確保が重要なことは理解しているが、実施者が経済的等の負担を被らないあり方を共に模索できれば幸いである。細かい負担の積み重ねで心が折れる支援者がおり、持続的な事業運営に支障をきたすのが小さな団体の現場の課題と考える。 　イベント単体の開催についての費用は予算とのずれはほぼなく開催できたものの、予定された事業そのものが開催できずに多額の返金を計上したことについては弁解のしようもない。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	今後の課題としては以下が挙げられる。 ①スポーツに関心のない精神障がい者層に関するアプローチ ②医療福祉関係以外との連携を増やす 各地域でサッカー協会・自治体・企業との協働を勧めることで既存の参加者の満足度を増やす。各団体や当事者・支援者の発信を増やしスポーツの楽しさを広める。同時に医療福祉関連施設に当事者が行き指導する事業を展開してすそ野を広げる。この為に地区の組織化を行い、経済的にも持続可能な体制づくりを支援する。 今回申請した事業の未達に関する対応として以下の対応とする。 ・本事業の実施担当者を別に置き、早期から事業計画とスケジュールを策定・実行する(対策済み)。 ・報告者(佐々)は本事業の進捗確認を定期的行う(対策済み)。 ・弊協会内の全体課題として、理事長がすべての業務のマネージメントおよび実務に関与しているのが実態である。持続的な運営のためにも部門を設立して権限・責任を委譲していく体制を構築する(実行・策定中)。		
参加者や 関係団体からの声	医療関係者から「普段診察室ではみることのできない精神障がい当事者の様子、発言をみて驚いた」スポーツ関係者からは「健常者と何が違うのかわからない」という声が聞かれた。精神障がい者であっても普通に社会で生活していることが軽視されていること、一方で精神障がい者が抱えている問題がわからないという課題を再認識した。双方を踏まえた精神障がい者理解を発信していくことが当協会の課題と考える。		
その他所見	この事業を通じて、地域としっかり向き合い、「共通の理念をもって精神障がい者スポーツの普及を進める」ことを大事にしている。地域の実情を聞くと、「人もお金もないのでできる範囲でやるしかない」という声も聞かれる。それはその通りだが、一方で幅広い可能性を考えられていない事もある。地域には、本助成を示すことで資金や人材調達の幅がある事を地域が知り、「自分たちだけで何とかする」という思い込みを払拭してもらえれば幸いである。JSFAとしても，本助成によるキャラバン活動の経験が蓄積されてきて展開する意義について更に発展させる組織づくりを進めている。		

ソーシャルフットボール全国キャラバンの事業写真

① 事業写真

(1)　【事業名】ソーシャルフットボール　中国キャラバン

令和５年12月16日(土)

事業の様子

第一部　ソーシャルフットボールクリニック

広島県心身障害者福祉センター体育館

開会式

身体機能や認知機能の向上プログラム

ボールを用いたコミュニケーション

ゴレイロコーチによるトレーニング①

ゴレイロコーチによるトレーニング②

日本代表監督によるねらいの説明

第二部　ソーシャルフットボール交流戦

JSFA vs ひとしおや

ひとしおや　vs　兵庫県代表

閉会式

全体写真

中国地区は、ソーシャルフットボールのチームが少なく、その連携もまだ十分ではない。このような地区で活動の展開を図るため、まず既存のチームのプレーヤーのモチベーションを上げること、連携を強化すること、医療福祉施設以外の連携を作ることを目的として本事業を行った。事前準備で広島県サッカー協会、広島県インクルーシブフットボール連盟（HIFF）、県立広島大学の協力が得られ、当日実際の運営も共に行うことができた。

当日代表監督・コーチによるトレーニングが行われた。プレーヤーの状況を把握し、楽しみつつもフットボールの本質である認知判断を重視し、一歩先の可能性に挑むコーチングを行った。プレーヤーや支援者も、普段とは違う練習の考え方がおおいに刺激になったという声が聞かれた。

交流戦に関しては、実力的には強化指定選手チームの力が高かったものの、地区チームは果敢にチャレンジし、触発されモチベーションを高める様子が見られた。また、それ以前に数少ない真剣勝負ができる機会を得たことへの喜びが前面に出ていたことが大きな成果であった。

地域のスタッフから聞かれた強化指定選手と練習や試合をするメリットとして，「協会のキャンプなどで多くの経験を積んでいる強化指定選手の集団として規律を持った行動（時間前集合や荷物の整理整頓，服装の統一，練習に対する準備など）や試合における振る舞い（試合終了後の挨拶や試合中のマナー，相手をリスペクトする姿勢など）を，地方チームの選手が実際に見て，また体験を通して知れたこと，それを指導者に促されることなく真似して振る舞えたことは大きい」という声があったことも，ソーシャルフットボールを通して当事者が社会経験を積むことにもつながるものと嬉しく思った。

第三部　ソーシャルフットボール講演会
サテライトキャンパスひろしま

奥田監督講演

選手講演①

選手講演②

協会ミッション

講演会では，JSFA 理事長の佐々より，ソーシャルフットボールという言葉の説明やそこに込められた思いについて，そして日本ソーシャルフットボール協会（JSFA）の歴史や昨年（2022 年）新たに採択された理念（ソーシャルフットボールを通じてつながり 自分らしく生きていくことを尊重しあう社会を実現する）が紹介され，またそれを実現するための協会のミッションについて説明された。気分障害などによる労働損失などメンタルヘルスが社会問題化している現在の社会情勢の中で，スポーツをする意味や意義が注目されている。時代の要請に応えるべく JSFA も活動していくことが講演を通じて確認された。

次に奥田監督より，日本代表，日本代表候補，強化指定選手といった枠組みや，それらのキャリアの中で取り組むべきこと，また日本代表や強化指定選手キャンプで伝えている事，その意味，考えている事などが冒頭に説明され，その後フロアとの質疑応答や意見交換が行われた。日本代表，強化指定制度の在り方やそれを通して表現していくことの意義など大いにディスカッションされた。

最後に，2 人の強化指定選手より，自分自身の体験を通して感じたことや学んだこと，メッセージが語られた。フロアからの質疑応答にも丁寧な回答があり，外部参加者もソーシャルフットボールの活動に強く関心を持ったようであった。

② 資料

ソーシャルフットボールキャラバン in 広島開催要項

1．日　時

2023 年 12 月 16 日　土曜日

第 1 部　10:00～14:00（ワークショップ）　　第 2 部　14:20～17:00（交流戦）

第 3 部　19:00～20:30（講演会）

2．場 所

ワークショップ・交流戦会場

広島市心身障害者福祉センター　　広島市東区光町二丁目 1 番 5 号

講演会会場

サテライトキャンパスひろしま 501・502　広島市中区大手町 1 丁目 5-3

3．参加費

ワークショップ・交流戦　参加費無料　／　講演会　選手：無料，選手以外：1,000 円

4．主　催

NPO 法人　日本ソーシャルフットボール協会

中国地区ソーシャルフットボール協会（主管）

5．後　援

一般社団法人　広島県精神科病院協会

一般社団法人　広島県精神保健福祉士協会

一般社団法人　広島県作業療法士会

一般社団法人　広島県公認心理師協会

広島県臨床心理士会

広島県精神障害者支援事業所連絡会

公益社団法人　広島県精神保健福祉家族会連合会

公益社団法人　広島県サッカー協会

公益社団法人　広島県パラスポーツ協会

公益財団法人　広島市スポーツ協会

6．協　力

一般社団法人　広島県インクルーシブフットボール連盟

7．参加資格

1）JSFA 中国地区に所属する選手または兵庫県のチームに所属する招待選手

2）以下の用件全てを満たし、スポーツマンシップに則って大会に参加できる個人

①精神疾患／精神障がいのため医療機関で継続的に治療を受けている者。

②2023 年４月１日現在において、13 歳以上の精神障がい者で、以下 i～iii のいずれかを提示できる者。

ｉ）精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）第 45 条の規定により、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けた者。

ii）障害者総合支援法の自立支援医療（精神通院）制度を利用している者。

iii）精神科を継続的に受診しており、大会日もしくは証明書の提出期限から１ヶ月以内期間で主治医より通院治療を証明する書類の発行が得られる者。

※上記 2）の資格で参加される方は，受付で確認しますので証明書類をご持参ください。

８．参加申し込み方法

上記参加資格を持つ参加希望者のうち，１）に該当する者は，それぞれのチームスタッフから申し込むものとする。２）に該当する希望者は，下記に示す google form から申し込むものとする（受付で参加資格を確認するので証明書類を持参すること）。

※１　見学はどなたでもご自由に行うことができます。２階観覧席からご見学ください。

※２　研修会は，どなたでも参加可能となっています。どうぞご参加ください。

○申し込みフォーム　⇒　https://forms.gle/swNdu1Mnrs2ok8cp7

【日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会】

◆日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会

一般社団法人日本パラ水泳連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
◆計画書作成者	櫻井　誠一		
◆企画・実施担当者	鈴木しのぶ	◆経理担当者	森中稜恵

全体事業名称	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会
委託費	2,000,000円
地域の実情・課題点	2020年からのコロナ禍によって、日本パラ水泳連盟会員数は2019年の701人から減少し、2021年9月現在553人となり、2022年ではさらに減少傾向がつづいている。この状況について、退会した方へのアンケートや地域連盟のヒアリングを行ったところ、①施設の利用制限などによって練習が出来なかったり、②地域大会の中止や③感染リスクを避けるため活動を中止などをあげている。 会員数の減少は、組織の衰退につながり、強化選手の発掘などにも影響するため、大きな課題と認識している。このため、2022年度は感染対策に注意しながら小規模でも地域記録会の開催を行うことで、地域連盟の活性化や参加の機会を増やす取り組みを行った。しかし、水泳・水中運動などを制限されていた時期に変化している日常生活習慣を、コロナ禍以前に戻すことは単年度の取り組みだけでは困難であり、継続して取り組みを進める必要がある
総合的な事業の目的	水泳・水中運動は重度の障がい者から軽度の障がい者まで安全に幅広く取り組めるスポーツであり、障がい者の健康維持に重要な役割を果たしている。第3期スポーツ基本計画においても成人障がい者の週1回以上のスポーツ実施率40%を目標としており、この数値目標達成に寄与する。 パラ水泳を通して仲間と楽しむ地域記録会の開催及びそれを統合した通信記録会を通じて、障がい別水泳技術を普及させ、地域での取り組み振興と全国レベルでの取り組みとの融合を図る。 2022年度は4地域の取り組みであったが、2023年度は5地域で実施をする。また、地域連盟所属の知的障害者にも通信記録会の対象とする試みを行う。中長期的には全国障害者スポーツ大会の県等地域予選水泳大会等とも連携し、地域におけるパラ水泳人口の増加を目指し、裾野を広げるとともに、当連盟会員数の増加を図る
総合的な事業のねらい	水泳・水中運動の機会を増やし、日常生活の中での水泳による健康運動活動を取り戻すことを目的として、通信による記録の順位付によって競う楽しさも提供する。当連盟の協力地域連盟6ブロック(東北、関東、中部、近畿、中四国、九州)のうち5つのブロック(東北、関東、近畿、中四国・九州)で開催する記録会の支援を行うとともに、世界パラ水泳連盟基準のマルチポイントシステムによる順位づけを行い通信総合大会として開催を行い、結果として当連盟の会員増加を図ることを目的とする。 また、記録会終了後に地域連盟との会議を開催し、本事業の振り返りと今後の方向について議論、検討を行う。

事業名	
事業①	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
事 業 名	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会		
事業内容	地域連盟がある4つのブロックで、新たに知的選手を加え、通信記録会を開催する。 通信による総合大会として、共通の種目を世界パラ水泳のマルチクラス点数による記録として評価、順位付けを行い、上位のものを表彰する。また、ブロック毎にリレー種目も行い、ブロック対抗リレーも実施することで地域ブロックの活性化を図る。 当初計画では中四国ブロックを入れて5つのブロック開催を目指したが、中四国ブロックの開催計画の場所が選手が集まりにくい四国の愛媛であったこと、施設がバリアフリーに欠けたことなどの理由により、参加者が集まらずやむを得ず中止とした。		
開催日時	・通信総合記録会:2023年7月～2024年1月 ・2023東日本パラ水泳選手権大会:2023年7月29日(土) ・2023チャレンジスイムフェスin SIGA:2023年8月27日(日) ・2023年度九州パラ水泳短水路公認記録会:2023年9月24日(日) ・2023関東パラ水泳記録会:2023年10月15日(日) ・第40回日本パラ水泳選手権大会(表彰式):2023年11月18日(土)～19日(日) ・通信記録会の振り返り会議:2024年1月13日(土)		
会　場	・通信総合記録会:2023年7月～2024年1月 ・2023東日本パラ水泳選手権大会:郡山しんきん開成山プール(短水路仕様) ・2023チャレンジスイムフェスin SIGA:滋賀県立障害者福祉センター ・2023年度九州パラ水泳短水路公認記録会:大分市営温水プール ・2023関東パラ水泳記録会:国士舘大学温水プール(25m) ・第40回日本パラ水泳選手権大会(表彰式):SAGA サンライズパーク「SAGAアクア」 ・通信記録会の振り返り会議:神戸三宮研修センター		
参 加 者	・通信総合記録会:2023年7月～2024年1月 ・2023東日本パラ水泳選手権大会:　46名 ・2023チャレンジスイムフェスin SIGA:　119名 ・2023年度九州パラ水泳短水路公認記録会:　36名 ・2023関東パラ水泳記録会:　58名 ・第40回日本パラ水泳選手権大会(表彰式): ハイポインター　4名・ユースハイポインター4名・ブロックリレー6チーム ・通信記録会の振り返り会議:12名(内旅費支給対象9名)		
人員体制	世界パラ水泳連盟の競技規則を理解している当連盟の競技役員資格者等(別図参照)		
連携団体名 (箇条書き)	・東北身体障がい者水泳連盟 ・関東身体障がい者水泳連盟 ・中部障がい者水泳連盟 ・近畿身体障がい者水泳連盟 ・九州障がい者水泳連盟		
実際の事業での 連携団体の役割	記録会を東北、関東、近畿、九州の地域ブロックで開催、そのうち近畿ブロックでは近畿身体障がい者水泳連盟と中部障がい者水泳連盟とで協働して開催した。 各ブロックでの記録会を日本パラ水泳連盟の通信記録会として連携する役割をになっていただいた。そのため、当連盟としては、世界パラ水泳連盟の競技役員資格等を持つ役員を派遣した。派遣にあたっては、地域と連携できる住所地の役員を派遣することで、今後の地域ブロックに貢献できる体制づくりを目指した。		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	地域連盟で活動している役員等は、同時に障がい者スポーツ指導者の資格を持っているものも多い。これは、当連盟では　パラ水泳のジャッジが出来る競技役員養成の中で、障がい者スポーツ指導員資格者には研修受講資格として認めているためでもある。当連盟資格者は主に競技エリア内での審判などの役割をお願いしている。障がい者スポーツ指導員のみの資格の場合は、主に競技エリア以外のところの役割をになっていただいている。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	61
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	64
スポーツ用具の 整備・活用について	整備・活用は無い		

事業全体の評価

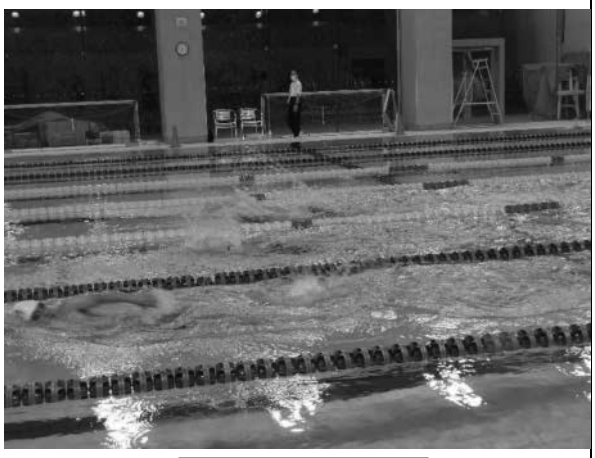
実施(申請)協会名	一般社団法人日本パラ水泳連盟		
全体事業名称	日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会		
委託費	2,000,000	決算額	1960429
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	コロナ禍により障がい者スポーツセンタープールなど公共施設が閉鎖・時間制限され、水泳・水中運動に取り組む会員が大幅に減少。この対策と新たなパラ水泳の魅力づくりとして、事業を展開し2年度目になる。今年度4地域を5地域に拡大実施すべく中・四国で準備をしたが、開催日時・場所などの影響で参加者が少なく中止となった。 一方、肢体不自由のみであったこの事業を知的障がい者にも拡大した。地域によって参加数のバラツキはあるものの、合計参加者259人のうち、知的障がい者132人と肢体不自由を上回り目的は達成した。また、地域における協力関係者もパラスポーツ指導員などとのネットワークも構築できつつあり、成果はあったと考えている。 ただ、当連盟の会員数に対する影響は大きくなく、減少傾向を止め、微増に止まった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	・知的選手の参加は、身体選手と日常一緒に練習しているクラブチームも多く喜ばれた。 ・支援者もボランティアを公募し一定数確保が出来たなど、新たな支援者のネットワークが広がりつつある。 ・地域の連盟が自主的に考え、工夫しながら取り組むという動きが出てきた。		
費用に関する所見	・通信の記録会として各ブロックのすべての記録会終了後に、全体評価としての表彰を行うが、そのトロフィーなどの費用が助成対象でないので、ぜひ対象としていただきたい。 ・次年度に向けてのPRパンフなどの作成費が執行できるとありがたい。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	・参加者数の増加については開催時期や場所などに影響されることから、工夫が必要であること、選手の支援者等も参加できる種目の設定などインクルージョン記録会として実施していくことなど積極的に考えていきたい。 ・全スポの予選大会との連携を実施すべく、、まずはモデル実施として、いくつかの県・市に働きかけたい(簡易クラス分けシステムの導入が必要となるが)		
参加者や関係団体からの声	・柔軟性に富んだ企画・運営が可能なので将来性という意味では期待値は高い。また、具体的にはビギナー選手、帯同コーチ、家族、役員など記録会に参加できるようにし、身近にパラ水泳に接する機会を増やすことは底辺の拡大になる。(近畿) ・知的含め、地域合宿で交流を深めている選手同士が選抜リレーで泳ぎ、お互いに応援をしあうなど、より深い交流となり非常に盛り上がりを見せた。このことにより、地域での活動にさらに期待が膨らむ。(九州) ・パラ水泳大会に初めて出場者した選手が3名いた(クラス分け受検者1名、オープン参加2名)。また、18歳未満の参加者は15.3%だった。今後の課題は、これらの初出場者およびジュニア層が次につながる取り組みを考えていくことである。(東北) ・参加者を増やし、目的を達成するためには、選手の間にマルチクラスによる全国リモート順位がつく仕組みについてさらなる周知が必要と考える。この仕組みの認知度が進むともっと盛り上がると思う。(関東)		
その他所見	・現時点では、参加者数に対して費用という点からは、パフォーマンスが悪いかも知れないが、未来への投資として考えると大いに発展性があると考える。		

地域におけるパラスポーツ振興事業の事業写真

①事業写真

（1）　【日本パラ水泳地域等記録会連携型通信総合記録会】

事業の様子



記録会の様子１

記録会の様子２

日本選手権での表彰１

日本選手権での表彰２

ホームページの写真

振り返り会議　2024 年 1 月 13 日開催

【デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業】

◆デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業

一般社団法人日本ろう者サッカー協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本ろう者サッカー協会		
◆計画書作成者	松原利江子		
◆企画・実施担当者	松原利江子	◆経理担当者	事務局本部長　田中賢二

全体事業名称	デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業
委託費	2,000,000円
地域の実情・課題点	デフサッカー及びデフフットサル日本代表合宿等において地域の聴覚障害児へのデフフットボール教室開催を行っている。また学校や企業講演などによる障害理解及び活動の周知拡大活動を行っている。しかしながら若年層のデフフットボールの定期的な活動の場は首都圏などの都市部に限られており地方在住の聴覚障害児者の活動の場は少ない。地方都市でのデフフットボール教室開催時には定期開催を望む声も多いが現状対応が難しい状況にある。2025年東京デフリンピック開催に向け、次世代育成が急務となっている。潜在する聴覚障害がある若年層にフットボールを通した社会参加機会及び体力と耐力の育成による心身の育みを図り、生きがいを持ち、強く社会で生きぬく力を伴走し共生社会の実現を目指す。 また、本事業については、当協会所属の育成担当を主(育成リーダー)として配置し、現役選手等を副(育成コーチ)として配置することによって、巡回指導現場によるOJT体制を構築する。参加者に対する現場での指導等コミュニケーション及び、当協会育成リーダーによる現場でのOJTを通じて次世代指導者の育成につなげ、指導人材の資質向上等を図る形とする。
総合的な事業の目的	デフフットボールというスポーツを通じることで「きこえないひと」と「きこえるひと」が互いに出会い、互いを知り、障害特性を学び、言語の違いを乗り越え共に社会性を育むことのできる地域環境づくりの第一歩とすること。
総合的な事業のねらい	地域に潜在する聴覚障害児のスポーツによる社会参加機会創設と共に、ロールモデルであるデフフットボール日本代表選手との出会いにより自己肯定感の向上と将来の夢を大きく拓く事を目的とする。 またスポーツによる体力や耐力の向上とチームプレイによるコミュニケーション力の向上を図り、社会で生きぬく為の力を育み、より良い人生を送るためのスキルと仲間を獲得する。 デフフットボールを通して繋がる人間関係や社会との繋がりにより障害理解を広げ、聴覚障害児者が能力を発揮し地域の誇れる一員として活躍する社会を目指す。デフフットボール巡回指導に加え、指導者育成も行いデフフットボールの地域相互発展を目指す。

事業名	
事業①	デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ろう者サッカー協会			
事 業 名	デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業			
事業内容	福島県内の学校等を対象に「デフフットボール」の体験会及び講義を実施する。	宮城県在住の聴覚障害児(コーダ・ソーダ含む)を対象に「デフフットボール」の体験会の開催及びサッカー関係者(指導者等)「聴覚障害児者へ向けた指導方法等についての講義を実施する。		
開催日時	①2023年11月16日　13時00分から16時00分 ②2024年01月31日　13時00分から16時00分	①2024年1月13日午前(デフフットボール教室) ②2024年1月27日午後(デフフットボール教室・講義) ③2024年2月3日(デフフットボール教室)		
会　場	①福島県立聴覚支援学校 (福島県郡山市大槻町字西ノ宮西32) ②福島県Jヴィレッジ (福島県双葉郡楢葉町大字山田丘美シ森8)	①③松森フットサルパーク (宮城県仙台市泉区松森字城前122-1) ②宮城県立貞山高等学校 (宮城県多賀城市鶴ケ谷1丁目10−2)		
参 加 者	①中等部(14名)、高等部(17名) ②福島県広野町立広野中学校 中学一年生(25名)	①②③宮城県在住の聴覚障害児延べ30名 ①②③地域サッカーチーム児童10名 ①②③地域サッカー関係者(成人)10名		
人員体制	各4名 指導員2名、運営スタッフ2名	①指導員1名、運営スタッフ1名 ②指導員2名、運営スタッフ3名 ③指導員2名、運営スタッフ1名		
連携団体名 (箇条書き)	■福島県企画調整部文化スポーツ局スポーツ支援課 ■福島県立聴覚支援学校 ■福島県広野町立広野中学校 ■ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ ■デフノバ	■宮城県サッカー協会 ■仙台市障害者スポーツ協会 ■ヴォスクオーレ仙台		
実際の事業での 連携団体の役割	■福島県企画調整部文化スポーツ局スポーツ支援課 対象校との日程等連絡調整ほか ■福島県立聴覚支援学校 校内参加者への周知、会場提供、実施当日のフォロー ■福島県広野町立広野中学校 校内参加者への周知、会場提供、実施当日のフォロー ■ナショナルトレーニングセンターJヴィレッジ 会場確保調整、学校連携調整ほか ■デフノバ 事業運営委員として会議の出席、企画の立案 体験会の運営、指導、講義の実施	■宮城県サッカー協会 後援及び会場協力・参加者募集 ■仙台市障害者スポーツ協会 後援 ■ヴォスクオーレ仙台 地域児童との合同教室協力		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	元ろう者フットサル日本代表選手が体験会を通じて体育とは違った指導を実施することで、きこえない児童に対するロールモデルとしてその振る舞いなどを学ぶことにつなげていく。 きこえない児童に対してスポーツの楽しさや、デフフットボールの存在を知るきっかけをつくる。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	4
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	9
スポーツ用具の 整備・活用について	■ビブス50枚 体験会のグループ分けに使用する。 ■ボール5号球15球 中学生以上の参加者が体験会時に使用する。 ■ボール4号球 小学生までの参加児童が体験会時に使用する。 ■空気入れ 体験会時に使用するボールへ空気を入れる際に使用する。			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本ろう者サッカー協会		
全体事業名称	デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業		
委託費	2,000,000円	決算額	
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	本事業の実施については当協会としても初の試みとなるなかで、聴覚障害のある児童に対する「デフフットボール体験」機会の提供と、デフフットボール体験を通じた「障害理解の機会」の提供、そして「デフフットボール指導者による講習」の実施ができたことは大きな成果であったと言える。 また、本事業の実施を通じて対象地域行政との連携、地域障害者スポーツ協会との連携、学校との連携と、将来的な「地域環境づくり」に向けた体制づくりの一歩を踏み出せたことはひとつの目的として達成できたと評価できる。 次年度以降、継続して取り組むことが重要となると考える。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	開催地域行政と連携することで、開催当日の様子を直に見ていただく機会ともなり参加する児童の反応から、本事業の重要性を直接感じていただくことができた。その結果、次年度以降も継続的な取り組みとなるよう方針も立てることができたため、次年度の事業申請に向けた大きな要因ともなった。 本事業参加者のなかから1名、競技者を目指したいというニーズも生まれ、このことについては学校側としても大変喜ばれることとなった。		
費用に関する所見	新規の取り組みとなるため必要物品の調達のほか、人員、移動等必要経費のボリューム感が掴みづらいところがあった。 結果的に委託費から余剰金が多く発生してしまったことは次年度に向けた反省点となる。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	開催地域によって行政との連携に違いがあった。 協力的な行政との連携では、学校との調整、実施会場との調整など、多くの面でスムーズに進めることができたが、事業を進めるうえでの入口を「地域障害者スポーツ協会」に設定することも良かったかもしれない。 本事業の主旨として「教育」との連携が必須であると考えるなかで、行政機関等との調整には多くの時間等を要することがわかった。次年度は早め早めの調整等に取り組みたい。		
参加者や 関係団体からの声	参加児童からは「楽しかった」という言葉は聞かれたが、競技者を目指したいという具体的な言葉が発せられたことは何よりの成果だった。 また「きこえない」ことに対して「自分ならどうするか」という点では、講習のなかで活発な意見があり、スポーツを通じた教育環境整備の重要性を行政や学校関係者も間近に感じられたようだ。		
その他所見			

デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業の事業写真

①事業写真

(1)　【事業名】デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業(福島県)

福島県聴覚支援学校(2023.1117)事業の様子

体育ではない環境での競技体験	競技環境での一体感
デフフットボールの普及	スポーツを通じた心身の育み
デフフットボールの普及	スポーツを通じた社会参画

福島県双葉郡広野町立広野中学校(2024.0131)事業の様子

ろう者と聴者の出会い	声のないコミュニケーション体験
聴力制限を補う目の働き体験	当事者講習による障害理解
聴力制限の実態体験	スポーツを通じた双方理解の創出

デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業の事業写真

①事業写真

(1)　【事業名】デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業(宮城県)

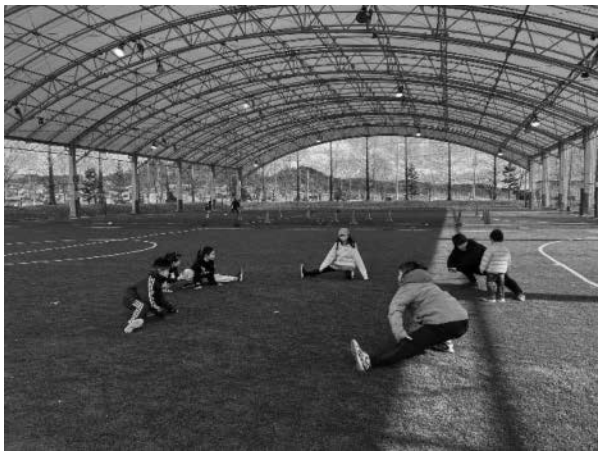
松森フットサルパークデフフットボール教室(2024.0113)事業の様子

ロールモデルとの出会い	元日本代表選手によるコーチング
元日本代表との交流	育成コーチによるレッスン

地域指導者向けデフフットボール教室・講義（2024.0127）事業の様子

元日本代表選手による講話	日本代表監督による講義
指導実践現場の見学と体験	ロールモデルとの交流
指導実践現場での講習・講義	スポーツを通じた社会性の育み

松森フットサルパークデフフットボール教室(2024.0203)事業の様子

ロールモデルとの出会い	現役強化指定選手によるコーチング
	
現役強化指定選手との交流	現役強化指定選手によるレッスン

②資料

(1)　【事業名】デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業(福島県)

福島県との協働開催による「福島県聴覚支援学校(2023.1117)事業」開催要項

東京2025デフリンピック サッカー競技 福島県開催 機運醸成事業
「福島県立聴覚支援学校でのデフサッカー体験教室」資料

令和5年11月16日
福島県スポーツ課

スケジュール

時 間	内 容	担 当
13:25	生徒集合	学校
13:30	【体験教室開始】 趣旨説明	福島県
13:35	デフサッカー体験教室	日本ろう者 サッカー協会
～	(予定項目) □デフフットボールに関するクイズ □ボールリフティング □パス・ドリブル・シュート トレーニング □トレーニングマッチ □交流タイム ※適宜項目間で休憩時間を挟む	〃
15:15	【体験教室終了】 生徒解散	学校
15:20	後片付け・撤収	学校/福島県/協会

講師について

(一社) 日本ろう者サッカー協会　育成コーチ

■高橋　緑(ふるぶるうむ)

[元デフフットサル日本代表選手として活躍し、現在は任意団体「ふるぶるうむ」として聴覚障害児むけのデフスポーツ体験を各地で開催している。

■岡松有香(ふるぶるうむ)

[言語聴覚士としての知識や経験を活かし、高橋と共に主に聴覚障害児を対象に「自分の人生は自分で選ぶ」をテーマに教育の質を高めるべく日々奮闘している。]

(一社) 日本ろう者サッカー協会　事務局本部

■田中賢二　(事務局長)

[元デフフットサル日本代表選手団 通訳兼メンタルトレーナー]

■渡多野尚子(事務局員)

[看護師の資格を有した障害者・児相談支援専門員として地域で活躍]

福島県との協働開催による「福島県双葉郡広野町立広野中学校(2024.0131)事業」開催要項

プレスリリース

令和６年１月２５日
福島県スポーツ課

県政記者クラブ加盟社　各位

～東京 2025 デフリンピック サッカー競技 福島県開催 機運醸成事業～
「Ｊヴィレッジでのデフサッカー体験教室（第１回）」を開催します！（取材案内）

県では、(一社) 日本ろう者サッカー協会及び (株) Ｊヴィレッジと共同し、令和７年 (2025年) 11月に東京都や本県のＪヴィレッジ (サッカー競技) で行われる聴覚障がい者の国際スポーツ大会「東京 2025 デフリンピック」の機運醸成及びスポーツを通じた共生社会の実現に向け、Ｊヴィレッジにてデフサッカー体験教室を開催しますのでお知らせいたします。

記

1　目　的　東京 2025 デフリンピックの認知度向上に向けた機運醸成及びスポーツを通じた共生社会の実現のため
2　日　時　令和６年１月３１日（水）13:40～15:00
3　場　所　Ｊヴィレッジ全天候型練習場（双葉郡楢葉町山田岡美シ森８番）
4　主　催　福島県、(一社) 日本ろう者サッカー協会、(株) Ｊヴィレッジ
　共　催　(公財) 福島県障がい者スポーツ協会
5　対　象　広野町立広野中学校１学年　生徒約３０名
6　内　容　デフサッカー体験　(講師：(一社) 日本ろう者サッカー協会)
7　取材について
・来場次第、全天候型練習場へ直接お越しください。練習場前駐車場が利用可能です。
【右図参照】
・自社腕章の着用をお願いします。
・当日、体験の様子を撮影される場合や生徒へ取材をする場合は、県または (株) Ｊヴィレッジの担当者へお声がけください。

8　その他
○　本体験教室は、(一社) 日本ろう者サッカー協会の「デフフットボール巡回指導及び指導人材の資質向上による次世代育成事業」及び福島県の「スポーツからはじめる共生社会実現プロジェクト」の共同事業として実施します。
○　なお、第２回については、詳細が決まり次第お知らせします。
9　東京 2025 デフリンピック大会概要
○大会期間　令和７年 (2025 年) 11 月 15 日～26 日 (12 日間)
○参 加 国　70～80 か国・地域 (選手数：約 3,000 人)
○競 技 数　21 競技 (サッカー競技は Ｊヴィレッジ)
○会　　場　東京都、静岡県、福島県 (サッカー競技)

【問い合わせ先】
福島県スポーツ課　副課長　堀江正樹　電話 024-521-7312 ／(内線) 5117

（1）　【事業名】デフフットボール地域巡回指導及び指導者育成事業（宮城県）

福島県との協働開催による「福島県双葉郡広野町立広野中学校（2024.0131）事業」開催要項

JDFA デフフットボール巡回指導事業（宮城県）の実施概要
令和５年度障害者スポーツ振興事業「地域におけるパラスポーツの振興事業」委託事業

【目的】
デフフットボールやデフスポーツ活動が希薄な地域で聴覚障害児のためのデフフットボール巡回指導を行うプロジェクトです。このプロジェクトは、聴覚障害児にとってフットボールは単なる運動ではなく、社会参加やコミュニケーションの手段でもあります。フットボールを通じて、聴覚障害児が自信や自己肯定感を持ち、心身の成長を促進することを目的としています。
具体的には、２県（宮城県・福島県）各３回の指導を行います。指導は、デフフットボールの基本技術やルールを教えるだけでなく、チームワークやリーダーシップ、コミュニケーション力を養うことも重視します。また、年間３回の体験を通して、聴覚障害児の運動への興味や好奇心を高め、運動習慣の定着につなげます。
聴覚障害児にとって貴重な機会となるとともに、地域社会や一般社会にも貢献します。聴覚障害児がフットボールを楽しむ姿は、地域の人々に感動や共感を与えます。また、聴覚障害児が一般社会に積極的に参加することは、社会の多様性や包摂性を高めることにもつながります。
そして聴覚障害児が地域のフットボール教室で活動が可能になる為に、地域のフットボール関係者にもこの事業に関わって頂き障害理解を深め、地域で聴覚障害児がフットボール受入れ体制を整える基盤作りとします。

【実施内容】
■教室見学・講習「聴覚障害児への指導理解と可能性」
日時：2024 年 1 月 27 日(土)　13 時～16 時半
場所：宮城県立貞山高等学校　体育館及び会議室
費用：無料
持物：動きやすい服装・室内履き・水分・タオル・筆記用具等
内容：
(1) 13 時～14 時半　　聴覚障害児へのフットボール指導見学（一部指導補助の可能性あり）
(2) 14 時 45 分～16 時 45 分　講話
日本ろう者サッカー協会代表理事及び監督等による「聴覚障害がある選手育成」についての現況と今後の展望について講話（予定）
対象：聴覚障害児者への指導に興味あるサッカー関係者等

■見学参加自由（見学及び指導補助可能）
① 1 月 13 日(土)　11 時～12 時半
デフキッズサッカー教室
松森フットサルパーク
② 2 月 3 日(土)　13 時～15 時
デフキッズ+地域児童サッカー教室
松森フットサルパーク

申込はこちら

【参加申し込み】
参加希望者は右記 QR コードよりお申込みください。
一般社団法人　日本ろう者サッカー協会
事務局　松原　rieko.matsubara.jdfa@outlook.jp

【地域における車椅子ソフトボール振興事業】

◆車椅子ソフトボール体験会 in 青森

◆車椅子ソフトボール体験会 in 大阪

◆車椅子ソフトボール体験会 in 広島

◆車椅子ソフトボール体験会 in 福岡

◆車椅子ソフトボール体験会 in 静岡

一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
◆計画書作成者	下川友暉		
◆企画・実施担当者	髙山樹里	◆経理担当者	柴田恭平

全体事業名称	地域における車椅子ソフトボール振興事業
委託費	￥2,000,000
地域の実情・課題点	全国で講習会や大会を開催して車椅子ソフトボールの普及や選手育成に取り組んでいるが、地方での競技人口が少なく、また地方では車いすやグラウンドなど環境が十分に整っていないため、車椅子ソフトボールに触れる機会がないのが実情です。 体験会を行うことで各地域での競技の認知・関心をもってもらい、競技に取り組んでもらうことに繋げていくことが狙いです。
総合的な事業の目的	①競技人口の増加　②選手層の拡大　③競技レベルの向上　④国際大会での活躍 ⑤車椅子スポーツ文化の浸透 体験会を実施することで、競技人口を増やすとともに地域との連携を築いていき、車椅子ソフトボールに取り組む選手や関係者の意識高揚につなげ、各地域で競技を楽しむ人・機会を増すことが目的です。
総合的な事業のねらい	・新たな人材の発掘:車椅子ソフトボールの魅力を知ってもらうことで、新たな競技者・協力者を増やします。 ・地域との交流:地域の方が参加することで、地域内の交流を深めます。 ・障がい者スポーツの環境構築:競技を通じ、障がい者スポーツに対する理解を深め地域での競技環境を構築していきます。

事業名	
事業①	車椅子ソフトボール体験会　in 青森
事業②	車椅子ソフトボール体験会　in 大阪
事業③	車椅子ソフトボール体験会　in 広島
事業④	車椅子ソフトボール体験会　in 福岡
事業⑤	車椅子ソフトボール体験会　in 静岡(追加)

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
事 業 名	車椅子ソフトボール体験会 in 青森		
事業内容	車椅子ソフトボール体験会 青森県には車椅子ソフトボールチームがないため、新チームの設立を目的とする体験会を実施する。		
開催日時	7月9日(日) 10:00～16:00		
会　場	青森県立保健大学		
参 加 者	24名		
人員体制	日本車椅子ソフトボール協会スタッフ4人 車椅子ソフトボール日本代表選手2人 運営スタッフ2人(地域の障がい者スポーツ指導員)		
連携団体名 (箇条書き)	公立大学法人青森県立保健大学 一般社団法人青森県理学療法士会 一般社団法人青森県作業療法士会		
実際の事業での 連携団体の役割	会場の使用 広報		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	運営スタッフとして障がい者スポーツ指導員の資格を持っているスタッフは3名にて実施することができた。 障がい者スポーツの理解があるからこそ、車椅子ソフトボールが初めてのスタッフに対しても、指導をすることができたと感じる。 また、地域の障がい者スポーツ指導員の方にもご協力いただき、広報を繋げていただきました。 地域への普及に繋がったと感じます。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	5
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	7
スポーツ用具の 整備・活用について	ボール、バット、防球ネット、クイックティープロ、スピードテスターを購入し、体験会で使用。		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会			
事 業 名	車椅子ソフトボール体験会 in 大阪			
事業内容	車椅子ソフトボール体験会 パートナーシップ協定を結んでいる東大阪市で、地域での車椅子ソフトボールの普及と促進し、近畿地方で競技普及を進める、近隣府県のチーム設置を目指す。			
開催日時	7月16日(日) 12:00～16:00			
会　場	東大阪ウィルチェアースポーツコート			
参 加 者	35人			
人員体制	日本車椅子ソフトボール協会スタッフ3人 車椅子ソフトボール日本代表選手12人 運営スタッフ2人(地域の障がい者スポーツ指導員)			
連携団体名 (箇条書き)	東大阪市			
実際の事業での 連携団体の役割	会場の使用			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	18歳以下の参加者がいたため、対応を実施。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	4
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	4
スポーツ用具の 整備・活用について	ボール、バット、防球ネット、クイックティープロ、スピードテスターを購入し、体験会で使用。			

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会			
事 業 名	車椅子ソフトボール体験会　in 広島			
事業内容	車椅子ソフトボール体験会 地域チーム(広島サリーレ)と連携し、中国地方での車椅子ソフトボールの普及と促進を目的に事業を実施する。			
開催日時	実施日程:10月21日(土)11:00～16:00			
会　場	広島みなと公園			
参 加 者	15名			
人員体制	日本車椅子ソフトボール協会スタッフ3人 車椅子ソフトボール日本代表選手3人 運営スタッフ1人(地域の障がい者スポーツ指導員)			
連携団体名 (箇条書き)	FOOT&WORK 広島サリーレ			
実際の事業での 連携団体の役割	地域での広報			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	地域での唯一の車椅子ソフトボールチームである 広島サリーレにも協力いただいた。 多くの指導員もおり、参加者への広報と当日フォローを実施することができた。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	4	
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	10	
スポーツ用具の 整備・活用について	ボール、バット、防球ネット、クイックティープロ、スピードテスターを購入し、体験会で使用。			

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="4">一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="4">車椅子ソフトボール体験会　in 福岡</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="4">車椅子ソフトボール体験会
九州地方での車椅子ソフトボールの普及と促進を目的に事業を実施する。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>12月16日(土)　11:00～16:00</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>体育館</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>32名</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td>日本車椅子ソフトボール協会スタッフ4人
車椅子ソフトボール日本代表選手3人</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>北九州市立大学</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>広報</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td colspan="2" rowspan="2">指導員が指導にあたることができた。
また大学にて実施することができたため、多くの大学生の参加があった。
卒業と同時に障がい者スポーツ指導員の資格を取得見込みの学生と連携することができたことはよかったと感じる。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>4</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>14</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="4">ボール、バット、防球ネット、クイックティープロ、スピードテスターを購入し、体験会で使用。</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会			
事 業 名	車椅子ソフトボール体験会 in 静岡(追加)			
事業内容	車椅子ソフトボール体験会 静岡県・東海地方での車椅子ソフトボールの普及と促進を目的に事業を実施する。			
開催日時	9月2日(土) 11:00～16:00			
会　場	東静岡2号調整池(静岡市駿河区東静岡二丁目地内)			
参 加 者	19名			
人員体制	日本車椅子ソフトボール協会スタッフ4人 車椅子ソフトボール日本代表選手2人			
連携団体名 (箇条書き)	静岡REX			
実際の事業での 連携団体の役割	広報、開催場所の模索			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	障がい者スポーツ指導員の資格を持っているスタッフが中心となり運営を実施した。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2	
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	2	
スポーツ用具の 整備・活用について	ボール、バット、防球ネット、クイックティープロ、スピードテスターを購入し、体験会で使用。			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本車椅子ソフトボール協会		
全体事業名称	地域における車椅子ソフトボール振興事業		
委託費	¥2,000,000	決算額	1,560,936
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	5つの都道府県にて車椅子ソフトボール体験会を開催できたことは嬉しく感じる。 地域への普及という観点で、多くの方に車椅子ソフトボールを体験していただけることができ、競技人口の拡大にはつながったと感じる。 地域ごとに障がい者スポーツ指導員の参加もあり、今後連携をさらに広めていくことが重要だと感じる。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	初体験から大会に参加する選手や、チームとしての活動が活発になった地域もあると感じる。 特に若手障がい者の参加があり、未来に繋がる成果だと感じる。		
費用に関する所見	競技用車いすの運搬には、予定よりも費用を要すると感じた。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	地域での継続的な体験会の開催と、選手の発掘が重要だと感じる。 47都道府県、どこでも、車椅子ソフトボールが参加できるような仕組みを目指して取り組みたいと感じる。		
参加者や関係団体からの声	(青森会場・30代男性)理学療法士として、今回の体験はとても貴重な時間だったと感じています。様々なボランティア、障害者スポーツに参加してみましたが、野球をやっていたこともあり今回のソフトボールは割と早く感覚をつかむことができたので、本当に楽しかったです。 (大阪会場・20代男性)初めての車椅子ソフト楽しかったです。選手やスタッフの方はじめ皆様優しく、参加しやすい体験会でした。 (広島会場・20代女性)車椅子ソフトボールのことを知り、実際に体験してみて、普段しているソフトボールとは違う難しさを感じました。車椅子ソフトボールの普及・発展に繋げていくために、中高校生のソフトボール部などにも体験してもらうのがいいのではないかと感じました。また機会があったら車椅子ソフトボールをしたり試合を観戦したりしてみたいです。本日はありがとうございました。 (静岡会場・40代女性)初めてであったが、今後も参加したいと思った。障害の有無や性別関係なくできるスポーツで楽しかったのでもっと広がってほしい。		
その他所見	多くの学びがあったと感じるため、継続的に続けていけるようにしたい。		

地域における車椅子ソフトボール振興事業の事業写真

①事業写真

（1）　【事業内容①】車椅子ソフトボール体験会　in　青森

事業の様子

会場

会長と講師・運営スタッフ

受付・準備

集合・挨拶

ピッチャー体験

代表選手紹介

②資料

・開催要項

・青森朝日放送での紹介

地域における車椅子ソフトボール振興事業の事業写真

①事業写真

（2）　【事業内容②】車椅子ソフトボール体験会　in 大阪

事業の様子

準備

会長挨拶

Team 選手紹介

体験会

体験

体験

②資料

・開催要項

地域における車椅子ソフトボール振興事業の事業写真

①事業写真

（3）　【事業内容①】車椅ソフトボール体験会　in 広島

事業の様子

会場準備

参加者集合

体験会

体験会

体験会

体験会

②資料

・開催要項

地域における車椅子ソフトボール振興事業の事業写真

①事業写真

（4）　【事業内容②】車椅子ソフトボール体験会　in 福岡

事業の様子

開始前打合せ

受付

体験会

体験会

体験会

参加者集合写真

②資料

・開催要項

地域における車椅子ソフトボール振興事業の事業写真

①事業写真

（5）　【事業内容①】車椅子ソフトボール体験会　in 静岡

事業の様子

会場準備

打合せ

模擬試合

模擬試合

会場全景

参加者集合写真

②資料

・開催要項

・NHK 紹介

【地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業】

◆パラスキー・スノーボード体験教室事業

◆視覚障がい者スキー体験事業

◆地域スキークラブ活動支援事業

公益財団法人日本障害者スキー連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
◆計画書作成者	辻村和見		
◆企画・実施担当者	井口・夏目・北野	◆経理担当者	篠原・平見・諸橋

全体事業名称	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業
委託費	2,000,000
地域の実情・課題点	パラスキー(スノーボード含む)は、降雪のある地域・季節に限定され、「スキー場」に行かないとできないスポーツであり、障がい者特有のものも含めた競技用具や指導者が必要なスポーツのため、「障がい者が気軽にできるスポーツ」ではないことが一番の課題である。 競技団体として、地域のスキー場・スキー連盟・スキー指導者や障がい者スポーツ指導員等との協力関係ができているとは言い難く、障がい者が「スキーを体験する」「日常的に練習する」という場所を提供できずにいるので、今後地域とのつながりを構築しスポーツ機会の増加のために地域団体やチーム・クラブの登録制度を作ることも必要な課題と考えている。
総合的な事業の目的	体験会を少しでも多く開催し、まずは「雪の上で滑る」機械を創出し、「またやってみたい」という障がい者を増やす。連盟としては地域と連携し、チーム・クラブ活動やスキー場での指導を元に、多くの障がい者が日常的に競技に取り組んめる環境づくりを目指す。
総合的な事業のねらい	①体験会を通じ多くの障がい者がスノースポーツを体験し、「またやってみたい」と思う。 ②体験会を通じ、地域のスキー関係施設・団体・指導者等の協力体制を構築し、各地域でいつでも体験会ができる、日常的に練習ができる環境を作ることを目的とする。 ③視覚障がい者がスキーを体験する機会を創り、スノースポーツに親しむことで、将来の競技者発掘につなげる。 ④競技者・指導者・協力者が団体(支部・クラブ・チーム等)を創設し計画的に各地域での活動できるよう、各地域での活動を持続することを目指す。

事業名	
事業①	パラスキー・スノーボード体験教室事業
事業②	視覚障がい者スキー体験事業
事業③	地域スキークラブ活動支援事業
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟			
事 業 名	パラスキー・スノーボード体験教室事業			
事業内容	パラスキー・スノーボードに必要な用具の操作や必要なサポートについての知識を広める。 障害のある人に必要な用具や人的サポートを活用してスノースポーツ(パラスキー・スノーボード)を楽しむことができることを体験会を通じて伝える。			
開催日時	兵庫県:2024年1月13日(土) 8:30−15:30 岩手県:2024年1月27日(土) 8:30−15:30 長野県:2024年2月3日(土) 9:20−15:30 西日本(兵庫県)は、雪不足のため中止			
会　場	兵庫県:ハチ高原スキー場 岩手県:安比スノーマウンテンリゾート 長野県:いいづなリゾートスキー場			
参 加 者	のべ参加人数 岩手県:15人(うち障害者3人) 長野県:15人(うち障害者1人)			
人員体制	各地域の選手・コーチ・トレーナー・支援スタッフなどが参加。当日は参加人数に合わせ準備、用具運搬、フィッティング、雪上指導などを分担。			
連携団体名 (箇条書き)	【岩手】 ・安比高原スキー場 ・安比スキー＆スノーボードスクール ・一般社団法人岩手権利化学療法士会ー 一般社団法人岩手県作業療法士会 【長野】 ・長野県障がい者福祉センター「サンアップル」 ・いいづなリゾートスキー場 ・サクラメイト・プロスキースクール ・TOMOE SNOW SPORTS SCHOOL		【兵庫】 ・ハチ高原スキー場 ・兵庫県立障害者スポーツ交流会 ・大阪市障害者福祉・スポーツセンター ・大阪府スキー連盟 ・日本チェアスキー協会 ・パークホテル白樺館	
実際の事業での 連携団体の役割	各地域の施設所有者や理学療法士会、また障害者スポーツ協会にサポートを依頼し、事前の周知などを行ってもらい、当日も運営のサポートを行った。			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	パラスポーツ指導員がフィッティングや載せ替えなどを指導し、実施した。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	6
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	6
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし			

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">公益財団法人日本障害者スキー連盟</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">視覚障がい者スキー体験事業</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td>盲学校と連携した視覚障がい者ローラースキー・バイアスロン体験会(雪上スキーに向けた体育館での事前体験会):盲学校の生徒たちに、パラノルディック競技に親しんでもらうための第1段階として、体育授業でローラースキーと視覚障がい者用ビームライフルの体験を設定・実施</td><td colspan="2">「視覚障がい者雪上クロスカントリースキー体験会およびガイド講習会」は雪不足のため中止</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>11月13日・14日</td><td colspan="2">※雪不足の為中止</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>長野県松本市 松本盲学校
※所属生徒のみ対象</td><td colspan="2">長野県白馬村スノーハープ</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>体験生徒12人・職員10人、JPSスタッフ4人、その他3人
(合計29人)</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td></td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>・長野県障がい者福祉センターサンアップル
・白馬村
・松本盲学校</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>松本盲学校に会場提供や体育授業との連携
白馬村には用具のレンタル、競技指導を依頼(中止)
サンアップルには競技指導
スキー連盟は企画・連絡調整・用具貸し出し等
これらを組み合わせて実施した。</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">障がい者スポーツ指導者が模範を見せたり、フォームを触って理解したりすることで、参加者がイメージを持ち易く、楽しく上達することができた。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>3</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>3</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">安全確保のため、ヘルメット・プロテクターおよびゴム石突き(ストックの先につけて陸上・体育館で使用する)</td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟			
事 業 名	地域スキークラブ活動支援事業			
事業内容	コムレイド クラブチームが練習会を開催し、地域のパラスキープレーヤーの競技機会を創出する。	999AC旭川 クラブチームが練習会や大会を開催し、地域のパラスキープレーヤーの競技機会を創出する。		
開催日時	9月3, 7, 9, 14, 17, 21, 24 10月1, 8, 15, 22, 29 11月5, 6, 12, 19, 26 12月3, 9, 10, 16, 17, 23, 24, 30, 31 1月2, 11, 18, 20, 21, 25, 27, 28 2月1, 3, 4 9時～12時	12月30日、29日、24日 1月3日、4日、7日、14日、21日		
会　場	花咲スポーツ公園 旭岳クロスカントリースキーコース 富沢クロスカントリースキーコース	富沢クロスカントリースキーコース ゴルフ5カントリー美唄コース		
参 加 者	延べ人数　324人	延べ人数　96人		
人員体制	コーチ3名 当日は参加者人数に合わせ準備、用具運搬、雪上指導などを分担。	コーチ13名 当日は参加者人数に合わせ準備、用具運搬、雪上指導などを分担。		
連携団体名 （箇条書き）	特になし	特になし		
実際の事業での 連携団体の役割				
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	障がい者が安全・安心にスポーツをするための指導および講習会運営 練習会の計画、実施および普及活動		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	67
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	9
スポーツ用具の 整備・活用について	購入なし			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	公益財団法人日本障害者スキー連盟		
全体事業名称	地域におけるパラスキー・パラスノーボード振興事業		
委託費	2,000,000	決算額	1,693,694
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	体験会については当初の「雪の上で滑る」という機会を創出し、またやってみたいと思ってもらえることができた。今年は暖冬の影響で雪不足となり、体験会が1つ中止となった。 練習会の開催については定期的に行うことができ、スペシャルオリンピックス冬季ナショナルゲームではクラブ選手がメダル獲得をするなど活躍があった。 今年度の事業としてはお概ね目的を達成できたと考えているが、ここからどう定着させるか、参加者を増やすか、他地域に広げるかの検討が必要と考えている。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	パラスキー・スノーボードに必要な用具の操作や必要なサポートについての知識を広めることができ、地域団体の関係者がより障がい者のサポート方法について知識をつけることができた。 体験会の開催地域・学校では、ある程度のノウハウや地域連携を残すことができた。また既存クラブの活動を理想モデルとして、連盟普及担当が十分に理解し、今後の展開に向けた気づきがあった。		
費用に関する所見	おおむね計画通りに使用することができた。 雪不足により実質2回の雪上体験会が実施できなかった為、決定額を執行できなかったことが非常に残念である。(盲学校:白馬体験会、アルペン・スノーボード:西日本会場が中止)		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	より競技認知度を上げ、体験会や練習会を通して障がいがあってもウィンタースポーツが楽しめるということを周知していきたい。将来的には体験会を実施した地域で定期的な練習会を開催できるように参加者を増やしていきたい。 活動支援した2クラブをモデルとし、体験会実施地域でクラブ創設から定期的な練習会・体験会の開催を目指す。また他地域に広げることと、既存クラブでも参加者の増化や、クラブの永続的な存続等を検討し、持続・自走ができるクラブ運営ができるようになることが目標となる。		
参加者や関係団体からの声	・メダル獲得に向けてより練習に励みたいです。(参加者) ・楽しかった、これからも続けたい。(参加者) ・興味があったので、体験できる機会があってうれしかった。費用的に何回も参加はできないが、チャンスがあれば、また参加したい。(参加者) ・オリンピアン、パラリンピアンに指導をしてもらえてうれしかった。(参加者) ・運営側の問題ではないのですが、雪不足やスキー場のコンディションによって、開催の可否が直前まで、わからないのが辛い。(参加者) ・連盟との協力体制を築くことで、地元の団体が地域への還元だけでなく、他県や他地域の参加者との交流ができたこともよかった。(関連団体) ・用具の貸し出しや提供をしてもらえると、参加人数増や質の向上につながるので検討をしていただきたい。(クラブチーム) ・クラブ活動の現状を理解してもらえて、求めている支援や今後の活動に対しての助言を頂けたのが良かった。(クラブチーム)		
その他所見	自然相手のスポーツで仕方がないが、雪不足による中止は非常に残念であった。		

公益財団法人日本障害者スキー連盟における

パラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（1） 【事業名】

パラスキー・スノーボード体験教室事業

事業の様子

岩手体験会

長野体験会

②資料

開催要項

公益財団法人日本障害者スキー連盟における

パラスポーツ振興事業の事業写真

① 事業写真

（2） 【事業名】

視覚障がい者スキー体験事業

事業の様子

体育館全景

スポーツ指導員の指導

シットスキー体験

元選手の指導

外での体験

②資料

活動報告

公益財団法人日本障害者スキー連盟における

パラスポーツ振興事業の事業写真

② 事業写真

（3） 【事業名】

地域スキークラブ活動支援事業

事業の様子

コムレイド1

コムレイド2

コムレイド 3

999AC 旭川 1

999AC 旭川 2

999AC 旭川 3（教育大学との交流）

②資料

活動報告

【ID 柔道紹介事業・体験会】

◆広島　ID 柔道紹介事業・体験会

◆埼玉　ID 柔道紹介事業・体験会

◆千葉　ID 柔道紹介事業・体験会

◆愛知　ID 柔道紹介事業・体験会

公益財団法人全日本柔道連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	公益財団法人　全日本柔道連盟		
◆計画書作成者	蒲原　光一		
◆企画・実施担当者	濵名 智男	◆経理担当者	蒲原　光一

全体事業名称	ID柔道紹介事業・体験会
委託費	500,000円
地域の実情・課題点	2022年3月に実施した全国アンケートの結果、多くの地域の道場等では、知的に障がいがありながら柔道を志す人たちを受け入れたいと考えていることがわかった。しかしながら、安全管理、指導法、練習環境への不安を抱えていることも明らかとなった。加えて柔道を習いたくても、どこで受け入れてくれるのかという情報が不足していることも明らかとなった。 また、知的障がい者柔道自体が十分に普及していないこともあり、一般に向けた広報も積極的に展開していく必要性を感じた。
総合的な事業の目的	指導者に対し、ID柔道を理解して頂くと共にID柔道選手受入に関する環境を整備する。特に、ID柔道特有の審判規定や安全な指導法について等について普及していく。(一般人を含め)ID柔道を知っていただくための広報活動を継続していく。
総合的な事業のねらい	指導者の養成・保護者や未経験者への普及振興・練習環境の整備

事業名	
事業①	広島　ID柔道紹介事業・体験会
事業②	埼玉　ID柔道紹介事業・体験会
事業③	千葉　ID柔道紹介事業・体験会
事業④	愛知　ID柔道紹介事業・体験会
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人　全日本柔道連盟		
事 業 名	ID柔道紹介事業・体験会(広島)		
事業内容	(1)自己紹介 (2)全柔連 知的障がい者柔道振興部会のミッション (3)これまでの取り組みについて (4)本年度の取組みについて (5)知的障がい者(ID)柔道の現状 　(2022年3月実施のアンケート内容) (6)ID柔道の安全性 (7)ID柔道練習法の一例 　柔道原理(実技) 　自然体・柔の理・崩し・技の練習方法 (8)ID柔道の競技ルール (9)ID柔道選手の保護者・指導者の考え		
開催日時	2023年7月23日(日)12:30～受付 13:00開始　17:00終了		
会　場	エフピコアリーナふくやま柔道場		
参 加 者	知的に障がいを持つ柔道未経験者　10名 知的に障がいを持つ柔道未経験者の保護者　16名 知的に障がいを持つ柔道経験者　10名 指導者　25名 柔道経験者(小・中・高校生・一般)　62名 観覧者　40名 　合計　162名		
人員体制	講師　知的障がい者柔道振興部会 部会長 濵名智男 事務局　広島県柔道連盟担当者　中村 和裕		
連携団体名 (箇条書き)	主　催:備後柔道連盟福山支部 主　管:一般社団法人スポーツプロモーションふくやま 後　援:(仮)福山市障害者(児)施設連絡協議会・スペシャルオリンピックス日本広島 社会福祉法人虹の会・福山大学中村和裕ゼミ		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	1
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">公益財団法人　全日本柔道連盟</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">ID柔道紹介事業・体験会(埼玉)</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">(1)知的障がい者柔道の概要
・知的障がい者理解
・全日本柔道連盟知的障がい者柔道振興部会の取り組み
・知的障がい者柔道の現状と課題
(2)知的障がい者柔道指導法
・安全で楽しく、知的に障がいがある方にとって有意義な柔道指導法
(3)競技規程
講師 ： 小林 晴奈(II-2選手保護者)
(4)柔道の魅力や柔道をやらせて良かったこと
(5)質疑応答(質問)
・柔道をはじめた理由
・指導者と保護者の連携
・練習中の怪我の心配</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td>2023 年8月19日(土)15:00～17:00</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>会　場</td><td>大宮武道館 埼玉県さいたま市見沼区堀崎町12-36</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td>知的障がい者(柔道未経験者)4名
一般指導者35名</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">講師　　知的障がい者柔道振興部会 部会長 濵名智男
　　知的障がい者柔道振興部会 副部会長 山﨑正義
講師補佐 知的障がい者柔道選手保護者 小林晴奈
　　知的障がい者柔道選手 小林 陸
事務局　 さいたま市柔道協会</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td>埼玉県柔道連盟</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td>参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
障がい者スポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。
事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。
柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。
障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。指導者の仲間を増やすこと。
練習の場を増やすこと。</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td>2</td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人 全日本柔道連盟			
事 業 名	ID柔道紹介事業・体験会			
事業内容	(1)知的障がい者柔道の概要 ・知的障がい者理解 ・全日本柔道連盟知的障がい者柔道振興部会の取り組み ・知的障がい者柔道の現状と課題 (2)知的障がい者柔道指導法 ・安全で楽しく、知的に障がいがある方にとって有意義な柔道指導法 (3)競技規程 講師 ： 小林 晴奈(II-2選手保護者) (4)柔道の魅力や柔道をやらせて良かったこと (5)質疑応答(質問) ・柔道をはじめた理由 ・指導者と保護者の連携 ・練習中の怪我の心配 ・柔道を始める前と後の相違点			
開催日時	2023 年11月5日(土)14:00～17:00			
会 場	YohaSアリーナ～本能に、感動を～ 千葉県千葉市中央区弁天4丁目1−2			
参 加 者	柔道指導者 13 高校生・大学生 18 知的障がい者柔道選手 4 知的障がい者柔道選手保護者 4			
人員体制	講師 知的障がい者柔道振興部会 部会長 濵名智男 知的障がい者柔道振興部会 副部会長 山崎正義 講師補佐 知的障がい者柔道選手保護者 小林晴奈 知的障がい者柔道選手 小林 陸 事務局 千葉県柔道連盟担当者 石井 陽平			
連携団体名 (箇条書き)	千葉県柔道連盟			
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当			
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	2
			本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	2
スポーツ用具の 整備・活用について				

各事業における事業報告シート

実施協会名	公益財団法人　全日本柔道連盟		
事 業 名	ID柔道紹介事業・体験会		
事業内容	(1)開会式 (2)学習会 　自己紹介 　スポーツの価値について 　全柔連 知的障がい者柔道振興部会のミッションについて 　これまでの取り組みについて 　知的障がい者理解 　ID柔道の安全性 　ID柔道指導における留意点 　ID柔道の競技ルール(安全にID柔道を行うために) (3)合同練習 (4)交流会(情報交換等)		
開催日時	2023年11月25日(土)　09:30～13:30		
会　場	私立桜丘中学校・高等学校桜武館 愛知県豊橋市南牛川二丁目1-11		
参 加 者	愛知県内の柔道指導者・知的障がいをもちながら、現在真摯に柔道に取り組んでいる者・知的障がいをもちながら、柔道に興味関心のある者約50名程度		
人員体制	講師　　知的障がい者柔道振興部会 副部会長 山崎正義 事務局　　愛知県柔道連盟担当者　竹上　勝		
連携団体名 (箇条書き)	愛知県柔道連盟		
実際の事業での 連携団体の役割	参加者募集、会場手配等の開催準備、当日の運営担当		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	知的障がい者柔道振興のため、指導者は以下の役割を担う。 事業参加者・関係者に知的障がい者への理解を促すこと。 柔道を紹介し、知的障がい者の柔道への関わり方を示すこと。 障がいの特性に応じた柔道の楽しみ方や練習方法を紹介すること。 指導者の仲間を増やすこと。練習の場を増やすこと。	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	1
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	1
スポーツ用具の 整備・活用について			

事業全体の評価

実施(申請)協会名	公益財団法人　全日本柔道連盟		
全体事業名称	ID柔道紹介事業		
委託費	500,000円	決算額	185,820円
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	昨年に引き続き、知的障がい者柔道指導者の養成・練習環境の整備・保護者や未経験者への普及振興を目的とした事業を行ってきた。徐々にではあるが柔道界内外において知的障がい者柔道が認知されてきていると感じる。振興にあたって第一の壁は指導者の意識であろう。知的に障がいがある人をしっかりと理解し、安全な指導を含んだ練習環境を整えていくにはやはり時間がかかる。さらなる振興のためには指導者が知的障がい者柔道の魅力に惹きつけるような工夫を行うことではないか。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	この事業により、昨年にも増して指導者間、選手間の情報共有機会が増えた。その効果により、指導法も研究され知的障がい者柔道の楽しみ方が増えた。また柔道への理解を示す保護者のもと、知的障がい者柔道実施者の増加も実感しており、すべて前向きに振興しているといえる。		
費用に関する所見	費用についての意見は特にありません。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	知的障がい者関係組織と連携し、柔道の良さを保護者や子どもたちに伝える機会をつくりつつ、何より指導者の理解と練習場所の確保が重要である。各都道府県柔道連盟等に理解を求め、指導者養成講習会・研究会開催を積極的に促し、組織的な動きを促すことが必要である。		
参加者や 関係団体からの声	柔道の目的や、知的障がい者が行うことの意味が理解できた。 子供に柔道をやらせてみたい。 指導者間での情報交換ができた。今後も交流をしていきたい。 選手同士で仲良くなれた。友達が増えた。 県連盟内に障がい者柔道に関する部門を新設したい。 柔道で外国に行って試合をしたい。 目標を高めるために昇段をさせたい。 柔道を習うことができる場所を紹介してほしい。		
その他所見	大変有意義な事業ができた。今後も是非継続していきたい。		

ID 柔道紹介・体験事業
（広島県福山市 第２回 みんなで柔道楽しむ大会）実施報告書

（公財）全日本柔道連盟 教育普及・MIND 委員会
知的障がい者柔道振興部会　濵 名 智 男

1　日　　時：2023 年 7 月 23 日（日）12：30～受付　13:00 開始　17:00 終了
2　会　　場：エフピコアリーナふくやま柔道場
3　参 加 者：知的に障がいを持つ柔道未経験者　10 名
知的に障がいを持つ柔道未経験者の保護者　16 名
知的に障がいを持つ柔道経験者　10 名
指導者　25 名
柔道経験者（小・中・高校生・一般）　62 名
観覧者　40 名
合計　162 名

4　講義内容：13:15～15:15（講師：濵名智男）
（１）自己紹介
（２）全柔連 知的障がい者柔道振興部会のミッションについて
（３）これまでの取り組みについて
（４）本年度の取組みについて
（５）知的障がい者（ID）柔道の現状（2022 年 3 月実施のアンケート内容）
（６）ID 柔道の安全性
（７）ID 柔道練習法の一例
柔道原理（実技）
自然体・柔の理・崩し・技の練習方法
（８）ID 柔道の競技ルール
（９）ID 柔道選手の保護者・指導者の考え

5　そ の 他：固の形演武
ID 選手・一般選手の試合

以上

第2回みんなで柔道楽しむ大会

みんなで柔道楽しむ大会
福山支部　主管：一般社団法人スポーツプロモーション福山
児）施設連絡協議会・スペシャルオリンピックス日本広島
道・松井道場・社会福祉法人虹の会・福山大学中村和裕ゼミ
株式会社
藤井
松井道場

第2回みんなで柔道楽しむ大会

第2回みんなで柔道楽しむ大会

しむ大会
山本

全日本柔道連盟　令和 5 年度「地域におけるパラスポーツ振興事業」実施報告書

1．日　　時：2023 年 8 月 19 日（土）15：00～17：00

2．場　　所：大宮武道館　埼玉県さいたま市見沼区堀崎町 12-36

3．講師及び補助者：講師　知的障がい者柔道振興部会　部会長　濱名智男
知的障がい者柔道振興部会　副部会長　山﨑正義
知的障がい者柔道選手保護者　小林晴奈
補助　知的障がい者柔道選手　小林　陸

4．参加者：　知的障がい者(柔道未経験者) 4 名
一般指導者 35 名
介護・福祉総合サービス ひなたぼっこ（さいたま市見沼区大字蓮沼 552-1）の利用者を中心に、知的障がい者柔道に興味のある者及び埼玉県柔道連盟の指導者を対象とした。

5. 実施内容

講師：濵名智男・山﨑正義　　補助：小林　陸（II-2 選手）

（1） 知的障がい者柔道の概要

- 知的障がい者理解
- 全日本柔道連盟知的障がい者柔道振興部会の取り組み
- 知的障がい者柔道の現状と課題

（2） 知的障がい者柔道指導法

- 安全で楽しく、知的に障がいがある方にとって有意義な柔道指導法

（3） 競技規程

講師：小林　晴奈（II-２選手保護者）

（4） 柔道の魅力や柔道をやらせて良かったこと

（5） 質疑応答（質問）

- 柔道をはじめた理由
- 指導者と保護者の連携
- 練習中の怪我の心配

佐賀

全日本柔道連盟　令和５年度「地域におけるパラスポーツ振興事業」実施報告書

１．日　　時：2023 年 11 月 5 日（土）14：00～17：00

２．場　　所：YohaS アリーナ～本能に、感動を～　千葉県千葉市中央区弁天４丁目１－２

３．講師及び補助者：講師　知的障がい者柔道振興部会　部会長　濱名智男
知的障がい者柔道振興部会　副部会長　山﨑正義
知的障がい者柔道選手保護者　小林晴奈
補助　知的障がい者柔道選手　小林　陸

４．参加者：　柔道指導者　13
高校生・大学生　18
知的障がい者柔道選手　4
知的障がい者柔道選手保護者 4

5. 実施内容

講師：濵名智男・山﨑正義　　補助：小林　陸（II-2 選手）

（１）　知的障がい者柔道の概要

- 知的障がい者理解
- 全日本柔道連盟知的障がい者柔道振興部会の取り組み
- 知的障がい者柔道の現状と課題

（２）　知的障がい者柔道指導法

- 安全で楽しく、知的に障がいがある方にとって有意義な柔道指導法

（３）　競技規程

講師：小林　晴奈（II-２選手保護者）

（４）　柔道の魅力や柔道をやらせて良かったこと

（５）　質疑応答（質問）

- 柔道をはじめた理由
- 指導者と保護者の連携
- 練習中の怪我の心配
- 柔道を始める前と後の相違点

藤田
山田

山田

外山

令和 5 年 11 月 26 日

令和 5 年度「第 1 回愛知県知的障害者柔道交流会及び学習会」を下記のとおり実施しましたので報告します。

（公財）全日本柔道連盟 教育普及・MIND 委員会
知的障がい者柔道振興部会　山﨑　正義

記

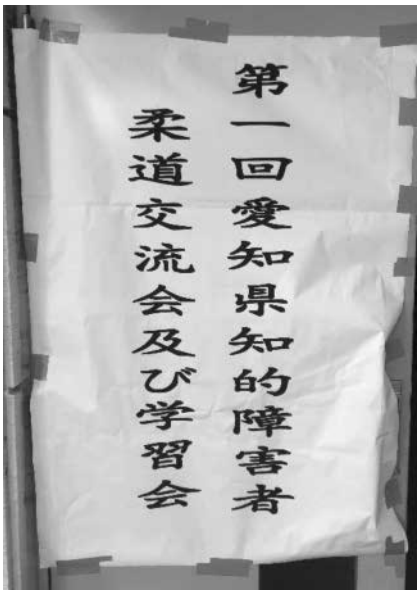
1　日　　時：2023 年 11 月 25 日（土）
9 時から 9 時 30 分　　集合・受付
9 時 30 分から 9 時 45 分　開会式
9 時 45 分から 10 時 55 分　学習会
11 時 10 分から 12 時 10 分　合同練習
12 時 30 分から 13 時 30 分　交流会（情報交換等）

2　会　　場：私立桜丘中学校・高等学校桜武館
愛知県豊橋市南牛川二丁目 1-11

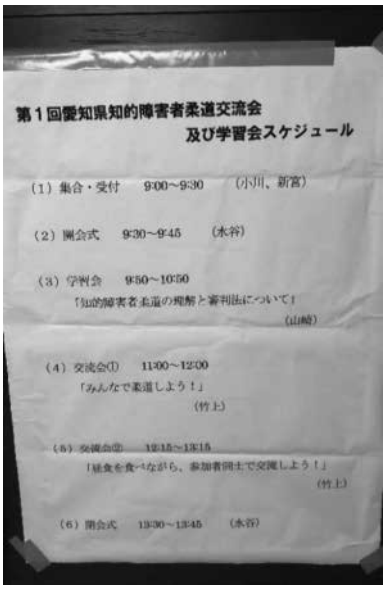
3　参 加 者：愛知県内の柔道指導者・知的障がいをもちながら、現在真摯に柔道に取り組んでいる者・知的障がいをもちながら、柔道に興味関心のある者
約 50 名程度

4　学習会内容：講師　山﨑　正義
（1）自己紹介
（2）スポーツの価値について
（3）全柔連 知的障がい者柔道振興部会のミッションについて
（4）これまでの取り組みについて
（5）知的障がい者理解
（6）ID 柔道の安全性
（7）ID 柔道指導における留意点
（8）ID 柔道の競技ルール（安全に ID 柔道を行うために）

5　そ の 他：ID 選手との練習会



入口看板



入口スケジュール表

受　付

学習会の様子

練習会の様子

【ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業

～B チャレンジ～】

◆B チャレンジ関東ブロック（東日本対象）

◆B チャレンジ近畿ブロック（西日本対象）

◆加盟団体（設立準備）会議

一般社団法人日本ボッチャ協会

事業概要シート（別紙1）

◆実施（申請）協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
◆計画書作成者	村上光輝		
◆企画・実施担当者	村上光輝	◆経理担当者	森川奈津子

全体事業名称	ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業～Bチャレンジ～
委託費	1,700,000円
地域の実情・課題点	競技人口が増えているにもかかわらず、都道府県ボッチャ協会の加盟団体組織化ができていないことが課題となっており、さらに今後日本ボッチャ選手権大会のブロック予選会の実施も予定しているが、指導者や大会を企画立案・運営できる競技役員等、競技を支える人材が不足しており、その育成が急務となっている。 また、大会への参加者が増加傾向にあるため、地域でボッチャが実施できる環境づくりを整えることも必要となっている。 そのため、本事業により、地域協会の基盤を強化し、今後地域が主体となって事業を開催できるようにすることを目標に、指導者等の育成を図り、さらにボッチャを通じた地域でのスポーツ振興が継続した取り組みになるように、都道府県ボッチャ協会の加盟団体組織化を目指し、本事業を展開した。
総合的な事業の目的	・講習会開催による人材育成 ・模擬試合開催試合機会の提供（日本選手権予選敗退者対象） ・地域で核となる人材を育成することによる地域基盤強化 ・ブロック会議の実施による加盟団体組織化 以上を目的に事業を展開した。
総合的な事業のねらい	今後主体となって大会を運営できる組織、人材を育成することを目的として、審判講習や指導者講習などの各講習会を開催した。 講習会では、大会運営、選手育成、自治体連携等、各地で実施しているモデルケースを共有し合うことにより、より地域にあったボッチャ競技の取り組みを都道府県ボッチャ協会が地域と連携して確立していくことをねらいとして実施した。 また、ブロック会議では、地域協会が主体的な活動ができるように基盤強化を図り、加盟団体組織化を目指し、本事業を展開した。

事業名	
事業①	Bチャレンジ関東ブロック（東日本対象）
事業②	Bチャレンジ近畿ブロック（西日本対象）
事業③	加盟団体（設立準備）会議
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
事 業 名	Bチャレンジ関東ブロック(東日本対象)		
事業内容	・サポーター講習(ボランティア講習) ・アスリートチャレンジ(大会形式・大会運営) ・審判員フォローアップ講習(資格保持者対象・大会での実施) ・クラス分け員フォローアップ講習(資格保持者対象・大会での実践) ・トレーナー講習 ・A級コーチ講習会(協会・クラブ運営の研修会)		
開催日時	令和5年10月7日～8日		
会　場	日本財団パラアリーナ		
参 加 者	別紙名簿参照		
人員体制	担当者内訳 ・サポーター講習:村上光輝 ・アスリートチャレンジ:森祐輔 ・審判員フォローアップ講習:岡田周子 ・クラス分け員フォローアップ講習:片岡正教 ・トレーナー講習:古尾谷香苗 ・A級コーチ講習:村上光輝 ・総務:村上光輝、三浦裕子		
連携団体名 (箇条書き)	東日本地区の地域協会 当日の運営については、東京ボッチャ協会が協力		
実際の事業での 連携団体の役割	事業の案内周知 事業運営協力 2026年ブロック予選開催の依頼		
本事業における パラスポーツ指導者 の役割・活用について	サポーター講習受講による地域での活動 講習会運営	本事業における パラスポーツ指導員 の実人数	10
		本事業における パラスポーツ指導員 の延べ人数	10
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業においては、スポーツ用具の購入はしていない		

各事業における事業報告シート

実施協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
事 業 名	Bチャレンジ西日本		
事業内容	・サポーター講習（ボランティア講習） ・アスリートチャレンジ（大会形式・大会運営） ・審判員フォローアップ講習（資格保持者対象・大会での実施） ・クラス分け員フォローアップ講習（資格保持者対象・大会での実践） ・トレーナー講習 ・A級コーチ講習会（協会・クラブ運営の研修会）		
開催日時	令和4年12月10日～11日		
会　場	舞洲障がい者スポーツセンター		
参 加 者	別紙名簿参照		
人員体制	担当者内訳 ・サポーター講習：村上光輝 ・A級指導者講習：村上光輝 ・審判講習：内藤卓也、山本香 ・クラス分け講習：片岡正教、脇悠人 ・アスリートチャレンジ：南野博紀、井上伸 ・トレーナー講習：古尾谷香苗 ・総務　村上光輝☒		
連携団体名 （箇条書き）	西日本地区の地域協会 当日の運営は、大阪ボッチャ協会 大阪公立大学が協力		
実際の事業での 連携団体の役割	事業の案内周知 事業運営協力 2026年ブロック予選開催の依頼		
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	サポーター講習受講による地域での活動 講習会運営	本事業における 障がい者スポーツ指導員 の実人数	29
		本事業における 障がい者スポーツ指導員 の延べ人数	29
スポーツ用具の 整備・活用について	本事業においては、スポーツ用具の購入はしていない		

各事業における事業報告シート

<table>
<tr><td>実施協会名</td><td colspan="3">一般社団法人日本ボッチャ協会</td></tr>
<tr><td>事 業 名</td><td colspan="3">加盟団体(設立準備)会議</td></tr>
<tr><td>事業内容</td><td colspan="3">加盟団体(準備)ブロック会議を開催し、一般社団法人日本ボッチャ協会の都道府県ボッチャ協会加盟団体のイメージ、加盟団体規程、大会運営の方式、自治体、地域連携を含めた方向性(中長期計画)、都道府県ボッチャ協会の理解を得たうえで、加盟団体規程を施行し、加盟団体制度を開始する方向性について説明。加盟団体組織化に向けて、中央競技団体と都道府県ボッチャ協会との連携し、都道府県ボッチャ協会の組織化、地域に貢献できるスポーツ振興の基盤の礎を築くことを目的に開催した。</td></tr>
<tr><td>開催日時</td><td colspan="3">別紙実施要項および、報告書参照</td></tr>
<tr><td>会　場</td><td colspan="3">別紙実施要項および、報告書参照</td></tr>
<tr><td>参 加 者</td><td colspan="3">別紙報告書参照</td></tr>
<tr><td>人員体制</td><td colspan="3">事務局長:三浦裕子
強化本部長:村上光輝
業務執行理事:齋藤保将、片岡正教</td></tr>
<tr><td>連携団体名
(箇条書き)</td><td colspan="3">開催場所調整:北海道ボッチャ協会、宮城県ボッチャ協会、東京ボッチャ協会、大阪ボッチャ協会、福岡ボッチャ協会
会議開催:会議出席地域ボッチャ協会(報告書参照)
会場提供:JR東日本</td></tr>
<tr><td>実際の事業での
連携団体の役割</td><td colspan="3">地域協会の同士の連携強化
会議出席
会場提供:JR東日本</td></tr>
<tr><td rowspan="2">本事業における
パラスポーツ指導者
の役割・活用について</td><td rowspan="2">本事業においては、パラスポーツ指導員としての活用はない</td><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の実人数</td><td></td></tr>
<tr><td>本事業における
障がい者スポーツ指導員
の延べ人数</td><td></td></tr>
<tr><td>スポーツ用具の
整備・活用について</td><td colspan="3">本事業においては、スポーツ用具の購入はない</td></tr>
</table>

事業全体の評価

実施(申請)協会名	一般社団法人日本ボッチャ協会		
全体事業名称	ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業		
委託費	1,700,000円	決算額	2,114,772円
事業の目的・ねらいの達成あるいは未達の原因	競技会と、各種講習会を同時開催したことにより、地域で核となって活躍する人材を育成することができた。 様々な地域からの参加があったことで、地域協会同士の情報交換等の機会とすることもでき、ブロック化へ向けて発展性のある事業となり、所期の目的は達成された。 課題としては、地域協会が主体となるところまではいかず、運営補助にとどまっているので、主体的なかかわりとなるように運営体制を整えていく。 加盟団体会議においては、中央競技団体である本会と地域協会との意見交換が活発に行われ、充実した会議となり、加盟団体組織化を推し進める会議となり、第1回目の会議としては大きな成果を感じられる会議となった。		
事業実施前からの変化や具体的な成果(アウトカム)	参加した選手にとっては、大会参加にかかる基礎知識を得られる貴重な機会となり、大会形式で実施することにより、それを支える審判等の研修の場となることで、地域大会開催のイメージがつきやすく、地域基盤を強化する機会となった。また、様々な地域から参加者が集まったことにより、地域間での情報交換の場なり、地域協会同士の連携につながる機会となった。		
費用に関する所見	東京、大阪開催にしたことで、近隣のスタッフを派遣しやすかったことと、地域の協会からスタッフを多く派遣することができたことで、支出費用が抑えられた。今後も会場選定等、地域協会や自治体等と連携をして、スリム化を図りたい。また、地域協会や指導者協議会等と連携し、参加者の確保についても努めたい。 加盟団体会議については、地域協会の財政基盤がぜい弱なため、上限を越える旅費を確保することができないという理由で、参加できない協会があった。今後は、1名分については上限を設けることなく実費支給ができるように、予算の確保に努めたい。		
今後の課題や今後の事業展開(具体的方策・展望)	本事業を継続していくことで、選手の育成やボッチャに関わる人材を育成することができ、それが地域協会の発展につながり、地域におけるパラスポーツ振興のロールモデルになっていくと感じている。 加盟団体組織化を目指している本会としては、中央競技団体として地域協会をまとめていくにあたり、本事業を展開することで地域協会の基盤強化を目指し、加盟団体組織化の確立、日本選手権予選のブロック化を目指す。 周知については、地域協会に依頼をしていたが、地域協会によっては発信手段が少ない協会もあるため、情報が行き届かないところがあった。今後は、指導者協議会等とも連携し、広く広報を行っていきたい。 今後もBチャレンジの開催地については、地域協会同士の交流や連携をねらいの一つとして、東京と大阪の2会場での開催を継続していきたい。 加盟団体会議については、当面の間、中央競技団体である本会が主導となり、活発な意見交換が可能な対面での開催を継続していきたい。そのため、地域協会の財政基盤の脆弱性も鑑みて、予算(旅費)の確保に努めたい。 将来的には、ブロック主催の会議となるように組織化を推し進めていきたい。		
参加者や関係団体からの声	・地域協会同士の情報交換の場ともなり、交流ができて大変参考となり、有意義な講習だった。 ・試合に出場するための手順等、細かく教えていただき、とても勉強になった。 ・運営に協力することで、地域協会主催の事業を開催するにあたり、とても参考になることが多くあり、有意義な活動となった。		
その他所見	選手の育成指導や地域大会開催等を、選手・指導者・審判員・クラス分け員等、それぞれの立場でどのように活動すると良いのかを、本事業において伝えることができ、地域のニーズに応える形で開催できたと感じている。 今後も事業を継続していくことで、地域基盤の強化をはかり、本会の体制を整えていきたい。		

ボッチャを通じた地域スポーツ振興のための選手、指導者、競技役員育成事業

～B チャレンジ～の事業写真

① 事業写真

（1） 【B チャレンジ東日本】

事業の様子

（2） 【B チャレンジ西日本】

事業の様子

（3）加盟団体会議の様子

② 資料

開催要項、各事業報告書添付

【卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業】

◆「卓球バレー体験教室」開催事業

日本卓球バレー連盟

事業概要シート

◆実施(申請)協会名	日本卓球バレー連盟		
◆計画書作成者	向　仁子		
◆企画・実施担当者	宮本聖史・斎門豊・泉善雄	◆経理担当者	斎門　豊

全体事業名称	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業
委託費	100万円
地域の実情・課題点	用具が安価で対象を選ばず座ってプレーできる「卓球バレー」は、その気軽さから、近年、インクルーシブスポーツやユニバーサルスポーツとしても全国各地で紹介される機会が多くなり知名度が高まっている。しかし、その場に競技の特性や魅力に詳しい指導者が関わることが少なく、その場限りの体験に留まり継続的な実施や競技としての発展に繋がっていないのが現状である。本連盟は2008年の設立以降、指導者養成を含め協会設立など全国レベルでの普及に取り組んでいるものの、資金不足のため思い通りの活動ができない状況にあり、上述のような地域のパラスポーツ現場における受容の高まりに応えきれていないことが課題となっている。
総合的な事業の目的	そこで、課題解決の一歩として、本連盟公認指導者が講師となり障がい者を対象とした「体験教室」を開催し、卓球バレーの競技特性と魅力を伝える場を設定する(短期目標)。この教室を契機に「継続的な活動(練習)」を希望する障がい者が増え、それに応える動き(障がい者福祉施設内や地域での教室等)とチーム(仲間)づくりが展開される(中期目標)。地域に複数のチームが誕生すると、練習の成果を試す場としての「大会」開催の期待も高まり、卓球バレーの競技としての定着を通じた地域におけるパラスポーツ振興への貢献につながる(長期目標)。
総合的な事業のねらい	「卓球バレー」は、1971年に大阪府の支援学校で進行性筋ジストロフィー症の生徒と教員によって考案されたものである。本事業を契機に、国が取り組む「スポーツを通じた共生社会の実現」に直接的に貢献し得る種目であることを自覚しつつも、特に重度障がい者の地域におけるスポーツ参加に伴う多くの課題を意識し、パラスポーツ協会及び同指導者協議会をはじめ、障がい者のスポーツ活動を支援する関係者・組織と連携してそれらの解決に具体的に取り組む関係づくりにもつなげることをねらいとしたい。

事業名	
事業①	「卓球バレー体験教室」開催事業
事業②	
事業③	
事業④	
事業⑤	

各事業における事業報告シート

実施協会名	日本卓球バレー連盟	
事 業 名	「卓球バレー体験教室」開催事業	
事業内容	日程は、本補助事業で定められた期間内で実施した。具体的な内容としては、講義1時間(歴史やルール等を理解)と実技2時間(競技体験)の2部制とし、計3時間で構成する「体験教室」である。 会場は、本連盟加盟の協会が存在しない都県7箇所(山形県・東京都＝東ブロック、三重県・滋賀県＝中ブロック、沖縄県・島根県・徳島県＝西ブロック)において、合計10回実施した。	
開催日時	**【東ブロック 北海道・東北・関東地区】** E-1 令和5年9月24日(13時～16時) E-2 令和5年10月日(9時30分～12時30分) E-3 令和5年10月21日(11時～15時) E-4 令和5年12月9日(13時30分～16時40分) **【中ブロック 中部・近畿地区】** M-1 令和5年11月3日(9時45分～15時30分) M-2 令和5年11月12日(11時～15時) M-3 令和5年11月23日(9時45分～15時30分)	**【西ブロック 中四国・九州地区】** W-1 令和5年10月9日(11時～15時) W-2 令和5年10月20日(11時～15時) W-3 令和5年12月16日(13時～16時)
会 場	**【東ブロック 北海道・東北・関東地区】** E-1 高畠町体育センター(山形高畠町) E-2 足立区総合スポーツセンター会議室(東京都足立区) E-3 東根市中央運動公園体育館(山形県東根市) E-4 東京都障害者総合スポーツセンター(東京都北区) **【中ブロック 中部・近畿地区】** M-1 滋賀県立障害者福祉センター(滋賀県草津市) M-2 皇學大学体育館(三重県伊勢市) M-3 コミュニティセンター治田東(滋賀県栗東市)	**【西ブロック 中四国・九州地区】** W-1 サン・アビリティーズうらそえ(沖縄県浦添市) W-2 島根県立青少年の家体育館(島根県出雲市) W-3 高知県立障がい者スポーツセンター 体育館(高知県高知市)
参 加 者	**【東ブロック 北海道・東北・関東地区】** E-1 32名(肢2名、知5名、健25名) E-2 29名(肢2名、知13名、健14名) E-3 19名(肢4名、聴2名、健13名) E-4 27名(肢10名、知10、発達1名、健6名) **【中ブロック 中部・近畿地区】** M-1 24名(肢10名、聴1名、健13名) M-2 32名(肢1名、知9名、発達1名、健21名) M-3 16名(肢9名、知1名、精1名、健5名)	**【西ブロック 中四国・九州地区】** W-1 32名(肢7名、聴5名、視5名、発達1名、精2名、健12名) W-2 21名(知4名、健17名) W-3 16名(肢8名、知3名、精1名、健4名) **参加者合計 248名**
人員体制	**【東ブロック 北海道・東北・関東地区】** E-1 当連盟指3名(内2名パラ指)・パラ指協2名 E-2 当連盟指6名(内3名パラ指) E-3 当連盟指2名(内2名パラ指) E-4 当連盟指3名(内3名パラ指) **【中ブロック 中部・近畿地区】** M-1 当連盟指4名(内3名パラ指)・パラ指協4名 M-2 当連盟指3名(内3名パラ指)・障スポ協5名 ・学生ボラ5名 M-3 当連盟指5名(内5名パラ指)	**【西ブロック 中四国・九州地区】** W-1 当連盟指2名(内2名パラ指)・障スポ協5名 W-2 当連盟指2名(内2名パラ指)・障スポ協3名 W-3 当連盟指3名(内3名パラ指) **当連盟指導者合計 33名** **協力団体指導補助 24名** ※略称について 当連盟指＝当連盟公認指導者 パ ラ 指 ＝公認パラスポーツ指導者 パラ指協＝県パラスポーツ指導者協議会 障スポ協＝県(市)障がい者(パラ)スポーツ協会
連携団体名 (箇条書き)	・日本卓球バレー連盟加盟協会(岩手、宮城、茨城、埼玉、京都、福井、富山、和歌山、鳥取、香川、大分、宮崎) ・山形県障がい者スポーツ協会 ・山形県パラスポーツ指導者協議会 ・足立区スポーツ推進委員協議会 ・足立区スポーツコンシェルジュ ・東京都障害者総合スポーツセンター ・フレンドリー春日部(障がい者スポーツ団体) ・滋賀県障害者スポーツ協会 ・滋賀県パラスポーツ指導者協議会 ・伊勢市パラスポーツ協会 ・三重県立明野高等学校	・沖縄県障がい者スポーツ協会 ・沖縄県パラスポーツ指導者協議会 ・沖縄県身体障害者福祉協会 ・沖縄県視覚障害者福祉協会 ・沖縄県精神保健福祉会連合会 ・琉球スポーツサポート ・島根県障害者スポーツ協会 ・高知県ユニバーサルスポーツ協会
実際の事業での 連携団体の役割	当連盟加盟協会未設立都県での事業実施となるため、いかに事業を周知し参加者を募るかが課題であった。そのため開催地の障がい者(パラ)スポーツ協会と同指導者協議会をはじめ、各障がい者団体、福祉施設、学校関係に対する積極的な広報による参加者と実施場所の確保、参加受付、また当日のスケジュール管理や安全面の確保等、事業全体のサポートもいただいた。 実際に卓球バレー競技に取り組んでいる障がい者団体は実技のサポートや教室参加者のフォローも自ら行う等、指導者としての役割も担ってくださった。障がいがあっても主体的に動くことができる場があることは、本人のエンパワーメントに繋がる機会になるため、本人が出来ることは積極的に動いて協力いただいた。	
本事業における 障がい者スポーツ指導者 の役割・活用について	本事業で連盟から派遣した指導者延べ33名中28名(84.8%)がパラスポーツ指導者資格を所持しており、障害特性に配慮した指導を行った。また連携いただいた障がい者(パラ)スポーツ協会、同指導者協議会の方には補助員としてサポートいただいた。 指導は勿論、参加者と一緒にプレーし楽しむことで、指導者と受講者による障害の有無の垣根を超えた交流が実現した。このことを受け、本事業がスポーツを通した共生社会への一助になると実感した。	本事業における障がい者スポーツ指導員の実人数：38 本事業における障がい者スポーツ指導員の延べ人数：47
スポーツ用具の 整備・活用について	卓球バレーセットを各ブロック2セット(合計6セット)購入し、各事業で使用した。今後は当連盟の普及副委員長(各ブロックの普及委員長)が管理し、各ブロックの普及活動に活用していく予定である。	

事業全体の評価

実施(申請)協会名	日本卓球バレー連盟		
全体事業名称	卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業		
委託費	100万円	決算額	1,192,208
事業の目的・ねらいの 達成あるいは未達の原因	今回の事業は、卓球バレーの普及が進んでいない地域において、本連盟公認指導者が講師となり障がい者を対象とした「体験教室」を開催し、卓球バレーの競技特性と魅力を伝える場を設定することを第1次目標としている。 当初、6会場で180名を対象とした展開を目標としたが、結果として10会場248名の方に体験いただくことが出来た。パラスポーツを通した共生社会の実現が謳われる中、卓球バレーの認知度や興味関心が向上していると実感した。各会場では、参加者が障がいの有無、年齢、性別に関わらず、共にプレーし笑顔と歓声が溢れる体験教室となった。今回の事業で卓球バレーを通したパラスポーツ活動定着への貢献に手ごたえを感じている。		
事業実施前からの変化や 具体的な成果(アウトカム)	初めて卓球バレーを体験した方がほとんどであったが、終了後、 「気軽に出来て楽しいスポーツなので地域で定期的に実施したい。」 「初対面でプレーしたのに、すぐに打ち解け友だちのように笑いあった。」 等の意見をいただき、実際に道具を購入したとの報告を受けている。 また参加した指導者からは、「貴重な体験(他団体連携や事業計画等を自ら取り組むこと)かつ活動を自分事として捉えるきっかけとなり、今後も普及活動に力を入れたい」との意見があった。 今後は「楽しかったイベント」で終わるのではなく、各地域に卓球バレーの愛好者を増やし、その人たちが日常的に活動する場、居場所作りをフォローしていく必要がある。		
費用に関する所見	当初、全国6会場での事業実施として予算組を行ったが、結果10会場での実施・想定外の支出(打合せ旅費・手話通訳費等)があり、総事業費が予定よりオーバーする等、計画立案時点の詰めの甘さを反省している。逆に捉えれば、事業を行う上での必要な支出を知ることが出来たとも言える。 そのような中、経費削減しながら事業を進めていくため、派遣指導者の見直しや開催地で障がい者(パラ)スポーツ協会・同指導者協議会の方々からの協力を仰ぎつつ、準備を当連盟で行うことで経費削減を行った。今回の事業での反省点を次年度以降に活かしていきたい。		
今後の課題や 今後の事業展開 (具体的方策・展望)	「楽しかったイベント」で満足・終了するのではなく、活動を継続させるために当連盟の組織体制の整備や資金確保、かつ他団体と連携(人員だけではなく、知識や資金提供等)を強化する必要がある。 そのためには組織内の情報共有や、外部に向けて積極的に情報公開することで、社会から信頼され、協力・協働したいと思っていただける団体になることが大切である。 また今回の事業に参加した指導者の殆どは、自ら計画を立案し現場に赴いた事を肯定的経験と捉えている。指導者も成功体験を積むことで、積極的な活動参加に繋がっていくことが期待される。		
参加者や 関係団体からの声	殆どの参加者から「楽しかった！」の声をいただいている。 「気軽に出来て楽しいスポーツなので地域で定期的に実施したい。」 「初対面でプレーしたのに、すぐに打ち解け友だちのように笑いあった。」(隣に座ってプレーするためコミュニケーションが取りやすい)等のご意見をいただき、体験後、実際に道具を購入したとの報告を受けている。 協力団体からも「地域のコミュニティーセンターで手軽に取り組めるスポーツであることが分かったので、是非取り入れたい」等、肯定的な感想をいただいている。		
その他所見	当連盟はこれまで、行政や各種団体から体験会等の実施要請を受け対応する、また個人プレー的な活動が多く主体的に動く人が限られている状況であった。今回の助成事業により、組織体制(各ブロック、各委員会内)の強化、会員に対するコンプライアンス・ガバナンスの意識付けにも効果があったことは大きな成果である。 今後も本事業を継続することで、主体的に考え動くことが出来る指導者を増やすと同時に運営体制(総務・会計等)の強化を図りたい。		

【事業名】
卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業

◆【「卓球バレー体験教室」開催事業】 全10会場で実施

【東ブロック】
E-1　山形県高畠町
E-2　東京都足立区
E-3　山形県東根市
E-4　東京都北区

【中ブロック】
M-1　滋賀県草津市
M-2　三重県伊勢市
M-3　滋賀県栗東市

【西ブロック】
W-1　沖縄県浦添市
W-2　島根県出雲市
W-3　高知県高知市

日本卓球バレー連盟

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

(1)【E-1 山形県高畠町　卓球バレー体験教室」開催事業　9 月 24 日(日)】

事業の様子

<table>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>受付の様子</td><td>講義</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>卓球バレー体験中　笑顔と歓声が溢れます♪</td><td>卓球バレー体験中</td></tr>
<tr><td>
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>集合写真</td><td>開催地の皆さんにお手伝いいただきました！</td></tr>
</table>

②資料
別添の通り(ちらし・実施要項)
2023 年 10 月 6 日 山形新聞 掲載記事(記事の転載許可はとっておりません)

スポーツの秋 満喫

誰もが楽しめるスポーツとしての魅力を体感した「卓球バレー体験会」＝高畠町体育センター

卓球＋バレー 和気あいあい

高畠 生涯スポーツ体験会

車いす利用者から高齢者まで、誰もが楽しめる生涯スポーツとして注目を集める卓球バレーの体験会が９月24日、高畠町体育センターで開かれた。参加者たちは声をかけ合うなど和気あいあいとプレーしながら、交流を楽しんだ。

競技の普及を目指す日本卓球バレー連盟の活動の一環で、本県での開催は初めて。置賜を中心とした高齢者や車いす利用者ら約40人が参加し、競技の歴史やルールを学んだほか、実際のプレーを楽しんだ。卓球台を使う卓球バレーは、原則６人でチームを構成し、視覚障害者も楽しめるよう、中に鉛玉が仕込まれた卓球ボールを板で打ち合う。

参加者はカラカラと音をたてるボールを打ち合い、「返して」「打ちます」などと連係するなど、次第にチームワークが生まれていた。会場には笑顔と歓声だけでなく、一体感が生まれていた。

（黒沢光高）

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（2）【E-2　東京都足立区　卓球バレー体験教室」開催事業　10 月 21 日(土)】

事業の様子(写真)

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>体験会スタート！</td><td>皆さん、まだ緊張しています</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>真剣にプレー</td><td>真剣にプレー</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>審判にも挑戦</td><td>協力いただいた皆さん、ありがとうございました！</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真
（3）【E-3　山形県東根市　卓球バレー体験教室」開催事業　12 月 2 日(土)】
　事業の様子(写真)

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>横断幕も設置完了(*^_^*)</td><td>卓球バレーやパラスポーツに関しての座学</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>競技や指導の際の注意点等を説明</td><td>審判ハンドシグナルの実技練習</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>対戦形式で競技、審判の実践</td><td>講座終了後の記念撮影</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（4）【E-4　東京都北区　卓球バレー体験教室」開催事業　12 月 9 日(土)】

事業の様子(写真)

<table>
<tr><td>
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>準備ばっちり(*^_^*)</td><td>受付の様子。参加者もお手伝いくださいました</td></tr>
<tr><td>
</td><td> </td></tr>
<tr><td>座学です。みんな真剣！</td><td>2台に分かれて体験教室スタート！！</td></tr>
<tr><td>
</td><td>
</td></tr>
<tr><td>はーい！質問～　(^^)!</td><td>みんなで　ハイ！チーズ(*^_^*)</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真
（5）【M-1　滋賀県　卓球バレー体験教室」開催事業　11 月】
　事業の様子（写真）

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>座学で何度もうなずきながら聞く参加者</td><td>緊張しながらの審判体験</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>堂々とした審判ジャッジの姿</td><td>アタックが決まり喜び思わずガッツポーズ！</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>飛入の女性を含む参加者との集合写真　1</td><td>支援を目的の参加者との集合写真2</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（6）【M-2　三重県伊勢市　卓球バレー体験教室」開催事業】

　事業の様子（写真）　※施設利用者の方は撮影が NG で、活動風景の写真が残念ながら掲載はありません。

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>支援者一部障がいのある方との集合撮影</td><td>座学風景　障がい者とスポーツと卓球バレー</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>卓球バレー　審判実技</td><td>支援側もプレーは楽しい</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>家族で参加　お父さんと 2 歳の妹も打つ</td><td>家族で参加　お兄ちゃんも打つ</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真
（7）【M-3　滋賀県　卓球バレー体験教室」開催事業】
　事業の様子（写真）

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>全員で記念撮影「卓球バレー最高！」</td><td>支援する人も真剣に勉強</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>審判実技も頑張りました</td><td>アタックが決まり、大喜び！</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>チームが得点を取り笑顔！</td><td>失敗しても笑顔！</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（8）【W-1　沖縄県浦添市　卓球バレー体験教室」開催事業　　10 月 9 日(月･祝)】

事業の様子(写真)

会場のサン･アビリティーズうらそえ

ルールの説明

体験会開始です♪

体験会　全体の様子

講義の様子

ラジオ沖縄の取材を受けました

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（9）【W-2　島根県出雲市　卓球バレー体験教室」開催事業　10 月 20 日(金)】

事業の様子(写真)

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>講義:卓球バレーの歴史</td><td>講義:ルールについて</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>審判講習</td><td>ゆっくり見とれていて「ストップボール」</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>審判実技</td><td>皆さんで</td></tr>
</table>

卓球バレー競技を通じた地域におけるパラスポーツ活動の定着推進事業の事業写真

①事業写真

（10）【W-3　高知県高知市　卓球バレー体験教室」開催事業　　12月16日(土)】

事業の様子(写真)

<table>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>座学のはじまり、はじまりー(*^_^*)</td><td>ちょっと緊張しながら実技です</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>ボールが来た！！</td><td>うまく打ち返して笑顔!(^^)!</td></tr>
<tr><td> </td><td> </td></tr>
<tr><td>ボールが来たー、打てーー！！</td><td>みんなで　ハイ、チーズ(*^_^*)</td></tr>
</table>

「令和5年度地域におけるパラスポーツの振興事業」

委託先団体募集要綱

令和 5 年度障害者スポーツ振興事業

「地域におけるパラスポーツの振興事業」
委託先団体募集要項

1．助成の目的

本事業は、障がい者が身近な地域で自主的・積極的・継続的にスポーツに参加できる社会を実現することを目的に実施する。

また、地域のパラスポーツ振興の統括組織である都道府県・指定都市の障がい者スポーツ協会、同障がい者スポーツ指導者協議会、JPSA 登録障がい者スポーツセンター、同障がい者スポーツ競技団体が、本事業をきっかけに地域の自治体やスポーツ団体、関係者等と連携・協働し、スポーツ活動の場づくり、人材の育成、体制づくり、選手発掘・育成等を行うことで、地域全体のパラスポーツの振興体制の整備に寄与することを目的とする。

2．委託先対象

本事業は委託事業として実施する。委託先対象は、以下のとおりとし、かつ、助成事業の実施体制が整っている事を委託先対象の条件とする。

委託先対象	
①	都道府県・指定都市障がい者スポーツ協会
②	都道府県・指定都市障がい者スポーツ指導者協議会
③	障がい者スポーツ競技団体（日本パラスポーツ協会　登録競技団体）
④	障がい者スポーツセンター(日本パラスポーツ協会　登録障がい者スポーツセンター)

なお、①と②の団体は、同一地域の団体間で情報を共有した上で申請すること。

3．対象事業

本事業は、障がい者がスポーツ活動に参加する機会を増やすものであり、以下の事業区分に当てはまる内容を対象とする。事業実施にあたっては、委託先対象団体が主体的に企画・運営し、関係団体等と協力・連携した体制で実施するものとする。

※注１：厚生労働省が実施している「社会参加支援に関する事業（レクリエーション活動等支援)」や日本スポーツ振興センターの「スポーツ振興事業助成」等の他団体からの助成を受けている事業は重複して申請はできない。
※注２：スポーツ庁が都道府県・指定都市に対して委託事業として実施する「障害者スポーツ推進プロジェクト」内の事業を実施する都道府県・指定都市の団体は、申請時に必ず申し出ること。

①障がい者スポーツ協会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大･支援事業（活動の場づくり）	・県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・未普及地域における活動拠点の創出事業 ・他団体等と連携したスポーツ拠点の設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業（指導者対象）	・パラスポーツの指導人材の資質向上事業 ⇒障がい者スポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、 総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業（体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ・サークルの活動支援事業
4.新たな取り組み支援事業（事業区分１～3 に該当しない事業）	

②障がい者スポーツ指導者協議会

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・パラスポーツ指導者の支部拠点設置事業
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 （指導者対象）	・パラスポーツの指導を担う人材の資質向上事業 ・パラスポーツ指導者の活動機会の活性化事業 ・若手人材の活動活性化事業（大学生等との連携）
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ･サークルの活動支援　事業
4.新たな取り組み支援事業 （事業区分１～3 に該当しない事業）	

③障がい者スポーツ競技団体

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・ブロック、県市におけるスポーツ教室事業（障がい者対象） ・特別支援学校等と連携したスポーツ活動事業
2.選手発掘・育成事業 （障がい者対象）※新たな教室・大会等の開催含む	・パラスポーツに取り組む障がい者の発掘事業（競技参加の裾野拡大） ・パラスポーツに取り組む障がい者の育成事業（練習会など） ・ブロック、県市における大会、記録会開催事業
3.競技指導者・支援者育成事業 （指導者対象）	・ブロック、県市における競技別(専門性の高い)指導者の育成 ・ブロック、県市における審判員及び普及に関わる指導者の育成
4.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・ブロック、県市におけるの競技団体設立に向けた事業 ・ブロック、県市における既存の競技団体の活動支援事業
5.新たな取り組み支援事業 （事業区分１～4 に該当しない事業）	

④障がい者スポーツセンター

事業区分	事業の方向性
1.障がい者のスポーツ活動拠点の拡大・支援事業 （活動の場づくり）	・障がい者スポーツセンター以外でのスポーツ事業の開催 ・サテライト（地域拠点）機能の設置事業 ・施設や学校等への出前事業（スポーツ教室）
2.スポーツ指導者等の育成・連携事業 （指導者対象）	・センター指導員による地域の指導者・支援者研修事業 ⇒障がい者スポーツ指導者協議会、学校教員、スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブスタッフなどを対象
3.競技団体・クラブ・サークル設立支援事業 （体制づくり）	・新たなクラブ・サークルの設立に向けた事業 ・県市における競技団体設立に向けた事業 ・県市における既存の競技団体、クラブ･サークルの活動支援事業
4.スポーツを通じた関連団体等との連携促進事業 （連携促進）	・県市の公共スポーツ施設の利用促進に向けた事業 ・県市の特別支援学校や資格取得認定校等との連携事業
5.新たな取り組み支援事業 （事業区分１～4 に該当しない事業）	

４．活動の範囲

①②④の団体は、原則として、委託先団体の都道府県・指定都市を実施場所とすること。なお、実施内容・特性等の理由により当該の都道府県・指定都市内で実施が困難な場合はこの限りではない。

③の団体は、ブロック単位もしくは都道府県・指定都市（複数可）を実施場所とすること。なお、実施場所の選択理由を申請書類に記載すること。

５．助成対象となる事業の実施期間

本事業の委託契約締結日～令和 6 年 1 月末日

※委託契約締結日より前に発生した事業経費は助成対象外となるので留意すること。

※委託契約締結日から委託費の入金以前に発生した事業経費の負担は、委託先団体の立替えによるものとする。

６．募集期間と提出書類

募集期間は次のとおりとする。締切日までに下記の書類を作成し、送付すること。なお、締切り後および書類に不備がある場合は受理できないので注意すること。

【募集期間】　**令和 5 年 3 月 23 日（木）～令和 5 年 4 月 14 日（金）（必着）**

【提出書類】（１）受託申請書・・・・・・・・・・・・・・・・様式 1
（２）事業計画書・・・・・・・・・・・・・・・・様式 2-1、2-2、2-3
（３）予算書・・・・・・・・・・・・・・・・・・様式 3-1、3-2
（４）スポーツ用具購入申請書、管理誓約書・・・様式 4
（５）各事業の実施概要（案）
（６）謝金・旅費・賃金等の規程・規約等
※上記のデータについて、USB 等の電子記録媒体またはメールでご提出ください。

７．委託団体数

原則として 30 団体程度とする。

８．委託費と対象経費

委託費は、原則として各団体につき 50 万円～200 万円とする（ただし、申請団体数と申請総額に応じて委託費を調整することがある）。

委託費の支出科目は国庫補助金の規程に準じて、以下のとおりとする。

諸謝金、旅費交通費、スポーツ用具、消耗品費、会議費、借損料、印刷製本費、通信運搬費、雑役務費、賃金、保険料

詳しくは別紙の「地域におけるパラスポーツ振興事業事務の手引き（令和 5 年度版）」をご参照ください。

＊ **委託費の入金は 6 月以降の予定です。**

＊ **事業の実施に必要な（使用する）スポーツ用具の購入が認められていますが、上限金額は、予算時ではなく、決算時の委託費の 35%以内となります。**

＊ **賃金は、決算時の総事業費の 10%を上限とします。**

9．選定方法及びその結果

（１）委託先団体の選定は、当協会が設置する選定委員会で、本事業に関する選定方針・基準に基づいて審査し決定する。

（２）申請内容や受託回数を考慮したうえで受託団体及び金額を決定する。

（３）選定結果については、内容確認後随時、文書をもって知らせる。また、決定した事業については、当協会ウェブサイトで公開する。

（４）他の機関の助成等を受けて当該事業を実施することとなった場合は、採択後であっても受託申請を辞退すること。

（５）選定結果に関するいかなる問い合わせ等については答えられない。

10．委託先団体の決定と決定後の事務手続き（提出物）

委託先団体の決定後、下記の書類を提出すること。

（１）委託契約書・・・内容を確認の上、委託先団体の長が署名捺印し、事業計画書とともに 2 部提出すること。

（２）請求書・・・・・事務手続きの簡素化から、委託契約書と同時に請求書を提出しても構わない。

11．委託事業に係わる消費税の取り扱い

当協会との委託事業契約に基づき実施する事業の委託金については、国等からの補助金と同様の扱いとし、「特定収入」として取り扱うこと。また、消費税の計算にあたり簡易課税を選択されている団体についても、本委託金は課税対象外の収入として取り扱うこと。

12．事業報告

事業報告は、各団体において事業の完了から **1 カ月以内**に提出すること。令和 6 年 1 月以降に事業が完了するものは１月末日（消印有効）までに提出すること

（１）完了報告書

完了報告書は、委託先団体の長が押印して提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

（２）事業報告・自己評価シート

事業ごとの報告および自己評価を記入し提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

（３）事業写真

写真については、事業ごとに以下の様子がわかるような写真を必ず提出すること。

【必須写真】

・実行委員会等打合せの様子　・受付　・準備運動等 導入の写真
・事業実施の様子（複数枚）　・全体の様子がわかる写真（事業の様子や参加規模のわかるもの）

（４）決算書・決算内訳（領収書・納品書等の写し）

決算書は、領収書及び納品書のコピーを添付し提出すること。また決算書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

（５）成果物・印刷物

ポスター・チラシ・冊子等、委託費で作成したものを 2 部提出すること。

（６）その他事業に係る資料

開催要項、アンケート、新聞記事等

※全ての委託先の報告書を当協会で合本するので、原稿等をデータで提出すること。また報告書データは電子記録媒体に収め、併せて郵送にて提出すること。

（７）事業ヒアリング（中間報告）

各団体と地域における各事業実施の状況確認、今後の展開を含めた情報・意見交換を行うことで、これからの地域振興事業の充実に向けた情報収集を目的としたヒアリングを実施する。（10 月～11 月実施予定）

（８）事業報告会

各団体が事業を通じて、各地域のパラスポーツの振興における課題に向き合い、多くの支援者や関係団体との連携を深め、障がい者のスポーツ環境や振興体制の整備・拡充を目的に実施した事業の報告会を事業終了後に開催する。（2 月開催予定）

13. 問合せ先及び送付先

公益財団法人日本パラスポーツ協会　スポーツ推進部　スポーツ推進課
E-Mail：d-yamashita@parasports.or.jp
〒103-0014　東京都中央区日本橋蛎殻町 2-13-6
TEL） 03-5695-5420（直通）　　FAX） 03-5641-1213
問合せ時間　月曜～金曜 AM9：30～PM5：45

※ この募集要項は、令和 5 年度国庫補助事業（ｽﾎﾟｰﾂ振興事業）の予算の状況によっては内容が変更となる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

令和5年度障害者スポーツ振興事業

「地域におけるパラスポーツの振興事業」

令和6年3月31日 発行

発行　公益財団法人日本パラスポーツ協会
印刷　日本印刷株式会社